平成25年第１回大多喜町議会定例会

# ９月会議会議録

平 成 25年　９ 月 10日　開 会

平 成 25年　９ 月 20日　散 会

大 多 喜 町 議 会

# 平成２５年第１回大多喜町議会定例会９月会議会議録目次

第　１　号　（９月１０日）

出席議員……1
欠席議員……1
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者……1
本会議に職務のため出席した者の職氏名……1
議事日程……1
開会及び開議の宣告……3
行政報告……4
諸般の報告……5
会議録署名議員の指名……6
報告第１号の上程、報告……6
同意第１号の上程、説明、質疑、討論、採決……7
一般質問……8
山　田　久　子　君……8
麻　生　　勇　君……18
根　本　年　生　君……26
志　関　武良夫　君……47
野　中　眞　弓　君……53
吉　野　一　男　君……69
議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決……88
散会の宣告……91

第　２　号　（９月１１日）

出席議員……93
欠席議員……93
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者……93
本会議に職務のため出席した者の職氏名……93
議事日程……93

開議の宣告……95
議案第２号の上程、説明、質疑、討論、採決……95
議案第３号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 111
議案第４号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 112
議案第５号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 114
議案第６号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 117
認定第１号から認定第７号の一括上程、説明…… 119
散会の宣告…… 170

第　３　号　（９月２０日）

出席議員…… 171
欠席議員…… 171
地方自治法第１２１条の規定による出席説明者…… 171
本会議に職務のため出席した者の職氏名…… 171
議事日程…… 171
開議の宣告…… 173
行政報告…… 173
諸般の報告…… 174
認定第１号から認定第７号の質疑、討論、採決…… 174
日程の追加…… 226
議案第７号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 226
議案第８号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 228
動議提出…… 245
日程の追加…… 246
発議第１号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 247
日程の追加…… 250
発議第２号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 250
発議第３号の上程、説明、質疑、討論、採決…… 257
休会について…… 259
散会の宣告…… 259

署名議員…… 261

# 第１回大多喜町議会定例会９月会議

（ 第 １ 号 ）

# 平成２５年第１回大多喜町議会定例会９月会議会議録

平成２５年９月１０日（火）

午前１０時００分　開会

**出席議員（１２名）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| １番 | 根本年生君 | ２番 | 正木　武君 |
| ３番 | 吉野一男君 | ４番 | 麻生　勇君 |
| ５番 | 野村賢一君 | ６番 | 江澤勝美君 |
| ７番 | 志関武良夫君 | ８番 | 渡邉泰宣君 |
| ９番 | 吉野僖一君 | １０番 | 山田久子君 |
| １１番 | 野中眞弓君 | １２番 | 小髙芳一君 |

**欠席議員（なし）**

**地方自治法第１２１条の規定による出席説明者**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 飯島勝美君 | 副町長 | 鈴木朋美君 |
| 教育長 | 石井信代君 | 総務課長 | 花﨑喜好君 |
| 企画財政課長 | 小野田光利君 | 税務住民課長 | 市原和男君 |
| 健康福祉課長 | 関　晴夫君 | 子育て支援課長 | 石井政一君 |
| 建設課長 | 野口　彰君 | 産業振興課長 | 末吉昭男君 |
| 環境水道課長 | 川嵜照恭君 | 特別養護老人ホーム所長 | 齋藤健二君 |
| 会計室長 | 高橋啓一郎君 | 教育課長 | 加曽利英男君 |
| 生涯学習課長 | 渡辺八寿雄君 | | |

**本会議に職務のため出席した者の職氏名**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務局長 | 髙橋謙周 | 書記 | 大竹義弘 |

**議事日程（第１号）**

日程第　１　会議録署名議員の署名

日程第　２　報告第１号　継続費精算報告書について

日程第　３　同意第１号　固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第　４　一般質問

日程第　５　議案第１号　大多喜町介護予防・生活支援事業等利用者負担金条例の一部を改正する条例の制定について

◎開会及び開議の宣告

**○議長（小髙芳一君）**　おはようございます。

本日は、議員各位を初め執行部の皆様には、第１回議会定例会９月会議に出席をいただき、ご苦労さまでございます。

皆さん、ご承知のように、一昨日、オリンピック及びパラリンピックが、2020年に東京で開催をされることが決定いたしました。日本中がお祝いのムードでいっぱいであります。この五輪及びパラリンピックの招致は、スポーツの振興はもちろんでありますけれども、インフラの整備や観光あるいはさまざまな産業の振興、景気回復など、開催までの７年間というものは、いろいろな経済効果が大いに期待をされるところであります。

しかし、一方で、震災復興や汚染水の処理問題が世界的にも注目をされている中で、来年度から引き上げが予定されております消費税増税の課題も、あるいは経済や景気への影響、さらには地方自治体の財政運営にも大きな影響が及ぶことから、注意深く国の動静を把握し、対処しなければならない状態にあります。

また、今後、予想されます巨大地震を初めさまざまな防災対策についても、しっかりと進めていかなければならないと思います。

このような状況を的確に判断し、我々地方の自治体あるいは議会としては、しっかりと町民の立場に立った町政の推進に取り組んでいかなければならないと存じます。

さて、今回の９月議会につきましては、平成24年度の大多喜町全会計の決算認定を初め、重要な施策に関する補正の予算あるいは条例の改正のほか、６名の議員から一般質問が予定をされております。

各位には、どうか９月会議の議事進行につきまして、よろしくご協力をお願いしたいと思います。

また、矢代代表監査委員及び野村監査委員には、これまで膨大な決算審査に当たっていただきまして、大変ご苦労さまでございました。

ただいまの出席議員は12名全員です。したがって、会議は成立しました。

本日９月10日は、休会の日ですが、議事の都合により、第１回定例会を再開いたします。

これより９月会議を開きます。

（午前１０時００分）

◎行政報告

**○議長（小髙芳一君）**　日程に先立ち、町長から行政報告があります。

町長。

**○町長（飯島勝美君）**　おはようございます。

平成25年第１回議会定例会９月会議の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、議会定例会９月議会の再開をさせていただきましたところ、議長さんを初め議員の皆様には、公私ともに大変ご多忙の中をご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

また、議員各位におかれましては、日ごろから町政の運営に対しましては、何かとご支援、ご協力賜りますことを改めて御礼申し上げる次第でございます。

まず、行政報告につきましては、お手元に配付をいたしました報告書により、ご了承いただきたいと思います。

ここで、本町にとりまして名誉な報告をさせていただきたいと思います。

この中庁舎の建物が、ユネスコ・アジア太平洋遺産賞の受賞が内定されたところであります。このことをお知らせしたいと思います。

また、今度、この受賞に当たりまして、さまざまな行事等もまたあろうかと思いますので、議員皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げる次第でございます。

さて、本日の会議事件でございますが、一般質問のほか、議案といたしましては、継続費の精算報告、固定資産評価審査委員会委員の選任の同意、条例改正が１件、一般会計、国民健康保険並びに介護保険特別会計、水道事業並びに特別養護老人ホーム事業会計の補正予算を上程させていただいております。

また、今議会は、平成24年度の各会計の決算の認定をいただきたく、あわせて提出させていただいております。

ここで、平成24年度の決算概要について若干述べさせていただきますが、平成24年度の決算の主要事業といたしましては、一般会計においては、農業体質強化基盤事業の暗渠排水設置事業、そして大多喜小学校屋内運動場耐震補強事業、中央公民館ホール耐震補強事業等を実施してまいりましたが、歳出において、23年度決算対比で10パーセント減の46億7,246万2,000円余りとなりました。

特別会計につきましては、それぞれの目的に沿った決算となりました。また、各会計での健全化法の指標でございますが、いずれも早期健全化判断比率の基準を大きく下回っており、

財政の健全化が図られているところでございます。

なお、この決算の詳細につきましては、後日、各常任委員会協議会において、それぞれ詳細な説明をさせていただきますので、ご了解をいただきたいと思います。

以上、平成24年度の決算概要を申し上げ、会議冒頭のご挨拶とさせていただきますが、よろしくご審議いただきますようお願いを申し上げます。

**○議長（小髙芳一君）**　これで行政報告を終わります。

---

**◎諸般の報告**

**○議長（小髙芳一君）**　次に、諸般の報告でありますが、第１回議会定例会７月会議以降の議会関係の主な事項は、お配りしました議会諸報告により、ご了承いただきたいと思います。

なお、このうち、８月28日開催された組合議会関係については、２番正木武君から報告を願います。

２番正木武君。

**○２番（正木　武君）**　夷隅郡市広域市町村圏事務組合議会の報告をいたします。

去る８月28日午前10時に、平成25年第２回夷隅郡市広域市町村圏事務組合議会の定例会が招集され、本町から、小髙議長、野村議員と私の３名が出席をいたしました。

執行部より付議された議案は、条例の制定及び改正が４件、補正予算が１件、決算認定が２件で、全て全会一致で原案のとおり可決しました。

このうち、議案第16号　平成25年度夷隅郡市広域市町村圏事務組合一般会計補正予算（第１号）については、今後、開催を予定しておりますごみ処理建設工事請負業者選定委員の報酬等の増額で、既定の予算に12万9,000円を追加し、予算総額を20億5,780万8,000円とするものでした。

また、議案第17号　平成24年度夷隅郡市広域市町村圏事務組合一般会計歳入歳出決算認定について及び議案第18号　平成24年度夷隅郡市広域市町村圏事務組合外房線複線化事業特別会計歳入歳出決算認定については、お手元に配付いたしました決算に係る主要施策の成果に関する報告書の写しをもって報告にかえさせていただきます。

以上で、夷隅郡市広域市町村圏事務組合議会の報告を終わります。

**○議長（小髙芳一君）**　ご苦労さまでした。

次に、監査委員から、７月25日及び８月21日に行いました月例出納検査結果の報告がありました。お手元に配付の検査結果報告書の写しによりご了承願います。

次に、受理をいたしました陳情及び要望等についてご報告いたします。

お手元に配付いたしました陳情及び要望書等の一覧表のとおり、「生活保護法を改悪しないよう意見書提出を求める陳情」ほか６件が提出されております。

議員各位には、陳情及び要望書等の趣旨をご理解いただきたく、写しを配付しましたので、よろしくお願いをいたします。

また、矢代代表監査委員から本日の会議を欠席する旨の連絡が来ておりますので、ご報告を申し上げます。

これで諸般の報告を終わります。

---

**◎会議録署名議員の指名**

**○議長（小髙芳一君）**　これから日程に入ります。

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第119条の規定により、

１番　根　本　年　生　議員

２番　正　木　　武　議員

を指名します。

---

**◎報告第１号の上程、報告**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第２、報告第１号　継続費精算報告書について、報告を願います。

企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　それでは、報告第１号　継続費精算報告書についてのご説明をいたしますので、議案つづり１ページをお開きください。

報告第１号　継続費精算報告書について、平成24年度大多喜町一般会計予算の継続費に係る継続年度が終了したので、地方自治法施行令第145条第２項の規定により報告します。

それでは、精算報告書により内容をご説明いたしますので、２ページ、３ページをお開きください。

平成24年度大多喜町一般会計継続費精算報告書、１事業でございます。

款６商工費、項１商工費、遊歩道整備事業は、養老川沿いの小沢又地先から小田代地先までの遊歩道整備の事業であります。全体計画の年割り額でございますが、平成23年度504万2,000円、平成24年度2,925万1,000円、計3,429万3,000円でございます。

次に、実績欄の支出済額でございますが、平成23年度491万220円、平成24年度2,501万4,780円、計で2,992万5,000円であります。比較欄の年割り額と支出済額との差でございますが、平成23年度13万1,780円、平成24年度423万6,220円、計436万8,000円でございます。

以上で、報告第１号　継続費精算報告書についての報告を終わります。

---

**◎同意第１号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第３、同意第１号　固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

本件については、提出者の説明を求めます。

町長。

**○町長（飯島勝美君）**　固定資産評価審査委員会委員の選任について、ご説明を申し上げます。

次の者を大多喜町固定資産評価審査委員会委員に選任したいので、地方税法第423条第３項の規定により議会の同意を求めるものでございます。

住所、大多喜町大戸105番地、氏名は、渡辺太佳男様でございます。生年月日、昭和21年11月８日。

提案理由の説明を申し上げます。固定資産評価審査委員会の委員は３名でございます。現在は、渡辺太佳男委員、江沢正明委員、麻生文行委員にお願いをしてございますが、渡辺太佳男委員の任期が平成25年10月31日をもって満了となります。

渡辺氏につきましては、現在、委員長の職をお願いしています。経験も豊富で、人格、識見ともにすぐれておりますので、再度、委員をお願いしたいと考えております。ぜひ、議員皆様のご同意を賜りたいと存じますので、よろしくお願いを申し上げます。

以上で、提案理由の説明を終わらせていただきます。

**○議長（小髙芳一君）**　これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本件については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから同意第１号を採決します。

お諮りします。

本件は、同意することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、同意第１号は同意することに決定しました。

---

**◎一般質問**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第４、これより一般質問を行います。

---

**◇　山　田　久　子　君**

**○議長（小髙芳一君）**　通告順に発言を許します。

10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　おはようございます。10番山田久子でございます。

議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

初めに、過日、行われました参議院議員選挙におきまして、町民、支持者の皆様に力強いご支援を賜り、公明党が大勝利をさせていただくことができました。心より御礼を申し上げます。

それでは、一般質問に移らせていただきます。

初めに、城下駐車場の白線、区画線の整備等についてご質問をさせていただきます。

大多喜町は、城と渓谷の町として町内外に知れているところでございます。その千葉県立中央博物館大多喜城分館の入館者数は、平成22年、８万1,354名、23年、７万2,980名、24年、７万9,224名、25年に至りましては、６月までで４万4,289名とのことです。23年は、東日本大震災の影響による落ち込みと考えますと、年間、約８万人前後の方が毎年お見えくださっていることになります。今月29日までは、大多喜町お城まつり実行委員会主催により、徳川家康が当時のスペイン王国から贈られた国内最古の西洋時計、家康公の時計が県内初公開されており、より多くの皆様にご来館いただけるものと期待をするものでございます。

大多喜城分館へ入館をされない方も、城下駐車場をご利用いただいているものと思いますと、より多くの皆様に城下駐車場はご利用いただいているものと考えることができると思い

ます。

その城下駐車場の駐車スペースを区分しております白線が消えてしまうなど、不鮮明な状態となっております。観光バスの運転手さんより、目安がなく、停車しにくいとのお声が寄せられております。一般の観光客の方の中にも、区画線に関係なく、無秩序に駐車をされる方も見受けられるようになりました。ご高齢の方も多く見えてくださいますためか、自動車展示場のように斜めに駐車をされたり、駐車スペースに対し直角にとめられていらっしゃる車も見受けられます。混雑時など、駐車スペースの有効利用が損なわれますとともに、ドアの開閉スペースの間隔や、人と車の動きが判断しにくく、自動車事故の危険性も大きくなってきているのではないかと考えられます。

そこで、ご質問をさせていただきます。利用者の利便性と駐車スペースの有効的活用、駐車場での事故防止のため、区画線の整備は、必要ではないかと考えますが、町のお考えをお伺いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいまご質問いただきました城下駐車場の白線の整備についてということでございますが、大多喜城下駐車場には、大型車２台、普通車70台、障害者用２台の駐車場のスペースを確保しております。その白線については、ただいまご指摘をいただいたとおり、不鮮明な状態となっておりますので、白線の設置については、これから整備してまいりたいと考えますので、よろしくお願いいたします。大変遅くなりまして、申しわけございませんでした。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　よろしくお願いいたします。つきましては、その実施の時期についてでございますが、いつごろの予定でお考えをいただいているのかということと、その際にどの程度の費用がかかる予定でお考えいただいているのか、またそれに対して国や県の助成や、そういったものがあるのかどうか、あるとしたらどの程度の助成があるのか、お伺いできたらと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　時期については、できれば早い時期、できれば12月の補正でお願いできればと協議してまいりたいと思っておりますが、費用については、まだちょっと算出してございませんが、１メートル当たり、四、五百円の計算にはなろうかと思います。それについて、あと補助金の関係でございますが、補助金は、多分難しいのではないかと考

えますけれども、できる限り探ってはみたいと思いますんで、よろしくお願いしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　ありがとうございます。できるだけ補助金のほうも探していただけるとありがたいかと思いますので、よろしくお願いいたします。

あと、町には、ほかにも駐車場があると思いますけれども、こちらのほうの駐車場の状況はどのような形になっておりますでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ほかには、町内には、久保駐車場、桜台駐車場、そしてまた養老渓谷のほうへ参りますと、粟又の駐車場、麻綿原の駐車場、そしてまた小田代の駐車場、これは老川小学校の下になりますけれども、そういうところがございます。そちらに参りましては、小田代の駐車場を除きましては、白線の状況は、まだ、十分可能、使えると思います。しかしながら、今、申し上げたように、小田代の駐車場ですが、これにつきましては、確かに白線は薄くなってきて、非常に見づらい状態ですけれども、小学校が、今、利用されていないということと、駐車場も、利用者が少ないということで、ほとんど利用がない状態でありますので、今の状態であれば、このままでよろしいのではないかと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　ありがとうございます。私も、全部を見に行ったわけではないんですけれども、何カ所か見に行かせていただきました。小田代におきましては、課長さんと同じように認識をいたしております。また、粟又の駐車場におきましては、課長さんがおっしゃったように、確かに白線は引かれておりました。ところが、真ん中の部分におきましては、よく運動会で使うようなラインというんでしょうか、そういったもので引かれていたように思いますので、時々、点検していただかないと消えてしまうのかなと、そのように感じたんですけれども、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいまご指摘いただきました粟又の駐車場でございますけれども、確かに中央の部分ですが、これは、石灰でやっているところでございまして、紅葉の時期のみ、あそこを使っておりまして、通常の時期は、あそこを使っていない状態なんですね。周りに白線を引いてある部分のみで、用が足りておりますので、紅葉の前になります

と、あれを引く状態、引き直す形、あくまでも仮設という形で、あそこをやっておりますので、ご理解いただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　わかりました。東京オリンピック・パラリンピックの開催も決まりました。一人でも多くの方に、大多喜町を知っていただき、お見えいただけるよう、観光客をお迎えする、またおもてなしをするという視点で、駐車場に限らず、トイレや案内看板など、施設の再点検と整備を図られるお考えや、城下駐車場に、町として取り組んでおります大河ドラマ誘致の後押しとして、大多喜城と本多忠勝のいわれを記した表示看板などを設置してはいかがかと思われますけれども、町のお考えをお伺いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいまの駐車場の誘致看板でございますけれども、確かにお城と大河ドラマの誘致については、非常に強い関係がございますので、その看板の設置については、ちょっと今後、検討させていただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　よろしくお願いいたします。

続きまして、町消防機庫の耐震化対策・老朽化対策並びに盗難防止対策についてご質問をさせていただきます。

東日本大震災の後、地域防災に関する関心は高くなっております。中でも、災害発生時における消防団の役割は大きなものになっていることと思われます。大多喜町消防団の皆様におかれましては、各種操法大会におきまして、常に上位入選を果たされ、その名を広くとどめていらっしゃることは、皆様もご承知のところでございます。そのご努力に敬意と感謝をいたすものでございます。

さて、大多喜町地域防災計画の中に、地震発生による火災や水害、さらにこれらの災害の発生に伴う被害等をできる限り軽減するため、消防機関は、ほかの防災関係機関と相互の連携を図りつつ、地域住民、自主防災組織等の協力のもとに効果的な対策を実施するとございます。そのためには、消防団員の皆様を初めとし、消防自動車など、消防設備が通常に機能しなくてはならないと思います。しかしながら、第２分団第２部の消防機庫のように、機庫の前の道路を車が通るだけで、揺れが生じ、消防自動車の入っておりますシャッターの柱も曲がってしまい、自分たちで修理をしながら、使用しているとお伺いしているところもございます。大きな地震などが発生した場合に、消防機庫の倒壊やひずみで、消防自動車が無事

に使用できるのであろうかと心配させるところでございます。

そこで、ご質問をさせていただきます。町の各部の消防機庫の耐震化対策はどのようになっておりますでしょうか。

また、どのように対策に取り組むお考えなのか、お伺いをいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　山田議員さんご指摘のとおり、地震等の災害により、消防機械器具置き場が倒壊したりひずんだりすることにより、消防車両等が無事に使用できないかとの懸念は確かにございます。現在、消防の機械器具倉庫につきましては、地元の構成区の所有物件となっております。耐震化はされておりませんが、近年、建設した機庫につきましては、町の財産となっておりますので、耐震化はされております。また、それに伴いまして、現在、消防団の組織再編等によりまして、部や班の統廃合が進行中でございますので、それにあわせまして機庫の整備を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　よろしくお願いいたします。やはり消防というのは非常に大事なものだと思いますので、ぜひ早目の対処をご検討いただけるようにお願いいたしたいと思います。

同じように、消防の関係なんですけれども、消防機庫が老朽化し、設備面でも不便を来している消防機庫があると伺っております。日ごろ、町防災のために、暑さ寒さも関係なく、私的な時間を割き、ご努力をくださっている消防団員の皆さんが少しでも活動しやすいように、設備面の配慮も必要ではないかと思いますが、この点、町はどのようにお考えになられますでしょうか。先ほどのまだなっていない、町の所有ではなっていないというところの部分になるかと思いますけれども、この辺も含めましてよろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　消防機庫の老朽化、設備面の不便さというふうなところにつきましては、議員のご指摘のとおりでございます。今、その前の質問で申し上げたとおり、かなり老朽化しているのは間違いがございません。設備面でいうと、トイレですとか、今、暑さ寒さというふうな話もありましたんで、そういうエアコンとか、そういう面ではないかと思います。現在、ほとんどの機庫が先ほど申し上げたとおり地元の所有物件となっておりますので、今後、統廃合等があった場合に、今後の方針として、今後は、町でその建設費を持っ

て、町で建設をしていきたいというふうに考えております。その中で、トイレの設備ですとか、そういうものも整備してまいりたいなと思っております。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　ありがとうございます。

３問目の質問とさせていただきまして、消防関係の３番目ということで、消防機庫に、空き巣に入られたことがあると伺っております。消防機庫の建物のつくりなどは、各部によって異なっていることと思われますが、消防自動車はもちろんのこと、発電機を初め、中には、盗まれたりいたずらをされては困る大事なものがしまわれております。消防団員さんの中には、自分のところにもと心配をされている方もいらっしゃいます。

そこで、ご質問させていただきますけれども、以前、盗難があった後、どのような防犯対策がされたのか、お伺いしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　確かに、議員ご指摘のとおり、西畑地区内で、消防機庫に空き巣が入る事件が、数件発生しました。いずれも、機庫のガラスを割って入って、鍵をあけて侵入する手口で、主に燃料、ガソリンですけれども、それを盗む事案でございます。その前には、確かに議員がおっしゃるとおり、発電機等の盗難もございましたけれども、そういう事案がございました。その防犯対策でございますけれども、地元消防団にお願いをして、定期的に見回りしていただくことを含めまして、あと、人が通るといいますか、人を感知できる、動きで感知できる照明設備等を入れたり、あるいは高いところは、低いところはちょっとできないんですが、高いところの高窓につきましては、格子のサッシを入れて、ガラス戸の前といいますか、そこに格子のサッシを入れて、そういう防犯対策をするというふうなことで、幾つかの消防機械器具置き場については、そういうものもさせていただきました。なおかつ、機庫内には、消防機械器具の関連物品以外のものは、金品等も含めまして、そういうものは置かないように、団員には周知しているところでございます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　ありがとうございます。多分、非常に心配しているのは、先ほどからの老朽化されている消防機庫の問題であると思います。先ほど課長のほうからご答弁をいただきまして、今後、考えていただけるということでございましたので、そういった中で、

防犯という部分も含めまして、あと設備の面もお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして、食物・蜂アレルギーによるアナフィラキシーショック補助治療剤「エピペン」の周知等について、ご質問をさせていただきます。

初めに、蜂アレルギーに関してお伺いをいたします。

我が国では、年間30人から40人の方が蜂に刺されて亡くなられております。大多喜町も自然豊かな地域です。蜂に刺されたご経験のある方も少なくないのではないかと思われます。ここで怖いのがアナフィラキシーショックと呼ばれているものです。以前に、蜂に刺された経験のある人が、体の中に蜂の毒に対する抗体ができ、その物質が、再度、体内に入ると初回よりも急速に激しく起こるアレルギー反応をいいます。もう皆様、ご存じのことであるかと思います。18歳以上になると、子供より重症になるケースも多いという先生もいらっしゃるようです。その場合、30分以内のアドレナリン製剤の注射が必要になると言われております。

近年、患者みずからが、自分に注射が可能なエピペンと呼ばれるアドレナリン製剤が開発されました。エピペン注射は、食物、蜂属などが原因で起こる重度のアレルギー反応を一時的に緩和し、医療機関に搬送されるまで症状の進行を抑える補助剤とのことです。携帯も可能です。このエピペンが必要になるのは、以前に蜂に刺された経験がある人や、以前に食物アレルギーなどで著しく重い反応があった人など、アナフィラキシーショックのリスクがある人になります。入手方法は、専門の医師の診断を受け、アレルギー検査後、処方箋の交付を受けることで、購入、携帯することができるようです。これにより、緊急時に備えることができます。

しかし、このエピペンの存在や、どこで処方してもらえるのか知らない方のほうが多いのが、現状ではないかと思われます。平成23年からは、健康保険の適用もされております。

そこで、ご質問をさせていただきます。自然の豊かな大多喜町では、老若男女に関係なく、好むと好まざるとに関係なく、常に蜂に遭遇する機会は多いと思います。そこで、町民の皆様に、蜂に対する対処法とともに、命を守る備えとして、自己注射が可能なアドレナリン製剤の効用や入手方法、対応できる医療機関などは、町広報紙等を活用し周知していただき、広く認識をしていただくような施策があるとよいと思われますが、町のお考えをお伺いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　自己注射が可能なアドレナリン製剤、エピペンについてのご質問ですけれども、蜂毒・食物等のアレルギーでアナフィラキシー反応になった重い傷病者に対して用いるこれは治療薬でありまして、アドレナリン製剤には、気管支を広げる作用や、心臓の機能を増強し、血圧を上昇させて、ショック症状を改善する作用がございます。しかし、この治療剤を使用する方は、事前に病院で医師から処方されている方で、本人や家族が適切に使用できるよう指導されております。エピペンは、劇薬でもあり、使い方を間違えたりすると、急激な血圧上昇により脳出血を起こす可能性もございます。入手するためには、あくまで医師の処方が必要であり、まずかかりつけの医師にご相談していただくことが肝要だと考えております。

秋は、蜂の活動も活発となります。アドレナリン製剤だけの周知ではなく、蜂に刺されないようにとの注意喚起と、蜂に刺された後の対処法等の中に、このアドレナリン製剤のことも含め周知していきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　今、課長さんのほうからご答弁いただきましたように、エピペンに関してまだまだ認識という部分でも本当に少ないと思いますので、極端なお願いするということももちろん難しいものと思います。ただ、そういったものがあるということで、少しずつでも皆さんにご理解をいただきながら、また必要な人に活用していただけるような形になっていけたらよろしいかと思いますので、ご周知のほうをよろしくお願いしたいと思います。

次に、蜂・食物アレルギー疾患を持つ園児・児童・生徒に対して、どのような取り組みをされているのか、お伺いをいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　教育課長。

**○教育課長（加曽利英男君）**　児童や生徒が、食べ物や薬品などにアレルギー疾患があるかどうか、そういうものにつきましては、年度当初に健康カードというもので配布をいたしまして、調査をしておりますけれども、その結果では、蜂の毒に対してアレルギーを持っている児童生徒は把握しておりません。

その対応ですけれども、通常の学校生活の中で、蜂に刺されるというようなことは余りないかと思いますけれども、屋外活動ですとか、そういうものについては、十分に注意するように指導していきたいというふうに考えております。

あと、食物アレルギーに関しましては、学校給食が主なものになるかと思いますけれども、

現在、町内の小中学校では、25名の児童生徒、そういう方が、青魚ですとかエビとかカニとか牛乳、そういうものにアレルギーを持っております。ただ、その中で、特に症状が重いというような方はございませんで、例えば体調が悪いときに食べたり、あるいは食べ過ぎたときに症状が出ると、そういう比較的軽い方もその25名の中に含まれております。

学校給食の対応につきましては、給食の献立を事前に学校や保護者、それにお知らせしまして、さらにその必要に応じて、どのような原材料が使われているか、成分表を配布しております。そして、これを食べられないといいますか、避けたほうがいいというふうに判断した場合には、そういうものを避けて、ほかのものを食べるというような対応しております。

なお、給食が、全く食べられない献立の日があって、その日は、例えば、弁当を持ってくるとか、副食を持ってくるとか、そういうことも認めておりますけれども、そういう児童生徒はございません。

あとまた、除去食、そういうようなことも考えられないわけではないんですが、現在の状況では、給食センターの状況では、これはちょっと対応できないかなというふうに判断しております。

児童生徒に関しては以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　ありがとうございます。

私、小学校、中学校、また保育園の先生方とちょっとお話を聞かせていただきました。保育園では、今、非常に細かく対応をいたしていただいております。その中におきまして、先ほどのご質問にもさせていただきましたエピペンという講習も、全職員の方が受けていただいております。また、食べ物、給食及びおやつに関しても、アレルギーという形で申請がありましたお子様に関しましては、除去食ということで、本当に連携をとりながら、調理師の皆様、栄養士の皆様、先生、それからご家庭と、本当に細かい対応をしていただき、このアレルギー対策に臨んでいただいておるところでございます。

小中学校に関しましても、こういった形の取り組みを始められて、何回か会議も持たれているということもお伺いさせていただいておりますけれども、この小中学校の先生に、食物アレルギーへの対応や、エピペン注射の投与方法を学ぶ研修会の開催についてということで、ご質問をさせていただきたいと思います。

2008年４月、文部科学省より、学校アレルギー疾患の児童生徒にどう対応すべきか、まとまった初のガイドラインが発表され、その中で、アナフィラキシーショックに対する自己注

射が可能なアドレナリン製剤を本人にかわって、教職員らが打つことは、医師法に反しないという見解が示されました。また、職員が発見者になった場合、必要に応じて、この自己注射薬を打つなどの対応がとれるよう、教職員全員が、情報を共有し、緊急時の準備をしていくことが求められております。とはいいますものの、子供の体に針を刺すことへの抵抗感や、先ほどの課長からのお話もありますように、非常に判断ミスへの恐怖心などがおありになることと思われます。このため、エピペンは打つタイミングを理解してもらうなど、食物アレルギーとアナフィラキシーのことを知っていただくための研修が非常に大事であると思います。保育園では、既に職員の先生方が講習を受けていただいているとお伺いしております。現在、保育園では、１名の方がエピペンを所有しているとお伺いしております。そのお子様も、前日までは全く普通のアレルギー状態であった方が、夜に病院へ行き、翌日にはエピペンを持ってこられたと、そういう状況であったとお伺いをいたしております。そこで、緊急時の準備のため、小中学校の先生方にも、エピペンの使用に関する講習を受けていただき、現場での認識を一貫していただくことができるとよいと考えますが、町のお考えをお伺いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　教育課長。

**○教育課長（加曽利英男君）**　エピペンの使用についての教職員への講習というような質問かと思いますけれども、現在、エピペンについて処方されている児童生徒は、町内ではございません。ただ、今後このような児童生徒が出てきた場合には、これは、当然、その学校の全教職員が、そういう研修等を実施して、そういうものについて理解を深めることは必要かと思いますので、そういう場合につきましては、関係機関の協力を得まして、研修を実施してまいりたいというふうに考えております。

また、エピペンに限らず、アレルギーに対しましては、現在、アレルギー対応マニュアルを作成中でございます。これは、夷隅郡市で初めてといいますか、ほかは今やっていないと思いますが、現在、作成に向けて協議を重ねておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　わかりました。よろしくお願いいたします。

それと、先ほどのご答弁の繰り返しになってしまうわけなんですけれども、今、保育園では、アレルギーのあるお子様は、除去食という形で、給食、またおやつを出していただいて

おりますけれども、小学校にこういうお子様がお入りになりましたときの給食という部分に関して、町ではどのようにお考えになられますでしょうか。きのうまでは除去食で、きょうからという部分におきまして、どのような対応というふうにお考えになりますでしょうか、よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　教育課長。

**○教育課長（加曽利英男君）**　学校給食で、アレルゲンを除いた除去食が提供できないかというようなご質問かと思いますけれども、現在、給食センターは、町内といすみ市の一部、合わせて10校に約1,250食を提供しております。学校給食の場合、国の衛生管理基準、そういうものがございまして、加熱調理した後に、２時間以内に配送して食べてもらうというようなことで、そういう基準がございますので、非常にこのように限れた時間の中で、一般の給食のほかに、個々にまた除去食をつくって、これを間違いなく配送して、それを今度また配膳するのは先生あるいは児童生徒になりますが、間違いなく該当する生徒に配膳するというようなことは、現在の施設整備あるいはその業務の体制から見て、これは困難であるというふうに判断をしております。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　そうしますと、先ほどの課長のご答弁でありましたように、お弁当ですとか、そういった形になってくるということも非常に考えられることなのかなというふうな気もいたしますけれども、今後いろいろな形の中で、アレルギーのお子様もふえてきているという状況もございます。そういった給食のお話等も、またご相談をいただけることもあるかと思いますけれども、そのときにまたひとつよろしくお願いをしたいと思います。保育園や学校の職員、先生方には、ますますご多忙を期されている中で、子供たちの命を守るために、今まで以上にご尽力を賜り、本当にありがたく思っております。アレルギーをお持ちのお子さんがふえつつある中で、保育園、学校、教育委員会、そして町行政とそれぞれの役割におきまして、より一層の対応をお願い申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○議長（小髙芳一君）**　皆様に申し上げます。

まだ残暑、暑い中であります。どうぞ上着を脱いでいただきたいと思います。

---

**◇　麻　生　　勇　君**

**○議長（小髙芳一君）**　次に、４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　麻生でございます。少し前置きが長くなりますけれども、ご了承いただきたいと思います。

働く場所と雇用の場の創出について、施策について質問したいと思います。

昭和29年、１町４村が合併して、新生大多喜町として、来年10月で60年を迎えるわけですが、人口は、合併時の約１万8,000人を頂点として、毎年140人から160人が減少し、現在では１万人ちょっとという状況になっております。この間、本町はもとより、近隣市町は、この人口の減少に何とか歯どめをかけるため、いろいろとまちおこしや企業誘致、住宅施設や商業、観光振興、子育て振興に係る施策を進め、定住化対策に取り組んできたと理解しております。

特に、昭和42年には山村振興法、昭和48年には農村地域工業等導入促進法、そして昭和61年には半島振興法などの指定を受けて、積極的に企業誘致や町営住宅の建設を計画的に進め、またショッピングセンターの誘致など、町の発展と雇用の場の確保を図ってきていただいたわけでございます。

特に、昭和54年から平成10年の20年間で見ますと、猿稲、中野、新丁、黒原等の町営住宅を計画的に建設する施策によりまして、それまで毎年170人の減少であった状況が、その半分の年間で約80人前後の減少に転じました。その努力と効果がうかがえるわけであります。

しかし、その後は、バブルの崩壊や景気の低迷、いろいろな施策を実施しても、年間に約140人前後の減少という状況になっておりまして、人口減少に諸施策が追いついていないのが現実であります。

町長が進めている企業誘致、新たな雇用の場づくりを目指した施策については、基本的に賛成するものですが、これまで申し上げたように、さまざまな施策をもって取り組んできても、なかなか具体的な成果を出すことが難しいのが現実であると思います。町のホームページで公表しております平成24年度の経済センサス活動調査と平成22年度の国勢調査を参考にしますと、本町の第２次産業は137事業所で、そこで働く従業員は1,202人、第３次産業は、413事業所で3,121人の方が働いております。この町への企業も、みずからの企業努力によって、業績アップや事業拡大をしようと頑張っていただいているわけで、雇用の場の確保をいただいております。それでも、町内に在住する若者や町民の意見を伺いますと、働く場所が少ないとか、働く場所がないから、遠くまで勤めなければならない、あるいは家から出て勤めざるを得ないということは聞きます。このように企業誘致は本当に困難なことであると理解しております。しかし、町内で仕事や雇用の場がふえれば、若者は、転出したり、遠くま

で勤めなくてもよくなるわけであります。視点を少し変え、企業誘致の施策と並行して、町内で働くことのできる施策、雇用が拡大できる施策を何とか早急に確立することが必要であります。

人口の流出減少に対しての施策として、婚活をしているわけですが、これという効果がはっきり出ない。そこで、目線を変えた対策が必要と思われますが、そのことについて伺いたいと思います。

過日、議会図書室の本を借りて読んだばかりの長野県川上村の取り組みがテレビで放送されましたが、この川上村では、大多喜町とは地理的条件が違い、非常に厳しい自然環境の中で、村を挙げて、農業振興によって、レタスや夏野菜の産地化によって、雇用の拡大が生まれ、農家収入のアップ、高学歴の若者Ｕターンやカップル誕生により後継者が続々とふえていることで、非常に感動しました。また、村民の年収も、2,500万円と収入に比例して仕事量もあり、車庫にはベンツがあるような生活で、レジャーでは、ゴルフのハンデキャップも、シングルの人が多くいるとか、仕事とレジャーが両立できる大変な魅力的であるということです。このことは、一例を挙げますと、本町の特産タケノコやシイタケなどを使った新製品の開発、付加価値をつけた製品化への取り組み、販売から生まれる新たな仕事の創出によって、雇用の拡大にもつながるわけであります。

さきの６月議会の本会議で提案されました菌床栽培の事業も、本町の新たな産業あるいは雇用の拡大につながるものと判断しておりますが、町長の指導力と企画財政課の企画力、産業振興課の実行力を持って、雇用の場を必要としている町民の牽引はしていただきたいと思います。

過疎からの脱却のため、大多喜町の主要産業である農林業を軸とした新たな事業の創出によって、新たな仕事をする場所、雇用の場所をつくるという観点から、新たな施策を講ずる考えはないか、伺いたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　農林業によります働く場所と雇用の場所の創出に係る施策についてというご質問でありますけれども、さきの議会でも申し上げましたが、民間の企業で菌床栽培を試験的に実施し、早ければ年末にはシイタケの出荷が可能と聞いております。そこで、その結果を踏まえ、菌床栽培の希望があれば、さらに多くの方々へと技術指導を行いまして、農業収入の向上を目指してまいりたいと考えております。また、そこで新たな雇用も、一緒に生まれてくることも期待しているところでもあります。

そのほかに、大多喜町の特産でありますタケノコを活用したメニューの開発、そしてさらに土産品としても対応可能な商品開発は、現在、商工会を交えまして検討中でありますので、今後も引き続き実現に向け推進してまいりたいと考えております。

また、そのほかにも、常時、情報収集を行いつつ、有効なものがあれば取り組んでまいりたいと考えます。

以上でございます。

**○議長（小高芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　菌床栽培のモデル事業につきましては、国の交付金事業として採択された2,800万円の交付金を受けて、民間が実施する事業だと、さきの議会でも報告がありましたけれども、町も当然この事業内容を確認していると思いますのでお聞きいたします。新たに町民の雇用が期待されるということですが、具体的に、当初、何名くらいの雇用が見込まれるのか、また近い将来、どのくらいの雇用が見込まれるのか、把握していましたらお願いしたいと思います。

**○議長（小高芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　菌床栽培の関係での雇用でございますけれども、常時、二、三名の雇用で、それで、ローテーションを組んで、２班ぐらいの編成で、４名から６名ぐらいの雇用というように聞いております。しかしながら、やはり企業でございますので、できるだけコストを下げて、生産したいということもございますので、あくまでも試験的でやっているわけでございますけれども、一応そういうふうには聞いておりますけれども、実際にやってみないとわからないところもございます。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　もちろん、コストパフォーマンスで、人員も、社員の仕事、人員、人数も変わってきますけれども、この菌床栽培のモデル事業から、二、三名ということなんですが、モデル事業から新たな町民の雇用が期待できないものか、多少でも雇用が考えられるとすれば、どのような仕事が考えられるのか、伺いたいと思います。

**○議長（小高芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　雇用につきまして、今、申し上げましたとおり、二、三名の１班で、ローテーションで、４から６ということで申し上げましたけれども、仕事の内容につきましては、ハウスを設置しますので、ハウスの施設管理あるいはシイタケ等の生産、そ

してまた販売に関すること、そういう労務が、一応、考えられると思います。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　いろいろ考えられると思いますけれども、大多喜町の産業振興に、どのようにつながっていくと期待しているかどうか、もう少し具体的にわかりましたらお願いしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　シイタケの菌床栽培を今回、試験的に行いまして、採算ベースに合うようであれば、その菌床を町民の希望者の方々にあっせんしていって、その方々にシイタケ栽培をしていただく、そしてまたそのでき上がった製品をまた食の分野でも生かせるようであれば、また地元食材の活用ということで、それを活用して、大多喜町へお客様を呼び寄せるような観光業とつなげた施策がとれればということで考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　先ほどタケノコの話がちょっと出ましたけれども、大多喜町の特産でありますタケノコや、私も、米をつくっていますけれども、大多喜米、シイタケなど、いろいろな農林産物の活用やメニュー開発、加工商品化を進め、町内から新しい産業の創出が急がれております。

大多喜町の農業は、稲作が中心だと思います。米の価格はずっと低いまま、反面、農業機械のコストは上がるばかりです。これでは、後継者を期待することが困難であります。また、町内には道の駅や養老渓谷観光センターの直売所もできております。しかしながら、そこで町の農林産物や加工品は、年間を通して供給することは非常に困難だと思います。町では、商工会等を交えて、検討しているということを聞きましたけれども、やはりこれらの開発、商品化、加工は、町内を軸に、町民とともに進めることが必要であると判断します。これによって、これからかかわる人や企業等を育てることで、雇用や働く場所が生まれると思います。冒頭、私は、長野県川上村の取り組みについて一例を挙げましたが、やはり大多喜町でも、農林産物の活用やメニュー開発、加工商品化による新しい産業の育成や農林産物の生産意欲の向上につながるよう、町長の指導力と企画財政課の企画力、産業振興課の実行力、また職員のすぐれたアイデアを持って、町民を牽引していただきたいわけで、いま一度見解を伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　農業関係では、特産品ですか、農産物を利用してということでございましょうけれども、それを町内で加工と、できればということでご指摘だと思いますが、できるだけ、ご指摘のとおり、町内でとれたものを町内で加工して、それで販売まで結びつけられれば、これにこしたことはないのではないかなというふうに考えますけれども、どうしても町内ではやり切れない部分、どうしても町内でやり手がいないという部分で、技術的に無理であるとか、そういうことであれば、どうしても町外へ出さざるを得ないと、そういう分野も、当然、出てくると思いますので、その分野は、仕方がないのではないかと思いますけれども、当然、地域でとれるものを活用して、そしてまたそれを土産品につなげていくということは、専門家のアドバイザー等を交えながらご相談して、ご指導いただきながら、今後、進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　そのように、冒頭で申し上げましたけれども、町民、特に若い方の中には、町内に働く場所が少ない、近くに働く場所があれば、遠くに勤めに行かなくても済む、何とかしてほしい、これが町民の意見であるわけです。そこで、これまでの企業誘致型による雇用拡大も大変必要であると理解しております。見方や発想を変えて、大多喜町の農地や竹林、山林、自然、農林産物資源を活用して、何とか新たな産業振興を図り、新たな働く場所、雇用の場所を確保していただきたいし、つくっていただきたいわけです。そして、大多喜町に住んでいてよかった、また大多喜町に住んでみたい、大多喜町で働いてみたい、そういう施策を積極的に推進していただきたいと思います。

そこで、伺いますが、町では、今、来年度採用予定者の募集をしております。ことしは、環境水道課に技術系の職員の採用をしました。その結果と効果はどうでしょうか。大多喜町の農林業の振興を目指して、新たな産業化、新製品の開発、栽培を進めるためにも、町民を牽引できる農林業に精通した職員、農林業指導や生産指導のできる職員の養成あるいは採用が必要と判断いたします。これらの知識や経験の指導力もあるような専門職の採用をしていく考えはないのか、伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　農林業関係の専門職員の採用についてのご質問でございますけれども、現状の人事管理上では、専門職員を配置するということは大変厳しい状況でございま

す。先ほど水道課の職員のお話が出ましたけれども、これにつきましては、そういう技術系につきましては、農業土木、公共土木といいます建設課部門、そういうところで、そういう技術系を学んでいただきたいなというふうに考えておりますので、それについては、効果がかなりあらわれてくると信じて採用したわけでございますが、そういう農林関係につきましては、現在の状況からしますと、県の農業事務所に、昔で言う農業改良普及員、今は普及指導員といいますか、そういう職の方がいらっしゃると思います。そういう方々のご指導をいただきながら、栽培の振興等を図っていただきたいなというふうに考えております。また、それはなぜかというと、採用したからといって、普通の土木系の職員とは違いまして、自分に経験がないところの指導をするというのは、なかなか採用したからすぐにその効果があらわれるというようなことはないというふうに思われますので、今後、そういう県の普及員等を活用といいますか、そういう方のご指導をいただきながら、農業振興に役立てていただければなというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　県の職員に聞きますと、町の職員は大変だなと、二、三年で動いちゃってという話を聞きます。そういう意味で、専門職を雇うと固定できないのが多分問題かなと思います。したがって、今、農業事務所の話が出ましたけれども、特別に、例えば期間を限定して、出向してもらって、町の農業振興、産業振興に協力してもらうようなことも考えていただければなと思いますが、どうでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　一時的な派遣というのは、なかなか今の人事管理上、難しい状況でございます。ただ、県の職員でございますんで、県下のいろいろな情報も全部把握している、また全国的な状況も把握していると思いますんで、そういう知識面でも優秀な職員が県には多くいらっしゃると思いますんで、町の農業経営をしている人たちが、そういう指導を受けるということは可能でございますので、そういう面で指導していただくようにお願いをすることはできますので、そういう形をとっていきたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　よろしくお願いいたします。

先日も、イノシシの柵で群馬のほうに行ったんですけれども、そのときに町の職員も２人

参加していました。そういうことで、できるだけ連携をとっていただいて、直接、農家や竹をやっている人たちが動いても、みんなに伝わりませんので、ぜひ町でそういうのに取り組んでいただきたいと思います。

ちょっと人口の話がぼけちゃいましたけれども、今１万人なんですけれども、具体的に、東総元の住宅が、今、建って、もうすぐ住むのかな、そんなこともやっているのはわかりますけれども、やっぱり外から、川上村じゃないんですけれども、あそこは、勝手に来てくれると、要するに魅力があるから来るんだということですので、大多喜町も、何かそんな魅力のあることをつくれないかなという気がしているんですよ。これからの課題になると思いますけれども、ぜひ検討していただきたいと思います。

それから、最後に伺います。町では、これまで長期的なビジョンを定めた基本構想に、５年ごとの実施計画を立てて、各事業を推進していると思います。今、町が進めている事業やこれから進めようとしている事業についても、やはり町が、具体的なビジョンを掲げ、目標を立てて、いつまでに実現してくかということを位置づけて進めることが必要であると思います。計画表に載せることで、フォローアップが可能になり、問題点が見えるようになり、その対策が早期にできるようになると思います。この点についてのご見解を伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　現在、進めています、推進しています主な事業につきましては、５カ年の計画の中に入っているわけでございます。環境保全施策の項目としては水力発電事業、また住宅、宅地の整備等の項目につきましては、宅地等の分譲事業が位置づけられておりますが、具体的な事業名ということでは、計画されてはおりませんが、これは、今、時代の変化というのは非常に激しく、国のほうの施策が常に変化をしてまいりますので、私どもが、この５カ年事業を一度決めたら、それで進むということではなくて、中間年々でローリングをしながら見直しして、一つずつまた具体的な目標に進めてまいりたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　ローリングというのは、中間で見直しするということですよね。中間というのは、５年の半分の2.5年でやると、フォローアップがおくれる可能性はないんですかね。

それと、いろいろ変化があるから、具体的なタイトルをつけられないような話も今ありましたけれども、でも変わったときには、変わったタイトルでいいんじゃないかなという私、

気がするんですけれども、素人ながら思うんですが、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　当然、変わりましたら変えて、ローリングの中で見ていくんですけれども、ただ一つの事業、やっぱり１年単位でできるものも、短いものであれば、それはそれで、それほどの問題はないんですが、大体、事業というのは、結構年数がかかるものでございますから、そういう中で、適宜、ただ、今、中間ということで見直しますが、その中で、必要であればまた見直していきます。ただ、今の事業形態でいきますと、やはり今、中間年ぐらいの見直しで十分かなと思っております。

**○議長（小髙芳一君）**　４番麻生勇君。

**○４番（麻生　勇君）**　わかりました。

最後に、事業の実施のチャンスやタイミングもあると思いますけれども、大きな事業や町の方向性を決める重要な事業については、町民にも、町が進めている方向性が理解しやすいよう、５カ年計画等に位置づけていただくようお願いしたいと思います。いずれにしましても、町長の指導力と町当局、企画力、実行力、すぐれたアイデアを持って、町民を牽引していただきまして、新しい産業の創出、将来の大多喜町を担う若い人たちが、働く場所がふえることを期待しまして、私の一般質問を終了します。ありがとうございました。

**○議長（小髙芳一君）**　一般質問の途中ですが、ここで10分間休憩します。

（午前１１時２０分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時３１分）

---

### ◇　根　本　年　生　君

**○議長（小髙芳一君）**　次に、１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　根本です。一般質問させていただきます。

私は、まず１番目に、大多喜町の活性化に取り組む団体等の支援について、これは、前回も多少触れたんですけれども、どうしてもやりたいと思いまして、また再度、部分的に質問させていただきます。

私、ずっと思っているのは、やっぱり大多喜町の高齢化、人口減少による過疎化、これは喫緊の課題だと思っております。また、常住人口にも偏りがかなり見られます。特に農村部

においては、人口の減少が非常に激しいんじゃないかと思っております。その辺を何とか解消しなくてはいけないと思っております。そのため、大多喜町は、町の活性化を図るために、財政状況も厳しい折、各種民間団体、企業、個人、ＮＰＯ法人等の力をかりながら、町から、みずから立案した政策を達成するために、それらの団体に、補助金あるいは委託金等を出して、やってもらっていますが、それらの団体が行っている事業は、大多喜町の活性化に、大いに役立っていると感じております。その内容について伺いたいと思います。

大多喜町の活性化のために一生懸命活動している団体は、どのような団体があるか、また民間活動を利用した事業は幾つあるのか、伺いたいと思います。

**○議長（小高芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　大多喜町の活性化のために一生懸命活動している団体は、どのような団体があるのかということでございますけれども、また民間活動を利用した事業は幾つあるのかというご質問でありますけれども、まず団体といたしましては、大多喜町観光協会、大多喜みらい塾、葵の会、下大多喜レンゲ祭り実行委員会、養老渓谷旅館組合、養老渓谷観光協会、大多喜城手づくり甲冑会、中野駅前振興会、養老渓谷ふるさとを守る会で、９団体くらいかと思います。

また、民間活動を利用した事業が幾つあるということでございますけれども、まず一つ目に大多喜町の宣伝、２番目に、移住、就農支援、３番目に観光客の案内やおもてなし、そして４番目に婚活支援などの４事業を挙げさせていただきましたけれども、そのほかにもさまざまな角度から事業支援をいただいているのが現状でございます。

以上でございます。

**○議長（小高芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今ご説明のありました団体で、９団体くらいかなというご答弁でしたけれども、９団体ぐらいというのはどのようなことかと、ほかにもたくさんあるんじゃなかろうかと思っております。町としては、小さな団体でも、町の活性化のために、一生懸命ボランティア等で活動している団体などは、そのような団体がどこにあってどのような活動しているのか、それを把握すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（小高芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいまそのほかの団体ということでございますけれども、あるいは、例えば草刈りのボランティアとか、そういう各地区にいらっしゃる、確かにいらっしゃると思いますけれども、大変申しわけないんですけれども、そこの辺までちょっと把

握し切れていないのが現状でございますので、その辺、ご容赦いただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　把握する意思はありますか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　徐々に、少しずつでも把握してまいりたいと思います。そして、お互いに連携できるところは連携して、お互いに進んでいければなというふうに考えます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　徐々に把握していきたいということでございます。それでは、町には、いろいろな連絡協議会とか、一つずつの個々の団体が、一つの目的というよりも、何か達成するために協議会等を立ち上げていると思います。民間の団体で、一生懸命ボランティアとかはやっている団体の協議会等も立ち上げて、当然、これは、それに、強制的じゃないですけれども、横のつながりを持つような形はとったらと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま議員さんおっしゃられるように、横のつながりということで、それでうちのほうも、先ほど申し上げましたけれども、把握していない部分もございますので、その辺を含めまして、町内一斉にお声がけさせてもらうとか、そういう方法をとっていかないと、とても一つずつ当たることはちょっとできないと思いますので、そういう形の中で、お声がけさせていただきながら、連携を図っていければなというふうに考えております。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ありがとうございます。ぜひお願いしたいと思います。

続きまして、民間活動を利用した事業に対して、基本的にどのような支援をしているのか、またその支援の結果、どのような効果があったのか、それを教えてください。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　民間活動を利用した事業に対して、基本的にどのような支援をしているのかということでございますけれども、また支援の結果は、どのような効果があったのかということでありますけれども、事業の内容により、補助金の交付あるいは業務委

託などの措置をとっております。また、その効果でありますけれども、大多喜町が、新聞、雑誌、テレビ等のマスコミ等に取り上げられることによりまして、移住希望の問い合わせや、また観光客の増大、そして町の活性化へとつながっていくものと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今、支援の方法について、補助金とか業務委託などの措置をとっているということでございますけれども、金銭面じゃなくて、そのほかに支援することはたくさんあると思いますけれども、金銭面以外でどのような支援をしているのか。

それと、先ほど絶大なる効果があったということですけれども、もっとこの事業に対してこういった効果があったという具体的なことがありましたら伺いたい。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　金銭面以外では、ボランティアの協力とか、あるいは物資の支給とか、そういう形で協力させていただいております。

そしてまた、効果がどのくらいあったのかということで、具体的にという話でございますけれども、例えば、今回、みらい塾さん等に業務委託をいたしましたけれども、そしてその中で、今回、移住希望者が30名ほどおりまして、そして、そのうちまた６名の方が大多喜町に移住されております。そしてまた、空き家情報などの収集のほうも行っていただきまして、40軒ほど空き家を収集して、一応、直接、地主さんとお話しさせていただいて、借りられるとか借りられないとか、その辺の詳しいところまで調べていただきました。そしてまた、そのほかにも、古民家再生イベントとか、そういういろいろな事業もみらい塾さんにはやっていただきまして、その反響は、かなり大きなものがあったと思っております。

以上です。

**○１番（根本年生君）**　ありがとうございます。とにかく私も、議員になっていろいろな活動させていただくんですけれども、いろいろな団体が活動している中で、多くの町民は、その力を得て、頑張ることができている方もたくさんいらっしゃると思います。ただ、その事業を行っている方々も、手助けというか、応援が必要だと思っております。やっぱりそれを後押しするシステム、体制ができていないと、なかなか頑張れる方も頑張れなくなってくると思いますので、その辺はぜひお願いしたいと思います。

続きまして、ＮＰＯ法人みらい塾の件について、みらい塾は、法令に基づき、千葉県に、１年間の事業報告書及び活動計算書等を提出し、その内容の確認を得ていると思うが、町が、

都市農村交流推進業務としてみらい塾に委託している事業についての実績や成果については、どのように確認をしているのか、また、みらい塾は、補助金ではなく、委託契約の方法とした理由はなぜか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ＮＰＯ法人大多喜みらい塾に委託している事業についての実績や成果についての確認はどのようにしているのか、また、みらい塾は、補助金でなく委託としている理由は何かというご質問でございますけれども、まず実績や成果についての確認でございますけれども、みらい塾より、実績報告書を提出していただきまして、内容が間違いなく履行されているか、確認いたします。当然、その中には、成果でありますパンフレットあるいは掲載している写真等も提出していただいておりまして、町の検査員、職員でございますけれども、検査していただいております。

また、なぜみらい塾は、補助金でないか、委託契約なのかということでございますけれども、補助金の場合は、補助を受けるものが主体となって、事業を行います。委託料の場合は、委託する業務は、自治体が主体でありますので、みらい塾の実施する事業は、本来、町が実施すべき内容でありますので、委託契約し、事業を行っていただいております。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　委託の場合は、本来、町が実施すべき内容であり、委託契約を行ってもらっていると、事業主体は町であるという答弁がありましたけれども、じゃ行っている事業について、責任は町がとるということでよろしいんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　そのとおりでございます。

**○１番（根本年生君）**　わかりました。

それで、今の答弁の中に、委託金の使途については全然触れられていなかったんですけれども、これは、町の関与することではない、検査の対象外であるという認識でいいですか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　おっしゃるとおりでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　その理由はありますか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　その理由、委託金が、なぜ町がその使途について追求しないのかということでございますけれども、例を挙げて大変申しわけございませんけれども、根本議員さんの関係で、測量会社はやっているかと思いますけれども、町で、測量委託ということで、議員さんの関係する根本測量さんのほうにお願いしてございますけれども、あくまでも、成果だけ、測量成果だけを求めるものでありまして、その委託金が果たして何に使われたということまでは追求しておりません。また、追求できるものではないと思っております。というのは、一つの企業の中の収支でございますので、発注側とすれば、その委託内容が確実に履行されているか否かの判断でよいかと思っています。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　わかりました。

それで、ＮＰＯ法人みらい塾が行っている事業について、余り住民の方に広く知られていないんじゃないかと、ＮＰＯ法人みらい塾があること自体も余り知られていない。どういった事業が行われていることについても、よく把握していない住民が多数いると思われますけれども、一生懸命活動している団体、ＮＰＯさんだけじゃないですけれども、ほかの団体も含めて、もう少し広く住民に告知する必要があると思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　その件につきまして、現在、毎月、広報に農業体験推進室とみらい塾との活動報告をあわせて掲載させているのが現状でございますけれども、さらにまた時あるごとにＰＲができればというふうにも考えますし、まだ始めて１年ちょっとということもありますし、徐々に浸透はしてきている中ではないかと思っておりますので、その辺につきましては、これからもどんどんＰＲはさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ありがとうございました。ぜひよろしくお願いします。

続きまして、今度、ＮＰＯみらい塾さんが、都市農村交流事業及び定住化促進事業を行い、新聞・ラジオ・雑誌などのメディアに数多く取り上げられました。その活動内容により、大多喜町にもたらした効果はどのくらいあると思っているか、今までの答弁の中でも出てきたように思われますけれども、再度お願いしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　みらい塾が実施いたしました都市農村交流事業及び定住化促進事業を行い、新聞・ラジオ・雑誌などのメディアに数多く取り上げられましたが、その活動内容により、大多喜町にもたらした効果はどのくらいあるかと思っているかということでございますけれども、先ほども申し上げましたけれども、メディアに取り上げることによりまして、大多喜町が、広くＰＲされ、多くの方に関心をいただいたものと思っております。都市農村交流事業におきましては、昨年、新たに品川区との交流をスタートいたしましたので、その件に関しても、またより一層深めてまいりたいと考えております。

そしてまた、定住促進事業では、これも、先ほど申し上げましたけれども、空き家情報の収集、そして移住希望者の対応、そしてまた古民家利用によるイベントの実施など、多くの反響を呼び、非常に多くのマスメディアに取り上げていただくことができました。それによりまして、大多喜町にもたらした効果は非常に有効であったものと考えております。

以上でございます。

**○議長（小高芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ありがとうございました。

じゃ、続きましてレンゲ祭りのことについてちょっとお聞きしたいと思います。大多喜町では、過去、県内外で有名な行事であったレンゲ祭りを盛大に実施しておりましたが、諸般の理由から一時中断いたしました。しかし、平成25年４月、地元の実行委員会が、復活大多喜町レンゲ祭りを開催し、多くの人たちに支えられながら実施しました。再開されたレンゲ祭りについて、今後どのようなふうに進めていくのか、その見解を伺いたい。

ところで、大多喜町の要綱の中に、大多喜レンゲ祭り実行委員会補助金交付要綱がありますが、再開された際、補助金は交付されたのでしょうか、また来年も開催されると聞いておりますが、今後どのような支援を考えているのか、お聞きしたい。

**○議長（小高芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　再開されましたレンゲ祭りについて、今後どのような見解を持っているかとのことでございますけれども、レンゲ祭りにつきましては、過去に実施していたこともありまして、イベントのネームバリューはあるものと思われることと、自然の中のイベントで、ある程度のお客様も確保できるものと、本年、実施したことで確認されたものと思っております。

また、今回のレンゲ祭りの開催に際し、補助金について交付しておりませんけれども、ＮＰＯ法人大多喜みらい塾より支援いただくとともに、町に、レンゲ畑でつくったレンゲ米の

販売ルートの確立をし、農業収入の増収へとみらい塾さんには導いていただきました。そして、今後、地元の実行委員会を中心に、イベントを実施し、観光協会が支援していくような方向で、現在、聞いております。そしてまた、町としても、職員のボランティア等による協力などを通じ、支援してまいりたいと考えているところでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　補助金のことについて、来年、もし申請が上がってくれば、補助する予定は、お考えはありますか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長に申し上げます。答弁はもう少しゆっくり答弁していただきたいと思います。

産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま補助金のお話はいただきましたけれども、現在のところ、今、考えてはおりません。また、まだ内容が決まっていないと思いますけれども、これから進んでいく中で、その辺はまた協議させていただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　要綱があるということは、考えていないというか、その要綱に合ったものであれば、補助せざるを得ないのではないかと、金額はともかくとして、そう思いますけれども、今のところ考えていないという答弁は、ちょっとどうなんでしょうか、要綱に定められていて、要綱にのっとって、それが全てクリアされているものであれば、補助するべきだと思いますけれども、考えていないというのは、何か納得がいきませんけれども。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　おっしゃるとおりだと思います。ただ、私ども、先ほどの質問の中にもありましたように、農業についても同じなんですけれども、要は、今、私どもが進めておりますのは、やはり民間の活力をどう引き出すかということが中心でございます。それで、今さまざまな農業分野についても、商工分野についても、観光分野についても、とにかく民間の事業をいかに最大限、現に活用して、町の活性化につなげていくかということで進めておりまして、今のこのＮＰＯ法人みらい塾につきましても、いわゆる事業委託をすることによって、それを活性化していただいております。同じように、さまざまな団体にも、今、民間活力をお願いしているわけでございます。

そういうことで、このレンゲ祭りについては、私が町長に就任したときの年度で終わって

いるわけですね。このとき、やはり私の記憶の中に、たしか町が補助事業として580万を出して実施しております。それは、人件費というのは全くそこの中に入っておりません。人件費は、私も、ざっと全部そのときに洗い出しましたけれども、200人ほど人がかかっています。そういう人件費は入っておりませんが、当時で、580万の補助金事業で実施しているんですね。実際に、今回、レンゲ祭りをやりまして、じゃ実際に来られたお客さんはどうなのかというと、それほど大きな差がないんです。私も、30万の予算で、このレンゲ祭りをやったということでございます。そういうことで、私ども、やはり費用対効果ということも含めまして、民間活力をいかに引き出すかということが私どもの今の事業の根幹にありますんで、このレンゲ祭りの要綱につきましては、今、私ども、廃止の方向で考えております。ですから、先ほど課長が言いましたように、考えておらないというのはそこにあるんだと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　では、今、レンゲ祭りの補助金については廃止の方向で考えていると、レンゲ祭り、大変、人数もかかるし、準備等は大変だと思っております。そこに、では町のほうとすると、金銭的な補助は、今後、考えていないと、じゃ皆さん、地元の実行委員さん、そのほかの方々のボランティアを含めて、みんなで、それでやってくれという見解でよろしいんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　今お話ししましたように、やはり町の事業というのは、町が、直接、手を下してやる事業というのは、大体お金はかかりますけれども、ほとんど効果というのは少ないんですよね。地域の皆さんが盛り上げてやるものが、いろいろな全国の事業を見ましても、地域の皆さんが盛り上げてやることによって、そういうイベントというのはやっぱり盛り上がっていきます。ですから、私ども、今いろいろな事業を分野でやっておりますけれども、ほとんど、今、地域の皆さんのお力、ボランティアのお力をおかりしているんですが、それは、基本的にそういう形で、できるだけ町民を挙げて、町を活性化という方法で、私どもの基本的な考え方はそこにありますんで、それは、ボランティアの皆さんには大変なんですが、ひとつ地域のために、またこれからお願いをしたいと思っているところでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今の町長の答弁はよくわかります。しかし、補助金というのは、町が立案した政策を実行するために、町独自ではできないから、町でそのお金を全部出すことができないから、民間に頼んで、町が、その一部を補助するような形で、みずからの政策を実

行するということだと思っております。ですから、必要なところには、やっぱりある程度、少額でも構わないと思いますけれども、出していただければ、いや、これは、町も応援してもらっているんだと、バックには町がいるんだということであれば、要は、事業をやっている方、前にも言いましたけれども、事業をやっている方によって、いろいろな力をもらっている住民はたくさんいるんです。それで、ただ、いろいろな事業をやっている、ボランティアでやっている方も、力が欲しいんですね。力を与えてやらないと、なかなかモチベーションは上がってこないんです。町民が、応援してくれているよという認識がないと、なかなかモチベーションは上がってこないと思います。それには、町民の後押しした何かといったら、それは行政の後押しなんですよ。そこで、一律に、いや、町は、財政がないから、補助は一切しませんということではなくて、財政の許す範囲内で結構だと思いますので、やはり町のほうも応援しているんだよという意味で、多少なりとも、このレンゲ祭りに限らないですけれども、補助金のほうを出していただけるように処置していただけると、非常にやっている方々は、町も応援してくれているんだなという気持ちになると思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　今のお考えはよくわかります。ただ、私ども、金銭だけを応援するということではなくて、もちろん広報の問題もあります。宣伝の仕方もいろいろあるんですね。そういったいろいろどちらかというと町は黒子の部分で応援していきたいと思っています。ですから、金銭だけが支援ではなくて、町としても、できる支援というのは、いわゆる町民に呼びかける支援であったり広報であったり、さまざまな支援の仕方はあるんですね。ですから、金銭だけが支援ではないと思いますんで、ただ、今、言いましたように全く出さないということではなくて、どうしても必要であったら、別にその要綱があるないではなくて、やっぱりそれはやりますけれども、基本的には町の支援の仕方として、金銭よりは、むしろそういう裏方の支援をとにかくしっかり、それは、だから私ども、町の職員にも、いろいろな事業については、今、ボランティアで職員に募集しています。ですから、いろいろな事業につきましては、職員には、申しわけないけれども、ボランティアで参加してくれるようなことで、いろいろな事業に職員が、今、ボランティアで参加していただいておりますが、その中で、どうしても、今おっしゃいましたように、必要なときには、町が絶対出さないわけではありませんけれども、基本的にはそういう方向で進めたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ありがとうございます。確かに、お金は出してしまえば、それで何もしないというんじゃ、本当にいけないんで、金銭面以外での支援も十分お願いしたいと思います。

続きまして、民間活動を利用して行うという事業は、継続的にやっていかなければ、単発では、効果が薄いと思っております。それには、行政の後押し、地域住民の協力、町職員、特に町職員の人材の確保、特に委託事業ということを先ほど言ったんで、本来は、町がやらなくちゃいけないことを委託してやっているということは、万が一、委託の業者のほうで、何かでもうやらないとかということになったときには、町が独自でやらなくちゃいけないと思うんです。それには、それなりの人材を育てていかなくちゃいけない。委託している間に、その事業者と手を取り合って、そのノウハウを十分把握して、委託業者がいなくても、将来的には町でもできるんだよという、そういった体制づくりをしなければいけないと思っておりますけれども、これは、委託事業じゃなくて、補助事業もそうだと思いますけれども、それと人材の育成をぜひ進めてもらいたい。今は何か任せっ切りじゃないかというような気がするんですけれども、その辺、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　おっしゃるとおりでございます。私ども、今、町の基本は、やはりこの地域が沈んできた原因は人材にありと思っています。ですから、今、私ども、町は、今、人材の育成ということには、非常に最大の力を注いでおります。つい最近も私のほうで、１時間半の講義ということの中で、その主題は人材育成にあるわけでございます。町は、今、定員管理という中で、これは、大多喜町は、千葉県の中でも職員の数が多いということでされております。そして、定員管理の中で、毎年、減らしていかなければならないわけでございます。しかし、仕事の量は減りません。そういうことで、じゃそれを整えていくためには、それをこなしていくためには何かといったら、人材の育成しかないんです。ですから、人材の能力を高めることによって、人材の減った分をそこで補っていくということで、当然、今、言いましたように、そういった問題も含めまして、人材の育成こそは、やはりこの町のこれからの活性化のために、またこの地域を発展させるためには絶対条件だと思っておりますので、人材育成には、これからもさらに力を入れてまいりたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　一般質問の途中でありますけれども、ここでしばらく休憩をしたいと

思います。

この間に昼食をお願いし、午後は１時から会議を再開します。

（午後　零時０１分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

（午後　１時００分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　引き続きまして、質問させていただきます。

次に、私が行うのは、買い物弱者対策について、私、これは、正直言って、議員になってから、いろいろ勉強させていただきまして、勉強していく中で、ちょっとわからない部分もありましたんで、質問するに当たって、皆さんが一生懸命勉強している中で、私は、まだ間もなかったものですから、わからないことがあったんで、せんだって経済産業省の担当官のところへ、一日かけて、国の政策とか国の思い、そういったのを担当官のほうに行って聞いてきました。丁寧に説明してくださって、資料も、分厚く、こんな大体10センチぐらい何かいろいろな資料をもらって、正直、それをまだ見切れていないんで、ちょっと質問がまだうまくいくかどうかわかりませんけれども、一生懸命勉強してきましたので、その辺を質問させていただきたいと思います。

まず、大多喜町では、近年、買い物弱者が大きな問題となっています。近隣に、生鮮三品、青果、精肉、鮮魚を初め、毎日の生活のために必要な生活必需品を購入するための店舗がなくなり、特に買い物に行くことができない高齢者が不便を感じています。このような状況下、町も、プロジェクトチームの立ち上げを検討しているとのことですが、いまだに有効的な手段が見つからず、大変苦慮していると思われます。

しかしながら、平成25年７月26日に、地元商工会の会員であり、長年、食品スーパーを経営している町内業者が国の地域自立型買い物弱者対策支援事業の事業者として採択されたと伺っております。移動販売車、移動スーパー事業、宅配事業、配食サービス事業を実施するとともに、高齢者の見守り活動も展開する予定であると聞いています。

しかし、国及び千葉県が行った買い物弱者対策モデル事業によると、過疎地域では、いかに社会的に必要な買い物弱者対策であっても、事業を継続させることは、非常に難しいこと

であるとの報告書が提出されています。しかしながら、その報告書の中では、移動販売車が巡回することにより、地域住民同士の交流の場を広げ、さらに地域の連帯感を高めるため、地域住民、行政、事業者の協力体制が整っている地域では、地元市町村の助成を受けながら、事業が継続しているとのことです。

このような中、町でも、買い物弱者対策については、相当の危機感を持っていると思われますが、その見解について伺います。

これは、以前、正木議員も質問していると思いますけれども、その内容を見させていただきますと、検討しますということで、その後、検討した結果がいまだ何か公表されていないというような状況であるかと思われます。

では、その件について質問させていただきます。現在及び将来の大多喜町の買い物弱者の状況についてどのように考えているのか、伺いたい。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　現在及び将来の大多喜町の買い物弱者の状況についてどのように考えているのかということでございますが、現在の買い物弱者の状況につきましては、昨年７月に、65歳以上の方がいる世帯を対象に、買い物環境に関するアンケート調査を実施しております。アンケートは、2,346世帯に発送いたしまして、1,170世帯から回答がありました。回答率につきましては49.8パーセントでございます。その中で、買い物に困っているが、199、17パーセント、困っていないが、971で、83パーセントでありました。また、将来の買い物弱者の状況につきましては、団塊の世代の高齢化が進むことから、減少することはなく、ふえる方向に向かうと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ふえるということですけれども、この状況が今後ますます深刻化していくと思います。今後、このような状況が続くことによって、まちづくりに与える影響についてはどのようにお考えでしょうか、町長。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　この買い物弱者につきましては、昨年からプロジェクトを立ち上げておりまして、今、アンケートの調査にもあったところでございます。しかし、これからふえることは必至でございます。もちろん、団塊の世代はこれからどんどん高齢化になるわけでございます。そういうことで、いろいろ検討しまして、社協あたりが一番いいんではないか

という実は一時の結論も出まして、社協等に一回は振ったんですが、社協も、なかなか難しいと、やはりこれは、どう見ても採算に乗る事業ではないんですね。ですから、従来で考えますと、なかなかこれは、採算に乗らない事業ということで、民間が手を出さないということでありました。

しかし、ここに来まして、状況がもう大分変ってきまして、当然、町内にも、今、既に、老川、西畑ではやっておられる方がございます。それで、今お話がありましたように、ある事業者がこれから国の事業採択を受けてやるということでございます。また、つい最近では、いわゆる郵便事業会社がこれからここに乗り出すということで、また一方では、コンビニ、スーパー等も、そういう事業にちょっと出る様子でございます。特に私どもが、今、実は、この間の会議でもその検討したものは、やはり郵便事業会社がやるということは非常に大きい。特に、いわゆる郵便局というのは、４事業化ということで、４つに分類された事業の中で、３年前から私のほうで、郵便局でも、実はこの事業をお願いしていたんですが、なかなか４分割の中では難しいということでありまして、ことしですか、いよいよその４分割が今度はまた統合されたということで、郵便事業会社として従来の姿に戻ったということで、新たに郵便局が、事業の柱の一つということで、買い物弱者がその一つの中に入っています。これは、買い物弱者だけではなくて、あらゆるサービスが入っています。そういうことで、有料で、月当たり1,000円でということでありますが、そういうことで、本格的な事業に乗り出すということで、ことしはもう既に実験的に幾つかの県でやるわけですね。それがいよいよ全国展開ということでありますんで、私どもは、将来を見据えたときに、もう少し民間の事業、特に郵便局も含めまして、こういったもののもうちょっと推移を見きわめようということで、私ども、町が、直接、手を出す前に、民間が、かなり状況が変わって動いてきましたんで、その辺の推移を見きわめながら、我々も、このプロジェクトチームについては、まだこれからもさらに会議は続けていきますが、その辺の推移を見きわめながら、また進めていきたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　わかりました。大変深刻な状況になっていると思いますので、できるだけ早い解決方法をお願いしたいと思います。

続きまして、プロジェクトチームを立ち上げて検討しているということですが、立ち上げの時期、構成員、これまでの会議の買い物弱者対策の進捗状況を伺いたい。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　プロジェクトチームの立ち上げの時期、そして構成員及び買い物弱者対策の進捗状況でありますが、プロジェクトチームは平成24年４月に立ち上げまして、構成員は、町長、副町長、総務課長、健康福祉課長、企画財政課長、産業振興課長、商工観光係長。事務局につきましては、産業振興課商工観光係が行っておりまして、途中から、元大多喜郵便局の局長、商工会会長、みらい塾塾長、社会福祉協議会事務局長が参加しております。

また、進捗状況でありますけれども、これまでに、会議を５回開催いたしまして、アンケートの実施や買い物弱者対策の検討をいたしました。そのうち、社会福祉協議会で、買い物サービスだけでなく、通院、銀行や役場の手続等、福祉サービスも含めた事業の実施につきまして検討いたしましたけれども、スタッフ及び財政面で実施が難しいと回答をいただいておりました。そして、今回、町内事業者で地域自立型買い物弱者対策支援事業補助金の裁決を受けた方もいらっしゃいますので、これからどのようの支援していただけるか、協議してまいりたいと考えている状態であります。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　プロジェクトチームを立ち上げて検討しているということですけれども、プロジェクトチームというのは、私の考えでは、重要な案件について、円滑・迅速にそのことを処理するために立ち上げたチームであるというふうに考えております。ですから、だらだら会議を未来永劫、何年、２年も３年もやっているようなことではないと思うんですよ。早急に解決しなくちゃいけない問題があるから、プロジェクトチームを立ち上げて検討している。ですから、このタイムスケジュール、じゃいつまでに結論を出して、その結論が出たことについていつ実行するんだ。要は、今、何か見てみると、まだ解決策が全然見出せていなくて、要はいつやるのかともわからない、やっぱりタイムスケジュールが必要だと思いますけれども、いつまでに結論を出して、いつから解決に向けて実務作業に入っていくのか、その辺を聞かせてください。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　これは、今、私も、お話をしたんですけれども、これは、解決策が見出せれば、私どももすぐ実行したいと思います。しかし、この協議の中で、先ほども申しましたように、なかなか採算性が合わないというのは、もう当然この事業をやれば、赤字になることは必至なんですね。ですから、それをできるだけ赤字が出るのは、しようがないとい

たしましても、できるだけやはり被害を低く抑えるということで、考える中で、なかなか解決策が見出せないという中で来ているんです。ですから、我々としては、一日も早くこれは、立ち上げたいのはもうやまやまなんですが、見通しのない中で、日にちを定めるというのはなかなか難しい。今、言いましたように、ここに来まして、民間が特に参入しましたんで、私どもが特に期待しておりますのは、郵便局が、やはり従来の４分割が、今度、一元化になるということで、従来の郵便局事業に戻りますんで、その中での郵便局の一大事業として進めるという方針が決まりましたんで、そういうことで、今その推移を見ていくということなんです。ですから、私どもも、手をこまねいているわけではございませんが、やる以上は、やはり事業内容としてはいいものでなければいけない。負担は、どんどんふやして、幾らでもやれるという話じゃございませんので、やはりその辺はしっかりと見きわめていきたいと思います。日にちはいつということは、私どもは、申せませんが、ただできるだけ早い時期にそういう解決をしたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　時期は明確にできないということでしたけれども、これはぜひ明確にしてもらいたい。それで、期限がないと、いつまでに、会議、どういったものをやって、要は、スケジュールのステップカットが非常に大事だと思うんです。それで、仮に、じゃ来年の３月までに案をまとめるよと、それでどうしてもまとまらなかったら、また延ばせばいいじゃないですか、まとまらなかったよと。ちょっと延びてもいいでしょうけれども、来年３月までにまとめるんだと強い意思がないと、幾ら会議をやっても無駄なんじゃないでしょうか。

次に移ります。町内事業者が国の採択事業者に決定された経緯及びその内容、今後の見通しについてなんですけれども、その中で、私の調べたところ、国に行って聞いたところ、これは、事業者が、こういった事業はやりたいんだよということを町にお願いして、町のほうの推薦状をつけて、町が国に出すんだということで聞いております。その推薦状の中身については、どのようなことが書かれていたんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま推薦状の中身ということでよろしいですかね。町は、非常に、先ほど申しましたけれども、買い物弱者がいて、買い物に困っている状態であるということを目にいたしまして、町からも、その事業者を支援していくという形で推薦させていただきました。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　じゃ、町も支援していくということで、私も、この買い物弱者対策支援事業のチラシを国のほうからもらってきましたけれども、その中で、以下のような特徴のある買い物支援事業を支援するというふうに書かれていまして、地元自治体、地域住民等が、事業運営に、積極的に、参加、協力する者、続いて、他の事業者との連携、高齢者の見守りサービスや宅食地域での交流拠点の設置といった地域の基盤的機能もあわせて提供する者について、特に支援するんだというようなことが書かれています。このような内容が具体的に書かれていたんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　具体的に何々というのは、多分掲載していないんじゃないかと思いますけれども、ちょっとこの宍倉さん、具体的に会社名を申し上げますと、宍倉さんは、スーパーをやっておる企業で、そういう会社が販売に関してノウハウを持っているということで、その中で、今回、新たに買い物弱者対策ということを含めまして、地域のほうに入って、移動販売を実施してみたいということで提案していただきましたので、町のほうから、それに対して、バックアップ、支援していきたいということで推薦させていただきました。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今の答弁の中で、積極的に町も協力していくんだよという答弁であったと思われます。また、さきの質問の中でそれは改めてまた聞いていきたいと思います。

続きまして、国の採択を受けた町内業者が行う事業が、買い物弱者対策として効果的であり、かつその意義は大きいと思うが、その見解を改めて聞きたい。また、地域住民が利用しやすい環境をつくるためには、町の果たす役割は重要であると思うが、当該事業との連携支援等はどのようなことを考えているのか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　国の採択事業を受けた町内業者が行う事業が、買い物弱者対策として効果的であり、かつその意義は大きいと思うが、その見解はということでございますけれども、まず今回の事業の効果及び意義についてでありますが、先ほど説明いたしましたとおり、アンケート調査では、17パーセントの方が、買い物に困っていることがわかっております。そしてまた、本町でも、プロジェクトチームをつくり、その対策を検討している

ところでありますけれども、現在のところ、有効な対策がご指摘のとおりとられていない状況にあります。そのような中、今回、宍倉株式会社が実施する事業は、買い物に困っている方の不平、そして不満の緩和、また町の買い物弱者対策の面からも非常に意義のある事業と考えております。

次に、当該事業者に対する町の連携、支援については、事業開始に当たりまして、販売ルートの検討支援や、商工会等へも協力いたしまして、住民への事業の周知をしていきたいと考えております。しかしながら、あくまでも一事業者ということであり、営業という観念から見ますと、一概に全面支援ということでなく、他の商店との関係も加味しながら進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　先ほど一事業者であり、一事業者に対して支援するのは難しいんじゃなかろうかという回答であったとかと思いますけれども、国のほうに聞きましたところ、私も、それが大いに疑問でありまして、国が、なぜやはり一事業者に対して補助金をつけるのか、これは、甚だ私も疑問に思っておりました。それを直接、担当官に聞いたところ、公共サービスは、今まで行政が大半を担ってきたと、しかし、行政の財政事情とか、いろいろ過疎化によって、行政だけでは公共サービスが担えないんだと、それについては、一部、どうしても一部の事業者に、公共サービスを肩がわりしてもらわないとできないんだと、ですから意欲のあるところには、積極的に応援していくんだと、たとえ営利企業であっても、それが町民のためになるんであれば、積極的に応援していいんだよという見解をいただきました。国のそういった見解についてはどのようにお考えですか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　それはおっしゃるとおりでございます。ただ、町内にも、現在、既存のサービスをやっている業者もおります。そして、今度、今、名前が出ましたけれども、この事業者は国の採択を受けてやっているところでございますね。ですから、国は、国としての考え方の採択をしていることはもう間違いありません。ですから、その事業者に支援することももちろんですが、既存の業者にも支援をしていかなければいけない。また、これからまた新たに、先ほども申しましたように、参入をする業者がこれから続々とございます。そういったものも考えていきますと、その採択された一事業者にのみ支援というわけにはいきませんので、全体の調整をとりながら、しかし買い物弱者という非常に町にとって大きな事

業でございますので、これは、一緒になってやはりこの事業を完成させなければいけませんので、支援はいたしますが、一つの事業者にのみ支援するという考え方は、なかなか町としては難しいと思います。

**○議長（小高芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　それはよくわかります。わかりますけれども、今のところ、買い物弱者対策について、積極的にやろうと、先ほど町長も言いましたように、これは、採算は合わないんです。いろいろな県とか国も、モデル事業をやっていますけれども、赤字なんですね。それで、今、積極的に手を挙げているのは１社、話はあるんでしょうけれども、実際にやろうとしているのは１社だけなんです。だから、これは、手を挙げて、私もやる、私もやるというのは、現段階で３社も４社もあるんであれば、それは、その３社、４社を具体的に公平に支援するのは当然だと思いますけれども、今のところ１社しかいないんですね。郵便局とか生協さんとか、いろいろ動いているようですけれども、まだ具体的にやろうという手は挙げていないはずです。積極的に、それも地元業者でありますし、ぜひこういったことを利用して、町の活性化につなげていただければと思っております。

続きまして、移動販売事業が行われると、先ほど出ましたけれども、地域で頑張っている商店、これには十分な配慮が必要と思われます。プロジェクトチームの中でも検討していると思いますけれども、この辺の十分な配慮がネックになっているのかなという気もします。地元地域の商店に対して、今後どのような支援をしていくとか、買い物弱者対策を行うに当たってですね。

**○議長（小高芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま地元商店にどのような配慮ということでございますけれども、まだ現在のところでは、どういうふうに配慮していったらいいのかというもの、具体策は出ておりませんで、というのは、宍倉さんが、まだ、先ほども申し上げましたけれども、スタートしていないという状況ですので、スタートしてから、今後、宍倉さんと地元の調整を図りながら、どういう支援が必要なのか、調整が必要なのかを探って、それにあわせて内容を検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

**○議長（小高芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今までの答弁を聞いていて、何かこれは、どうしても解決しなくちゃいけないという姿勢が私には見えてきません。国は、一生懸命、国交省もやっている、農林

水産省もやっている、当然、厚生省もやっている、いろいろな分野で、これを解決しようと一生懸命やっているというのは国へ行くとわかりました。だけれども、何か依然、町だけは、随分のんびりしているなという気がしてなりません。

その際、行った際、この近所で、睦沢町で、ふるやまさんという有限会社も同じように採択を受けております。それで、私、国に行ったところ、睦沢町さんは、説明会から申請書を出すのから、常に事業者と役場の方が一緒に来て、いや、これを町の活性化にどのようにつなげていったらいいのかということで、真剣に考えて質問したり、来ているんだ。それで、その話を聞きましたんで、私、睦沢町へ行ってきました。それで、担当課に話を聞きましたら、９月４日に移動販売事業を始めたそうです。その始めた内容について、ちょっと余り時間がなかったんで、詳しくは聞けませんでしたけれども、まずニーズアンケート調査をやったといいますか、今度は、個別に、個別の世帯に、要は、あなたは、販売車が来たら、買いますか、買いませんか、ニーズがありますかという案内を出して、ニーズがあるという回答が来たところには、地図上に、住宅地図に、ここは、ニーズがあったという書類が来た、どんどん塗り潰していって、そうしたらここに、10カ所、10人、要は来てほしいというところがあるんで、そこについては、町が事業者と連携して、それでやっていく。それで、その中に、要介護の認定を受けている方が、仮にニーズがあるよと応募してきたときに、要介護の人が来たときに、その人が来ていたか来ていないか、毎日、町に報告するそうです。それで、何日か、ニーズがあって、来ると言っているのに来ていないという人がいたら、その方については、即時見守って、役場の係の方がそこに行くと、行って安否の確認をしていますということで、９月４日に始めたそうです。まだ販売事業はスムーズにいっていないということでありますけれども、やろうと思えばすぐにでもできるんじゃないんでしょうか。先ほど言ったように、販売事業だけをとってみれば、一営利企業という言葉がわかりません。そのほかの見守り作業とか地域のコミュニケーション、当然、行けば、10人とか、多ければ20人ほど集まってくるわけですから、そこでいろいろなコミュニケーションが生まれてくると思うんですけれども、その辺を早急に何でできないんでしょうかね。

**○議長（小髙芳一君）**　一般質問の途中ですが、根本年生君に申し上げます。申し合わせ時間、持ち時間、残り４分となりました。

町長。

**○町長（飯島勝美君）**　今、大分厳しいお言葉をいただきましたけれども、町は、全くそういうことをやっていないということではないんです。先ほども申しましたように、もう既に老

川地区には、ある商店が同じようなことをもうやっています。西畑地区についても、ある商店がもう既に実施しているんですね。ですから、それは、中身の濃さというのは、多少は差があるでしょう。また、宍倉さんについては、まだまだ具体的な、先ほど課長も答弁がありましたけれども、具体的にこういうふうな形でいきますよというのがまだ出てきていないんですね。ですから、これからその宍倉さんとの相談事になります。それで、もう一つは、今現在、既に進めている事業者さんがどの程度やっているかというのは、こちらも把握しながら、その辺と、もう一つ、これから参入される業者と調整を図るというのは、商工会のほうも、それを心配いたしまして、やはりその業者、今現在やっている業を圧迫というのも困るというのは商工会の考え方でございます。ですから、その辺は、今、商工会にも入っていただきまして、宍倉さんの考え方がはっきりと出てきた段階で調整をしなければいけませんが、一番肝心なそこが、まだはっきりとした計画が出てきていないというのが実情でございますんで、それが出てきましたら、我々もしっかりと詰めていきたいと思います。決して、手をこまねいているわけではなくて、我々も、やはりこの事業につきましては非常に深刻な問題と受けとめておりますので、これはしっかりと進めてまいります。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　よろしくお願いします。早急によろしくお願いします。

続きまして、買い物弱者支援事業実施要綱などをつくり、買い物弱者の支援を行うための計画書は作成すべきと思います。これはなぜかというと、いざ始めようと思っても、恐らくこの要綱をつくるだけでも、結構な時間がかかるんじゃないかと思うんですよ。やっぱりこれも、早目につくっておいて、始められるときには、この要綱も一緒に要はつくって行動する。何かやるにしても、当然、要綱とかがないと動きづらいんじゃなかろうかと思いますので、早急につくっていただければと思います。これは、答弁はいいです、時間がありませんので、すみません。

それと、これを機に、買い物弱者の解決に向けて、地域住民、実施事業者、これは、別に１社とは限りません、希望のあるところでいいと思います、商工会、ＮＰＯ法人などの組織、行政が連携し、買い物弱者対策協議会等を立ち上げ、お互いに意見交換する場を設け、高齢者福祉サービスの充実が図られるような体制をつくる必要があると思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　これを機に、買い物弱者の解決に向けて対策協議会というこ

とでございますけれども、先ほどからも申し上げておりますように、まだ実際、宍倉さんのほうが、スタートしていないというのが実際でございまして、その段階で、実際どういうふうな内容で対策を練ったらいいのかというのが見えてこないので、若干見守り期間を置かせていただいて、その後、対策協議会については、検討する余地はあるかもしれませんけれども、現在のところはちょっと考えておりません。

以上でございます。

**○議長（小高芳一君）**　質問の途中ですが、１番根本年生君に申し上げます。

申し合わせの時間、持ち時間が経過しましたので、速やかに質問を終えられるようお願いします。

**○１番（根本年生君）**　すみません、最後の一言をすみません。

いましばらく見守るということでしたけれども、見守るということは、何もしないということですよね、見守るということは。それで、私、早く協議会を立ち上げてくれというのは、事業者も、こういうふうにしてもらいたいという要望もあるでしょう。地元のニーズ、地元も、こういうふうにしてくださいという要望もあるでしょう。行政も、これを行うことになって、いろいろな面で、メリットがあるんで、こういったこともやってくださいよという協議の場を積極的にざっくばらんに話し合っていかないと、幾ら町の職員とか町だけでプロジェクトチームを立ち上げていても、全然進まないんじゃないんでしょうか。もうちょっと地元のニーズも吸い上げる姿勢をお願いしたいと思います。

以上で終わります。

---

**◇　志　関　武良夫　君**

**○議長（小高芳一君）**　次に、７番志関武良夫君。

７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　私は、３点ほど質問させていただきますが、２番目に質問されるＮＰＯ法人の件で、重複している部分については削除していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

１つ目といたしまして、河川の整備についてを議題といたします。

他県の今回の７月の豪雨による災害は、目を見張る思いがします。被害を受けた住民の中にも、こんなことは、想像もつかなかったと言っておりますが、何年か前も、当町でも、大きな災害を受けたことがあります。河川の整備など、しっかりとした対策が必要だと考えま

す。今、夷隅川沿いを見ましても、整備が不完全で、竹も茂り、それから杉の木が倒れ、そういう非常に水の流れがスムーズにいかないような場所もたくさん見受けられます。まして、この近くでありますと、大多喜中学校から下流の上瀑橋方面にかけてのところでは、土手がカーブ、河川が極端にカーブしておりまして、増水しますと、それが大きな圧力となって、土手が削られるというようなことで、そういう状況が出ております。これは、私、河川の整備については、これで３回目だと思うんですね、質問させてもらうのは。３回目でありますけれども、私も、県のほうに行きまして、県のほうの人とちょっとお話をいたしました。上瀑橋の建設をされる前に、県のほうに行って、そういう被害を受けないような方法で、建設とあわせて護岸工事などもやってもらえないかということで、お願いに上がったことがあるんですが、県のほうも、町の建設課のほうと十分検討して話し合っていきたいというようなことだったんですが、前回の私の質問のしたときには、県のほうと協議をしていきたいというような話だったんですが、その後の経過、どういうような経過になっておるか、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　建設課長。

**○建設課長（野口　彰君）**　ただいまの河川整備についてのご質問でございますけれども、最近の異常気象とも言える豪雨により、東北地方や中国地方に、人的被害を含む甚大な被害があり、またいわゆるゲリラ豪雨も全国各地に被害をもたらしておるところでございます。現在、河川管理につきましては、２級河川である夷隅川は千葉県で行い、それ以外の普通河川は町で行っておるところでございます。本町、大多喜町を流れる夷隅川につきましては、八声地先、新丁地先、久保地先において築堤が完了しており、また久保地先では、久保排水機場に続き、久保調節池の整備が完了しております。また、地元区から要望がありました久保地先の護岸等の点検につきましては、その後の点検結果に基づき、現在、老朽化の見られる箇所の補修工事が実施をされているところでございます。

なお、県からは、流水の阻害要因の除去と適正な管理を引き続き行っていくとともに、台風や大雨による被害があった場合は、災害復旧事業等により対応していくと聞いております。

町としては、ゲリラ豪雨を含む水害対策として、避難体制等のソフト面でも充実を図るとともに、地元からの要望等につきましては、適宜検討、調整を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　河川の関係は、県の管轄であることは確かなんですが、これは、やはり今回の集中豪雨などによっての被害状況を見てみますと、思いがけないようなところで大きな被害を受けているんですね。そういうことからしても、やはり町の隣接する夷隅川のいつどういう状況に判断するか、そういう状況は、全く予想できないような状況が生まれてこないとも限らないわけですね。そういうことからして、やはり集中豪雨などがありましても、スムーズに水が何の弊害もなく流れるというような、そういう環境づくりが必要なんじゃないかなというふうに思いますね。私が先ほどちょっと指摘しましたけれども、小土呂、横山、向こうのほうの河川の水が夷隅川に合流しているんですね。あそこで、大きな合流になっている。大雨が降ると、あそこで一気に水量がふえるわけですよ。こっちから流れいく水がその水量によって抑えられちゃう。そのために、流れが非常に悪くなる。あそこは、ちょうどカーブになっているんですね、合流するところがカーブになっている。だから、そこのところが、水圧が強くなって、それで土手が削られてしまう。あそこが、赤道があるんですが、赤道が今ほとんどないような状況ですね。この前、上瀑橋建設の前にも、雨のときに、大雨が降ったときに削られて、川の中に土手が、もう竹が川の中に入っていたというような状況で、県の土木、そのときに土木のほうに私、直接、行ってきたんですが、県の土木のほうでも、現地の視察をしていただきまして、何とかできる方向でというようなことだったんですが、なかなか予算的なものもあろうかと思いますけれども、進んでいないというのが現状なわけですね。町のほうとしても、こういった点についても積極的に働きかけていただいて、ぜひそういう事前に防げるものは、事前に防げるように、対策をとってやっていく必要があるんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひ県のほうに働きかけて、実現していただけるようにお願い申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

２番目といたしまして、先ほど根本議員がＮＰＯ法人について質問しておりましたけれども、先ほど事業計画については報告されているということでありましたけれども、会計報告、それについては、報告はされなくてもいいというようなことであったと思うんですね。だけれども、これは、大きな間違い、大きな間違いですよ。町民の税金を委託料として払っている以上は、これは、どういうふうに使われているのかという報告は受けなくちゃいけない、その点、どうですか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま委託料について報告を受けなくちゃいけないというご指摘いただきましたけれども、補助金の場合ですと、間違いなく実績報告と内容と金銭に

ついて決算も提出していただきます。しかしながら、委託につきましては、先ほども申し上げましたけれども、委託の内容、委託した事業の内容が確実に履行されているかどうか、そこだけの確認でございます。そしてまた、ＮＰＯの決算につきましては、県のホームページでも公表されておりまして、誰しもが、見ることが可能となっておりますことも踏まえまして、町としては、委託料についての決算の報告は求めておりません。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　今、報告は求めていないということですが、５月15日のＮＨＫの７時20分のニュースの中で、ＮＰＯ法人の助成金の使途について、不明確で、中には非常に悪質なことをしている人たちが多く見受けられるということで、国が調査に入ったと、そういうニュースの報道がありました。当町でも、ＮＰＯ団体に委託料を払っているということからしても、そういう使途についてのそういう説明、報告、そういうものは、受けるべきではないかなと私は思うんですね。それで、この説明、ＮＨＫのこのニュースの中でも、そういう使途が、明らかにならないというようなところが多分にあるということを言われているんでね。これは、やはり大きな問題だと私は思うんですね。そういうことからしても、町民の税金を委託料として払っている、その委託料として充てているということについては、この議会の中だけでも報告すべきが本当じゃないかなと、町民一人一人に報告するという、そういうことではなくとも、やはり議会の中で、そういったものを委託料としてやることは採決されているわけですから、それは、当然、報告されて当たり前だと、私はそういうふうに思いますけれども、どうですか、町長のほうからちょっと聞きたい。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　報告につきましては、事業というものの検証ということで、当然、委託しました事業というのは、この事業をやってくださいよということで事業委託しています。ですから、その事業を本当にやったかどうかというのは間違いなく検証していますんで、そういう意味では、間違いなく検証していることは間違いないんです。それで、今、ＮＨＫのニュースにもありましたけれども、確かに国の事業の中では、何十億というＮＰＯに出しまして、ニュース等によりますと、実は、今、私どもは、そういうことはないんですけれども、いわゆるそこに事業委託をしたんですが、事業委託と違う目的で使われたということがあったんですね、あのＮＨＫの報道では。そういうことで、やはり事業委託というのは、目的に沿ったものに使うということが基本でございますので、私どもの町につきましては、毎月そ

ういう月間の報告も受けていますし、毎月毎月の事業計画も、こういうことをやりますよということで、また結果報告も受けております。それで、私どもの委託した事業については、確実に実行していただいておりますので、それは、金銭にかわる事業という内容のものを検証は確実にやっております。そういうことで、ＮＨＫであったようないわゆる目的と違うようなものに使ったということはございませんので、また事業の内容につきましては、これから逐次また議会のほうにも報告してまいりたいと思いますし、また何度かまた事業の経過についてはもう報告してあろうかと思いますが、これからもその辺はしっかりと報告してまいりたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　今、町長のほうから、そういうことはないというような答弁でありましたけれども、それは町長の見解でありまして、我々のほうでは、そういったことはわからないわけですね。

なお、そういったことの報告は、やはり議会で採択された以上は、議会に報告なんなり、わかるような形で報告すべきが本当じゃないかなというふうに思いますので、今、町長のほうからも、報告しますということでございますので、そのようにお願いしたいと思います。

３番目といたしまして、通学路の問題についてちょっとお伺いしたいと思います。

本年４月27日、館山市で、学校に行くためバス停でバスを待っていた、これは、当町と同じような状況で、バス輸送で学校に行っているというようなことだと思うんですね。そこに、子供、小学校１年生、入学したばかりで、それでその子供が待っていたところに、乗用車が突っ込んで、その子供が亡くなってしまったというような、そういうお話でございますけれども、その館山市で、後の教育委員会の見解といたしまして、ガードレールとか、そういうものを設置して、安全確保すべきだったということを言っているんですね。しかし、大多喜町で、これから統合問題も、今、議論されている中で、そういう子供たちの安全性、そういうものをもう一度、道路を検証して、そして子供たちが、安心してバスの通学、そういったものにも支障がないような、そういう形をとってやるべきじゃないかなというふうに思いますが、その点についてどうでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　教育課長。

**○教育課長（加曽利英男君）**　ご質問にもありましたけれども、昨年４月以降、登下校中の児童の列に自動車が突っ込んで、死傷者が発生するという痛ましい事故が相次いでおります。このようなことから、全国の公立小学校と特別支援学校が、関係機関の協力を得まして、通

学路の緊急合同点検を実施いたしました。

本町でも、昨年８月に、教育委員会が主体となりまして、各小学校と町の建設課、県の土木事務所、勝浦警察署、これと合同で通学路の危険箇所の点検を行いまして、それぞれの場所ごとに対応策をまとめております。危険箇所は全部で20カ所ございまして、内訳は、道路管理者や警察により対応する箇所が８カ所、対策の内容としましては、ドライバーに注意を促すための路面標示ですとかカーブミラー、また道路標識の設置で、これが、現在、完了しております。また、学校が中心となって対応する箇所は９カ所で、内容としては、通学時の見守りの強化や通学指導、また道路にはみ出ている木の枝の伐採、道路横断旗の設置で、これも対応済みでございます。残りの３カ所でございますけれども、横断歩道や信号機の設置でございまして、これは警察で対応することになりますが、用地などの問題もありまして、直ちに実施することは困難なため、継続して改善を要望してまいりたいというふうに思っております。

教育委員会といたしましては、引き続き学校や保護者と連携を図りながら、道路管理者や警察などの協力を得て、通学路の安全確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　通学路については、いろいろその道路の状況もその場所によって違ってくると思います。一つの道路、真ん中が高くて、端が、両サイドが、50センチ、60センチぐらいずつ舗装されていないで、真ん中は高くなっているところがあるんですね。そういったところに、うちのほうで言うと、田代から上滝小学校へ通う狭い通学路なんですけれども、草が生えているわけですよね。そこに、子供さんたちが、乗用車が来ると、そこへよけるわけですよね。よけたときに、この前、滑ってＵ字溝に落ちた。Ｕ字溝に落ちたということは、１メートルも１メートル50もあるようなＵ字溝じゃありませんけれども、しかし用水路のＵ字溝ですから、40センチぐらいですね、それにおっこちたというようなことだったんですが、大事に至らなかった。ただ、そういう状況があったというようなことで、道路の改善、そういったものも、場所においては必要じゃないかなというふうに考えております。ぜひ、そういったところの点検なども含めまして、子供さんたちは、今、少子化で非常に大切でございますので、ぜひその子供さんたちが安心して通学できるように配慮してやるのが、我々の務めじゃないかなというふうに思いますので、ぜひそういう形でお願いして、私の質問を終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

**○議長（小髙芳一君）**　一般質問の途中ですが、ここで10分間休憩します。

（午後　１時５５分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時０６分）

---

### ◇　野　中　眞　弓　君

**○議長（小髙芳一君）**　次に、11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　11番の野中でございます。私は３点にわたって一般質問を行います。

まず、１点目ですが、新政権下における2014年度のまちづくり予算についてということで、町当局の見解をお伺いしたいと思います。

昨年８月に、民主党政権のもとで、消費税大増税、社会保障一体改革関連法の一つである社会保障制度改革推進法が、自民・公明・民主の３党の賛成で成立しました。その推進法に基づいて、社会保障制度国民会議が設置されました。この国民会議が、20回の審議の末、参議院選挙が終わった８月６日に、最終報告を首相に提出しました。それを受けて、自民・公明の連立内閣は、この最終報告に基づき、社会保障改悪のスケジュールは詰め込んだプログラム法案骨子を８月21日に閣議決定しました。そして、これをもとに、法案をつくり、10月の臨時国会に提出する構えだと、今、言われております。

ところで、参議院選挙は、憲法改正も大きな争点の一つでした。この憲法論争の中で、私たち国民、多くの国民が学んだことの一つは、憲法が最高法規だと言われていることだけれども、この憲法は、政権の座についた者に対して、この者が勝手な暴走を許さないために、国民が守らせるものであるということが浸透したことではないでしょうか。国の主権者である国民が、天皇・大臣・国会議員・裁判官・その他の公務員に守らせるものだということを私たち国民は学びました。私たちの日本国憲法は、前文で、国民が、国政の福利を享受するのは人類普遍の原理だ。国民の幸福と利益をうたい上げております。その13条では、ご存じのように、国民の幸福を追求する権利、25条では生存権が保障されています。そして、地方自治体の決まりである地方自治法は、第１条でしたか、第１条の２項だったと思いますけれども、地方自治体の目的は、住民の福祉、つまり幸せ、満ち足りた生活環境、こういうことの増進にありと規定しています。これら憲法や地方自治法でうたわれている理念を実現させることが、我々地方議員を含め、壇上におられる執行部、地方公務員に求められています。

国の施策は、必ず地方自治体を通じて、地方自治体の予算として国民の前にあらわれます。来年度予算編成に当たっては、国政の動きを的確に把握し、どんな影響がこの大多喜町の住民に出てくるのか、そういうことをきちんと把握することが、住民福祉の増進を実現できる最初の一歩ではないかと思います。そういう点で、そこをもとに町長に伺います。

社会保障制度改革国民会議がまとめた報告及びプログラム法案骨子に持ち込まれている改革の内容はどのようなものでしょうか、伺います。

**○議長（小高芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　ただいまの野中議員さんのご質問でございますが、まさにこの税と社会保障の一体改革ということで、昨年から大変議論を呼んできたところでございます。私ども町も、大変それは関心を持っているところでございまして、特に社会保障について削減というかなりの考え方もそこの中に織り込まれているように思います。しかし、この法案も、これから進めていく上で、やはり大前提となりますのが、消費税の増税ということが大前提にあります。この消費税の３パーセント、またこの後の２パーセント、５パーセントの消費税増税ということがあって、この税と社会保障の一体化ができ上がるものだと思いますが、この辺については、まだまだ安倍総理も、なかなか決断の時期はまだもうちょっと先だということでございます。特に、安倍総理のいわゆる側近の皆さんの中にも、いろいろな意見がございまして、これは実行すべきであるという意見と、やはりまだ延期すべきという意見と、またあるいは１パーセントずつふやすべきだという３つの意見があるようでございます。そういう中で、また安倍総理がこれから決断をされるんだと思いますが、この消費税の増税が決定する中で、これからこの税と社会保障の一体改革というものが進んでいくと思いますが、それらの状況というものを私どもはしっかりとまた注意深く見ていかなければならないと思っています。

そういうことで、私ども、今この考え方をどうこうということは出せませんが、これから、今いわゆる予想される内容につきましては、こういうことが、今、議論されている中で、こういうことがあるんではないかというその内容につきましての予想、こういったことは、また担当課長のほうからまたお話をさせていただきたいと思います。

**○議長（小高芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　担当課長ではなくて、私は、町長に、どうやって受けとめていらっしゃるのか、どこまで調べられているのか伺いたいと思っているんです。というのは、私ども、課長さんたちに、こういうことはどうでしょうか、やっていただけないでしょうかと言

うと、最終的には町長が決めることだから、これは前にも言ったことがあります。何度か言いました。かつて、大多喜町、私、議員になりたて、つい最近までは、課長さんたちに話に行くと、検討していきたいということで、大多喜町の福祉政策は、千葉県でも私はトップクラスに進んできたと思っているんです。ところが、最近は、そうでもなく、職員が、おらが町を俺たちの手でよくしていこうという意欲がそがれてきている、そんなふうに私はここへ来て感じているんです。もしも、トップダウンの町政であるとすれば、そのことについて、今とやかく追及する気はありませんけれども、だったら、町長が、国が出してきたこの社会保障改悪の、国がというか、会議が出してきたものをどういうふうに受けとめて、こういう内容なんだ、これはこういう影響が町民にあるのでないか、どういうふうに受けとめているのか、私は知りたいと考えました。それで、町長に答えていただきたいです。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　私のほうから、じゃ用意したものを読ませていただきます。社会保障制度改革国民会議は、近年の急速な少子高齢化の進展等によりまして、社会保障給付に要する費用の増大及び生産年齢人口の減少に伴いまして、社会保険料に係る国民の負担が増大するとともに、国及び地方公共団体の財源状況が社会保障制度に係る負担の増大により悪化していること等に鑑み、所得税法等の一部を改正し、安定した財源を確保しつつ、受益と負担の均衡がとれた持続可能な社会保障制度の確立を図るため、社会保障制度改革の基本的な考え、基本事項を定め、この改革を総合的、集中的に推進する組織として設置されたものでございます。この財源は、平成24年８月に成立した社会保障と税制の一体改革を進めるため、社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための社会税法等の一部を改正する等の法律で、同法により本年９月には経済状況を勘案し、平成26年度から地方消費税を含む消費税率の引き上げが予定されています。

また、報告書は、社会保障制度改革国民会議が本年８月６日に取りまとめ、安倍首相に提出したもので、同21日には、報告書に基づき社会保障制度改革の推進に関する骨子が閣議決定をされたところでございます。その骨子は、報道のとおりでありますが、一つに、社会保障の各分野、少子化対策、医療、介護、年金における社会保障制度の持続可能性の向上に向けたさらなる財源確保と給付の抑制、２つ目に、高齢期中心の社会保障から全世代対象の社会保障への転換という２つの方向性を明確に打ち出したものとなっています。このように、若い世代向けに少子化対策を盛り込む一方で、高齢者や高所得者には給付費の抑制策や負担増で協力を求める内容、また医療は、2014年度から、70歳から74歳の窓口負担を段階的に上

げ、2015年度には、介護サービスの自己負担をふやすというような概要が示されておりますが、具体的な改革内容や市町村の役割を含めた中身が不透明な状況でございます。国の税と社会保障の一体改革は、町の歳入面から、子育て、医療、介護に係る施策、事業などの歳出面にまで、多方面に影響を及ぼすと考えております。

ご質問の住民に影響のある主な内容でありますが、平成26年４月から消費税率８パーセントが上げられた場合、歳入では、地方消費税交付金の増額やその他交付金の収入の増加が若干見込まれる一方、自動車取得税交付金の廃止が予定されています。歳出では、社会保障制度改革に伴い、子育て、医療、介護の分野で、新規事業の実施や補助制度の縮小、一般財源化が想定をされています。また、物件費、維持補修費、普通建設事業等の消費税増額分の増を考慮する必要もあると考えております。

次に、その考え方でありますが、一つは、財源確保と給付抑制に関しては、税や社会保険料の引き上げが考えられます。しかし、これは、社会保障関係費の相当部分を次世代に先送りしている問題を改善するため、社会保障の受給者も含めた現代の世代の負担を求めるものであり、現在の年齢別から能力別負担へ転換する累進課税の原則である応能負担で、妥当な政策ではないかと考えます。さらに、具体的に言えば、受給者たる高齢者でも、所得格差のある高齢者に対し、一律の負担でなく、負担能力、また資産も含めた負担を求めるもので、子や孫たちに負担を残すのではなく、今の世代が、みずから負担し、みずから助けようとするもので、その必要性は、誰しもが感じているところではないかと考えます。

次に、２番の高齢期中心の社会保障から全世代対象の社会保障への転換に関してですが、現在の社会保障制度は、1960年から70年代、若者が多く、高齢者が少ない人口構成や、男性の大部分が安定雇用を確保することで、現役世代の生活が保障された社会構造を前提に構築されたものであります。しかし、現在、少子高齢化が進み、雇用機会の減少や生活不安定化、貧困の拡大など、社会保障の前提となる社会構造が変化していることから、高齢期中心の社会保障から子育て世代や非正規労働者など、全世代を対象とした社会保障へと転換する必要があり、中でも少子化対策は社会保障の持続の可能性や経済成長に資する世代への投資と位置づけられる施策であると期待するところであります。

このように、私どもが、今、想定されるのはそういうことでございますが、これも、まだ税というものがこれから議論されるわけでございます。これが決定された中で、また私ども、注意深く見てまいりたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　とても流暢で、余りよく内容がわかりませんでした。でも、ところどころ町長は、この社会保障改革が、妥当ではないかと思われている節が見られます。私が手に入れることのできる資料で、項目別にこの内容についてどういうことが答申されたのか、ちょっと述べさせていただきます。

医療について言えば、70歳から74歳の窓口負担、70歳になれば、今まで３割だったのが１割に今なっています。それが２割負担に上がります。71歳になった人はそのまま１割負担なんですけれども、新たに70歳に入る人から２割負担になります。これは、今も法的にはそうなんですけれども、国が繰り入れていて１割負担にしているので、これはもう来年からすぐ始める。それから、入院時の食費も増大させます。それと、大病院にかかるときに、紹介状なしだと定額で割増料金をとられる、初診料だけではなくて、診察のたびに割増量がとられるという制度を考えています。それから、高額医療費がありますよね、所得階層によって違っていて、所得のこの辺の方はどんなにかかっても上限４万円まで、その次の階層は８万円まで、あるいはその次は８万円プラスの医療費の１パーセント、その次は15万円くらいとあるのが、今度は、それが、もっとしんどくされるということがあります。それから、もう一つは、国民健康保険の保険者を各市町村ではなくて県一つに広域化でやる。それは、今でも高い保険料のさらなる値上げになってしまうということが言われています。なぜかというと、大多喜町でも、飯島町政になってから、一般会計から国民健康保険にお金で値上がり分の半額を繰り入れるため、大幅な引き上げを今、避けているところですけれども、県一本の広域になると、この一般会計からの繰り入れはしてはならぬということが、ここではうたわれております。必然的に高くなります。介護の面では、要支援１、２の軽度者を保険から外すと、介護保険給付の対象から外すと言われています。そして、その人の面倒については、市町村でおやりということです。それから、一定以上の所得の方の利用料ですが、今は、所得が多くても少なくても、１割の負担で、誰もが認定された方は利用できますが、一定以上の所得のある方は利用料を値上げする。それから、先ほど町長は、資産のある方からとるのは当然ではないかということをおっしゃいましたけれども、持ち家とか預貯金のあるなしによって、その人の所得ではなくて、そういう資産、動産、不動産のぐあいによっても、低所得の給付から外すと、持ち家があっても、お金がなければ大変しんどいことで、そういう低所得者いじめそのものであります。そして、特養老人ホーム、大多喜のホームのような特養は、１、２の人は、入れないということではないんですけれども、締め出しです。今は、要介護１から５までの方は、特養でお世話になることができます。だけれども、１、２の人については、

在宅介護の分しか認めないと、特老に入ったら、在宅介護のほうが認定額が少ないわけで、この超えた分については全額自己負担にしろ、そうするといろいろな事情で、要介護１、２でも、老人ホームでなければ生活できないという状況の人、低所得者は締め出されてしまいます。そしてまた、さらにデイサービスの給付を重度化予防に重点化し、なるべくかからないように抑制する、これが介護分野での内容です。年金については、年金、物価の下落時に、それ以上の年金削減、マクロスライドというのでしょうか、それを検討すると、そして年金の削減は、ことし10月から全員１パーセントの減、ただし10月、11月分は、12月の支給で払われますから、実際、国民が減額された保険料を手にするのは12月になるわけですが、12月に１パーセント、来年４月に、１パーセントですか、８パーセントですか、それで１年ぐるっとやって、再来年４月に残りの0.5パーセントだったか0.7パーセントだったか、３年かけて2.5パーセント減らした上に、さらにマクロスライドで減らしていく。そして、年金開始の年齢を先延ばしにする検討を速やかに開始する。そして、保育所の問題では、公的責任を投げ捨て、もう何のかも親が、こういう今までは、入れるときに自治体に申し込めば、どこか探してくれるということだったんですけれども、今度は、そういうことではない、個人と園との関係とか、それから株式会社を参入させるために、劣悪な条件でも、保育士は半分だけいればいいよとか、この前、横浜が待機児解消した、そうしたら線路の、鉄道の高架下の空き地を庭にするような、そういうところ、それから窓もないようなところ、そういうところに、子供たちが民間の保育所に預けられていると。決して親が安心してできるようなことを保障しようということではないようです。

このようにして、簡単に見てみますと、先ほど町長がおっしゃいましたけれども、消費税の増税があって、この社会保障の一体改革が成り立つとありますが、消費税の増税で、私たちの懐からは税金をとられ、社会保障の改悪で、社会保障の負担と給付も減らされる。これは一体じゃないじゃないですか。増税するから、社会保障を充実させるよ、社会保障の保険料も低くするし、給付をもっと充実させるし、多くのお年寄りや家族が欲しがっている特養ホームもたくさんつくるよというんだったら一体でわかりますけれども、増税があっても、社会保障のこの削減、これは、消費税の話、脱線になっちゃいますけれども、消費税の増税は、社会保障の改革とは全く無関係だということそのものだと思います。だけれども、今それを責めるつもりではありません。町長の認識のずれを改めていただきたいと思って申し上げました。

これだけ、今、私は、町長が何となく聞いているとバラ色のところもあるのかなと思える

ような説明ではなくて、具体的に私たち国民が受ける痛手を申し上げました。そのほかに、本当はあるかもしれません。もしあったら、私たちが受ける恩恵が、福祉の増進があったら教えてください。でも、今、私が申し上げたこのことについては、本当に大多喜町の若い人たちも、いつまでも若い、固定しているわけではありません。その人たち、今50代の人は、もう間もなくこういう介護だとか年金だとか国民年金だとか国民健康保険だとか、すぐ目の前に、ここにいらっしゃる方たちはぶら下がっていると思うんです。でも、若い世代、働く世代というふうに言われています。高齢者の問題は若い人の問題でもあるわけです。高齢者施策が、高齢者の所得で賄えなければ、若い人たちがそれを埋めなければならないわけですから、国民全体への攻撃だと私は考えます。こういう攻撃を町長、プログラム法案では、いつごろ実施を目指してやっているのか、ご答弁願えますか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　こういう今、福祉につきましては、あるいは医療につきましても同じなんですけれども、基本的には、莫大なお金が、財源が必要なわけですね。それで、なかなかこれは、町単位でできる世界の話ではなく、やはり何といっても国が力を出していただかなければできないものでございます。それで、確かに個別に、今、申し上げれば、今、野中議員さんの言われましたように、我々でもやれるものはやりたいんです。しかし、町の財源でできるものではない。今、もうちょっと国全体のことを考えていただきますと、国はもう既に1,000兆の借金を超えてまいりました。やはり世界の中で見て、ＧＤＰの220パーセントという国は、世界でも類のない大借金国なんです。それで、幾らアメリカやイタリアが悪いといっても、悪いイタリアであっても120パーセントなんですね。アメリカでも110パーセントなんです、ＧＤＰに対してもいわゆる借金比率は。これは、世界の中でもとてつもない借金大国の日本が、これを出し続けることはなかなか難しいわけです。例えば、一軒の家庭で見ていただきたいと思いますが、今、日本のいわゆる予算というものは約90兆と例えましょう。そうしますと、いわゆるお父さん、お母さんが、例えば家庭で言うと90万円と捉えます、90万円とわかりやすい数字でやりますけれども、そうすると90万円の一家の生活費が１年間かかる予算に対して、お父さん、お母さんが稼いでくるお金は年間40万なんです。その50万円は、毎年、借金をしてこの今の日本の国は生活しているということなんです。ですから、それは、一般の家庭で考えても、90万のお金がかかる家庭が、40万しか稼いでこないで、50万円を毎年毎年借金して、この国が、成り立つわけがないんです。ですから、この結果が、今、日本は、世界に類のない大借金国、ＧＤＰに対しての220パーセントという数字なんで

す。世界のどこを見ても、最大でも120なんです。そういう中で、国は、やはり税を上げなければいけないというのは、そういうことも含めて、また福祉についても見直すというのもそういうことにあるわけです。

ですから、私どもも、国の政策に対しては一定の理解をしなければなりませんが、ただ私どもは、やはり住民福祉の増進というのは前提にあります。ですから、町としては、できるだけのことはしたいと思いますが、町一町でできるものではございませんので、国の状況というのは、やはり注意深く見守りながら、できるだけ町としては、福祉に後退のないような努力をしていかなければならないと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　町長の最後のお言葉の福祉が後退しないように、まさしく私も、前進しなくても、今これだけ攻撃がある中で、後退しないための予算組みをやっていただきたいと思います。というのは、そのプログラム案によれば、医療費の70歳以上の医療費は、もう法制化されていますから、来年14年度から始まりますけれども、そのほかの法案については、ほとんどが14年に法案を成立させて、要するに来年度に法案成立させて、遅くても15年度くらいから、少なくても17年度までにはもう実施するという、そういうプログラムを成立させる。一括して改悪のプログラムをつくるなんていうのは、これも初めての暴走だと思うんですね。今までは、一つ一つとの法案を曲がりなりにも審議してきたと思うんです。それはそれで、町長を信じます。15年度から始まるものもあるんです。そうすると、お金が確かに必要だから、大多喜町にとって、14年度というのは、できるだけ本当に無駄な事業をどうやって効率化させて、お金を浮かせて、住民の暮らし向きを応援する施策に回せるかという、そういう準備期間だと思うんです。ですから、本当に必要なもの、そして大変スマートな施策を14年度はつくり出していただきたい、そう思います。

個々の施策については、思いつきでまた担当課に話に行ったりしたいと思いますが、よろしくお願いいたします。

ただ、税の関係で言いますと、町長、今1,000兆円を超えたと、税を値上げする必要があると、本当にそうでしょうか。消費税を上げるというその口で、ずっとこの間、下げてきている法人税をさらに下げる。法人税は、過去で一番高いとき45パーセントでした。それが、どんどこ下げられて、今30パーセントを割り、それを25パーセントにしようとしているんですよね。大多喜町でもそうですけれども、大方の法人は、ずっと不況の中で、特に中小は、法人税といっても均等割だけがほとんどなんだよ、本当の私個人の所得税とか町民税に当た

る部分については、払えないところが多いと伺っております。国税でもそうではないでしょうか。だから、国が法人税を上げるといったら、今、利益のがばがば出ているのは、大企業、ほとんど大企業だけじゃないんでしょうか。つまり、法人税を下げるというのは、大企業の税金は減税、大企業は減税、我々庶民は増税、過去、消費税が導入されてから、二十二、三年たちます。ちょっと古い資料、20年目くらいの資料ですけれども、消費税、私たちの懐から吸い上げた消費税が220兆円くらい、この間の法人税の減税が200兆くらい、消費税の９割方は法人税の減税に使われているというのが現状で、今度のアベノミクス、安倍さんが、前代未聞の金融緩和をすると、それで株価上がりました。円安になって、輸出企業はもうかりました。でも、多くの国民は、ちっともよくなったとは思っていません。そういう中での増税です。庶民増税が、本当に必要なことではなくて、税のかけ方自身も違っているんじゃないでしょうか。住民は、トリプルパンチの中でこれから生きていく可能性があるのですが、この件について最後に一言伺います。

まだ、プログラム法案にしろ、きちんとした法案にはなっていません。これらの住民いじめ、国民いじめの社会保障制度改悪及びそのプログラムは、反対だという表明はなさいませんか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　私は、先ほどもお話しいたしましたけれども、やはり国の今の借金状況というのは、世界に類のない大借金大国であるということはまず認識していただきたいと思います。やはりいろいろこれから福祉をやるにしても、お金がなければできないんです。ですから、今、アベノミクスも、50兆、60兆、やはり90兆かかる予算に対して、いわゆる年間40兆しか上げられない税を何とかもっと引き上げようと、そういう努力の中で、今、進めていることであるんです。今、野中議員さんのおっしゃったように、確かに法人税は高いときには、45、国税でもありましたね、全体では。確かに法人税は下がっております。そしてまた、今、中小企業の全体の企業の中でも、いわゆる均等割税ということで、税割を払う企業というのはほとんどございません、大多喜でも、全体でも。それで、日本の税収のやはり７割が３割の企業で占めて、７割の企業で３割の税を納めるという構造も変わっていないんですね。特に、今、日本の税制をそうやって下げるという意味は何かといったら、大企業がやはりこの高い税率の中で海外にどんどん拠点を移しているという、そういう傾向があるんです。ですから、企業が日本に残ってもらわなきゃいけない、いろいろな意味で競争力もつけなければいけないということで、アベノミクスの経済政策の中でそれを進めているんです

が、それは、私ども一町でどうこう論じる話ではなくて、国の政策なんでありますんで、私どもは、国の政策が決まった以上、その国の政策に従うというのがやはりこの地方自治でございますので、私どもが、国の政策に対してどうこうということで、今、私は、反対とか賛成とかという考え方は申し述べません。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　一番目の質問をこれで終わろうと思ったんですけれども、もう一言言わせていただきます。

企業が海外に出るのは、国内の税金が高いからではなくて、そこに需要があるからだということをどこかの調査で、どこかが各企業にとったアンケート調査の結果、見たことがあります。どうして海外へ、だけれどもそういうことを隠しておいて、国民には、国内の税金が、法人税が高いから海外に出て行くんだよと言っている。その辺、やっぱり現実をきちんと見る。国民だましのプロパガンダにだまされないでいただきたいなと思います。これには、答弁は要りません。

その次にいきます。こういう状況にあって、健康であるというのはとても大事なことだと思うんです。病気になりたくない。そのためには、寝たきりになりたくない。そのためには、もう転ぶまい。それから、もう一つは、年をとって出かけたり、友達と会えなくて寂しい。病気にならず、転ばず、孤独にならず、健康で長生き、長野方式で言えば、ピンピンコロリですけれども、これは、私も含めてですが、多くの中高年者の切実な願いです。１番目でやった社会保障の改悪も含めて、何としても元気でいたい、行政的にもこれは必要ではないでしょうか。この願い実現に、真剣に取り組む時期が来ていると思います。もちろん、個人の努力は必要ですが、やはり町として健康づくりということを真剣に取り組んでいただきたい。

そのために、まず１点目ですが、健康づくりを目的にした部署、健康づくり課であったり、あるいは健康づくり班とか健康づくり係とか、そういうのを創設して取り組む考えはありませんか。大多喜町にも、今、保健予防係という形があるのですが、何か町民が見たときに、ぱっとわかるインパクトのある、そして前向きになるような、そういう課の創設というか、担当の創設、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　先ほどのご質問の中に、2014年はスマートな予算にしなさいというふうなお話もございました。そういう中で、新規な部署を設けたり、あるいは課の人員をふやして、健康づくりだけに特化した部署をつくることは、今の現行の人事管理上、無理が

ございますので、現行の健康福祉課、予防係のままでいきたいと思っています。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　スマートというのは、私は英語で言いました。日本語でスマートというと、町長のようにすらっとした方をスマートというんだと思いますが、英語のスマートというのは、非常に頭がいいとか賢いとか、いい言葉なんです。細いという意味ではありません。仮に一つの課をつくったとします。課長が１人ふえますから、月50万くらいのお金がかかりますけれども、でもそれが功を奏して、国民健康保険が安くなる、介護も安くなるといったら、たかだか50万、費用対効果を考えるということが、私は必要だと思うんです。それで、目先のわずかなお金で周辺の大きなものを逃すというのは、これは、賢い、スマートではない考え方だと思います。思い切ってここのところで、町民の健康ということを打ち出していただきたい、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　今、申し上げたとおり、現行の保健予防係、その係が健康づくりについてやっていないわけではございませんので、現行のままでいきたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　課をつくらなくても、何かそこのところ、人員を補強するとか、この健康づくりという点で、私は、大多喜町はちょっと甘いかなと思うんですね。保健担当の保健師さんとか栄養士さんはぎりぎり頑張っていらっしゃると思うんです。だから、そこに人員配置をもっと入れる。今現状６名の職員でやっているというふうに伺いましたけれども、もっとそこにつぎ込んでいただきたい。それは14年度からの予算で何とかならないかと思います。いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　前にもお話ししたと思うんですが、町の定員管理上、今、絶対数そのものを減らしていかなければならない状況でございます。そういう中で、保健予防係が６名の体制です。できれば、社会福祉係と、全体の中で保健師さんをふやしていく方法は一つは考えていますが、そういう中で、健康と福祉と一緒に考えた中で進めてまいりたいと思っております。係の増設等も考えてはおりません。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　係の増設ができなければ、今、言ったように、人員配置を手厚くしてくれ、それは前面に掲げて考えていただきたいと思います。専門職というか、それにかかわる人がふえることによって、住民に対してのアプローチがもっときめ細かく大胆になったら、きっとみんなが元気はつらつのまちづくりができるのではないかと思います。

もう一つ、健康づくりを目的にした事業が幾つかあります。例えば、女子高跡の体育館でやっている筋トレの教室とか、それからいきいき教室とか、それからリズムウオーキングとか、町主導で今までやってきています。健康づくりで、資料の中にも入れていただきましたけれども、ここにとても楽しそうなはつらつとした写真がありますが、静岡県の吉田町というところの記事なんですね。静岡県は健康寿命日本一なんだそうです。その中で、吉田町というのは、静岡県がやっているお達者度、つまり健康寿命、女性は１位なんです、つまり静岡県吉田町の女性は、健康寿命、ピンピンコロリの世界が日本一、そこの町は一体何をやっているのか。ダンスでというか、町ぐるみで体操教室みたいなのが無数にあるんです。町も、新規に町主導でやっている事業があって、そこを卒業すると、自主的なサークルにしてもらって、この自主的なサークルがいろいろある。担当課は言いませんでしたけれども、そこの議員さんに聞いたところ、大変なお金を使ってやっているんですよ、健康づくりを町の売りというか売りにして、リーダーの組織があったり、町が起こした初心者向けのコースのときに、この人たちが、このコースを終わったとき、自主的なサークルができるように、意図的に運営していると、そういう形で、何か町から自立してもやっていけるまちづくりしているんですね。

ところが、うちのほうのこの事業を見てみますと、女子高跡のは、もう十年一日のごとしで、初めのときからずっと同じまま、リズムウオーキングというのが、お知り合いがやっていて、これはすごく楽しいのよということで、第二弾が始まったと伺っております。でも、それもやはり自主的な運営ではなくて町主導です。いきいき教室担当に聞いてみましたら、少し住民サークルができるように、今やっています、計画中ですというふうになっていますけれども、やっぱり町中で、体を使って、いろいろなところで一緒にグループ活動して、あそこに行けば知り合いに会えるという孤独感をなくし、町中お知り合いがいるようなまちづくりというのをやっていく。町が全てやるんじゃなくて、住民の自主グループを育てるような事業展開していく考えはありませんか。それには、やっぱり人材が必要です。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　健康づくり強化についてのご質問でございますけれども、現在、健康福祉課では、保健予防係で、健康づくり教室、それとリズムウオーキング教室を２こま、それと特定保健指導としての運動教室、栄養教室を実施しております。また、10月から各地区においてウオーキング教室を行う予定であります。また、介護保険係でも、二次予防事業として、からだいきいき塾を旧女子高のほうで実施しております。

運動の大切さと継続の大切さというものを町民の方々に認識していただくため、町といたしまして各事業を行っているわけですけれども、これらの事業の自主グループ化も今年度より進めていくようにしていきたいと考えて、既に話し合いを進めている事業もございます。今後も、それぞれの事業について、自主グループ化、サークル活動化へ向けて、参加者の方々と話し合いを進めていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　頑張ってください。よろしくお願いします。

３点目に、役場の職場改革についてです。

本町では、一般職の女性職員が、定年まであとわずか数年だというところで退職する傾向が、去年より強まっているような気がします、見聞きをする範囲でですが。女性の退職全体の年齢は若干上がってきていると思いますが、退職する理由として、介護や孫育てなどの家庭の事情によるもの以外に、最近の傾向としてどんな理由が考えられているのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　女性職員の中途退職の理由でございますけれども、ただいま議員さんご承知のとおりでございます。親の介護ですとか、孫の養育支援等が主でございまして、それ以外に若年の方は、結婚によるものが、あるいはご主人の収入がある程度安定しているのでというふうな方もいらっしゃいます。そのほかでは、自分でほかのボランティア等の経験を積みたいというふうなことで、退職される方もいらっしゃいます。それが主な女性の退職する理由でございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　表向きはそうかもしれませんが、退職された方にちょっと聞くと、何か複雑な思いもある場合があるようなんですね。そういうのを総合してみますと、それから役場の昇格で見てみますと、歴然と男女差があります。その理由は何でしょうか。女性も

男性も、同じような条件で入ってきていながら、公務員というのは、男女平等だという思いが私にはずっとありますが、どうして女性と男性ではこんなに差があるのかな。あるやっぱり退職した方に伺ったところ、係長になったら給料がウン万円も違ってびっくりしました、そうおっしゃっていました。今いろいろな点で、男女平等、男女均等とかと言われていますが、女性も、その能力が発揮できるよう、職場環境を整える考えはありませんか。昇格格差がある問題と職場環境を整える、それです。

**○議長（小髙芳一君）**　質問の途中ですが、11番野中眞弓君に申し上げます。

申し合わせの時間ですが、残り５分となりました。

総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　確かに、議員さんおっしゃるとおり、従来は、そのような傾向があったかのように思われます。仕事の責任度合いですとか現場作業等が、その昇格に関して男女の格差があったと思われます。近年では、そういうところを是正すべき努力しているところでございます。議員さん、どういう方にお聞きしたかわかりませんが、人によっては、監督者、要するに係長あるいは課長になること自体を拒む方もいらっしゃいますので、それが、現状、そういうところもあるというふうなことをご承知おきしていただきたいなと思います。

それと、そういう役職についていただくための研修等は、今までは、確かに男女差があって、男性のほうを先に研修にやって、先に係長にしたとか、そういう傾向もあったんですが、最近では、もう勤続年数あるいは年齢、そういうものを考慮して、同じように専門的な研修あるいは監督者の研修を積極的に男女平等にというか均等に実施しておりますので、今後そのようなことはないようにしていくつもりでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　守ってください。よろしくお願いいたします。

それと、もう一つ、先ほどもちょっと出ていたと思うんですけれども、大体、役場は、３年たつと部署がえがありますが、１年目はわからないでしゃにむに覚えようとする、２年目、そういえばそうだったわねという感じ、３年目になると、よしよしという感じで、できたところに翌年部署がえ、これは、それまた同じで、役場のどこへ行っても、何だか素人集団というのが否めません、はっきり言って。例えば県のように、もう普及員になったら普及員の仕事、それから設計屋さんだったら設計屋さんの仕事、そういう専門性までは求めませんが、

例えば水道課と建築課は、同じようなところがあったりするので、ブロックごとに分けて、何となくその中で、人事異動、その人の希望ですけれども、その人の素質というか向きに合った希望をとって、そういう異動のブロックをつくったらどうかということと、それから昇格をさせるときに、今、大多喜町の人事を見ますと、去年３月まではこの部署だけれども、係長になるときには、こちらという横滑り、全くわからない、全くでもないんです、係長ぐらいの年齢になると、もう過去にやっている可能性がありますけれども、自分の知っているところで、上にそのままエレベーターで上がって係長なら、仕事のこともわかるし、どこをどう改善したいかとか、どこに力を入れたいかという思いも、課長や補佐はいても、それなりにわかると思うんですけれども、新規のところへ行かれると、人間関係も新しい、それから仕事も新しいという本当に個人的にもエネルギーを使うし、それから仕事がわからないから、残業なんかもふえるだろうし、効率が悪いと思うんです。その辺の組織改革というものは改善できないでしょうかね。

それから、一つの部署にもう少しいて、この係のことだったら誰でも聞け、今は、その何とか係の中にもいろいろな事業があって、その事業のことに聞きたいと思っても、その担当がいないとわからない。でも、そうじゃなくて、やっぱりそこの係に行ったら、おおよそのことがわかる人が必要ではないか。それには、自分の仕事もあって、人の仕事のことも理解するというのは、やはりちょっと大変かもしれないので、もう少し長いスパンで、同じ部署で働く、そして徹底した専門家ではないけれども、精通した職員がいるという、精通した職員の集団であってほしいと思います。いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　確かに議員おっしゃることは、わからないわけではございません。確かに、今、技術系、先ほど麻生議員さんのご質問にも、そういう似たようなご質問がございました。そういう中で、最近の基本的な考え方として、技術系の職員といいますか、我々みんな入るころから、全部、主事という一般事務職、同じなんです、技術職でも何でもない、ほとんどの職員は、全部、一般行政職で採用しています。それ以外は、保健師さん、栄養士さん、保育士さん、そういうのは別にしまして、一般行政職で採用された職員につきましては、技術職でも事務職でもない、全部同じ職員でございますんで、平等には扱っていますが、最近ですと、かなり専門的な要素が必要だろうというふうなことで、水道関係、産業の農業土木関係ですけれども、そういうもの、それと建設関係、そういうある程度技術的といいますか、現場系があるところは、それなりのところで、やはり人事異動すべきかなというふう

なことを全く考えていないわけではないんですが、多少そういうことも考慮しながら、人事異動していこうかなというふうなことは、今、内部では考えております。

そして、勤続年数３年ぐらいで異動するのが早いというふうなお話でございますが、若い職員であれば、我々ぐらいになるとなかなか覚えるのが難しいんですが、若い職員であれば、３年いればある程度の業務がわかるだろうというふうなことで、そうでないと役場の中の全体の仕事がわからないと、自分が、先ほど野中さん言ったように、違う係の、すぐ違う係の係長になったときに何もわからないでは、やはり上司としては不適格になってしまいますので、そういうことのないように、ある程度、係長になるぐらいまでは、全てとは言いませんが、４つか５つの課を回れるようにしていただいて、昇格して、その監督者として上の立場に立っていただくように、均一的に、異動を定期的に行っているところでございますんで、その辺はご理解をいただきたいと思います。

なおかつ、係、さっき野中さんご承知かと思うんですが、一つの係、総務課をとりますと、総務課の総務係という係、個々の一人一人がみんな違う仕事をしているんですよね。ですから、３年いると、まず１年目は自分の仕事、２年目は周りの仕事、３年目はやっと係内あるいは同じ課の中のほかの係の仕事も多少なりともわかってくるかなというふうに努力していただきたいなと、逆にこれは、職員に我々は管理職として期待しているところでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　質問の途中ですが、11番野中眞弓君に申し上げます。

申し合わせの持ち時間が経過しましたので、速やかに質問を終えるようお願いします。

**○１１番（野中眞弓君）**　また、担当課に話をしていきますけれども、私たち住民は、役場の、最後に言わせてください、役場の職員が全部知っていて、係長になったときに困らないようにではなくて、我々が、例えば聞いた仕事について、行ったときに用が足りるということが必要なんです。ですから、専門の技量を磨いていただきたい。職員の数を減らす、その分、一人一人がもっともっと技量を高めていただいて、住民サービスに支障のないようにしていただきたい。よその役場に行って、いろいろてきぱきと対応されると、ちょっと大多喜と違うなと思うことが度々あります。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

**○議長（小髙芳一君）**　一般質問の途中ですが、ここで10分間休憩します。

（午後　３時１１分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時２０分）

---

◇ 吉　野　一　男　君

**○議長（小髙芳一君）**　一般質問を続けます。

次に、３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　３番吉野一男でございます。それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきますので、よろしくお願いします。また、執行部の明快なご答弁をお願いいたします。

まず最初に、この８日ですか、2020年のオリンピックとパラリンピックの東京開催決定、大変うれしく思っております。全国民を挙げて歓迎する次第でもあります。それにつきまして、オリンピックは７年ですので、７年間わくわくした気持ちで、皆さん、いると思います。また、アベノミクスの関係で、成長戦略ということで、成長戦略の柱として、オリンピックは柱になるんだと思っております。

それでは、通告に従いましてご質問させていただきます。

久保町の町営駐車場についてお伺いします。久保の町営駐車場は、いすみ鉄道の存続のために、地権者が土地を手放し整備された駐車場であります。このいすみ鉄道のために整備した駐車場が有料になったため、いすみ鉄道で、イベントや観光で来町する方々、町民も、有料になったことは非常に残念に思っている次第でございます。今後、町当局の方針を変更する考えがあるのか、お伺いいたします。

最初に、久保町営駐車場の中に、渡辺家の脇から新寿司の方向に、赤道、里道があり、駐車場整備によって、全てを塞ぐことは違法ではないかと考えます。赤道、里道は公道なので通れるように確保すべきである。駐車場用地は一体的になっているため、常識的に考えるならば、駐車場内の赤道、里道の部分を廃止して、代替の道路をつくるべきではないのか、お伺いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま久保町営駐車場につきまして、町当局で方針を変更する考えがあるかというお尋ねでございましたけれども、このまま継続してまいりたいと思っております。

その理由といたしまして、いすみ鉄道存続のために地権者が手放したということで、先ほど議員さんのお話の中にありましたけれども、それにつきましては、近年この駐車場を利用

される方よりも、いすみ鉄道を利用してこられるお客様が、町並みを散策される方のほうが多いんじゃなかろうかと思われます。そして、有料駐車場の収益の一部をまた町並み整備事業の補助金へと充当しておりますので、現在のところこのまま継続してまいりたいと思っております。

そしてまた、久保駐車場内の赤道が全て塞がっており、違法ではないかというご質問の件でございますけれども、確かに塞がっていれば違法かもしれませんけれども、現状を見る限り、人が通れる状態となっておりますので、決して塞がっているとは言い切れないのではないかと思っております。

そして、代替道路というお話もございましたけれども、確かに塞がって、人も通れないという状態であれば、そのご指摘のように、代替をつくる必要があろうかと思いますけれども、先ほど申し上げましたように、現状では人も通れるようになっておりますので、その必要はないと思います。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　人が通れるということなんですけれども、実際的には、駐車場となると、有料駐車場となると、人も余り通らないという形で、結局、全体が一体になっていますので、当然その場所は、ちょうど真ん中に、赤道がある、里道があるわけです。これをあれからずっと行って、渡辺家の脇からずっと行って新寿司さんのほうに行く、喜之善さんのほうへ行くわけですけれども、あの道路も、一応、整備してもらいたいということの話があるわけですけれども、当然それが続いておりますので、そのところをあくまでも一体ですので、駐車場というのは一体になりますので、そうすると一般的な人から見れば、当然そのところはもう赤道があるとは考えにくいわけです、一般の人は。町の人だけ、ある一部の人は知っていますけれども、一般の人は知りません。それで、知らないということは、結局、塞ぐということになりますので、当然、知っている方、町の当局は、あくまでこの形としては、周りのそこをあくまでも廃止しまして、それをつけかえ道路して、一帯ぐるっと回るような形で、その道路を使うのが本当ではないかと思うわけです。だから、その点、町長も、仕事関係、前年もそういう形で仕事していたと思いますけれども、特にそういう点は、町長さんも、赤道があるということは、当然、知っていると思います。それは、やっぱりそれを消すには、消すのというか廃止して、それは、もちろんそれは、地域住民の承諾を得なくてはとれないわけですけれども、それは、あくまでも廃止するような形で持っていって、つけかえ道路を

つけてあげるのが一番いいんじゃないか。また、それがならないと、結局、お上の言うことを全部聞けということになっちゃいますので、やっぱり皆さん、町当局としては、住民の、町民の目線に立って、仕事というのはやるべきだと思うんです。これは、誰がやってもそうだと思いますけれども、町民の目線に立って物を進めていく、これが原則だと思う。何も、町長が、自分ができるから、全部やるということじゃなくて、あくまでも町長も、住民から選ばれた人ですので、やっぱりそれに応えるべき対応をとるべきが当たり前だと思います。それをやっぱり町長になったから、単独で、自分の考えで、これはやるんだ、あれはやるんだということは、そういうことじゃなくて、地域住民の意見を聞きながら、その辺のことを進めていく、これが一番重要なことだと思います。ですから、あくまでもこれをあのところは通れませんので、一般的に通れないので、一応とりあえずできればそういう形で、外周道路をつくるなり形でやるべきだと思います。まして、あそこは一体になっています、当時、町営駐車場として無償のときには、地域住民が財産をわざわざ売りたくて売ったわけじゃないと思うんですよ。皆さんが、いすみ鉄道存続なら、地域の商店街の活性化のために、当然そういうものを町も提供してあるわけです。それを無料で提供、そういう形で無料だからということで、駐車場をつくるからということで、当然、町民の方は、貴重な財産を譲って、町のほうに譲ったわけですので、そういうところを含んで、やっぱり考えた中で、有料駐車場をつくるべきだと思うんですけれども、その点、町長のお考えをお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　一つは、まず先にお話をしておきたいのは、町長だから、何でも町長の考え方でやるという考え方は、それは、ちょっと今、言い過ぎではないかと思います。私は、この件につきましては、何度も話し合いをしておりまして、町長の権限を持って執行した覚えはございませんので、その点については、まず申し上げておきたいと思います。

そして、この駐車場につきましては、まずこの地域の皆さんが、修景事業10年、10億という中で、この事業が一つ終えんを迎えました。この事業を再度お願いしたいという形の中では、これは、補助事業はつきませんので、ですから、でもやはり地域の皆さんが、まだ修景事業もやりたいということもありまして、そういう要望がございました。しかし、その当時の駐車場というのは、あの真ん中に資材置き場がありまして、それで実際に今でき上がった駐車場を見ますから、そういう話をしますけれども、あそこには、真ん中に資材置き場がありまして、実際にそういう今のような状況じゃないんです。それで、やはり違法駐車がありまして、大型トラック等もずっととめて捨ててあったりありまして、私ども、警察のほうに

も申し入れて、その車を何とか除去できないかというお話で警察にも行ったんですけれども、警察のほうは、無料駐車場である以上、誰がどうとめても、それは、警察としては関知できないということでありまして、そういういろいろなこともありまして、地域の皆さん方といろいろ詰めまして、では町並み整備、今のままでいいのかというと、まだまだ修景事業が必要だということで、じゃそれを有料の駐車場にして、その収入を町並み整備の資金に充てようという中で、議会にも諮りながら、また地域の皆さんと相談しながら進めてきているところでございます。そして、当然のことながら、その赤道につきましても、やはり５区の区長さん方にお話をしながら進めてきているわけでありまして、町長独断で全部決めたという話は全く私に身に覚えのない話でございますんで、その辺はしっかりとお話をしておきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　町長に答弁いただいたんですけれども、それで、説明会を各地域住民の方に何回やったか、ちょっとお答え願いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　説明会につきましては、23年11月、24年２月に３回で、計４回実施してございます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　23年11月ですか、第１回目は。第２回目は、24年２月ごろだったですか、そういう形でやったと思うんですけれども、もうそのときに、23年12月に、当然、議会のほうに上程されていると思うんですよ。年４回やったということでありますけれども、実質的には、一回説明して、人数が７人ぐらいだったですか、地域住民が集まって７人ぐらいで行われたみたいですけれども、その時点で、その次には開催が、大体、翌年の２月に開催されたと思うんですけれども、その23年12月に、議会に上程されているんですよね。もう結果的に、そういう形で決まるということで、お願いしたいということで、議会のほうに上程されていますので、これは、説明会は、４回やったと言っていますけれども、意味のない説明会であって、あくまでも１回で簡単にこういう形でやるから、意見としては、どういう形が出たかわかりませんけれども、形としては、こういう形でやるから、じかに町のほうでここでお願いしたいと、そういう一方的な町の考え方のもとに、これが進められたんで、私もそういうことをちょっと聞いているわけですけれども、それは、そういう形でやると、実際

的に言いますと、これは、執行部自体も、ちょっと町のやり方としておかしいんじゃないか。これは、誰が考えてもそう思うわけです。当然、話し合いといっても何でもそうですけれども、話し合いというのは、一回、二回で話し合いはうまくつくものじゃないです。これは、10回やっても20回やってもいいんです。その中で、いいところを取り寄せて、そのものをそのあれに運営して、その仕事に加えていくという形が一番妥当な線だと思います。あくまでも、日にちがない、時間がないとか云々ということもあろうかと思いますけれども、それとは別にして、あくまでもそのもの自体は、実際に慎重審議しながら対応するということが、これは、何をやる、仕事をやるにしても、それが鉄則だと思います、これはあくまでも。そういう点で、私、ちょっと聞いた話ですけれども、そういう点で、結局、１回やって、２回目には議会に上程して、もう当然、議決されてありますから、それをひっくり返すことはできないわけですよね。当然、その議会にかけたということは、町のほうは、地域住民がみんな賛成したということで、そういうことを計画されたと思います。議会の方、私、議員じゃなかったんですけれども、その前の議員たちは、当然、町執行部がやること自体は、そのものがもう地域住民や地主に十分に話をされまして、それで意見がなくて、それで賛成したということで、議会に上程されたんだと思います。だから、議員の方も全員の方が、みんな、全員かどうかわかりませんけれども、賛成したんだと思います。これは、そういう点が、ちょっと聞いた話で、やっぱりそういう形であれば、１回でそういうものを結論づけること自体がおかしいし、また１回やって、その結果をそれでよしとする形で、議会へ上程することがいかにそれでいいかどうかということなんで、あくまでも条例の立場からいうと、そういうものをきちっとした中、皆さんの協議した中で大いに激論し合って、こういう形でこう、当然その中で変更したいということで、意見も出たと思うんです、当然。これをこうしてやってもらいたい、道路はこうしてつけてもらいたいとか、じゃこれは、こっち側に何をつけてもらいたいとか、いろいろそういうときに地域住民から意見が出ると思うんですよ。そういうものを集約した中で、やっぱり最低は、地域住民の意見を聞いたものは取り入れた中でやれば、多少全部が全部じゃなくても、多少なりともカバーできるんじゃないかと思うんですけれども、それを全面的に町は、あくまでも有料駐車場だということで、それを設置すること自体がいかがなのかと、そう思うわけです。

だから、あくまでも私が言っていることは、当然そういうものがスムーズにいって、皆さんの意見を聞いて進めていけば、そういう形でやるべきであって、やっぱりいろいろ意見があれば、それを十分踏まえた中で、それを潰していくような形でやって、大いに議論して、

それで最終的にある程度皆さんが納得した段階で、そういう駐車場は駐車場をつくるということであります。

だから、結局、地域住民でも、わざわざその土地、いい土地で持っているものをわざわざ売るということは、これは町だから売るんですよ。これは、個人ではそんなに売らないと思いますよ。駅前のすぐ近くですので、地価的にも、地価価値もありますので、田舎のほうじゃありませんので、当然そういうものを考えて、町が来たから売ってやるとか、仕方がなく売りますからと、そういう点でも、そういう活性化のための、商店街の活性化等について活用してもらいたいということで、地域住民の方が、地権者の方が譲っているんだと思うんです。これは、一般の人から考えても、私も部外者なんですけれども、そう考えます、当然。そういう点がありますので、やっぱりその辺はよく話し合いをまた日中やるんじゃなくて夜やるとか、皆さんが、仕事が終わったあたり、会議というのは、大体、役場の方は日中やりたがるんですけれども、それは、なるべくやっぱりそういうことじゃなくて、夜やって、皆さんが、仕事が終わった後、そういう会議を開いて、じっくりと時間をかけて議論して、決定することが一番重要じゃないかと思います。

また、私が町長なら、そういうことはやりません、そういうことは絶対にやりません。そういう点は、やっぱりやるべきことはやる、やっちゃまずいことはやらない、そういうものは、けじめをきちっとつけた中で対応すべきだと思うんです。その点、ちょっと町長、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　聞いた話、聞いた話ということでございますから、どなたから聞いた話か、私もよくわかりませんけれども、確かに会議については今お話ししたとおりでございますが、それを事前にやはり相談しているんですね。それは何かといったら、皆さんが、この今の町並み整備を今の状況では困ると、ですからまだまだ町並み整備事業を続けてほしいという要望が来ているんです。だけれども、町としては、もう10年で10億の予算をかけてやっている事業がもう終わっているんですね。それで、同じ事業を採択することはありませんので、町としては、税を投入して、同じ整備事業をすることはないということでお断りしたんです。だけれども、地域の皆さんが、やはり今の状況では困るんで、もう少しやってほしいという中で、じゃ有料化の中で、そのお金をそこに投じれば、税を投じるんじゃなくて、その収入でやりましょうという中で、事前のお話の中でそれは出てきているんですね。

ですから、当然その話が出てから、じゃこれから土地を買う、その土地をその真ん中の人

の土地でも、そういうお話をして譲ってもらっているんです。ですから、当然この土地を譲ってもらって、全体を有料駐車場にして、そしてこれを町並み整備の修景事業に、毎年300万ずつの予算をこの駐車場で組みましょうと、そうすれば持続的にできるという、そういう前提条件の話の中で進めてきて、いよいよ議会のほうにお話をして、それは通る話なんで、その前に５区の区長さんにお話をしております。そして、今そのお話については、そのときに、５区の区長さんにお話ししたときに、４区の区長さん方については、もう既にご了解をいただき、それ以降の私どもへのいろいろな要望はございませんでした。ただ、１区の区長さんだけは、そういうお話がございましたんで、それは、だから丁寧に説明をしてきているところでございます。

ですから、私どもが、吉野議員さんが町長になれば、そういうことはないとおっしゃいましたけれども、私は、決して横暴でやってきているんじゃなくて、やはり丁寧に話を詰めてやってきていることは事実でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　吉野議員に申し上げます。

質問はもう少し簡潔にまとめて質問をお願いします。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　引き続きですけれども、この道路の赤道の部分の廃止の関係なんですけれども、これは、町長、どういう考えで廃止しないんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　この赤道につきましても、やはりいろいろ話し合った結果、今の状態で残しているんです。ただ、私どもが勝手にやっているわけじゃありません。ですから、これは、話し合った結果、あの今の状況になっているということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　実際に、あの赤道があると、あそこへ、結局、通るわけですよ、人が。車も通らなければ、たまたまあそこに街灯が立っているんですね、角のところに。実際、車は通れます。１間ありますので、最低、１間、幅がありますので、車が通れるんですよ、実際的にあの道路は。赤道は、もちろん通ってもいいんですから、１間あれば、車は、軽トラに何にしても通れますので、ただあのカーブのところに街灯が立っているんですよ、それで。街灯が立っているために、車が曲がれないし行けないんですね、あそこに実際的に街頭が立っていると。やっぱりあれは、どういうわけで街灯を立てたのか、場所的にもっと端に立てるとか、そういう方法はなかったんでしょうか、ちょっとお伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　街灯につきましては、やはり暗いといけないということの中で恐らく設置したんだと思いますが、ただあそこは、車が通れる道路ではございません。というのは、抜けられません。ですから、あそこに入って行った車は、もう今度は一切出られなくなりますんで、それは、車の通れる道路ではないんですね。どういう話を聞いているかわかりませんが、最後の出口の部分については、民民の境界の問題がありまして、やはりそれが、なかなか話が恐らくできないんだと思いますが、まずあそこで、車が抜ける道路ではないということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　車が通れる通れないは別として、あそこ自体は、赤道自体が通れますので、渡辺さんのところは、ずっと、喜之善さんのところですか、そこまで抜ける道、町の駐車場へとめて、町なかへ行ける道を整備すれば、別にぐるっと回らなくてもいいわけですよ。ああいうところをやっぱり整備した中で、境界は決まっているかどうかわかりませんけれども、あそこの境界を決めてもらって通れるようにすれば、そこから駐車場にとめて、町なかに行って散策できるという形もとれますんで、そういう点も、できれば町のほうにお願いしたいと思うんですけれども、だからそういう点がありますので、当然あれから抜ければ、当然あそこを通るような形になると思うんですよ、あの赤道。当然、赤道を通るというのは、赤道は、実際的に、今、赤道は通れるんですけれども、実際的にあそこの駐車場として一体になっていますので、柵をやっておけば、人間は通れますよ。だけれども、うまく人間は通れるんだけれども、実際、車が駐車場で往来していれば、事故でも起こったら大変なことになりますよね、実際に。町の責任等の関係も出てきますので、そういう点は、町としては、あくまでも赤道の分なら赤道の分で柵をやって、当然、車が通れないような形で残しておく、それなら話はわかるんですけれども、今のままで、現況のままで、あそこを往来した中で、駐車場、車をとめて、車は走っているわけですから、これは、人が通るだけでもやっぱり危ないです、あそこは。

だから、そういう点で、それは、その関係も出ましたので、ちょっと話は言いますけれども、あそこで、去年ですか、去年６月ごろだったと思うんですけれども、一応、縁石、車どめがあるんですけれども、これは、車どめのところにぶつかって転んで骨折した人がいるんですよ、住民が。執行部のほうは知らないと思うんですけれども、これは、そういう点がちょっと重要な話で、やっぱりあそこは、たまたま縁石自体がグレーだったんですよ。ほかは、

ダイダイ色のあれになっている、月決めのところは全部ダイダイ色になっていて、そこだけがグレーであって、だからちょっと夕方とか、日中でも年寄りだとわからないんですけれども、転んで右腕を骨折しちゃった、そういう方もおりますけれども、それについては、町の責任と言えば責任ですけれども、それに対して、昔の人ですので、余り町に対して請求するとかとないみたいですけれども、やっぱり今の若い人であれば、そういう形で骨折したからということで、町に請求するというそれは、当然、義務が出てくるし、当然、義務がありますので、そういうものが、話があれば、町としても対応しなくちゃいけないのかと私は思うわけです。あくまでも、そこを全部通れないということであればいいんですけれども、公のあれですので、通って、結局いわばそれで事故があれば、当然その補償はしないといけないと、それは鉄則だと思いますよ。その点はちょっとお伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　町は、赤道に車どめをとめた覚えはございません。有料駐車場にやってあるんですね。ですから、やはり車どめは有料駐車場にありまして、赤道には、車どめは、当然とめられませんからやれないんですけれども、また、それともう一つは、いわゆる最後の抜けるところについて、道路をつくっていただきたいとお話がありますけれども、私ども、あそこへ道路をつくるという約束した覚えもないんです。ですから、それは、人が通る道をやってくだされればいいということの話し合いの中でやってきていることでございまして、あそこに車を通してくれなんていう要望は、私どもは聞いておりません。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　ちょっと違うんですけれども、車を通してくれじゃなくて、あそこは、赤道でありますので、廃止したわけじゃありませんので、やっぱりあそこを通るような形で対応しなくちゃいけないと思うんですよ、実際的には。廃止にしてあれば別としても、今のところ廃止していない、現況、生きていますので、ただ、ぼさぼさになっているだけであって、それは、廃止しなければ、そのまま生きていますので、これは、公の道ですので、誰が通ってもいいという形になります。

そういう点がありますので、そういうものを結局あくまでも地域住民の方が、あくまでも譲っていただいて、前の無料の駐車場をつくったということは、これは、やっぱり肝に銘じて町としても思っておかないと、ただそれを活性化のため、当然、活性化のためにやるんですけれども、町の修景事業で当面すると、また後で話はしますけれども、それは当然のことであって、町がやるべきことなんですよ、それは。

だけど、それを代替に、町並み整備事業をやるというのは、そういうこと自体もおかしいと思うし、もともとは、町並み整備事業は、あくまで整備事業として、10年ぐらいやったんですか、そして延長してまたやってもいいじゃないですか、それに予算をつけて。それは、やっぱり形としては地域住民の要望するところだと思うんですよ。それを立て続けて、そのかわりにそれをやるから、こちらを有料駐車場にしてくれということ自体もおかしいと思うし、だから町は、金がないから、それはやるんでしょうけれども、それも、だから金がないからやるからということもおかしいと思うんですけれども、これは、町は全体の奉仕者でありますので、これは、全体的に見た中で、金の金額も投入しなきゃいけないと思うんです。あくまでも、地域住民が、これでお願いしたいということのことで、駐車場で、無料駐車場だったものですから、それを急に町が、そういう形で有料にすること自体が、それは町民に違反するような形だと思うんですよ。これは、町の形としては、そういう形でやりたいという方針でやったんでしょうから、それはあれなんですけれども、今、実際はできちゃっていますけれども、できちゃったんだけれども、それは、できていても、何らかの方法で、地域住民に活性化とかいろいろな意味で、報いるような形で、対応できることであればしてもらいたいと思うんですよ。だけれども、皆さん、地域住民が、やってくれたんだ、協力してくれたんですから、町は、協力してくれたんだから、見返りに、そういうものを何か地域から、住民から言われれば、そういうものをやってやると、そういう形が一番妥当じゃないかと思うんですけれども、それであくまでもこの議論については、赤道については、あくまでもこれは廃止しないということでなってよろしいんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　先ほどから何度か説明しておるんですけれども、よく理解していただけないようでございまして、この事業につきましては、やはり有料駐車場にするというのは、皆さんがこの10年で10億円という投資をしているんです。莫大な投資をしているんです。その地域に、さらにまた投資というのは、これはなかなか理解が得られるものじゃないんです。ですから、じゃそれをやるために、やはりその収入で、じゃさらにその収入をもって、それをこの地域に充てようということの中で、話し合いの中で来ているんですね。ですから、私どもが、勝手に、だからやったという話じゃありませんし、その辺はまたよく聞いていただきたいと思います。

それから、赤道の廃止につきましては、もう既に何度も話し合いの中で、今の状態で残すということは、もう話し合いで決定していることでございますんで、別に人が通るのには、

何も支障がありませんし、まして暗い夜道を歩くのに、明かりがないというのはやっぱり危険ですから、そういうことで明かりもつけてあるわけでございます。ですから、私ども、赤道を廃止するつもりもさらさらございませんし、当初、約束をしたとおりやるということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　吉野一男議員に申し上げます。

一般質問の趣旨から余り細かい内容については直接担当者に聞いていただいて、町政という大局から質問されるようお願いを再度申し上げます。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　その件については、もう廃止しないということで町のほうは決まったわけですけれども、一応、渡辺家と大久保家の結局、駐車料金なんですけれども、これはどのような契約になっているか、ちょっとお伺いしたいんです。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま吉野議員が駐車料金というようなご指摘でしたけれども、駐車料金はいただいておりません。無料通行券のお話でよろしいですか、はい。実際、無料通行券は、あそこに、３軒、渡辺さんと大久保さん、そして山本さんに、通行券は、駐車場が、あそこ有料駐車場ができる前から、無料駐車場の時代から発行してございます。その経緯がありまして、そのままあそこで、有料駐車場になったからということで、とめることはできないということで、それを引き続きまして、各戸１台分につきまして、一応、通行可能、無料通行券というものを発行してございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　それで、無料通行券は、当然、無料のときは、全部、いずれにしても何台入ってもいいような形で、無料通行券はやったと思うんですが、当然そういう今までのいきさつもありますので、有料、だから、じゃその人たちがそれじゃないとあそこに入れないんですよ。実際的に、うちに、中に入れませんので、あそこに入るのに、通路ですので、やっぱりそういう点も加味した中で、皆さんと話をして、特別にその人たちだけは、とりあえず無料通行券で、じゃ何台でもいいということはないんですけれども、ある程度の台数でもいいんですけれども、そんなに通れるわけじゃないんですけれども、それで通ってもらうような対応していただければありがたいと思うんですけれども、あくまでもそれは個人的なあれになっちゃうんですけれども、あくまでもそれはそれとして、今までそういう無料でい

っていたわけですので、そういう点は、ぜひ町のほうでも論議してやっていただければと思うんですが、担当課、どうでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいまのご質問でございますけれども、町といたしましては、あくまでも１台ということでやっておりまして、本来であれば、前の道路があるわけでございますから、県道大多喜里見線という立派な道路があるわけでございますから、そちらのほうから入っていただくのが本来でありまして、あくまでも町といたしましては、駐車場を無料で通行させるということで憂慮しているわけでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　それと、渡辺家の住宅においては、前のあの道路から、本通りから入れないですよね。こっちの駐車場から入らないと、渡辺家には入れないですね、実際的に。だから、そういう点もありますので、大久保さんとか有家さんのところから、当然、渡辺さんのところでも入れないと思いますので、そうするとあくまでも、１台、その場合、有料駐車場から入っただけで、１台だけは無料で、あとは有料という形になっているわけですね、実際に。そういうわけですので、やっぱりそういう点も、町が、渡辺さんの土地を13年に買収しまして、譲ってもらったわけですよ、13年に。これは、渡辺さんでも、当然、売りたくて売ったわけじゃないと思うんですけれども、それは、町のためにということで譲ってもらったわけですので、そういう点も加味した中で、じゃそういう点を猶予してやって、あくまでも、じゃ無料にしてやるとか、そういう対応を私はすべきだと思うんですけれども、良心的に、それが一般的なやり方だと思うんですけれども、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　ただいま土地を渡辺さんのほうから購入したという話の中で、３軒の中で渡辺さんにつきましては、また別格だと考えてはおります。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　その点については考慮して何か考えるわけですね。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　向こうのほうからご相談等があれば、またそれにつきまして検討させていただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　そういう点で、よろしくお願いしたいと思います。

それと、先ほど町長からも話がありましたので、久保の町営駐車場の使用料、収入、これは、町の整備事業として積める財源に充てたいという説明を受けたわけでありますので、これが、去年の場合は、ちょっと使ったのが、事業と、補助金として使ったのは46万7,000円ですか、あるわけですけれども、残金が、26万9,600円、残っているわけですよね。この不用額については、当然、一般会計に入れるんだと思うんですけれども、あくまでもそうじゃなくて、町並み整備事業として、そういうことで使うんですから、町並み整備事業の基金をつくって対応してはいかがか、そういう点でお伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　そういう基金をつくる考え方は持っておりません。それで、やはり収入で、これは議会でも説明したし、皆さんにも説明しておりますが、毎年１件の修景事業で、そこに予算を充てます。それは、あくまでも収入をもって充てるということで、これは、もう既に話もしてありますし、先ほどの渡辺家の問題も、既に渡辺家とも十分話し合いをしまして、１台については無料券を出してありますし、またあそこは文化財でもございます。そういうことで、あそこの文化財の修復のときに、いわゆる業者が入る場合については、無料の通行券を出すということもでも、話もついております。そういうことで、吉野議員は、その当時の話は全く恐らくかかわっていないから、いろいろな聞きづて、どなたかに聞いてそういう話をされているんだと思いますが、やはり現実には、そういう話は、もう十分、渡辺家とも詰めてきて、きょうに来ているわけでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　詰めてあるということであれば、当然、仕方がないと思うんで、当然、一般的な考え方とすれば、そういう過程もやっぱり加味した中で対応するのが当然じゃないかと思うわけです。

それと、あそこに街灯があるわけですけれども、結局、街灯の通る場合です、車は、ちゃんとあそこまで入れますので、そうすると車の通行的にも考えられるんですけれども、街灯自体がもっと端にやっていないと、またぶつかったりなんかする関係もあるので、もっとあくまでも道路の端のほうへ街灯自体をできないかどうか、それをちょっとお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　それを移動することは、それほど問題ではありません。しかし、さっき言いましたように、その道は、入ったらもうバックすることができなくなるんです。です

から、入ったらその車はそのままそこに残さなきゃいけないという状態で、軽自動車ぐらいが、そういう可能性があると思いますけれども、それはかえって危険でございますんで、それは、むしろ人が歩くという赤道にしてありますんで、やはり車が入れて、今度、入った車が出られないという話では困るんで、どうしても移動してくれというなら、別に移動するのは簡単でございますけれども、そういうことの意味もあります。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　そういう点で、バックしてできないということであれば仕方がないと思うんですけれども、あくまでもそういう公共的な道でありますので、そういう点、やっぱり皆さんが通る道ですので、なるべく支障がないような形で、そのところに設置するなり対応するべきだと思います。

それと、たまたま先ほど触れましたけれども、地域住民が、車どめにつまずいて、手首を一応、骨折したということがありますので、そういう点は、やっぱりたまたま私、この７月に、産業振興課、末吉産業振興課長に話して、その話をしたんですけれども、そうしたらすぐ産業課長が、あそこはちょっとグレーだったものですから、色を塗りかえてくれたんですよ、色は黄色に。やっぱりああいう黄色にしておかないと、何か人が通った場合に、つまずくという形がありますけれども、当時、何であれをグレーにしたのかと思ったんですけれども、当然、一般的に考えれば、あの車どめ自体をグレーにすること自体がおかしいと思うし、これは、最初にやったこと自体がおかしいんじゃないかと思う。そういう点は、課長のほうで、一応、対応してくれましたので、その点はありがたく思っておる次第でございます。

それでは、続きまして防災対策についてお伺いいたします。

東日本大震災、平成23年３月11日、マグニチュードは9.0、未曽有の地震が発生しています。たまたま私も、これは、当時、23年度は、私、区長会長をやっていましたものですから、それは知っているわけですけれども、千葉県では、死者21名の方が亡くなって、２名が行方不明、また負傷者が258名で、合計281名の方が被害を受けたわけであります。また、昭和45年７月１日に、大多喜町が、集中豪雨により、死者２名、負傷者９名で、合計11名の方が被害を受け、その他、家屋、道路、橋梁が土砂崩れによって寸断されたわけです。電気、水道、電話等も途絶えたわけでございます。そういう関係がありますので、そのときに、町としまして、全国から義援金や物資が大分届いたと思うんですよ。そういう点も踏まえた中で、これからも大災害が起こりますので、そういう点も踏まえて、地元、大多喜町は、そういう点で義援金等を受けておりますので、ほかに、結局、当然これから起こる大災害に向け、各隣

接の市町村とか県とか、そういうものについても、義援金等をやるような形で募ったほうがいいんじゃないかと思います。その点に対して、私も、24年３月ですか、区長会長をやっていましたので、そのときは、町の、町長もご存じかと思いますけれども、そのときに、総元地区の区長会として23万円を寄附いたしました、区長会として。それは社会福祉協議会のほうに寄附したわけでございます。そういう点でありますので、そういう善意が、善意の方が、またやっておかなくちゃいけないことはやってもらうような形で、できればそういう形で、町のほうからでも、いろいろな形で、町がそういう形で災害を受けたものですから、やっぱり恩返しじゃないんですけれども、各県に対しても、多少なりともそういうもの、義援金等をやるような方法がいいんじゃないかと思います。

また、ことしは、特に温暖化の現象によりゲリラ豪雨や竜巻が発生し、国民に恐怖を与えております。災害は忘れたころにやってくるというのが合い言葉でありますが、必ず来るものと考えまして、その場その場当たりの計画ではなく、恒久性のある対策が必要ではあります。しかるに、大多喜町災害対策本部規程についてお伺いします。

大多喜町災害対策本部規程、別表第３（７条）関係職員の動員基準で、災害対策本部設置前後の配備体制についてありますけれども、その人数でうたわれておりますけれども、役職名で対応したらよいのではないかと思いますので、お伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　ちょっと質問の趣旨がはっきりわからないんですが、一応、大多喜町災害対策本部の条例及び本部規程がございます。その中に、職員の動員の基準がございます。その基準で、災害対策本部設置前というのは、第１配備、第２配備というのがございまして、第１配備の場合は何人、第２配備の場合は何人、第３配備になって初めて災害対策本部が設置されるわけでございますが、これにつきましては、各部、班をつくっておりますので、その班、部ごとに、それなりの責任者が、その辺の人数、規定されている人数で配置するようになっております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　結局、動員基準によりますと、災害本部設置前の配備体制ということで、第１配備、第２配備があるんですけれども、第１配備が２人とかとありますよね、第２配備は３分の２以上とか、これは、人数もあるんですけれども、誰が、どの役職が出るのかということがあるんですけれども、一般的に、これは、規定で一般的な人が見ると、２人と

いうのは、じゃ誰かということになるし、そういう点で、あくまでも職名とか、課長とか係長とか職名ぐらいを入れたほうがいいんじゃないかと思われるんですけれども、その点、どうか、お伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　この規程は、一般の人が見て、どうこうという問題ではございませんので、あくまでも内部の職員の動員の関係でございますので、内部の中で、２人のところは、少なくとも総務課の場合は、私と消防防災係長の２名が出席しているようになっています。それの次の３分の１というのは、先ほどちょっと男女平等の話がございましたけれども、男性職員の係長以上が出動するようになっております。これは各課でも同じ対応だと思いますんで、そのように内部の中で決まっておりますんで、あくまでも外に出すものではございません。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　そうしますと、内部規定で決まっているということですよね、その配置については。わかりました。

じゃ、大多喜町の災害対策本部規程、第２条で、町長は、町の区域において災害が発生し、町は、災害が発生するおそれがある場合には、大多喜町災害対策本部を設置するとありますが、いつどのような突然的な大災害が起きるかわからない場合、現在の状況で町長は直ちに対応することができるのか、お伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　十分できます。特に、やはり私の場合は大災害ということになります。私どもは、今の規程の中に、町長がいない場合には副町長、副町長がいない場合には教育長、その以下でまた総務課長ということで、４名でいわゆる大災害の場合の対応になっております。ですから、やはり４名の体制の中で誰が指揮権をとるかというのは、そのときにいた人の考え方になります。やはり私ども、例えば私にしても、副町長にしても、教育長にしても、大体、年間を通して、３分の１は、大体、町外に出ております。ですから、なかなかそれを全部ずっとここにいるということはないわけでございます。そして、当然、仕事でございますから、これは、当然、出なければなりませんが、やはりそういう意味で、通常の組織というのは長と副で大体間に合うんですね。しかし、この災害、この大災害の場合、それでは間に合わないんで、やはり４名の指揮権をとれるような形にとっているところでございます。

私も、３月11日、東日本大震災につき、当時、ちなみにどこにいたかといいますと、いすみ市で首長の会議をやっておりました。当然、その日に決定しなければいけない会議でありましたけれども、どうもこの揺れは大きいであろうということの中で、これは、お互いに話し合って、この会議は中止しようということで、その場で中止をしまして、いすみ市から30分かけて帰ってきましたが、たまたまそれは、そういう災害ではありませんで、そういう発令になるものではございませんでした。

これは、東日本大震災においても、ある町では、町長さんが津波にのまれて亡くなったということで、災害の場合には、１人でできるものではなくて、やはりその組織というものをしっかりと機能できるような形にするものでございます。ですから、災害につきましては、私ども町は、町長、それから副町長、教育長、そして総務課長、どなたかが、やっぱりそのときに、いるときにその人が指揮権を出すということになりますんで、１人でできるものではございませんので、ただお互いに大事なことは自覚と責任を持っているかどうかでございますので、私ども、４人ともその自覚と責任は十分持ち合わせておりますので、常に何かあれば、この災害本部のほうに立ち戻るという気持ちでおります。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　確かに、町長、留守のときは多いかと思うんですけれども、実際に町長がいなければ、副町長という、教育長ということでうたわれております、確かに。それはそれで、よろしいんですけれども、これは、あくまでも一般的に、常に災害というのはいつ起こるかわかりません。きょう、今、起こるかもわかりませんので、そういうときに、実際的に、結局うちへ帰っちゃえばわからない話だし、近くにいれば出られるけれども、遠くへ行っちゃえば出られないということはありますので、やっぱりそれは、原則としては、あくまでも本部長、本部長は町長でありますので、これは、原則いかなる場合であっても、町長が指揮権は持ってやるわけですので、これは、当然、町長はいないから、海外に出張したとか、そうであれば別でしょうけれども、すぐ飛んできて、近くであれば飛んできて、その対応するのは、私、当然だと思うんですよ。そういう点で、やっぱり近くで、住まいのことを言えばあれなんですけれども、当然そうなるとすぐ飛んでこられるという形もとれないと思うんですよね。そうすると、その点は副町長とか教育長が出ると思うんですけれども、実際的にそれでいいのかという考えというにもなるんですよね。近くにいないから出なくていいという形も、出られない、近くにいないなら出られないです。道路が寸断されたとか、いろいろな関係になれば、当然もう来られませんので、上を飛んでこなくちゃ来られませんので、

そういう点で、やっぱり飛行機でないと来られませんから、当然その点が考えられますので、そういう点を踏まえた中で、あくまでも本部長が、指揮権、いざ災害が、大災害が起きた場合には飛んできて、本部長、町長が、首長が、指揮権を持って、指揮をとると、これが原則であります。これは、だからどうしてもやむを得ない場合というのがいろいろ多々あると思うんですけれども、それは別としても、やっぱりそういうときは余りないと思うんですけれども、大体いるでしょうけれども、夜の場合とか、ちょっといない場合もあると思うんですけれども、そういう点も踏まえた中で、いかにその対策、副町長が対策をとるということもあるんですけれども、あくまでも本部長が指揮権を持ってやるべきだと思うんです。そういう点、やっぱり責任感を持った中で対応するということが一番重要なことでありますので、やたらな人ができませんので、あくまでも町長は、選挙で当選して町長になったわけですけれども、副町長とか教育長は、また別か、任命権者のあれでなりますので、あくまで町長は、選挙権で選ばれた人がなるわけですから、これはそういう重要責任だと思うんですよ、あくまでも。そういう点を特に認識してもらって、対応しなくちゃいけないんだと思います。これは、いかなる場合であったら飛んでくるとか、飛んできて対応するということが一番重要だと思うんですけれども、もう一度、町長、お願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　おっしゃるとおりでございまして、私は、責任と自覚は十分持ち合わせておりまして、外国に行っていても、帰ってこなければいけないと思いますし、東京にいて泊まっていても、帰ってこなければいけないし、県庁で仕事をしていても、帰ってこなければならないわけです。先ほどもお話しいたしましたように、あの日は、ちょうど３月11日についてはいすみ市にいました。そういうことで、即座に会議を中止して帰ってきているわけでございます。それで、夜についても、副町長と私は大体同じぐらいの時間のところにいますけれども、ただこれでも、どういう状況でいるかわかりませんけれども、私どもも、夜、よくいろいろな席にも呼ばれますから、夜も、やはりいろいろな宴席にも出ていることもございまして、必ずしもどこにいるかわかりませんが、大体、年間を通して、そういうものを考えますと、半分以上はどこかにいていまして、なかなか一つのところに、一定のところにいる時間というのも幾らもございません。ただ、根本的に、先ほども申しましたように、やはり私は私なりの自覚と責任を持つということでございます。もちろん、副町長も教育長も総務課長も、やはりその指揮権を持つということでございますので、十分その責任と自覚を持っております。ですから、４人で当たると、１人で当たるということは、どんな場合でも

なかなか難しいものですから、この災害については、４人にその責任があるわけでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　十分、当然そういう点については認識されていると思います。それと、近隣の町村に関係するわけですけれども、歴代の内閣総理大臣についても官邸に全部引っ越しているわけですよね。それと、あと、今の現勝浦市長、私と同級生なんですけれども、猿田寿男さん、東金から勝浦に居住地を移動しました。合併前の大原町長、近藤万芳氏においても、千葉から大原に居住地を移動してあります、今は千葉のほうへ行っておりますけれども。そういう点で、いかなる場合でもあっても、迅速に対応できるように、各市長は対応をとっていると思うわけでございます。そういう一人一人の考え方は多少違うかもわかりませんけれども、これが、町民の思い、本来の姿ではないかと思います。当然、そういう点がありますので、やっぱり近くにいるというんですか、近場にいるというのが一番重要だと思うんです。あくまでも、住所にしても何でしょうけれども、結局、みんな各首長になれば、みんな地元に帰ってきているんですよね。それで、首長としての役目を果たしているわけですので、やっぱりそれが根本的には一番重要なんじゃないかと、私は思います。責任は持った行動をとるには、やっぱりそれが一番重要だと思うんですよ。だから、そういう点もやって、やっぱり勝浦市長も、大原の町長、合併前の大原、近藤町長も、そういう点で、全部こっちに、地元は高谷なんですけれども大原に、役場の近くに移動してきました。そういう点がありますので、やっぱりそれが、考え方としては、それが、首長、町長の町民から見た目線から見ると、それが一番重要な役目ではないかと、私は考えるわけですけれども、町長の見解をお伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　質問の途中ですが、３番吉野一男君に申し上げます。

申し合わせの持ち時間、残り４分となりました。

町長。

**○町長（飯島勝美君）**　今の趣旨はよくわかります。私も、船子に会社がございまして、そこに何かあれば、いつでもそこに住めるように、うちもつくってございます。ですから、それは十分心得て、そこに住宅を構えてあるわけでございます。でも、先ほどお話しいたしましたように、猿田さんは、やはり１時間から１時間以上そこまでかかりますから、当然、そういう話だと思いますが、私の場合は、副町長とここに来る時間は変わらないんですね。ですから、それは、通常の場合はそんなに考えておりませんけれども、何かあれば、私は、今、

船子には泊まるようになっております。また、十分その準備もしてありますので、その備えはしてあるつもりでございます。十分その考えだと思っております。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　そういう点であれば、町長はそういう発言しましたけれども、なるべくそういう点で、災害は忘れたころにやってくるということで、いつ災害が発生するかもわかりません。こればかりは予想するわけにもいきませんので、大分そういう点では、常に気をもんでもらって、なるべくそういう対応を町長のほうにはしてもらいたいと思います。

そういう形で、今回は、特に町長を攻撃するわけじゃないんですけれども、あくまでもこれは、町民のために言っているわけでありますので、個人攻撃じゃありませんので、そういう点は、町長もちょっと考えていただきたいと思うんですけれども、皆さんの考え方はいろいろあると思うんですけれども、あくまでも町民のために私は言っておるわけですので、また参考にしながら、ぜひ災害に、迅速に対応するような体制をとっていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

**○議長（小髙芳一君）**　以上で一般質問を終わります。

---

**◎議案第１号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第５、議案第１号　大多喜町介護予防・生活支援事業等利用者負担金条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

本案について、提出理由の説明を求めます。

健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　議案第１号　大多喜町介護予防・生活支援事業等利用者負担金徴収条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由の説明をさせていただきます。

議案つづりの７ページをお開きいただきたいと存じます。

まず、本文に入ります前に、提案理由の説明をさせていただきます。

介護保険法に基づく高齢者の介護予防事業といたしまして、現在、からだいきいき塾を実施しておりますが、今年度、新たに認知症予防教室を予定しております。事業実施に当たり、参加者から負担金をいただくことに伴う条例の一部改正でございます。

では、本文に入らせていただきます。

中段でございますが、大多喜町介護予防・生活支援事業等利用者負担金徴収条例の一部を

改正する条例（平成12年条例第18号）の一部を次のように改正する。

第１条中「第133号」の次に、「及び介護保険法（平成９年法律第123号）」を加える。第２条に次の２号を加える。第７号、からだいきいき塾事業、第８号、認知症予防教室事業、別表に次のように加える。からだいきいき塾事業、からだいきいき塾参加料、一月当たり500円、認知症予防教室事業、認知症予防教室参加料、一月当たり500円。

附則といたしまして、この条例は、公布の日から施行する。

以上で説明を終わります。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

**○議長（小高芳一君）**　これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　からだいきいき塾事業と認知症予防教室事業が追加されるわけですが、それぞれの事業、一月当たり何回開かれるのか、教えてください。

それから、この条例の備考には、４事業について、寝具乾燥消毒サービス事業、軽度生活援助事業、生活管理指導員派遣事業及び緊急通報体制等整備事業のサービス提供については、生活保護世帯は負担金徴収しないと軽減がありますが、実際、高齢者は、生活保護以下の生活を余儀なくされていらっしゃる方がいらっしゃいます。生活保護は、それなりに文化的最低生活ということで、今度、カットされますけれども、保障されております。誰に、一般質問ではありませんけれども、本当に健康な体を取り戻してもらいたい、持続させてもらいたいということで、誰でも参加できるように、生活保護基準の世帯にはとかということで、減免基準を拡大する考えはないか、以上３点について伺います。

**○議長（小高芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　回数につきましては、現在こちらに資料がなくて把握しておりませんので、申しわけありませんが、後ほどお調べしてお答えしたいと思います。

それと、あと生活保護以下の方、減免規定だということだと思うんですが、今のところその考えは持っておりません。参加、確かに事業実施に当たりましては、負担金は、ないほうがいいにこしたことはないんですが、参加負担金を払うことによりまして、参加者の方の健康といいますか、介護予防に対する意識を高め、やる気を起こしていただくことで考えまして、いただくように考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　からだいきいき塾事業は月に２回、それから認知症予防教室は、まだ始まっていないけれども、10月から月一遍ということを担当から伺っております。額にしてみれば、そんなに１回ずつ多い額ではありませんけれども、それから私個人は、授業料、月謝が高いと、払ってしまうと、高いんだものと思って通います。授業料を払うということは、悪いことではありません。それは、お金のある人の話、お金というか、普通に収入のある人の話であって、特に地方の高齢者、この対象は70歳以上ですよね。担当から聞いた話だと、70歳以上だったような気がするんですが、まだ今の若い人のように、共働きが盛んな時代ではないから、年金でもそうそう多くない、あるいは老人世帯だけだったらしんどい方はいらっしゃると思うんです。500円のお金も、きついときでもあるような家庭に対して、１年間やるとなったら6,000円じゃないですか。やっぱり小さいお金ではないと思います。どういうふうにとるかわからないけれども、そのときあなたは要らないよというのは酷な話ですけれども、何らかに形で、やはり来てもらうという、内容を聞いてみれば、本当にこれは、500円で安いと私も思ったんです。だけれども、月500円のお金も、ちょっとしんどいなという人もいると思うんです。生活保護を受けられていれば、それでいいんです。ですから、生活保護を受けて、それこそ、むしろ生活保護を受けられない生活保護基準以下の世帯については、無料ということを検討していただきたいなと思います。全部これは、なくせと言っているわけではないことは承知していただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　ちょっと人数のほうは調べてあったんですが、回数は調べていなくて申しわけありませんでした。

この介護予防事業につきましては、原則としては、ご自分のためにやるということが原則ですので、負担金をいただくということは、決して間違いではないと思うんですが、確かに生活が厳しい方もいらっしゃいますので、その辺についてまた協議していきたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　賛成するか賛成しないか、それの分かれ目です。それから、健康は個人のためではありますけれども、一旦、体を壊したときには、やっぱり税金の投入というのは物すごくあるわけです。それは、今の制度だと、共助という形で、みんなで支え合いましょうという形で、社会の負担になっていくわけですから、個人の健康問題でありながら、

やっぱり社会的な問題なので、もし個人の問題であれば、町がやる必要なんかはないわけです。みんなで、とにかく元気でいこうという意味で、参加しづらい方へのフォローをするというのは行政の仕事だと思います。町長、しっかりとやると答えていただけますでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　今、課長が一生懸命考えて答えたものでございますから、課長の考え方に私も同意したいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから議案第１号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第１号は原案のとおり可決されました。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（小髙芳一君）**　以上で本日の日程は全て終了しました。

９月会議の日程につきましては、さきに開催された議会運営委員会におきましてご審議いただいた結果、９月30日までは休会となっておりますが、議案審議のため、明日９月11日及び20日は本会議を開催し、13日及び17日に、決算に係る細部説明のため、常任委員会協議会を開催することに決定しております。

配付してあります平成25年第１回大多喜町議会定例会９月会議日程によりご確認願います。

なお、委員会協議会は、傍聴が可能ですので、都合のつく方はご出席を願います。

なお、この後、千葉県町村議会議長会会長から要請のありました道州制導入に反対する意見書についての取り扱いにつきまして、議会運営委員会を開催しますので、議会運営委員の

方は議員控室にお集まりください。４時40分から開きたいと思います。

また、10番山田久子君から提出を予定しております発議案について、議員各位に趣旨を説明したいという申し出がありました。議会運営委員会終了後に、議員控室で行いますので、都合のつく方はご出席いただきたいと思います。

本日は大変長時間にわたりご苦労さまでした。

本日の会議を閉じます。

これにて散会します。

（午後　４時３２分）

# 第１回大多喜町議会定例会９月会議

# （ 第 ２ 号 ）

# 平成２５年第１回大多喜町議会定例会９月会議会議録

平成２５年９月１１日（水）

午前１０時００分　開議

**出席議員（１２名）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| １番 | 根本年生君 | ２番 | 正木　武君 |
| ３番 | 吉野一男君 | ４番 | 麻生　勇君 |
| ５番 | 野村賢一君 | ６番 | 江澤勝美君 |
| ７番 | 志関武良夫君 | ８番 | 渡邉泰宣君 |
| ９番 | 吉野僖一君 | １０番 | 山田久子君 |
| １１番 | 野中眞弓君 | １２番 | 小髙芳一君 |

**欠席議員（なし）**

**地方自治法第１２１条の規定による出席説明者**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 飯島勝美君 | 副町長 | 鈴木朋美君 |
| 教育長 | 石井信代君 | 総務課長 | 花﨑喜好君 |
| 企画財政課長 | 小野田光利君 | 税務住民課長 | 市原和男君 |
| 健康福祉課長 | 関　晴夫君 | 子育て支援課長 | 石井政一君 |
| 建設課長 | 野口　彰君 | 産業振興課長 | 末吉昭男君 |
| 環境水道課長 | 川嵜照恭君 | 特別養護老人ホーム所長 | 齋藤健二君 |
| 会計室長 | 高橋啓一郎君 | 教育課長 | 加曽利英男君 |
| 生涯学習課長 | 渡辺八寿雄君 | 代表監査委員 | 矢代健雄君 |

**本会議に職務のため出席した者の職氏名**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務局長 | 髙橋謙周 | 書記 | 大竹義弘 |

**議事日程（第２号）**

日程第　１　議案第　２号　平成２５年度大多喜町一般会計補正予算（第３号）

日程第　２　議案第　３号　平成２５年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第１号）

日程第　３　議案第　４号　平成２５年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第１号）

日程第　４　議案第　５号　平成２５年度大多喜町水道事業会計補正予算（第１号）

日程第　５　議案第　６号　平成２５年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第２号）

日程第　６　認定第　１号　平成２４年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定について

日程第　７　認定第　２号　平成２４年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定について

日程第　８　認定第　３号　平成２４年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

日程第　９　認定第　４号　平成２４年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

日程第１０　認定第　５号　平成２４年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

日程第１１　認定第　６号　平成２４年度大多喜町水道事業会計決算認定について

日程第１２　認定第　７号　平成２４年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計剰余金の処分及び決算認定について

---

**◎開議の宣告**

**○議長（小髙芳一君）**　おはようございます。

昨日の本会議に引き続き、ご苦労さまです。

これから本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は12名です。したがって、会議は成立しました。

（午前１０時００分）

---

**◎議案第２号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第１、議案第２号　平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第３号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　それでは、議案第２号　平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第３号）のご説明をいたしますので、９ページをお開きください。

平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによる。

まず、歳入歳出予算の補正。第１条第１項でありますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１億2,968万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ44億1,411万2,000円とするものであります。

第２項といたしまして、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

それでは次に、事項別明細書により歳入歳出補正予算のご説明をいたしますので、14ページ、15ページをお開きください。

初めに歳入でございますが、款12分担金及び負担金、項１負担金、目１民生費負担金50万6,000円の増額補正は、児童福祉施設費負担金で、保育料の滞納繰越分及び老人保護措置費負担金１名分が主な内容であります。

目２衛生費負担金49万4,000円の増額は、火葬場修繕料等、今回の歳出補正に伴ういすみ市負担金分であります。

目５給食費負担金137万円の増額についてもガス料金の値上げ等、今回の歳出補正に伴う学校給食センター運営費のいすみ市負担分であります。

款14国庫支出金、項１国庫負担金、目１民生費国庫負担金11万円の増額は、今回の歳出補正で計上した車椅子及び補聴器の購入に係る町扶助費の２分の１に相当する障害者自立支援給付費等の国庫負担金であります。

款15県支出金、項１県負担金、目２民生費県負担金５万5,000円の増額は、先ほどの障害者自立支援給付費の県負担金であります。

同じく款15県支出金、項２県補助金、目１総務費県補助金3,049万1,000円の増額補正は、後ほど歳出でご説明いたしますが、道路台帳の電子化に伴う緊急雇用創出事業臨時特例基金事業補助金であります。

目２民生費県補助金3,540万円の増額補正は、横山地先にある認知症グループホーム風鈴花の９床の増床に伴う県の補助金であります。

目４農林水産業費県補助金の補正額はゼロ円で、名称の改正に伴う予算の組み替えであります。

目５商工費県補助金173万7,000円の増額は、養老渓谷観光センター案内看板設置工事の２分の１に当たる観光地魅力アップ整備事業県補助金であります。

目７消防費県補助金６万6,000円の増額補正は、下大多喜、田代地区で組織した自主防災組織に支給する災害用機材購入費の３分の１に当たる県の補助金であります。

款18繰入金、項１基金繰入金、目３ふるさと創生基金繰入金12万円の増額補正は、外廻区集会所改築工事に伴うコミュニティ育成事業に繰り入れするものであります。

目５福祉基金繰入金5,000円の増額は、老人虐待に伴う老人ホーム入所措置に係る老人保護扶助費に繰り入れするものであります。

款19繰越金、項１繰越金、目１繰越金、補正額5,832万9,000円は、前年度の繰越金であります。

16ページ、17ページをお開きください。

款20諸収入、項３雑入、目３雑入100万5,000円の増額補正は、説明欄記載のとおりで、本年３月執行の千葉県知事選挙費委託金の精算金及び行財政情報サービス助成金が主な内容であります。

18ページ、19ページをお開きください。

次に、歳出予算の説明をさせていただきます。

初めに、款２総務費、項１総務管理費、目１一般管理費394万8,000円の減額補正は、共済費の額の確定に伴う予算額との比較の結果の減が主な内容であります。

目２文書広報費672万円の増額は、町ホームページの更新業務委託料が主な内容であります。

目５財産管理費253万5,000円の増額補正は公有財産管理事業で、自動車学校給油所の地下貯蔵タンク撤去に係る経費が主な内容であります。

目６企画費は267万9,000円の増額であります。企画事務費は、国際交流協会海外視察研修に随行する事務局２人分の旅費、及び新たに加入した成田空港活用協議会の負担金であります。地域情報通信基盤維持管理事業は、光ファイバーケーブルを添架している電柱の移設に伴うケーブル移設委託料が主な内容であります。財産貸付収入が財源であります。

目７電子計算費14万3,000円の増額は、ＰＤＦ作成及び編集のためのパソコン用ソフトの購入であります。

目８諸費は370万7,000円の増額であります。住宅・建築物安全ストック形成事業還付費は、平成24年度で実施した中央公民館耐震補強工事の国費還付金であります。また、コミュニティ育成事業は、歳入でもご説明いたしましたが、外廻区集会所の改築工事の補助金であります。

同じく款２総務費、項２徴税費、目２賦課徴収費100万5,000円の増額補正は、滞納案件の相続財産管理人選任手続に伴う予納金が主な内容であります。

20ページ、21ページをお開きください。

款３民生費、項１社会福祉費、目１社会福祉総務費の119万5,000円の減額補正は、国民健康保険特別会計繰出金の減額が主な内容であります。

目３老人福祉費19万2,000円の増額補正は、歳入でご説明した老人虐待に伴う老人ホーム入所措置に係る老人保護扶助費であります。

目５介護保険事業費3,603万8,000円の増額についても、歳入でご説明しました横山地先にある認知症グループホーム風鈴花の９床の増床に伴う補助金が主な内容であります。

同じく款３民生費、項２児童福祉費、目４児童福祉施設費180万7,000円の増額補正は、２保育園の遊具の修繕、食器等消耗品の購入、施設修繕が主な内容であります。

次に、款４衛生費、項１保健衛生費、目３環境衛生費146万5,000円の増額は、備品購入費の軽ダンプの購入が主な内容であります。

目５火葬場費117万9,000円の増額は、火葬場正面の自動ドアの取りつけ工事が主な内容であります。

22ページ、23ページをお開きください。

目６地域し尿処理施設管理費48万3,000円の増額補正は、城見ヶ丘団地内にあるコミュニティプラントのスパローター１機の故障に伴う改修工事であります。

同じく款４衛生費、項２清掃費、目１清掃総務費７万2,000円の増額は、障害者雇用等に伴い不足する臨時職員の賃金等であります。

目２塵芥処理費1,930万1,000円の増額は、ごみの焼却処理を委託しているいすみクリーンセンターの修繕改修工事に係る町負担金の増額が主な内容であります。

次の款５農林水産業費、項１農業費、目３農業振興費40万5,000円の増額補正は、施設園芸農家が設置するビニールハウス１件に対する育成補助金及び温泉成分の分析のための水質検査委託料であります。

目５農地費63万8,000円の増額補正は、土地改良関係の赤道復元測量一式及び関係団体に支給する道路補修用砕石や用水路補修工事材料の購入であります。

目６農業施設費758万1,000円の増額補正は、農村コミュニティーセンターの雨どい改修工事を初め、養老渓谷観光センターの看板設置、基幹集落センターのスロープ設置、味の研修館の備品や施設修繕等、関係施設の改修工事であります。

24ページ、25ページをお開きください。

款６商工費、項１商工費、目１商工総務費２万6,000円の増額補正は、公用車の修繕であります。

目２商工業振興費９万7,000円の増額補正は、商い資料館の日よけのれんの購入であります。

目３観光費463万7,000円の増額補正は、大多喜駅女子トイレの洋式便器への改修工事や観光センター、通称観光本陣の日よけのれんの購入、及び養老渓谷観光センターの案内看板設置、さらに町観光協会へのレンタサイクル用電動自転車の購入に係る補助金が主な内容であります。

款７土木費、項１土木管理費、目１土木総務費3,061万2,000円の増額補正は、歳入でご説明した緊急雇用創出事業臨時特例基金事業の補助金を活用した道路台帳の電子化業務委託料が主な内容であります。

目４道の駅管理費５万3,000円の増額については、多目的トイレの扉の修繕経費であります。

同じく款７土木費、項２道路橋梁費、目１道路維持費149万円の増額は、町道の維持管理に必要な道路修繕用資材の購入や機械機器の燃料及び修繕、またトンネルの照明修繕料であ

ります。

目２道路新設改良費220万9,000円の増額補正は、次のページにわたりますが、町道大多喜高校線の道路改良工事に伴う光ファイバーケーブル及び電柱移転費用の補償費からの予算の組み替え、及び増田小土呂線、中野大多喜線の用地買収や補償費であります。

26ページ、27ページをお開きください。

同じく款７土木費、項４住宅費、目１住宅管理費12万9,000円の増額補正は、中野テレビ共同アンテナ組合の解散に伴う中野団地のアンテナ購入が主な内容であります。

次に、款８消防費、項１消防費、目４災害対策費50万9,000円の増額は、歳入でご説明した下大多喜、田代地区で組織した自主防災組織に支給する災害用機材購入費、及び公用車に搭載する防災行政無線の移設手数料、並びに全国瞬時警報システム、通称Ｊアラートのグレードアップパソコンソフトの修正委託料であります。

次に、款９教育費、項１教育総務費、目２事務局費の56万2,000円の増額補正は、学校統合説明会に伴う職員手当の増額及び心身障害児就学指導専門医謝礼の増額、並びに公用車の燃料やタイヤ交換の経費であります。

同じく款９教育費、項２小学校費、目１学校管理費369万9,000円の増額補正は、次のページにわたりますが、小学校管理事務事業では就学時健康診断学校医報酬の増額及び送迎バスの実績による減額であり、小学校施設管理事業は西畑小のプール更衣室の設計業務委託料を初めとした３小学校の施設設備の修繕が主な内容であります。また、学校管理事業の総元小学校は、ガラスの交換、植木の手入れ経費で、大多喜小学校は、照明機器の基盤交換及びデジタルビデオの購入経費であります。

28ページ、29ページ中段になります。

同じく款９教育費、項３中学校費、目１学校管理費131万円の増額補正は、中学校施設管理事業が主で、大多喜中学校の下グラウンドの排水溝整備工事や西中学校屋内運動場汚水管改修工事等が大きな支出となっております。その他、２中学校の施設修繕料や屋外用時計の購入経費であります。

目２教育振興費72万2,000円の増額は、２中学校の教材備品の購入や県大会、関東大会への生徒派遣補助金が主な内容であります。

最下段の同じく款９教育費、項４社会教育費、目２公民館費29万5,000円の増額補正は、次のページになりますが、要望が多いホール控室の壁に設置する姿見の設置工事が主な支出であります。

30ページ、31ページをお開きください。

同じく款９教育費、項５保健体育費、目２学校給食費105万9,000円の増額補正は、ガス料金の値上げに伴う光熱水費が主な内容で、その他臨時職員の健康診断委託料、職員の研修負担金等であります。

目３体育施設費147万2,000円の増額は、野球場の漏水修理や野球用防球ネットの倒れどめ金具設置工事、またＢ＆Ｇ海洋センターのプール排水管及びシャワー修繕の修繕料、さらにプール循環配管の改修工事であります。

以降、32ページから39ページまでの給与費明細書は、人件費の補正に伴う特別職及び一般職員に係る給与費明細書となりますので、説明は割愛させていただきます。

以上、平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第３号）の提案説明とさせていただきます。

よろしくご審議の上、可決賜りますようお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　これから、質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　まず、19ページの総務費、広報おおたき発行のところで、ホームページ更新が600万円以上計上されております。過去の予算書あるいは決算書を見てみますと、ホームページについては大体１年間113万円くらいで推移しています。平年の５倍近いこの補正は、一体どういうことでしょうか。

それと、これだけホームページは、今では町のもう一つの顔ですよね。１人雇えるお金ですよね。よそ様に投げ捨てるのではなくて、やはり今若い子はパソコン関係、ＩＴ関係の専門を修める学生は随分いると思うんです。そういう学生を意図的に採用して、こういう仕事にも充てさせるという考えはないのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　ホームページの更新の業務委託料661万5,000円の補正についてのご質問でございます。

これについては、議員さんがおっしゃるとおり、百数万円は維持管理といいますか、日ごろの経費として年間経費を計上しています。これにつきましては更新でございますので、議員さんがおっしゃるとおり、ホームページは第２の顔でございますので、顔を新たにつくりかえるといいますか、更新するものです。よその、よく議員さん、皆さんおっしゃるんですが、やはりホームページは大多喜町をＰＲする一番の媒体でございますので、それを、今の

ホームページを刷新をして、新たにホームページを変えるといいますか、パッケージそのものを変えてきれいにやり直す、そういう経費でございます。

主に内容的には、そのパッケージ費用が180万円くらい、それとそのひな形をつくる作業を150万円くらい。それでもう半分以上がかかってしまいます。それ以外に今のあるものを載せかえるとか、そういう作業も要るんですが、全体的には600万円かかるというふうなことでございます。

それで、現在町内の企業さんでホームページの保守から全部をお願いしているところですが、今回プロポーザル的なものを行ってよりよい顔をつくりたいなと。それで、よそに出しても、今も恥ずかしくない状態でいると考えていますけれども、よりよいものをつくって、大多喜町をＰＲしていきたいなというふうに思って、今回更新の費用を上程をさせていただきました。

それともう１点、そういう作業をするために職員を採用したらというふうなお考えでございますけれども、確かにそれは必要の時期ではあるかと思いますけれども、それだけに特化して職員を採用するということはなかなか難しいことでございますので、そういう採用そのものはちょっと考えさせていただきたいなと思っております。今現在、各課でホームページの更新、自分の項目の更新をさせています。それがリアルタイムで動いていないところがありますので、その辺が常にリアルタイムで、新しい情報が提供できるようなホームページにしていきたいというふうに考えていますので、その辺のご理解をまたよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　費やしている百十何万円というお金は、機械の維持管理だけなんですか。中身の更新については、今のお話だと各課でやっていると。それは理想的というか望んでいたことなんです。そうしたら、全く素人だからわからないんですけれども、更新でよそ様に払うお金は要らないんじゃないかと思うんですけれども、どうなんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　今のよそ様といいますか、委託で払っているお金は、そのシステムそのものの保守でございますので、極端に言うと、機械でいうと１つずつの部品は各課で直しましょうと、全体的な整備の点検ですとか車でいうとオイル交換とかそういうものは全て業者にやっていただきますので、そういうものの経費は130万円ぐらいだと思うんですけ

れども、委託料で払っているというふうなことでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑ありませんか。

５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　すみません。今の関連でちょっと質問したいんですけれども、町のホームページを調べると、あけるたびあけるたび同じ情報しか入っていなくて、まだこんなことをやっているのかなと思うときがかなりありますね。それなりにきちんと更新しているんでしょうかね。

それは答弁は要らないですけれども、ほかのことでちょっと質問したいんですけれども、大変自分自身としては恥ずかしい話かもわかりませんけれども、田代地区で自主防災組織をつくったと。私ども、正直に言って知らないです。それで、どういう人たちでどういう設備で始めたのか、お聞きしたいです。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　消防費のところのご質問だと思いますが、田代区の今、老川地区全８区全て自主防災組織を持っています。それ、区イコール自主防災組織というふうな形、要するに区の役員さんが恐らくそこの自主防災組織の長に、区長さんがなってくれると思います。そういう組織で、田代区でつくりました。つくっていただくようになりました。

そこで、それに対して先ほど企画財政課長が説明しましたけれども、３分の１の補助金をいただいてリアカー等を搭載する設備を今回入れるものです。入れるのはリアカーだけです。その中にいろいろなリアカーと格納庫ですか、それをおさめる格納庫を設置するようになっています。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　随分簡単なあれですね。これだったら消防団もあるし、消防団の応援もいるし、別に必要ないと思うんですけれども、いかがなものですか、私の経験から言いますと。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　いかがかと言われましても、何かあった場合に自分たちで自分たちの地域を守るというふうな形で、確かに消防団もありますし広域消防もございますけれども、それ以外に自分たちの中でそういう意識を持っていただくというふうな形で組織をしていただくということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　くどいようで申しわけないんですけれども、区の役員にと今言いましたよね。区の役員というのは１年、２年でみんな交代していってしまいますよね。その引き継ぎとかそういうのはどうなっているんでしょうかね。それは区に任せ放しということでよろしいんですか。

リアカーどうのこうのと言いますが、どんなリアカーかわかりませんけれども、それなりに防災できちんとやる以上は、頑丈できちんとした、ホースを運ぶようなリアカーではなくて、きちんとしたリアカーがあるわけですよね。例えば年寄りばあさんを乗せて運ぶとか、そのくらいの応用をしてできるリアカーなんでしょうか。

しつこくて申しわけございませんけれども、ちょっと。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　自主防災組織の組織そのものの中の役員さん、恐らく野村議員さんおっしゃるとおり、区の役員さんがなりまして年々かわっていくと思います。それは、かわったことによって総務課のほうに自主防災組織の中の役員がかわりましたよという報告が、そのたびに各、老川地区でも今してもらっています。そういう状況です。

リアカーにつきましては、そうですね。野村議員さんが恐らく承知してると思うんですけれども、ホースを運ぶホースカーがありますよね、あれよりもちょっと大きい。それこそ年寄りを乗せて運べるといえば運べますけれども、そんなに大きいものではないです。４分の１坪ですかね。畳半分くらいのリアカーを一応予定しています。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　自主防災組織という申請があるのだか何だかわかりませんけれども、その地区内ではどういうような経緯で話し合いとかが行われているんですか。ただ区の役員が、おらが区は自主防災組織にしたからリアカーをくれというだけでもいいんですか。

本当は自主防災組織とは、私のイメージでは、区民が、その集落の人たちが、もし一旦災害が起きたときには隣近所でこういうことをやろうね、どこそこはどこそこのばあちゃんがどうなっているかいなかったら見に行こうねとか、そういうのを確認し合っていざというときに区の方たちの安否が、最低でも区の中で漏れ落ちなく確認できるというような組織づくり、人づくりというものがあって、最低の自主防災組織と言えるのではないかなというよう

なイメージがあるんですね。だから、既に町が自主防災組織として認める老川の８区と田代区について、どういうことが住民に対して行われてきているのか、掌握している限りでご答弁願います。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　この田代区だけにちょっと限定して申し上げますけれども、田代区の場合は、要するに今、野中議員さんがおっしゃったように、そういう住民の個々の安否を確認できるような状況の連絡体制、そういうものもつくるようになっています。

それともう１点は、上瀑地区は上瀑小学校が避難所になっています。ただ、田代区については、独自で大多喜カントリーさんを避難所として避難するんだというふうな、要するに自分たちで自分を守る、そういう行動計画もその自主防災組織の中で考えている。そういうふうなことで、各行政区の中で自分たちが自分たちのことを守るんだと、また地域の人たちを守るんだというふうなことで、いろんな計画をつくったりするのが自主防災組織というものでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　各議員に申し上げます。

質疑の際は、ページ数を示して質疑されるようお願いします。

ほかに、質疑はありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　すみません。先ほどのホームページの関係で、ページ19。

先ほど答弁等を聞いていて、何か100パーセントこれが変わると、内容が全て変わるということでいいのか。

あと、言葉の意味がよくわからないんですが、更新というので部分的に変わるのかなという認識なんですけれども、これは新規に変わるということでよろしいのかと。あと、プロポーザルでやるということで、これについては、ホームページをつくるといろんな、住民も、それに対する関係団体とか議会も、大きな、その内容によっては影響を受けるかなとは思うんですけれども、こういったものには関係団体、住民とか議会とか、そういったところも内容についてかかわることができるのかどうか。その辺はどう考えているかということでお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　まず、更新というのも難しいですけれども、そっくり刷新します。

ただ、今あるデータについては、移行するデータは必要ですよね。要するに過去のものが、過去の数値とかそういうものは、データは移行します。そして、見ていただければわかるんですが、行政組織図とかそういうものが今のホームページの中にありますので、そういうものは移行していくと。でも、顔というんですかね、見た目の感じは全部そっくり変わります。そういうふうな更新、新たにつくるというふうにお考えいただいて結構でございます。

それと、その決め方ですけれども、プロポーザルと申し上げましたが、そういうような方法で、ただ単純に入札をして幾らというふうな決め方ではなくて、プロポーザルでもやって、ものを見て、この顔に合うものであればそういうものを選んでいきたいなと。ただお金だけでぽんと選ぶのではなくて、お金の中でも画面を見ながらいいものを選んでいきたいと。そういう選び方も、職員の中で、内部だけで選ぶという方法と外部の人を招いてというふうなこともありますけれども、その辺まだ具体的には考えておりませんが、そういう方法で選択はしたいというふうに考えています。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今の関係で、今ホームページの件で議会の内容も盛りだくさんで入っていると思いますので、その内容についてはぜひ議会、少なくとも議会のホームページの内容については議会のほうとも相談してやっていただけると助かると思いますので、よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑は。

９番吉野僖一君。

**○９番（吉野僖一君）**　９番吉野でございます。

同じくホームページのモデルチェンジということで説明があったんですけれども、夷隅郡内、県内、他町村のホームページを見ますと、運営費捻出のために個店のコマーシャル欄が結構華やかに出ているんですけれども、その辺運営費を賄う関係上、先ほども言いましたように町の顔ということで、商工会とかいろんな関係団体のアピールする場をもう少し、料金がどのくらいかかるかわからないけれども、その辺を調べて住民参加もできるコマーシャル欄というか、勝浦とかいすみだか、結構派手に出ていますので、その辺もせっかくつくり直すんであれば考えてほしいなというか。周知徹底、皆さんにこういうふうにホームページが変わるので、そういう広告欄というか、そういうのを生かしたほうがいいのではないかと思いますので、よろしく検討のほどお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　ご要望かどうかちょっとわかりませんが、今現在、今のホームページを見ていただければわかると思うんですけれども、何件かそういうのが入っています。それが、一応その都度募集はしているところでございます。町の広報紙も一番下の欄に、下欄にそういう宣伝欄を設けて、できるだけそういう経費が賄えるようにこれからも努力してまいりたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　19ページの企画費です。企画事務費の中の旅費で、国際交流の旅行の職員参加２人分プラスの飛行場の利用料ですか、そういうものだということです。当初予算がここのところでは３万8,000円あります。別のことかもしれませんけれども。

この国際交流で、広報にも募集が載っていましたよね。それだと思うのですが、普通の旅行と、旅行業者が行う旅行と、この町が行う国際交流の、端的に言えば旅行と、どんな点で違うんですか。あえて行政が職員の旅費を支出までしてやらなければいけないメリットというのは、どういうところにあるんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　国際交流協会でございますが、当然単なる旅行ではございません。大多喜町が、これからやはり海外の国と交流をしていく。現在もそういう組織でございますが、そういう方たちがやはり海外に行って、その地域の文化とか人とかそういったものを見て、大多喜に取り入れられる場所は取り入れていただく。またそういう場所と交流することによって外国人の観光客を誘致したりとか、そういうために行く研修でございます。

なので普通に、例えば日本旅行とかそういうところが連れていく娯楽のための旅行ではないあくまでも研修のための旅行でありますので、私ども事務局の職員を２人つけて、そういう職員たちにも勉強もさせたいし、また皆さん一緒に行ってくださる方たちにも研修をしていただきたいということで、今回２人分の旅費をつけさせていただきました。

実は昨年度についても旅費を計上させていただいて、そのときには議会のほうでご承認をいただいたんですが、昨年は国外の情勢がよくないということで中止をしましたので、昨年はそのまま執行しないで、今年度新たに計上させていただいたものでございます。

よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　今までで本当にそういう、今おっしゃったような効果があるんですか。どのくらい大多喜町に外国人観光客がお見えになって、どのようにこの成果が発揮されていると思われますか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　ただいまのご質問ですと、国際交流協会の存続自体が危ぶまれるようなご質問だと思います。

国際交流協会で、じゃ、何人の観光客を呼んだかという話になりますと、そこまでは私どもは把握しておりませんが、長い目で見て当然友好都市等もございますし、そういった中で文化を取り入れたり、また旅行客を誘致すること自体決して悪いことではないということで、大多喜町にとって有効であろうと思われてこの国際交流協会というものが発足しているものでございますので、人数等は把握しておりませんが、それなりの効果はあると私は考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　国際交流ということで、研修を修めて自分が行ってみれば外国人の立場がわかるというのはわかるんですけれども、例えば私なんかが行ってみてフランス語で書かれていたってわからない、でもとりあえず英語で書かれていればわかる。じゃ、大多喜町が、来ている外国人、お見えになった外国人にわかるようなローマ字表示をしてあるとか、だったらわかったりするんですけれども、何にも、日本語のわからない、読めない外国来町者に対しての配慮はちっともないと思うんですよね。

今わざわざ国際交流と行政がやらなくても、今安直に安価でむちゃさえしなければ比較的安全に海外旅行ができるし、そういう方たちに知恵をかりたっていいと思うんです。職員だって個人的にかなり行ってらっしゃると思うんですけれども、これから先、経費削減も考えなければいけないので、この辺も考慮する必要があると思いますがいかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　先ほどのローマ字表示の看板等々についても、大多喜町も全く考えていないわけではなく、同じ企画事務費の中で先ほどちょっとご説明をさせていただきましたが、成田空港の活用協議会のほうに大多喜町も加入いたしまして、今後成田空港を利用される外国人の方も、圏央道等で大多喜町に誘致しようという考えもございます。中

では、その看板のローマ字表示等についても現在検討中でございます。実現できるところからというか、なるべく早目にそのようなことも実現していきたいと考えております。

また、大多喜町の国際交流協会の人たち、会員の皆様を連れていく中で、じゃ、現地の旅行案内人だけでいいよという話では、私ども交際交流協会の事務局としては決していいことではないと思っています。外国での事故等々もある中で、会員だけ、じゃ、向こうの旅行会社に預けて行かせればいいよという話は、私どもはちょっとお任せできない部分がありますので、少なくとも職員を２人、若い職員でございますが一緒に同行して、自分たちの研修も兼ねて行ってほしいという思いがございまして、今回計上させていただいたものでございます。

よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　課長ね、今の議論でちょっと、私は、町が認めた国際交流の関係ですから、それに職員が２人行くということは、最近の事例を見ますと海外でいろんな事故が起きているじゃないですか。それと、起きた場合、まず連絡を密にするとかそういうあれでよろしいんじゃないですかね。研修とか何かいろいろ、なおさら難しい問題になってしまって、いかがですか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　すみません。私がそのように答弁をすればよかったと思います。ありがとうございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　27ページの小学校費です。

小学校管理事務事業の中で、送迎バスが176万9,000円の減額になっております。当初予算では661万5,000円で計上されていて、減額率26パーセントなんです。その理由については伺いました。見積もり合わせでという話でした。大多喜町の当初予算策定のときの計算と業者が出してきた安いのとで、どこに大きな差があったのか伺いたいと思います。

それから、業者さんが出してきたいろんな計算書があると思うんですが、人件費が幾らだとか車両とか燃料費とかそういうのはあるのでしょうか。その中で問題だと思っているのは

人件費だと思うんです。安くどんどん切り捨てられるのは人件費なんですが、どのくらいの人件費、最低賃金からするときちんと最低賃金が守られているのか。あるいはワーキングプアをなくすという意味では、今労働界は最低賃金1,000円にしろと、時間給。そういうことを考えると、やはりこれだけ大きいと心配になります。その辺いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　教育課長。

**○教育課長（加曽利英男君）**　この送迎バスに限らず契約そのものについての労務単価、そういうもののご質問かと思いますけれども、このバスにつきましては、当初町で調査して予算を計上したんですが、それに対しまして３者の見積もり合わせの結果この金額になりまして、金額的には大分下がったということです。

あと、その中で、見積もりの中でどういう構成になっているか、例えば燃料費ですとか賃金ですとか保険料とか、そういうものになっているかということは現在資料がございませんのでお答えできませんけれども、総額幾らということで恐らく見積もりの金額が出ているんではないかなというふうに思います。

あと、時間的なものですけれども、現在町で契約しておりますのは、１日１万9,215円で契約をしておりますが、時間的には朝、バスが２便出まして帰りにまた３便出ます。それぞれ集落センターから西畑小学校までですので、時間的には非常に短い時間ですので、その単価的に直しますと余り低い労務にはならないのではないかなというふうに思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ページ25ページの道路台帳電子化業務事業、これ、多分今紙ベースになっているのを電子化してパソコンに取り込むということだと思うんですけれども、今道路台帳をいろんなことで利用させていただいていて、建物を建てるとか新しくそこに工場とか何とか建てる場合に、道路の関係がどうかということで建設課さんのほうへ行ってその写し等をもらうことがあるんですけれども、これ、なかなかコピーしてもらうことが今難しい状況で、何か聞きますと紙なので保存の関係で傷みやすいとか、なかなかそこまで職員の方が仕事をしていながらその道路台帳、その場所を探すのも結構手間を食うものですから、時間的余裕がないというようなことで、交付していただくことがなかなか難しい場合があるんですけれども、今度電子化されますと、パソコンに取り込まれて、申請すれば誰でも見ることができて交付を受けることができるようになるのか。そういうふうに、ぜひしてもらいたい

と思うんですけれども、その辺はどのようになるんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　建設課長。

**○建設課長（野口　彰君）**　ただいまのご質問でございますけれども、議員さんがおっしゃられたとおり、道路台帳につきましては道路台帳現況平面図道路台帳図がございまして、それを電子化、パソコンで見られるというような状況になるわけでございますけれども、それにつきましては職員は誰でも見られるということになろうかと思います。そのデータにつきましては、最近有料ではございますけれども、住民サービスということで提供をさせていただいているところでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　今の関連で、そうするとそれは今度、住民課の窓口で公図とか地番図とか、今パソコンでとっていると思うんですけれども、それと一緒のような形で交付していただけるということでよろしいんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　建設課長。

**○建設課長（野口　彰君）**　ただいまのご質問でございますけれども、現時点ではそこまでちょっと検討しておりませんので、今後検討させていただきたいと思います。少なくとも建設課では出せるようになると思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ぜひ住民課のあそこの窓口で、そうするといろいろなものが一つでそこでできるものですから。道路台帳の附図だけとるということは余りないと思うんですね。公図とかいろいろなほかの調査物もあるものですから、できれば１カ所で全部済むようにしていただければと思います。よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで、質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから、議案第２号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第２号は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第３号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第２、議案第３号　平成25年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第１号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　ただいま議題となりました議案第３号　平成25年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第１号）につきまして、本文に入ります前に提案理由の説明をいたします。

今回の補正予算でございますが、平成24年度退職医療に係る療養給付費交付金の確定による返還金、人事異動に伴います人件費及び国民健康保険税還付金の補正が主な内容でございます。

それでは、本文に入らさせていただきます。

41ページをお開きいただきたいと存じます。平成25年度大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。第１条第１項、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,085万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ13億5,484万1,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

なお、詳細につきましては事項別明細書によりご説明いたしますので、44ページ、45ページをお開きいただきたいと存じます。

それでは、歳入からご説明を申し上げます。

９款繰入金、１項他会計繰入金、１目一般会計繰入金、補正額178万8,000円の減額でございます。人事異動に伴います人件費の繰入金の減額でございます。

10款繰越金、１項繰越金、２目その他繰越金、補正額1,263万8,000円でございます。前年度からの繰越金でございます。

続きまして、歳出についてご説明をいたします。

１款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費、補正額178万8,000円の減額ですが、人事異動に伴います人件費の減額でございます。

９款諸支出金、１項償還及び還付加算金、１目一般被保険者保険税還付金、補正額120万円の増額ですが、国民健康保険税の還付金の増額によるものでございます。

３目償還金、補正額1,143万8,000円の増額ですが、平成24年度退職医療に係る療養給付費交付金の確定に伴い、返還金が生じたことによる増額でございます。

以上で、大多喜町国民健康保険特別会計補正予算（第１号）の説明を終了させていただきます。

よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

**○議長（小髙芳一君）**　これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで、質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから、議案第３号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第３号は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第４号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第３、議案第４号　平成25年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第１号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　それでは、55ページのほうをお願いしたいと思います。

議案第４号　平成25年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第１号）について、ご説明申し上げます。

本文に入ります前に、提案理由の説明をさせていただきます。

今回の補正内容でございますが、歳入では過年度分介護給付費負担金、一般会計繰入金、前年度繰越金の増額と予算組み替えによる雑入の減額及び負担金の増額であります。また、歳出におきましては、人件費の増額、国県支払基金への前年度精算に伴います返還金の増額でございます。

それでは本文に入らせていただきます。

平成25年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによる。

歳入歳出予算の補正。第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,686万8,000円を追加し、歳入歳出それぞれ10億9,149万2,000円とする。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表　歳入歳出予算補正」による。

それでは、事項別明細書によりご説明申し上げますので、60ページ、61ページをお願いいたします。

まず、歳入からご説明申し上げます。

３款国庫支出金、１項国庫負担金、１目介護給付費負担金、補正額219万1,000円の増額でございます。

４款県支出金、１項県負担金、１目介護給付費県負担金、補正額20万円の増額でございます。

５款支払基金交付金、１項支払基金交付金、１目介護給付費交付金、補正額290万6,000円の増額でございます。

６款繰入金、１項他会計繰入金、１目一般会計繰入金63万8,000円の増額でございます。

７款繰越金、１項繰越金、１目繰越金、補正額2,093万3,000円。

８款諸収入及び９款分担金及び負担金につきましては、予算の組み替えによるものでございます。

歳入は以上でございます。

次に、歳出についてご説明申し上げますので、62ページ、63ページをお願いいたします。

１款総務費、１項総務管理費、１目介護保険関係職員人件費、３節の職員手当等60万3,000円、４節共済費３万5,000円は、人事異動に伴います増額でございます。

５款諸支出金、１項償還金及び還付金、１目償還金及び還付金、23節2,623万円は、国県に対する平成24年度精算に伴う返還金でございます。

以上で、平成25年度大多喜町介護保険特別会計補正予算（第１号）の説明を終わらせていただきます。

よろしくご審議くださいますよう、お願い申し上げます。

**○議長（小髙芳一君）**　これから、質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで、質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから、議案第４号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第４号は原案のとおり可決されました。

審議の途中ですが、ここで10分間休憩します。

（午前１１時０４分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時１８分）

---

**◎議案第５号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第４、議案第５号　平成25年度大多喜町水道事業会計補正予算

（第１号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　それでは、水道事業会計補正予算についてご説明させていただきます。

73ページをお開きください。今回の補正予算の提案理由といたしまして、支出の水道事業費用では、給料等の人事異動に伴う減、企業会計制度改正に伴う例規整備委託の増。また、資本的支出では、大多喜高校敷地内配水管の切り回し工事等の工事請負費増、新面白浄水場地質調査委託等の増減の補正でございます。

それでは、本文に入らせていただきます。議案第５号　平成25年度大多喜町水道事業会計補正予算（第１号）。

総則。第１条、平成25年度大多喜町水道事業会計の補正予算（第１号）は、次に定めるところによる。

収益的収入及び支出。第２条、予算第３条に定めた収益的収入及び支出の予定額を、次のとおり補正する。支出、第１款水道事業費用、補正予定額230万8,000円減、計４億4,565万8,000円。第１項営業費用、補正予定額230万8,000円減、計４億381万9,000円。

資本的収入及び支出。第３条、予算第４条本文括弧中「資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額１億2,507万6,000円は、当年度分損益勘定留保資金１億2,507万6,000円にて補てんするものとする。」を「資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額１億4,168万4,000円は、過年度分損益勘定留保資金50万1,000円、当年度分損益勘定留保資金１億4,118万3,000円にて補てんするものとする。」に改め、資本的収入及び支出の予定額を次のとおり補正する。支出、第１款資本的支出、補正予定額1,660万8,000円増、計２億1,479万4,000円。第１項建設改良費、補正予定額1,660万8,000円増、計１億1,094万8,000円。

議会の議決を経なければ流用することができない経費。第４条、予算第７条中「6,370万5,000円」を「5,990万1,000円」に改める。

明細につきましては、水道事業会計補正予算積算基礎資料によりご説明をさせていただきます。

76ページ、77ページをお開きください。

収益的収入及び支出ですが、款１水道事業費用、項１営業費用、目１原水及び浄水費、補正予定額48万円減、計２億1,165万8,000円。これは、職員の人事異動による給料・手当等の

増減と浄水場施設内のチャート紙、インク、精製水等消耗品の購入に伴う増でございます。

目２配水及び給水費、補正予定額12万7,000円増、計2,956万4,000円。これは、実績増による扶養手当、共済費等の増でございます。目３総係費、補正予定額195万5,000円減、計4,747万3,000円。これは、職員の人事異動による給料・手当等の減と、プリンター用インク等消耗品の購入、水道事業会計制度改正に伴う例規整備の委託料でございます。

80ページ、81ページをお開きください。

次に、資本的収入及び支出でございますが、款１資本的支出、項１建設改良費、目３配水施設費、補正予定額1,410万8,000円増、計4,204万6,000円。これは、職員の共済費及び大多喜高校敷地内の配水管切り回し、鍛冶住宅１号線舗装の本復旧、森宮地先配水管布設替工事に伴う増でございます。

目４固定資産取得費、補正予定額50万円増、計342万9,000円。これは、水道施設点検、中古車両１台の購入費でございます。

目５施設拡張費、補正予定額200万円増、計6,337万3,000円。これは、新面白浄水場用地の地質調査２カ所分の委託に伴う増でございます。

75ページ、79ページの補正予算実施計画、82ページから89ページまでの給与明細書は、記載のとおりでございますので割愛をさせていただきます。

以上で、説明を終わります。

よろしくご審議のほど、お願いを申し上げます。

**○議長（小髙芳一君）**　これから、質疑を行います。

質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　２点あります。81ページです。

工事請負費、配管布設替工事、場所はどこでしょうか。

もう一つ、面白浄水場の地質調査委託料。この地質調査をする理由についてご説明ください。

以上、２点です。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　81ページの配水管布設替工事の場所ということでございます。大多喜高校敷地内配水管切り回し工事ということで、大多喜高校の敷地内が一つでございます。続きまして、鍛冶住宅１号線の舗装の本復旧工事でございます。３つ目が、森宮地先の

神保電器さんのほうに向かった山側の道のほうですけれども、そちらのほうの配水管の布設替工事。この３カ所が、工事請負費でございます。

それと、新面白浄水場のほうの地質調査の関係ですけれども、過去に３カ所ほどボーリング調査を行っております。ただ、浄水場の施設自体が、新しいものにつきましてはいろんな施設ができます。例えば沈澱池、浄水槽、配水池、ポンプ室、そういったものが１カ所に固まります。そんな中で３カ所ボーリングをやったんですけれども、やはりコンクリート造の施設が多いものですから、そこの地質調査を再度２カ所ふやしてやっていこうというものでございます。ということは、今までやったものの中で地質的に岩盤に到着するのは非常に厳しいところがございましたので、その辺の施設を設置するためには調査をしっかりやっていこうということで、今回計上をさせていただきました。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで、質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから、議案第５号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第５号は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第６号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第５、議案第６号　平成25年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第２号）を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

特別養護老人ホーム所長。

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　それでは、議案つづり第６号の91ページをお開きいただきたいと思います。

議案第６号　平成25年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第２号）でございます。

本文に入る前に、提案理由を説明させていただきます。主に４月の人事異動による人件費の減額でございます。

それでは、本文に入らせていただきます。

総則。第１条、平成25年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計の補正予算（第２号）は、次に定めるところによる。

収益的収入及び支出。第２条、予算第３条に定めた収益的収入及び支出の予定額を、次のとおり補正する。

支出。科目、第１款特別養護老人ホーム事業費用、補正予定額472万1,000円の減額、計２億9,975万1,000円。科目第１項営業費用、補正予定額472万1,000円の減額、計２億9,825万円。

議会の議決を経なければ流用することができない経費。第３条、予算第７条中「２億2,594万3,000円」を「２億2,116万8,000円」に改める。

詳細につきましては積算資料にて説明いたしますので、94ページ、95ページをお開きいただきたいと思います。

説明いたします。支出でございます。

第１款第１項第１目総務管理費、補正予定額472万1,000円の減額。第２節給料242万9,000円の減額。第３節手当187万2,000円の減額。第４節法定福利費47万4,000円の減額。いずれも、４月の人事異動に伴う減額補正でございます。第13節通信運搬費５万4,000円の増額。入所者通院時などに、施設と病院に同行する看護師との連絡をするための携帯電話通話料の補正です。

以上で、大多喜町特別養護老人ホーム事業会計補正予算の説明を終わらせていただきます。

ご承認くださいますよう、よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　これから、質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　人件費の減なんですけれども、この件については人員が減ったという

ことの減で、それとも職員の身分的なあれで結局減になったのか、それをちょっとお答え願いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　特別養護老人ホーム所長。

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　職員の数が減ったということも確かにあります。介護士が１人、ことしの１月に退職したということと、あと看護師さんが退職しまして、１人新しい人が、若い方が就職したわけですけれども、その差額の２点でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　そうしますと看護師については１名減ということなんですけれども、これを補充という形でまた募集か何かするわけですか。

**○議長（小髙芳一君）**　特別養護老人ホーム所長。

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　不足しているわけではございません。30年選手といいますか、長年やった方が退職しまして、新たに若い方が入ったと。その人件費の差額でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに、質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで、質疑を終わります。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから、議案第６号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第６号は原案のとおり可決されました。

---

**◎認定第１号から認定第７号の一括上程、説明**

**○議長（小髙芳一君）**　日程第６、認定第１号　平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定についてから、日程第12、認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計

剰余金の処分及び決算認定についてまでの各会計の決算認定を、一括議題とします。

なお、本決算認定については、日程にお示しをしたとおり、本日は提案説明、及び決算審査の報告までとします。

これより、順次説明を求めます。

最初に認定第１号　平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定について説明願います。

企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　ただいま議題となりました、認定第１号　平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定について提案をさせていただきます。

初めに、お手元にお配りしてございます薄いほうの印刷物、平成24年度主要施策の成果説明書からご説明いたします。

１ページをお開きください。

本表は、一般会計及び４特別会計のここ３年間の収支状況を一覧にしたものでございます。各会計の収支状況につきましてはこの後個々の会計でご説明をいたしますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長、座って説明をすることを許可します。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　ありがとうございます。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、座って説明をさせていただきます。

次に、２ページをごらんください。

この表は普通会計、本町では一般会計、鉄道経営対策事業基金特別会計の２会計を合わせた会計になりますが、地方財政状況調査に基づき、前年度決算額との比較、分析をした財政状況指標をあらわしたものでございます。

まず、歳入状況でございますが、平成24年度の歳入合計で50億5,208万円でございます。平成24年度は平成23年度と比較し、１項の町税の落ち込みもありますが、９項の地方特例交付金、10項の地方交付税、16項の財産収入、20項の諸収入の落ち込みが大きくなっております。結果として、前年度より５億4,698万1,000円の減額となり、対前年比9.8パーセントの減となっております。

減の主な要因は、一般会計では庁舎建設事業及び繰越事業の西畑小学校屋内運動場建設事業等の完成に伴う交付金の減であります。また、鉄道経営対策事業基金特別会計では、更新車両を平成23年度２両から平成24年度は１両としたことに伴い、基金から繰り入れするいすみ鉄道車両更新等交付金の減額によるものでございます。

減額の個々の内容ですが、平成23年度の財産収入は、城見ヶ丘団地３区画の売り払い収入があり、諸収入は、平成23年度は毎年交付されている市町村振興宝くじ交付金の通常分に追加交付があり、東日本大震災を教訓とした災害対策及び災害の予防に係る事業に充てる分として、例年以上に交付されていたため多額となっていたものでございます。さらに、項14国庫支出金の減は、平成23年度に完成した西畑小学校屋内運動場建設事業等の繰越事業、庁舎建設に係る交付金等が減になったことにより減額となっております。項18繰入金の減額も、庁舎建設事業等の完成に伴う庁舎建設基金繰入金の減額であります。

増については減との相殺により隠れてしまっておりますが、その要因は、一般会計では繰越事業の暗渠排水工事、また養老渓谷観光センターや基幹集落センターの耐震改修工事、大多喜小学校屋内運動場耐震補強大規模改造工事、及び中央公民館ホール棟の耐震補強増築工事の事業費の増であり、交付金、補助金の増減を相殺し、町債を増額しても結果的に減となったものであります。

次に、右の表の歳出状況でございますが、平成24年度歳出総額47億1,200万7,000円でございます。平成24年度は平成23年度と比較し、３項公債費、４項物件費、６項補助費等及び８項積立金、10項普通建設事業費の単独事業などの歳出が抑えられ、人件費を含みほぼ全てが減額となっております。

そのような中、増となっている主なものは、７項繰出金、10項普通建設事業費の補助事業などで、全体で前年度と比較し５億5,623万3,000円の減で、対前年比10.6パーセントの減となっております。減の要因の中でも６項の補助費等は、いすみ鉄道車両更新等交付金などの減額に伴うものであります。また、８項の積立金については、平成23年度に臨時的に交付された地域活性化交付金を活用したため多く基金に積み立てることができましたが、平成24年度には交付されず、結果的に積立金が減となりました。さらに、10項の普通建設事業費、単独事業の減は、庁舎建設事業の完成に伴うものであり、同単独事業の中では相殺されている増は繰越事業の暗渠排水工事、大多喜小学校屋内運動場耐震補強大規模改造工事、中央公民館耐震補強工事等であります。

次の３ページをごらんください。

本表は、一般会計決算の性質別歳入歳出状況で、平成23年度決算との比較をしたものでございます。この表の内訳につきましては後ほどご説明いたしますので、一番下の合計欄のみの説明とさせていただきます。

まず、平成24年度の歳入決算額合計は50億1,253万5,000円で、対前年比５億1,059万9,000

円の減、率にして9.2パーセントの減となっております。次に、右の表の歳出決算額合計でありますが、46億7,246万2,000円で、対前年比５億1,985万1,000円の減、率で10パーセントの減となっております。

次の４ページをお開きください。

本表は、平成24年度の主要施策の一覧表であり、主な事業内容を列記したものであります。後日開催予定の常任委員会協議会の中で説明をさせていただきますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

次に、６ページをお開きください。

本表は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、地方公共団体の財政の健全化に関する比率を算出し、これを議会に報告するとともに公表することとされております。また、当該比率に応じて財政の早期健全化や財政再建計画の策定をすることなどがこの法律の中で定められており、地方公共団体の財政の健全化を図るための指標となるものでございます。

それでは、①から④までの各比率についてご説明いたしますが、表の右側に早期健全化の基準、財政再建基準をお示ししてございますので、各数値とあわせてごらんください。

まず、①の実質赤字比率は、普通会計における赤字額の標準財政規模に占める割合を示すものでありますが、本表は赤字がありませんので数値はありません。

②の連結実質赤字比率は、一般会計、各特別会計及び企業会計等の全ての会計を合わせた赤字額が標準財政規模に占める割合を示したものでありますが、本町はいずれの会計も赤字額がありませんので、平成19年度から引き続き比率の算出はされておりません。

次に③の実質公債費比率でありますが、これはその年の標準財政規模に対する一般会計、特別会計などが負担する元利償還金等の額の比率を示すもので、平成24年度比率は8.3パーセントとなっております。この比率が25パーセント以上となると財政健全化計画の策定が求められ、35パーセント以上となった場合は財政再建計画の策定が求められることになります。

次に、④の将来負担比率でありますが、平成24年度比率は80.6パーセントとなっております。この指標は、標準財政規模に対する一般会計等が将来負担すべき実質的な負担見込み額との比率であり、町のトータルの借金額を標準財政規模と比べ、その借金額が町にとってどれだけ重みのある借金額なのかを見るための比率となります。指標的にはまだ余裕のある数値となっております。なお、この比率が350パーセント以上となると、早期健全化を要する団体として位置づけをされることとなります。

まとめといたしましては、本町の財政状況は、財政健全化指標を見た限りでは健全の範囲にあると言えます。

次の７ページ以降は、各会計での予算科目ごとの主要施策成果及び実績の説明となりますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

次に、財産に関する調書についてご説明をいたしますので、厚いほうの決算書をお願いいたします。

決算書256、257ページをお開きください。

ここでの説明は決算年度中に増減のあったもののみの説明とさせていただきます。

１公有財産、（１）土地及び建物であります。土地について、平成24年度中に変更のあったものは、その他3,039平方メートルの増であります。これは、船子地先にバスターミナル利用者駐車場用地として2,948平方メートルの雑種地を買収したもの、及び弥喜用地先の防火水槽用地として寄附のあった土地91平方メートルであります。次に、建物でありますが、木造公共用財産その他施設114平方メートルの増は、大多喜町養老渓谷観光センターの建設に伴う増であります。非木造公共用財産その他の施設50平方メートルの増は、大多喜町中央公民館ホール棟の増築分であります。

下の表、（２）山林でありますが、決算年度中の面積移動はございません。立木の推定蓄積量といたしまして、決算年度中の移動が968立方メートル、決算年度末合計で４万9,989立方メートルとなります。ここでの増分は、立木の推計量でございます。

次に、258ページをお開きください。

（３）の有価証券でありますが、いすみ鉄道、みずほホールディングス、有限会社たけゆらの里など６社の株券で、決算年度中の移動はなく、決算年度末現在高7,630万6,000円となっております。

次に、（４）出資による権利ですが、県畜産協会ほか14件への出資状況となり、平成24年度は南房総広域水道企業団への出資金1,581万9,000円の決算年度中の移動のみで、決算年度末現在高は４億598万9,000円となります。

次に、259ページから260ページにかけての２物品ですが、区分自動車、庁用乗用車バン含みですが１台増であり、子育て支援課に新規購入し配置いたしました。また、配置しました１台分でございます。また、増減で隠れてしまっておりますが、建設課の公用車が１台廃車、１台新規購入であります。音響設備の増につきましては、利用者から要望の多かった中央公民館ホール棟の音響セットの新規購入であります。

次に、261ページ、３の基金でありますが、基金につきましては区分欄記載の21基金であり、決算年度中の増減は基金の積み増しあるいは基金の取り崩しがあった場合の移動であります。基金の積み増しは、土地開発基金の不動産、東日本大震災復興基金が主なものであり、取り崩しは鉄道経営対策事業基金、また福祉基金、土地開発基金が主な内容であります。決算年度末現在高は、21基金合わせまして24億2,350万1,000円となります。

以上で、平成24年度の主要施策の成果、財政の健全化に対する法律の指標報告、及び財産に関する調書の説明とさせていただきます。

次に、平成24年度大多喜町決算書についてご説明をいたします。厚いほうの大多喜町決算書をごらんください。

２ページ、３ページをお開きください。

平成24年度大多喜町歳入歳出決算会計別総括表でございます。一般会計及び４つの特別会計につきましては、後ほど会計別に説明をさせていただきますので、ここでは合計額のみをご報告いたします。

まず、１の歳入でございますが、５つの会計の合計額で予算現額は76億1,097万2,000円、調定額は78億6,295万1,992円。隣の３ページになりますが、収入済額は75億9,145万5,835円、不納欠損額は4,215万487円、収入未済額は２億2,934万5,670円でございます。

次に、２の歳出でございますが、同じく５つの会計の合計額で申し上げますと、予算現額は76億1,097万2,000円、支出済額は70億6,772万8,883円、翌年度繰越額は２億7,978万5,000円、不用額は２億6,345万8,117円でございます。

以上が、平成24年度における５会計の歳入歳出の総括状況でございます。

次に、一般会計歳入歳出決算について事項別明細書によりご説明をいたしますので、18、19ページをお開きください。

まず、歳入でございます。金額につきましては、右ページの調定額から収入済額、不納欠損額、収入未済額の順に読み上げます。

款１町税は、調定額12億7,705万8,071円、収入済額11億2,831万9,524円、不納欠損額3,819万9,387円、収入未済額１億1,053万9,160円であり、収納率は88.4パーセントであります。

このうち、項１徴税費の個人、法人を合わせた調定額は４億7,536万3,918円、収入済額４億4,303万7,747円、不納欠損額198万1,787円、収入未済額3,034万4,384円、収納率は93.2パーセントであります。

次に、項２固定資産税につきましては、目２の国有資産等所在市町村交付金と合わせた調定額が６億4,875万4,798円、収入済額５億6,929万9,822円、不納欠損額356万4,600円、収入未済額7,589万376円、収納率は87.8パーセントであります。

項３軽自動車税でございますが、調定額は2,745万9,800円、収入済額2,542万1,400円、不納欠損額14万4,800円、収入未済額189万3,600円、収納率は92.6パーセントであります。

次に、項４たばこ税でございますが、調定額及び収入済額は同額の8,221万1,805円、収納率100パーセントであります。

項５鉱産税でございますが、これも調定額及び収入済額同額の290万7,000円、収納率100パーセントでございます。

項６特別土地保有税でございますが、調定額は3,544万400円、収入済額52万1,400円、不納欠損額3,250万8,200円、収入未済額は241万800円で、収納率は1.5パーセントであります。

項７入湯税でございますが、調定額及び収入済額同額の492万350円、収納率100パーセントでございます。

次に、款２地方譲与税でございますが、調定額、収入済額は同額の6,447万7,000円でございます。

このうち、項１地方揮発油譲与税は、調定額、収入済額は同額の1,917万5,000円であります。

項２自動車重量譲与税も調定額、収入済額は同額で4,530万2,000円であります。

次の款３利子割交付金でございますが、調定額、収入済額同額の179万5,000円であります。

20、21ページをお開きください。

款４配当割交付金は、調定額、収入済額は同額の201万4,000円となっております。

款５株式等譲渡所得割交付金の調定額、収入済額は同額で58万5,000円であります。

款６地方消費税交付金の調定額、収入済額も同額の１億836万7,000円であります。

款７ゴルフ場利用税交付金でございますが、調定額、収入済額は同額で１億1,264万1,143円でございます。

款８自動車取得税交付金の調定額、収入済額は同額の1,833万9,000円でございます。

款９地方特例交付金でございますが、調定額、収入済額同額の219万9,000円でございます。

款10地方交付税の調定額、収入済額は同額の17億521万8,000円でございます。

普通交付税、特別交付税の内訳は備考欄にありますが、普通交付税15億5,884万2,000円、特別交付税１億3,921万1,000円、震災復興特別交付金716万5,000円であります。

22、23ページをお開きください。

款11交通安全対策特別交付金の調定額、収入済額は同額の219万3,000円であります。

款12分担金及び負担金でありますが、調定額が１億6,991万9,568円、収入済額１億6,356万8,081円、不納欠損額ゼロ円、収入未済額635万1,487円、収納率は96.3パーセントでございます。

項１負担金も同額でございます。内容につきましては、目１の民生費負担金から次のページの目６災害復旧事業費負担金まで、それぞれの事務事業実施に伴う受益者負担あるいは関係団体の負担金であります。

24、25ページをお開きください。

款13使用料及び手数料でございますが、調定額9,050万2,130円であり、収入済額8,775万6,880円、不納欠損額ゼロ円、収入未済額274万5,250円、収納率は97パーセントでございます。

項１の使用料は、目１衛生費使用料から目６教育使用料まで施設などの使用料でございます。合計で申し上げますと、調定額6,495万7,554円、収入済額6,225万6,344円、不納欠損額ゼロ円、収入未済額270万1,210円、収納率は95.8パーセントでございます。

26、27ページをお開きください。

**○議長（小髙芳一君）**　決算の説明の途中ですけれども、ここでしばらく休憩をします。

この間に昼食をお願いし、午後は１時から会議を再開します。

（午後　零時００分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　１時００分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　一般会計の決算説明の前に、先ほど特別養護老人ホーム所長から答弁について訂正がありますのでお聞き願います。

特別養護老人ホーム所長。

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　少しお時間をいただきたいと思います。

先ほど、吉野議員さんの質問の中で、職員が減員したのかどうかという質問の中で、私ちょっと答えを訂正させていただきたいと思います。

職員の数につきましては減員はありません。介護士も看護師も何年か勤めた方と新しく入

った人の人件費の差額でございます。

（「やめたってことを言ったよね」の声あり）

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　看護師については、そのまま人数は変わらないんですけれども、介護士については１人減員になったということでちょっとお話ししたんですけれども、私の勘違いで、介護士も４月から新しい方が入ったということで、古い方と新しい方の給与の差額だということでご訂正お願いしたいと思います。

（「はい、了解」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　一般会計の決算説明を続けます。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　引き続き、座って説明をさせていただきます。

26、27ページになります。

項２手数料については、目１総務手数料から目５土木手数料まで合計で申し上げますと、調定額2,554万5,476円でございます。収入済額2,550万536円、不納欠損額ゼロ円、収入未済額４万4,040円、収納率は99.8パーセントでございます。内訳は備考欄記載のとおり各種手数料であります。

款14国庫支出金は、全体の調定額、収入済額は同額で３億4,081万7,880円でございます。

項１国庫負担金でありますが、調定額、収入済額は同額の１億5,757万4,404円でございます。内容でありますが、目１民生費国庫負担金から、次のページの目２公共土木施設災害復旧費国庫負担金まで、それぞれの事業に係る国からの負担金収入であります。

28、29ページお開きください。

項２国庫補助金は、調定額、収入済額、同額の１億8,009万4,000円であります。内容は、目１民生費国庫補助金から、次のページの目６総務費国庫補助金までの各種事務事業に対する国からの補助金であります。中でも大きなものは、目３土木費国庫補助金、節２住宅建築物安全ストック形成事業費補助金で、中央公民館ホールの耐震補強工事に対する補助であります。

また、目４教育費国庫補助金、節４学校施設環境改善交付金は、大多喜小学校屋内運動場耐震補強大規模改造工事対する補助でございまして、こちらも大きなものとなっております。

さらに、次のページの目５農林水産業費国庫補助金、節２農業体質強化基盤整備促進事業補助金は繰越事業で、国の補正予算において急遽事業化した暗渠排水事業66.6ヘクタールに対する国庫補助金であり、こちらも多額となっております。

30、31ページの中段でありますが、項３国庫委託金は、調定額、収入済額は同額の314万

9,476円でございます。内容でございますが、目１の総務費委託金から目２民生費委託金まで、それぞれ国の事務事業に係る委託金収入であります。

次に、款15県支出金でございますが、調定額、収入済額、同額の３億43万226円でございます。

項１県負担金は、調定額、収入済額、同額の１億2,607万1,478円でございます。内容でございますが、目１の総務費県負担金から次のページの目４教育費県負担金まで事務事業に対する県からの負担金収入であります。

32、33ページ中段であります、項２国県補助金でありますが、調定額、収入済額、同額の１億646万6,063円でございます。

目１総務費県補助金から、３枚ほどめくっていただきまして、38、39ページ下のほうになりますが、目９農林水産施設災害復旧費補助金まで各種事務事業に係る県からの補助金であります。

38、39ページの下段でなります、項３国県委託金は、調定額、収入済額、同額で6,789万2,685円でございます。内容は、目１の総務費委託金から、次のページの40、41ページにわたりますが、目５消防費委託金まで各事務事業に係る県からの委託金であります。

40、41ページをお開きください。

款16財産収入でありますが、調定額、収入済額、同額で3,351万6,857円でございます。

項１財産運用収入は、調定額、収入済額、同額の1,651万5,849円であります。

目１財産貸付収入は、普通財産であります自動車学校用地等土地建物の貸付収入及び町が設置した光ファイバーをＮＴＴに貸し付けた貸付収入、目２の利子及び配当金は、所有している株の配当金であります。

項２財産売払収入についても、調定額、収入済額、同額の1,700万1,008円であります。内容は、下大多喜分譲地売払収入等であります。

款17寄附金の調定額、収入済額は同額で60万546円でございます。

42、43ページをお開きください。

寄附金の内容は、千葉夷隅ゴルフクラブ等からの一般寄附金や、ふるさとづくり寄附金、教育費寄附金の指定寄附金であります。

款18繰入金でございますが、これも調定額、収入済額、同額の3,181万7,813円でございます。

項１基金繰入金でありますが、調定額、収入済額、同額の3,167万9,000円であります。内

容でありますが、目２の交通災害共済基金繰入金から目11東日本大震災復興基金繰入金にかけまして、それぞれの目的事業に充当するための各種基金からの繰入金でございます。

項２の特別会計繰入金でありますが、調定額、収入済額、同額で13万8,813円でございます。これは国民健康保険の前年度分の精算に伴う繰入金であります。

44、45ページをお開きください。

款19繰越金でございますが、調定額、収入済額、同額の３億3,082万846円で、前年度からの繰越金及び平成23年度繰越明許分の繰越金でございます。

款20雑収入でございますが、調定額7,747万9,905円、収入済額7,495万7,840円、不納欠損額ゼロ円、収入未済額252万2,065円、収納率96.7パーセントでございます。

内容について申し上げますと、項１延滞金加算金及び過料は、調定額、収入済額、同額の14万4,745円で内容は延滞金であります。

項２受託事業収入は、調定額、収入済額、同額の198万5,637円で後期高齢者医療広域連合受託事業収入であります。

項３雑入は、調定額7,534万9,523円、収入済額7,282万7,458円、収入未済額252万2,065円、収納率96.7パーセントであります。目３雑入でありますが、その内容は48、49ページまでの備考欄に記載のとおりでございます。中でも大きなものは、47ページ上段です。47ページ上段の地域海洋センター修繕助成金、また、49ページ中段になりますが、市町村振興宝くじ交付金及び新市町村振興宝くじ交付金、やや下の後期高齢者医療給付費負担金返還金であります。

次に、48、49ページをごらんください。

款21町債でございますが、調定額、収入済額、同額の５億210万円でございます。

項１町債ですが、目１総務債から、次のページの目７災害復旧債まで各種事業の実施に係る財源に充当する起債であります。

以上、歳入合計でございますが、予算現額計で50億7,194万5,000円でございます。調定額は51億7,289万1,985円、収入済額50億1,253万4,636円、不納欠損額3,819万9,387円、収入未済額１億2,215万7,962円でございます。

以上が一般会計の歳入決算の状況であります。

52、53ページお開きください。続きまして、歳出でございます。

支出済額を中心にご説明申し上げますが、節欄及び備考欄につきましては、概要のみの説明とさせていただきますのでご了承ください。

款１議会費、支出済額は8,631万9,235円でございます。内容につきましては、町議会議員12人の報酬や事務局職員３人分の人件費、議会活動に要する事務的経費、また、会議録作成委託料、県郡町村議会議長会負担金、政務調査費補助金や各関係機関への負担金等でございます。

款２総務費でございますが、支出済額は７億2,958万1,770円でございます。

項１総務管理費の支出済額は５億7,619万6,190円でございます。

目１一般管理費は、58、59ページにわたりますが、区長63人分の報酬や常勤特別職２人、一般職27人分の人件費と役場全体に及ぶ事務管理経費や機械器具の保守管理、事務機器の使用料、事務機器等の備品購入費、各種団体への負担金、補助金などであります。

58、59ページであります。

目２文書広報費は、備考欄に記載のとおりでありますが、主なものを申し上げますと、文書管理事業の消耗品費、例規集、データ更新等に係る業務委託料、また、「広報おおたき」発行事業の「広報おおたき」５万400部の印刷製本費及びホームページ業務委託料等であります。ホームページのアクセス数は26万5,209件でございました。

目３財政管理費は、予算書決算書の印刷製本費、財務会計システム用のパソコンソフト保守委託料、及びソフトの借り上げ料が主なものでございます。

目４会計管理費は、次のページにわたりますが、会計室における出納事務管理経費であります。

60、61ページをお開きください。

目５財産管理費は、62、63ページにわたりますが、主なものは公有財産管理事業では、町有建物及び消防車を含む公用車の保険料であり、庁舎管理費は庁舎管理のための光熱水費、各種保守委託料等であります。その他、次のページの町有林の維持管理経費及び減債基金積立金であります。

62、63ページになりますが、目６企画費は、企画関係事務費の夷隅郡市広域市町村圏事務組合負担金、定住化対策事業の下大多喜地区、水道拡張事業に伴う水道事業会計への拠出金、次のページになりますが、地域情報通信基盤維持管理事業すなわち光ファイバー網の保守経費、また、大多喜ダム対策事業では、中止となった大多喜ダム跡地の草刈り、植栽に対する沢山川周辺区域環境管理事業補助金、いすみ鉄道対策事業では、次のページにわたりますが、老川方面４路線及び一宮線のバス路線の補助をしている地方バス路線対策補助金、いすみ鉄道の下部を補助するいすみ鉄道基盤維持補助金、鉄道輸送対策事業費補助金、さらに東日本

大震災復興基金積立金などが大きなものであります。

66、67ページ中段よりやや下であります。

目７電子計算費は、次のページにわたりますが、町のコンピューター業務に係る経費であり、電子計算機器の保守委託やデータ出力委託料、また、電子計算機のリース料が主なものでございます。

68、69ページになります。

目８諸費の主な内容を申し上げますと、町に管理責任がある事故が発生した場合の総合賠償保険事業や交通安全対策事務費では、防犯灯1,164基の電気料金に対する補助金を初め、交通安全協会や防犯組合連合会への補助金などでございます。

各種還付費でございますが、障害者医療費国庫負担金の返還、障害者自立支援給付費等国庫負担金補助金の返還でございます。

項２徴税費の支出済額は8,573万7,176円でございます。

目１税務総務費は、次のページにわたりますが、税務職員10人分の人件費と税務事務管理費、たばこ税増収対策補助金、青色申告会活動補助金等が主な内容であります。

70、71ページの中段になります。

目２賦課徴収費の賦課事務費は、評価額算定のための不動産鑑定やパソコンの保守点検委託料、借り上げ料、住民税電子申告サービスの設定及び利用料等が主な内容でございます。

徴収事務費は次のページにわたりますが、コンビニ収納導入委託料等徴収に関する経費であります。また、地図情報システム管理事業は、地図及び地図情報のデータ修正委託料が主な内容であります。

72、73ページ中ほどから次のページにわたりますが、項３戸籍住民基本台帳の支出済額は3,981万5,330円でございます。職員４人分の人件費や出張所の臨時職員２人分の賃金、本庁及び老川西畑出張所の窓口業務の運営に係る経費等でございます。中でも、戸籍事務費の戸籍電子化システム委託料及び借り上げ料、次のページの住民基本台帳ネットワークシステム事業のパソコン借り上げ料が大きな支出となっております。

74、75ページになりますが、項４選挙費、支出済額は1,813万7,445円でございます。

目１選挙管理委員会費は、選挙管理委員会の定時開催等による委員報酬４人分、その他事務的管理経費及び団体の負担金であります。

目２大多喜町議会議員選挙費は、次のページにわたりますが、平成25年１月20日執行の選挙経費であります。

76、77ページをお開きください。

目３千葉県知事選挙費は、平成25年３月17日執行の選挙経費であります。

目６衆議院議員選挙費は、次のページにわたりますが、平成24年12月16日執行の選挙経費であります。

78、79ページをお開きください。

項５統計調査費の支出済額は928万4,605円でございます。これは、教育統計調査、人口調査、経済センサス活動調査等に係る職員１人分の人件費のほか、統計調査員５人への報酬や事務的経費及び各種団体等への負担金であります。

項６監査委員費は、次の80、81ページにわたりますが、支出済額は41万1,024円でございます。各種監査等に伴う監査委員２人分の報酬、事務経費であります。

80、81ページをお開きください。

款３民生費、支出済額は11億4,380万2,588円でございます。

項１社会福祉費の支出済額は６億9,413万2,154円でございます。

目１社会福祉総務費は、次のページにわたりますが、内容として大きなものは、職員５人分の人件費のほか、地域生活支援事業委託料13施設分、民生委員児童委員活動報酬33人分、また、障害者福祉、町社会福祉協議会等の社会福祉関係団体への負担金、補助金等の各種補助金や、一般会計から国保特別会計へ繰出金、その他少子化対策事業は39人分の出産祝い金でございます。

82、83ページであります。

目２国民年金費は、次のページにわたりますが、職員１人分の人件費のほか、国民年金事務の執行に関する経費であります。国民年金の被保険者は2,086人でございます。

84、85ページであります。

目３老人福祉費の内訳でありますが、高齢者在宅生活支援事業では、55人が利用する緊急通報システム業務や282人が利用した外出支援サービス委託料が主な支出であります。敬老祝い事業の褒賞費は119人分の敬老祝い金や270個の祝い品でございます。その他、老人クラブ活動に対する補助金や高齢者の生きがいと健康づくり推進事業補助金、地域ボランティア事業補助金等であります。

目４青少年助成対策は、次のページにわたりますが、青少年相談員25人分の報酬及び活動に係る経費や負担金、補助金であります。

86、87ページをお開きください。

目５介護保険事業費は、介護保険事業の推進に係る経費であり、介護保険特別会計繰出金は一般会計から介護保険特別会計への繰出金でございます。地域包括支援センター運営事業の主な支出は、要支援者のケアプラン作成業務であります。

目６後期高齢者医療費は、次のページにわたりますが、人間ドック経費補助金や後期高齢者医療広域連合負担金、後期高齢者医療事務に係る療養給付費及び一般会計からの特別会計繰出金でございます。

88、89ページをお開きください。

項２児童福祉費の支出済額は４億4,967万434円でございます。

目１児童福祉総務費の内訳は、職員４人分の人件費のほか扶助費が主なものであり、その内容は乳幼児医療費や児童医療費等でございます。

目２児童措置費の主な内容は、扶助費の子ども手当及び児童手当で、その他支給事務に要した経費でございます。

90、91ページをお開きください。

目３母子福祉費は、ひとり親家庭等、医療費等、通院及び調剤の延べ366件の助成金であります。

目４児童福祉施設費は、92、93ページにわたりますが、２保育園の関係職員26人分の人件費や、保育園管理運営事業は保育園嘱託医６人分の報酬、臨時保育士14人、臨時調理員２人分の賃金のほか、保育園児225人の保育に係る消耗品、光熱水費及び給食用賄い材料費、並びに保育園運営に係る各種手数料、２保育園の警備や設備の保守点検を初め、清掃管理業務等の委託料、園外保育委託料、さらに、園児の送迎バス委託料、その他、つぐみの森保育園用地借地料等でございます。休日保育や一時保育についても経費に含まれております。

92、93ページをお開きください。

児童クラブ運営事業は、放課後に小学校１年生から３年生までの児童を預かる事業で、希望児童77人の児童クラブの運営経費であります。臨時職員10人分の人件費やおやつ等の賄い費、児童クラブ入所者送迎車両借り上げ料等であります。また、地域子育て支援センター運営事業は、みつば保育園内に設置してあるセンターで、職員１人、臨時保育士１人が入園前の児童の子育て相談や情報交換、保護者のコミュニティづくりの場として活動する経費であります。

款４衛生費の支出済額は４億8,235万430円でございます。

項１保健衛生費の支出済額は２億4,473万7,190円でございます。

目１保健衛生総務費は、次のページにわたりますが、環境水道課職員６人分の人件費のほか、国保国吉病院負担金が主なもので、そのほか亀田医療大学施設整備事業補助金や関係団体の負担金であります。

94、95ページをお開きください。

目２予防費は、次のページにわたりますが、4,778人が受診したがん検診、予防接種、98回実施した健康づくり教室の健康増進事業などの経費であり、予防接種医及び保健事業協力医の報酬のほか、住民健診等の看護師や健康コーディネーターの雇用賃金、各種検診に当たり必要な消耗品、医療材料費、予防接種ワクチンの費用、また、315人が受診した健康診査及びがん検診並びに健康管理システムソフト関係の委託料、各種ワクチン接種の助成等であります。

96、97ページをお開きください。

目３環境衛生費は、産業廃棄物不法投棄の監視や合併浄化槽の設置整備、環境衛生関係の費用であります。内訳は98、99ページまでわたりますが、職員３人分の人件費のほか、環境対策審議委員４人分の報酬及び夷隅環境衛生組合負担金、不法投棄監視員９人分の報酬、合併浄化槽設置19基分の補助金が主な内容でございます。

目４母子保健事業は、次のページにわたりますが、母子保健事業の運営に係る協力医２人分の報酬や健康診査に当たり必要な消耗品や健康診査の委託料でございます。

100、101ページをお開きください。

目５火葬場費は、４人運営委員会の報酬のほか、火葬場の燃料費、施設修繕料及び管理経費並びに設備の点検管理、火葬炉運転業務などの委託料、また、火葬炉改修工事が主なものであります。

目６地域し尿処理施設管理費は、次のページにわたりますが、船子城見ヶ丘団地内にあり、52戸が利用するし尿の集中処理施設コミュニティプラントの維持管理経費であります。

102、103ページをお開きください。

項２清掃費の支出済額は１億3,994万1,240円でございます。

目１清掃総務費は、環境センター４人分の人件費、臨時職員１人分の賃金、夷隅郡市広域市町村圏事務組合負担金が主な内容でございます。

目２塵芥処理費は、104、105ページにわたりますが、環境センターの管理運営に係る経費であります。主なものはごみ収集委託料や粗大ごみ処理委託料、ごみ袋作成、ごみ袋の販売委託料、一般廃棄物処理業務委託料、可燃ごみ2,363トンの処理を委託しているいすみクリ

ーンセンター塵芥処理委託料等であります。

104、105ページであります。

項３上水道費の支出済額は9,767万2,000円でございます。水道企業会計に対する上水道高料金対策補助金や南房総広域水道企業団に対する補助金、構成市町村の出資金であります。

続きまして、款５農林水産業費の支出済額は３億4,640万9,162円であります。

項１農業費の支出済額は２億6,873万2,234円でございます。

目１農業委員会費は、臨時職員１人分及び農業委員会委員11人分の報酬、事務経費のほか、次のページになりますが、関係機関への負担金が主な内容でございます。

106、107ページになります。

目２の農業総務費は、産業振興課関係職員６人分の人件費及び農家組合長100人分の報酬が主な内容であります。

目３農業振興費は、農林業振興協議会委員100人分の報酬のほか、農業再生協議会補助、青年就農者確保育成給付金事業補助金、次のページになりますが、中山間地域等、直接支払交付金など、農業生産団体育成強化補助金や農業振興のための各種補助金及び関係機関への負担金が主なものであります。

108、109ページの中段であります。

目４畜産業費は、畜産業に関係する各種団体に対する補助金、負担金であります。

目５農地費は、110、111ページまでわたりますが、大きなものは110、111ページの繰越事業であり、歳入でご説明した農業体質強化基盤整備促進事業で66.6ヘクタールの暗渠排水工事であります。その他、平沢ダムや基幹農道の管理、農業用施設の保守材料の支給、各種土地改良事業に係る負担金、事務経費等であります。

110、111ページ下段でありますが、目６農業施設費は、114、115ページまでわたりますが農業関係の各施設の建設、修繕、維持管理の経費を計上したものであります。中でも大きなものは養老渓谷拠点センターの設計監理委託及び建設工事並びに基幹集落センター耐震改修工事の設計監理委託料、工事費であります。

その他、養老渓谷拠点センター、基幹集落センター、味の研修館、農村コミュニティセンターの施設管理運営費、施設改修工事費等であります。

114、115ページの中段になります。

項２林業費の支出済額は7,767万6,928円でございます。

目１林業総務費は、林業関係職員１人分の人件費や事務経費のほか、林業関係機関の負担

金、猿、イノシシ、鹿の捕獲報奨金、有害鳥獣駆除委託料、次のページの農林業振興協議会補助金等が主な内容であります。

116、117ページでありますが、目２林業振興費は、森林機能を維持していくための間伐や下刈り、枝打ち等を行う森林整備事業委託料でございます。

目３大多喜県民の森運営費は、大多喜県民の森管理運営に関する経費であり、職員３人分の人件費のほか、臨時職員２人分及び臨時作業員３人分の賃金、また、竹細工や各種講座等の講師謝礼、その他、光熱水費等の施設管理運営経費でございます。

次に、款６商工費の支出済額は１億1,952万3,708円でございます。

118、119ページをお開きください。

項１商工費は、その支出額も同額の１億1,952万3,708円でございます。

目１商工総務費は、職員５人分の人件費のほか、商工関係の事務及び管理経費であります。

目２商工業振興費は、次のページにわたりますが、商工業振興に係る経費であり、商工会への補助金、街路灯、電気料金の補助、中小企業経営改善資金等利子補給金のほか、商い資料館の施設管理業務委託料等の管理経費であります。

120、121ページになりますが、目３観光費は122、123ページまでわたりますが、観光振興に係る経費であります。町営駐車場の清掃管理や管理業務委託料、大多喜城下の観光物産センターや大多喜駅前の観光センター、いわゆる観光本陣の維持管理経費、ガス記念館建設に伴う擁壁工事の負担金であります。

次のページになりますが、観光振興事業は、公園や遊歩道の維持管理委託料等でございます。

その他、夷隅川種苗放流事業補助金、お城まつり実行委員会への補助金、町観光協会や関係団体への補助金、負担金であります。遊歩道整備事業は、養老川に設置してある粟又から面白までの遊歩道を小田代まで約２キロ延伸するための環境調査を実施いたしました。その他、繰越事業の公衆便所管理事業は、粟又駐車場の公衆便所の浄化槽改修工事であります。

124、125ページをお開きください。

款７土木費の支出済額は３億602万734円でございます。

項１土木管理費の支出済額は１億1,397万519円でございます。

目１土木総務費、土木関係職員人件費は、職員７人分の人件費であり、土木総務事務費は、次のページにわたりますが、臨時職員賃金１人分、道路照明の電気使用料のほか、道路台帳更新業務委託、パソコン用ソフト保守委託料、土木積算システムデータ交付料、パソコン借

り上げ料及び各種団体への負担金が主な内容であります。

126、127ページであります。

目２登記費は、職員４人分の人件費のほか、事務経費、測量機器の保守委託料や使用料が主なものであります。分筆や地積更正、所有権移転等の処理をしております。

次に、目３国土調査費は、次のページにわたりますが、地籍調査に係る臨時職員２人分の賃金のほか、事務経費や小沢又、小田代、葛藤地区の地籍調査の委託料、公用車の購入が主な内容であります。

128、129ページをお開きください。

目４道の駅管理費は、石神地先にあります道の駅の維持管理経費でございます。トイレが主でありますので、水道使用料、汚泥収集委託料、清掃管理委託料が主な支出であります。

項２道路橋梁費の支出済額は１億5,312万1,737円でございます。

目１道路維持費は、町道の補修員４人や草刈り等の際、雇用する臨時作業員８人等に係る経費及びダンプや重機の燃料費、舗装の打ちかえ工事請負費、道路補修材料等、町道等を維持していくための経費であります。

目２道路新設改良費、町道改良事業は、次のページになりますが、担当職員３人分の人件費と事務経費のほか、委託料は町道中野大多喜線ほか２路線の設計業務及び宇野辺当月川線ほか３路線の測量設計業務の委託でございます。

工事請負費は、町道小田代植木掘線の災害防除工事であります。また、補償補塡及び賠償費は町道中野大多喜線、増田小土呂線の補償であります。さらに、繰越事業として町道増田小土路線、中野大多喜線の地籍調査、増田小土路線の測量設計業務の委託、大多喜高校線の道路改良工事、黒原佐野線の災害防除工事であります。また、公有財産購入費は中野大多喜線であり、補償補塡及び賠償費は中野大多喜線、大多喜高校線であります。

目３橋梁維持費の支出済額は561万7,500円でございます。これは、橋梁長寿命化のための塩渕橋補修設計業務委託料及び大戸跨線橋の補修工事であります。

目４交通安全対策費は、石神大戸線ほか８カ所の区画線工事、カーブミラー等の交通安全対策用材料の購入費が主な支出であります。

項３都市計画費の支出済額は89万8,869円でございます。

次のページになりますが、目１街路事業費は街なみ整備事業で取得したシンボル塔などの施設の管理経費や申請のあった街なみ整備事業に対する補助金が主な内容であります。

項４住宅費の支出済額は3,802万9,609円でございます。

目１住宅管理費、町営住宅管理事業は、町営住宅９団地111戸の管理に要する経費であります。調整住宅入居者選考委員５人分の報酬を初め、退去住宅の修繕料や大多喜団地、田丁団地の借地料、その他、中野団地改修工事及び田丁団地風呂給湯器交換工事、その設計施工管理委託料等であります。住宅建築物安全ストック形成事業は、申請のあった戸建て住宅の耐震診断の費用補助金１件であります。

134、135ページをお開きください。

目２宅地造成費は、下大多喜地先４画、大戸地先６区画及び城見ヶ丘団地の管理経費であります。

目３住宅助成費は、定住化対策の住宅助成事業、住宅用地取得奨励金19件、住宅リフォーム補助金13件、太陽光発電設備導入促進補助金14件であります。

款８消防費の支出済額は２億8,000万3,797円でございます。

項１消防費は、138、139ページまでわたりますが、その支出済額は同額の２億8,000万3,797円でございます。

目１常備消防費は、夷隅郡市広域常備消防負担金であります。

目２非常備消防費は、消防団員345人の報酬や訓練や各行事、あるいは火災等における団員の出動手当、団員の作業服や長靴等の補充、各種消耗品購入費及び操法大会、出初め式等の経費であります。

さらに、委託料は消防団員の健康診査に要する経費であります。中でも大きな支出は、団員の公務災害の補償事務、退職報奨金支給事務負担金や、次のページになりますが、団員福祉共済掛金、このほか消防協会等の団体負担金、補助金であります。

136、137ページをお開きください。

目３消防施設費、消防用施設維持管理事業は、弥喜用地先の防火水槽の設置のほか、久我原、下大多喜、笛倉、中野、石神、横山の防火水槽等の改修工事が主な内容であります。

消防機械器具整備事業は各分団における消防車の燃料、また、車両の検査や整備費用等が主な内容であります。

目４災害対策費、地域防災対策事業は、災害の発生が懸念される場合の職員の時間外手当や、次のページになりますが、防災マップの作成委託料が主な内容であります。

借地料は、ドクターヘリの臨時離発着用地の借り上げ料であります。

138、139ページをお開きください。

排水機場整備事業は、久保、八声、葛藤の各排水機場の水門管理委託料が主なものであり

ます。

防災無線維持管理費の主な支出は、防災行政無線施設保守委託料であります。

次に、款９教育費の支出済額は６億6,332万7,657円でございます。

項１教育総務費の支出済額は7,482万8,523円でございます。

目１教育委員会費は、教育委員４人分の報酬や教育委員会活動に要する事務費、各種団体負担金等でございます。

目２事務局費は、142、143ページまでわたりますが、教育長や教育委員会職員６人分の人件費のほか、大多喜小学校、西畑小学校、大多喜中学校に配置した特別支援教育支援員４人分の臨時職員賃金、また、外国語指導助手の給料及び住宅賃借料等の外国青年招致事業の経費が主な内容であります。

ほかに13件の各種団体の負担金、補助金があり、さらに積立金では２件の寄附14万円を奨学基金積立金として積み立てました。その他、教育委員会の施設管理経費であります。

142、143ページ中段であります。

項２小学校費の支出済額は２億808万9,693円でございます。

目１学校管理費は、148、149ページまでわたりますが、町内５小学校の管理事務経費や学校施設管理経費及び学校の消耗品等の学校管理経費であります。内容は、学校医16人分、薬剤師３人分の報酬のほか、各種消耗品、パソコン使用料、光熱水費、電話料や児童、学校職員の健康診査手数料、また備品の購入経費、施設修繕料、校舎改修工事等であります。なかでも小学校施設管理事業では、大多喜小学校校舎の外壁や雨どい等の改修工事が多額な支出となっております。

さらに、148、149ページの耐震補強大規模改造事業では、大多喜小学校屋内運動場の耐震補強大規模改造工事の設計及び工事が大きな支出となっております。

148、149ページの中段になります。

目２教育振興費は、次のページにわたりますが、５小学校の教材備品等の購入費、クラブ活動助成補助金や遠距離通学費補助金が主な内容であります。

150、151ページでありますが、扶助費は、要保護児童１人分の修学旅行費や、準要保護児童15人分の学用品等の補助、８人の特別支援教育就学奨励費でございます。

150、151ページでありますが、項３中学校費の支出済額は3,022万6,006円でございます。

目１学校管理費は、154、155ページまでわたりますが、２中学校の管理事務経費や学校施設管理経費及び学校の消耗品等の学校管理経費であります。内容は、学校医７人分、薬剤師

２人分の報酬のほか、各種消耗品、パソコン使用料、光熱水費、電話料、備品購入の経費、施設修繕料等であります。

154、155ページであります。

目２教育振興費は、教材備品等の購入費、クラブ活動や各種団体等への生徒派遣費補助金、あるいは遠距離通学生徒の通学費補助金助成金等が主な内容であります。

156、157ページの扶助費でありますが、準要保護生徒14人分の学用品等の補助や、５人の特別支援教育就学奨励費であります。

項４社会教育費の支出済額は１億4,248万6,665円であります。

目１社会教育総務費は、職員５人分の人件費のほか、社会教育委員の報酬、生涯学習推進に要する経費、町子供会育成連絡協議会の補助金、町文化団体活動費補助金のほか、関係団体負担金及び旧田代分校の光熱水費、清掃管理業務委託料であります。

目２公民館費は160、161ページにわたりますが、公民館運営審査会委員８人分の報酬のほか、公民館運営のための維持管理経費であります。中でも大きなものは、光熱水費、また、中央公民館ホール棟の耐震補強工事等に伴う施工管理業務委託料、工事請負費であります。

その他、公民館の夜間警備を初め、清掃管理業務委託、あるいは各種保守点検委託料のほか、公民館バスの運行に伴う燃料費、運行管理委託料費等であります。

160、161ページであります。

目３図書館費は、年間１万3,731人が入館しました図書館（天賞文庫）の管理運営経費及び図書の購入費、各種活動に要した経費であります。

目４文化財保護費は、文化財審議委員報酬や文化財の管理に要する経費であります。国指定重要文化財渡辺家の管理費の補助や、次のページになりますが、町内の囃子や神楽等の無形文化財保護育成に係る地域団体への補助が主な内容ものであります。

162、163ページになります。

目５視聴覚教育費は、夷隅郡視聴覚教材センターの負担金であります。

項５保健体育費の支出済額は２億769万6,770円でございます。

目１保健体育総務費は、海洋センター職員３人分の人件費のほか、スポーツ推進委員８人分の報酬や、町体育協会補助金及び郡体育協会負担金、その他、関係団体負担金が主な内容であります。

目２学校給食費は、166、167ページにわたりますが、職員６人分の人件費のほか、学校給食センター運営委員７人分の報酬や、臨時調理員10人分の人件費、賄い材料費、給食センタ

一施設管理用消耗品、光熱水費、施設修繕料、給食配送委託料、施設の管理業務及び害虫駆除業務の委託料等が主な内容であります。工事請負費は、給食センター蒸気配管修繕工事や排水処理施設ポンプ配管交換工事等であり、備品購入費は食缶や調理用備品の購入であります。

166、167ページになります。

目３体育施設費は、次のページにわたりますが、海洋センターや野球場、テニスコート、総合運動場の管理運営経費であります。夜間警備、清掃管理、野球場の芝管理、プールの監視業務、シルバー人材センターに委託している施設内の草刈り等、各施設の維持管理委託が主な内容であります。中でも大きなものは、168、169ページの工事請負費で、海洋センタープール屋根の幕体交換工事及び鉄骨腐食部とプール内部の塗装工事であります。

168、169ページ中段になります。

款10災害復旧費の支出済額は722万850円でございます。

項１公共土木施設災害復旧費の支出済額は343万6,650円であり、町道小倉野線道路災害復旧工事に伴う測量、土質調査等の委託料及び応急工事を含む崩落土の撤去工事であります。

項２農林水産施設災害復旧費の支出済額は378万4,200円で、繰越工事の面白地先の農業施設災害復旧工事でございます。

款11公債費の支出済額は４億9,100万817円でございます。

170、171ページをお開きください。

これらの支出は、今までに実施した事務事業に際し充当した起債の償還金の元利及び利子でございます。

款12諸支出費の支出済額は1,690万1,000円でございます。下大多喜地先の宅地分譲地４区画の売却代金を土地開発基金積立金に支出するものであります。

款13予備費の当初予算額は500万円でございますが、緊急等で予備費の支出及び充当をした額は84万円でございました。充当先は、いずれも訴訟に伴う弁護士費用で、款２総務費、項２徴税費、目１税務総務費、税務総務事務費52万5,000円でありますが、固定資産税不服申し立ての訴訟に係る弁護士費用であります。款５農林水産業費、項１農業費、目２農業総務費、農業総務事務費31万5,000円は、隣接土地所有者境界確認証明書の訂正申し出による訴訟に係る弁護士費用であります。

以上、歳出合計でございますが、予算現額計で50億7,194万5,000円であり、支出済額は46億7,146万1,748円であります。翌年度への繰越明許費は２億7,676万6,000円であり、翌年度

への事故繰越額は301万9,000円であります。明許及び事故繰越の額につきましては、平成25年第１回議会定例会６月会議で報告済みでありますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

予算に対しましての不用額が１億1,969万8,252円であります。

以上が一般会計歳出決算の事項別明細書の状況であります。

次の172ページをお開きください。

実質収支に関する調書でございますが、この表は会計年度の実質的は収入支出の額を示したものでございます。

区分及び金額でございますが、１、歳入総額50億1,253万5,000円、２、歳出総額46億7,146万2,000円、３、歳入歳出差引額３億4,007万3,000円、４、翌年度へ繰り越すべき財源は、繰越明許費繰越額5,463万9,000円、事故繰越繰越額301万9,000円となっております。５、実質収支額は、繰越額を差し引いた２億8,241万5,000円となりました。

以上で平成24年度の大多喜町一般会計歳入歳出決算の説明を終わらせていただきます。よろしくご審議の上、可決賜りますようお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　ご苦労さまでした。

決算説明の途中でありますけれども、ここで10分間休憩します。

（午後　２時００分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時１２分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　認定第２号　平成24年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定について説明願います。

企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　それでは、平成24年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算についてご説明をいたします。

決算書の174から177ページになります。

初めに、本特別会計及び本基金についてご説明いたします。

この特別会計は、合併前の１市５町からの拠出金等をもとに設けられた基金を運用するための会計であり、必要に応じて取り崩した基金を当会計で受け入れ、いすみ鉄道に交付金と

して支出し、鉄道経営の安定を図ることを目的としております。

基金の運用は、平成22年度まではいすみ鉄道への赤字助成でありましたが、長期収支見込みでは平成23年度から黒字に転換することとなっているため、今後赤字助成はしない見込みであります。また、平成23年度からは老朽化した車両の更新等を実施しており、その助成が主な基金運用の内容となります。

それでは、事項別明細書により決算内容についてご説明をいたしますので、180、181ページをお開きください。

まず、歳入でございますが、金額については右ページの収入済額を読み上げさせていただきます。

款１財産収入、項１財産運用収入、目１利子及び配当金40万5,857円につきましては、鉄道経営対策事業基金に対する利子であります。

款２寄附金、款３繰越金、款４諸収入についてはありませんでした。

款５繰入金、項１繰入金、目１繰入金3,913万9,550円については、いすみ鉄道への車両等の更新費用を基金から繰り入れたものであります。

歳入合計は、調定額、収入済額、同額で3,954万5,407円でありました。

次に、歳出についてご説明をいたしますので、182、183ページをお開きください。

右ページの支出済額、翌年度繰越額、不用額の順で読み上げさせていただきます。

款１鉄道経営対策事業費、項１鉄道経営対策事業費の支出済額は3,954万5,407円、繰越額はゼロ円、予算現額に対する不用額は569万6,593円であります。

内訳でありますが、目１事業費、節25積立金40万5,857円は、鉄道経営対策事業基金への積立金であります。繰越額はゼロ円、不用額は3,143円であります。

目２助成費、節19負担金、補助及び交付金の3,913万9,550円は、いすみ鉄道の車両１両の更新分に係る交付金であります。繰越額はゼロ円、不用額は569万3,450円であります。歳出合計は3,954万5,407円、不用額は569万6,593円でありました。

184ページをお開きください。

実質収支額については、収支同額でありましたので、翌年度への繰り越しは発生いたしませんでした。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議の上、可決賜りますようお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、認定第３号　平成24年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳

出決算について説明願います。

税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　それでは、認定第３号　平成24年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算についてご説明を申し上げます。

国民健康保険の加入状況でありますけれども、まず、加入者数は、対前年比0.8パーセント減の3,424人、世帯数は0.2パーセント増の1,908世帯となっております。被保険者の年齢を見ますと、65歳以上75歳未満の年齢が約３割、60歳以上では約過半数を占めて、加入者の高齢化が一層進んでおります。歳入面では療養給付費等負担金、国の財政調整交付金等の減額、歳出面では後期高齢者支援金、あるいは介護納付金等の増加により、厳しい財政状況が続いております。

決算の概要につきましては、主要施策の成果説明の37ページから43ページにかけてお示ししてございますけれども、これは後ほどごらんいただければと思います。

それでは、決算の詳細につきまして事項別明細書によりまして、説明をさせていただきます。

196ページ、197ページをお開きいただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長、座って説明を許可します。

**○税務住民課長（市原和男君）**　はい、ありがとうございます。では、議長の許可が出ましたので、座って失礼させていただきます。

196、197ページでございます。

１款国民健康保険税、予算現額３億2,505万8,000円、調定額４億4,186万2,006円、収入済額３億3,433万4,598円、不納欠損額365万6,500円でございます。不納欠損につきましては、地方税法の規定による時効成立によるもので104件でございます。理由としては、主に生活困窮等によるものでございます。

１目一般被保険者国民健康保険分で、調定額４億1,023万9,065円、収入済額３億542万2,944円、不納欠損額365万6,500円。

２目退職被保険者等国民健康保険税分で、調定額3,162万2,941円、収入済額2,891万1,654円となっております。収納率につきましては、現年度分93.0パーセント、滞納繰越分14.1パーセントとなります。

２款一部負担金につきましては、収入はございませんでした。

３款使用料及び手数料、１目督促手数料、調定額、収入済額とも11万2,700円でございま

す。

４款国庫支出金、調定額、収入済額ともに２億9,021万937円でございます。

198ページ、199ページをお願いします。

１目療養費等負担金、調定額、収入済額とも２億3,094万5,971円、医療費等に対する国庫負担金でございます。

２目高額医療費共同事業負担金、調定額、収入済額とも686万5,606円、高額医療費の国庫負担金となり、同額が県からも交付されます。

３目特定健康診査負担金、調定額、収入済額ともに138万7,000円、特定健康診査の国庫負担金となり、やはり同額が県からも交付されます。

２項国庫補助金、１目出産育児一時金補助金、調定額、収入済額ともに２万円でございます。

２目財政調整交付金、調定額、収入済額ともに5,095万5,000円でございます。市町村間の財政の均衡を図るため交付されるものでございます。

５目高齢者医療制度円滑運営事業費補助金、調定額、収入済額ともに３万7,360円でございます。

５款療養費交付金、１目療養費交付金、調定額、収入済額ともに9,213万1,000円、退職被保険者分の医療費に係る交付金でございます。

６款前期高齢者交付金、１目前期高齢者交付金、調定額、収入済額ともに２億8,543万7,607円、65歳から75歳未満の医療費の軽減を図るために交付されるものでございます。

７款県支出金、調定額、収入済額とも7,869万6,606円でございます。

１項県負担金、１目高額医療費共同事業負担金、調定額、収入済額ともに686万5,606円、高額医療費の県負担金でございます。

２目特定健康診査負担金、調定額、収入済額ともに138万7,000円、特定健診の県負担金でございます。

次に、200ページ、201ページをお開きください。

２項県補助金、１目財政調整交付金、調定額、収入済額ともに7,044万4,000円でございます。

８款共同事業交付金、１目共同事業交付金、調定額、収入済額ともに１億7,428万3,786円、１節の高額医療費共同事業交付金及び２節の保険財政共同安定化事業交付金として、実績に応じて交付されるものでございます。

９款繰入金、１項他会計繰入金、１目一般会計繰入金、調定額、収入済額ともに１億2,022万7,085円でございます。１節の保険基盤安定繰入金、保険税軽減分につきましては、収入済額3,814万5,560円、軽減状況に応じて国、県、町からの法定負担分でございます。

２項保険基盤安定繰入金、保険者支援分、収入済額738万2,890円、軽減世帯の状況に応じまして、国、県、町から交付される法定負担金でございます。

そのほかに、３節の職員給与等繰入金、４節助産費等繰入金、５節財政安定化支援事業繰入金、６節の財政調整繰入金、収入済額3,400万円、これにつきましては、一般会計からの法定外繰入金でございます。７節特定健康診査等事業費繰入金、収入済額78万円でございます。

次に、10款の繰越金、調定額、収入済額とも6,510万6,509円、前年度繰越金でございます。

11款諸収入、調定額、収入済額とも596万1,459円でございます。

１項の延滞金及び過料、1目一般被保険者延滞金、調定額、収入済額ともに16万5,500円でございます。

次に、202ページ、203ページをお開きいただきたいと思います。

２目退職被保険者等延滞金、収入はございません。

２項雑入、調定額、収入済額とも579万5,959円、２目の一般被保険者第三者納付金530万1,498円、４目の一般被保険者返納金１万7,276円、６目雑入特定健康診査徴収金等47万7,185円でございます。

下段になりますけれども、歳入の合計といたしまして、予算現額13億8,558万円、調定額15億5,402万9,695円、収入済額14億4,650万2,287円、不納欠損額365万6,500円、収入未済額１億387万9,008円でございました。

引き続きまして、歳出の明細をご説明申し上げますので、204ページ、205ページをお開きいただきたいと思います。

主に支出済額のほうを読み上げさせていただきます。

１款総務費、１目一般管理費、支出済額3,337万4,074円、備考欄記載のとおり、職員４名分の人件費及び事務的経費で、レセプトの電算処理委託料、あるいはパソコンソフト使用料、県国保連合会への負担金等でございます。

２項１目運営協議会費、支出済額10万5,400円、国民健康保険運営協議会、２回分の委員報酬でございます。

２款保険給付費、１項療養諸費、支出済額７億4,730万6,092円、１目一般被保険者療養給

付費、支出済額６億7,405万6,868円。

２目退職被保険者等療養給付費、支出済額6,330万1,013円、対象者につきましては、厚生年金あるいは共済年金等などの受給者で、65歳未満の方の医療費でございます。

３目一般被保険者療養費、支出済額668万5,299円、補装具や接骨医などの療養費でございます。

４目退職被保険者等療養費、支出済額139万781円でございます。

５目審査及び支払手数料、支出済額187万2,131円、レセプトの審査手数料等でございます。

２項高額療養費、１目一般被保険者高額療養費、支出済額9,310万3,957円、２目退職被保険者等高額療養費、支出済額985万8,512円でございます。

３目一般被保険者高額介護合算及び、次の208ページの４目退職被保険者等高額介護合算療養費は支出がございません。

３項の移送費につきましても、支出はございませんでした。

４項出産育児一時金、支出済額373万7,610円、支出件数は10件でございます。

５項葬祭費、支出済額75万円、支給件数は15件でございます。

３款後期高齢者支援金、１目後期高齢者支援金、支出済額１億7,353万2,365円、後期高齢者医療制度を支えるため、各保険者が負担するものでございます。

２目後期高齢者関係事務拠出金、支出済額１万3,164円でございます。

次に、210ページ、211ページをお開きください。

４款前期高齢者納付金等、１目前期高齢者関係事務費拠出金、支出済額17万9,881円、65歳から75歳未満の国保加入者の人数に応じて納付するものでございます。

５款老人保健拠出金、１目老人保健事務拠出金、支出済額9,035円でございます。

６款介護納付金、１目介護納付金、支出済額8,068万2,584円、40歳から65歳未満の国保加入者が負担する納付金でございます。

７款共同事業拠出金、１目高額療養費共同事業拠出金、支出済額2,746万2,426円、レセプト１件につき80万円を超える医療費に係る拠出金でございます。

２目保険財政共同安定化事業拠出金、支出済額１億3,008万4,655円、レセプト１件につき30万円を超えるものに対する拠出金でございます。

次に、212ページ、213ページをお開きいただきたいと思います。

３目その他共同事業拠出金、支出済額373円でございます。

８款保健事業費、支出済額1,171万2,362円、１項の保健事業費といたしまして、支出済額

243万6,956円、人間ドック受診者65名分の補助金でございます。

２項特定健康診査等事業費、支出済額927万5,406円、特定健康診査817名分、また保健指導の参加者63名分の経費でございます。

９款諸支出金、１目一般被保険者保険税還付金、支出済額94万6,900円。

次に、214ページ、215ページをお開きいただきたいと思います。

２目退職被保険者等保険税還付金は支出がございません。

３目償還金、支出済額873万3,012円、平成23年度国庫支出金等の返還金でございます。

10款予備費につきましては、25万2,000円を充当させていただきました。

下段になりますけれども、歳出合計、予算現額13億8,558万円、支出済額13億2,159万2,402円、不用額6,398万7,598円でございます。

次に、216ページをお開きいただきたいと思います。

実質収支に関する調書でございますが、１、歳入総額14億4,650万2,000円、２、歳出総額13億2,159万2,000円、３、歳入歳出差引額１億2,491万円、４、翌年度へ繰り越すべき財源はございません。５、実質収支額１億2,491万円でございます。

以上で、平成24年度大多喜町国民健康保険特別会計の決算の説明を終わりにさせていただきます。よろしくご審議のほうお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、認定第４号　平成24年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について説明願います。

税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　それでは、認定第４号　平成24年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算についてご説明を申し上げます。

決算の概要につきましては、主要施策の成果説明の44ページから45ページにかけてお示ししてございます。こちらのほうも後ほどごらんいただければと思います。

それでは、決算の詳細につきましては、事項別明細書により説明をさせていただきます。

224ページ、225ページをお開きいただきたいと思います。

まず、歳入明細でございますが、主に、収入済額を説明させていただきます。

１款後期高齢者医療保険料、調定額7,207万9,100円、収入済額7,133万8,300円、不納欠損額9,600円、収入未済額73万1,200円でございます。不納欠損につきましては、２件で時効成立によるものでございます。

１目特別徴収保険料、調定額及び収入済額とも5,302万8,800円、収納率は100パーセント

でございます。年金からの徴収分となります。

２目普通徴収保険料、調定額1,905万300円、収入済額1,830万9,500円、収納率は96.1パーセントで現金納付や口座振替による納付によるものでございます。

２款使用料及び手数料、１目督促手数料、調定額、収入済額ともに１万6,500円でございます。

３款繰入金、１項一般会計繰入金、１目事務費繰入金、調定額、収入済額とも44万925円で、事務費の一般会計からの繰入金でございます。

２目保険基盤安定繰入金、調定額、収入済額とも3,341万325円で、保険料の軽減対象分の繰入金で、県が４分の３、町が４分の１を負担しております。

４款繰越金、１項繰越金、調定額、収入済額ともに６万5,200円、前年度からの繰越金でございます。

５款諸収入、１項償還金及び還付加算金、１目保険料還付金、調定額、収入済額ともに51万7,000円でございます。

２目還付加算金はございません。

歳入の合計でございますが、予算現額１億839万9,000円、調定額１億652万9,550円、収入済額１億578万8,750円、不納欠損額9,600円、収入未済額73万1,200円でございます。

次に、歳出のご説明を申し上げます。

226ページ、227ページをお開きください。

１款総務費、１項総務管理費、支出済額21万6,841円、事務的経費で需用費、役務費でございます。

２項徴収費、支出済額24万584円、保険料の徴収経費で需用費、役務費でございます。

２款後期高齢者医療広域連合納付金、１目後期高齢者医療広域連合納付金、支出済額１億479万7,625円、被保険者から納付されました保険料及び基盤安定制度負担金を保険者であります広域連合へ納付するものでございます。

３款諸支出金、１項償還金及び還付加算金、１目保険料還付金、支出済額51万7,500円でございます。２目繰出金については、支出がございません。

歳出合計、予算現額１億839万9,000円、支出済額１億577万2,550円、不用額262万6,450円でございます。

次に、228ページをお開きいただきたいと思います。

実質収支に関する調書でございます。

１、歳入総額１億578万9,000円、２、歳出総額１億577万3,000円、３、歳入歳出差引額１万6,000円、４番の翌年度へ繰り越すべき財源はございません。５、実質収支額１万6,000円でございます。

以上で平成24年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出の決算の説明を終わらせていただきます。よろしくご審議のほうお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、認定第５号　平成24年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について説明願います。

健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　それでは、認定第５号　平成24年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算につきましてご説明申し上げます。

平成24年度の決算の概要ですが、主要施策の成果説明書46ページから51ページにお示ししてございますが、常任委員会協議会にてご説明申し上げますので、この場は省略させていただきます。

決算内容につきまして、決算書によりご説明申し上げます。

決算書の230、231ページをお開きいただきたいと存じます。

歳入の合計ですが、予算現額９億9,980万6,000円、調定額９億8,995万5,355円、収入済額９億8,708万4,755円、不納欠損額28万5,000円、収入未済額258万5,600円でございます。

次に、歳出の合計ですが、232、233ページをお開きいただきたいと存じます。

予算現額９億9,980万6,000円、支出済額９億2,835万6,776円となっており、歳入歳出差引額5,872万7,979円でございます。

次に、決算明細については、事項別明細書でご説明を申し上げますので、236、237ページをお願いしたいと存じます。

**○議長（小髙芳一君）**　課長、座って説明してください。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　議長のお許しをいただきましたので、座って説明させていただきます。

まず、歳入でございますが、１款保険料、調定額１億7,732万200円、収入済額１億7,444万9,600円、内容につきましては65歳以上の第１号被保険者3,455名分の保険料でございます。不納欠損額28万5,000円は法的時効成立による12名分の処理でございます。

以下につきましては、収入済額を主に説明をさせていただきます。

２款使用料及び手数料、収入済額７万7,500円につきましては、１目督促手数料３万1,000

円、２目情報公開手数料４万6,500円でございます。

３款国庫支出金、収入済額２億1,709万5,810円、１項国庫負担金、１目介護給付費負担金１億4,237万500円ですが、介護給付に係る法定国庫負担金でございます。

２項国庫補助金、収入済額7,472万5,310円、１目調整交付金、収入済額7,162万5,000円でございますが、介護保険の財政調整を図るため、第１号被保険者の年齢別・階層別分布状況、所得の分布状況を考慮して市町村に交付されるものでございます。

２目地域支援事業交付金、収入済額79万8,250円につきましては、介護予防事業に係る国庫補助金でございます。

３目地域支援事業交付金、収入済額230万2,060円につきましては、包括的支援事業・任意事業に係る国庫補助金でございます。

４款県支出金、収入済額１億6,032万5,155円、１項県負担金、１目介護給付費県負担金、収入済額１億5,877万5,000円、介護給付に係る県法定負担金でございます。

２項県補助金、１目地域支援事業交付金のうち介護予防事業補助金、収入済額39万9,125円、次のページに移りまして、２目地域支援事業交付金のうち包括的支援事業・任意事業県補助金、収入済額115万1,030円、それぞれ地域支援事業に係る県法定補助金でございます。

５款支払基金交付金、収入済額２億4,528万3,000円、１項支払基金交付金、１目介護給付費交付金、収入済額２億4,435万8,000円でございますが、介護給付費に係る第２号被保険者分の法定交付金でございます。

２目地域支援事業支援交付金でございますが、同様に地域支援事業に係る法定交付金で、収入済額92万5,000円でございます。

６款繰入金、収入済額１億5,028万7,302円、１項他会計繰入金、１目一般会計繰入金、収入済額１億4,928万7,302円ですが、介護給付費、地域支援事業に係る一般会計からの法定繰入金及び職員人件費、事務費の繰入金でございます。

２項基金繰入金、１目介護給付費準備基金繰入金、収入済額100万円、介護給付費に第１号被保険者保険料が不足した場合に繰り入れるものでございます。

７款繰越金、１項繰越金、１目繰越金、収入済額3,007万9,729円、前年度の繰越金でございます。

８款諸収入、１項延滞金加算金及び過料につきましては実績がございませんでした。

２項及び１目雑入、収入済額948万6,659円、生活保護者認定調査等手数料、予防給付介護負担金、千葉県介護保険財政安定化基金取り崩し特別交付金、運動教室等参加者負担金でご

ざいます。

以上が歳入の明細でございます。

次に、歳出の明細の説明をさせていただきます。

それでは、242、243ページをお開きいただきたいと存じます。

歳出につきましては、支出済額を主に説明させていただきます。なお、支出のない科目は割愛させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

１款総務費、支出済額3,403万4,213円、１項総務管理費、１目一般管理費、支出済額2,722万3,659円ですが、職員４名分の人件費及び介護保険事業の事務的経費でございます。

２項徴収費、１目賦課徴収費、支出済額29万3,347円ですが、第１号被保険者に対します保険料の徴収事務費等でございます。

３項介護認定審査会費、１目介護認定調査等費、支出済額312万6,700円につきましては、認定調査に従事する臨時看護師賃金、主治医意見書作成手数料及び遠隔地入所者等の認定調査委託料でございます。

２目介護認定審査会共同設置負担金、支出済額331万6,107円ですが、２市２町による審査会共同設置に係る負担金でございます。

次のページをお願いいたします。

４項及び１目運営協議会費、支出済額７万4,400円、介護保険運営協議会委員の報酬でございます。

２款保険給付費、支出済額８億5,263万6,977円、１項介護サービス等諸費、１目居宅介護サービス給付費２億3,428万7,413円、訪問系及び通所系サービス、短期入所等に係る給付費でございます。

２目地域密着型介護サービス給付費、支出済額1,849万9,305円、認知症対応型共同生活介護の給付費でございます。

３目施設介護サービス給付費、支出済額４億7,235万1,346円、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設入所の給付費でございます

４目居宅介護福祉用具購入費、支出済額114万1,949円、入浴あるいは排せつ等に使用する補助用具の購入について、対象額10万円を限度に支給するものでございます。

５目居宅介護住宅改修費、支出済額213万9,678円、手すりの取りつけや段差解消などの改修をした際、対象額20万円を限度に費用を支給しております。

次のページをお願いいたします。

目６居宅介護サービス計画給付費、支出済額3,417万9,216円、介護支援専門員によります居宅介護サービス計画作成費でございます。

２項介護予防サービス等諸費、１目介護予防サービス給付費、支出済額2,521万8,110円、要支援１、２の方に対する介護予防サービスに要する経費でございます。

３目介護予防福祉用具購入費、支出済額25万5,611円、要支援１、要支援２の方に対する福祉用具の購入経費で、対象経費10万円を限度として支給したものでございます。

４目介護予防住宅改修費、支出済額60万750円で、これも要支援１、２の方に対する住宅改修に要する経費、対象額20万円を限度として支給したものでございます。

５目介護予防サービス計画給付費、支出済額307万6,240円につきましては、介護予防ケアプラン作成費でございます。

次のページをお願いいたします。

３項その他諸費、１目審査支払手数料、支出済額69万4,320円、国保連合会への介護給付費審査支払委託料でございます。

４項高額介護サービス等費、１目高額介護サービス費、支出済額1,488万8,383円、月額の利用者負担額が一定額を超えた場合に支給するものでございます。

５項高額医療合算介護サービス等費、１目高額医療合算介護サービス費、支出済額142万4,896円ですが、介護保険と医療保険を利用したときの自己負担額が合算して年額の限度額を超えた分を支給するものでございます。

６項特定入所者介護サービス等費、250、251ページをお願いいたします。１目特定入所者介護サービス費、支出済額4,387万9,760円、低所得者の施設利用が困難とならないよう、食事、居住費について所得に応じた負担限度額と基準費用額との差額を給付するものでございます。

３款基金積立金、１項基金積立金、１目介護給付費準備基金積立金、支出済額630万4,266円ですが、前年度保険料の繰越分及び国・県負担金等の精算に伴う過年度交付分の積み立てでございます。

４款地域支援事業費、支出済額1,771万5,423円、１項介護予防事業費、１目二次予防事業費76万4,413円、介護が必要となるおそれのある人に対し介護予防を図る事業で、運動機能の向上、栄養改善、口腔機能向上等の内容で実施しております。

２目一次予防事業費、支出済額270万6,640円、一般高齢者等を対象にした介護予防普及啓発事業経費でございます。

２項包括的支援事業・任意事業費、１目任意事業、支出済額125万567円、介護保険事業の安定的な運営及び地域の実情に応じ必要な支援を行う事業で、介護給付費通知、家族介護支援等の事業経費でございます。

２目包括的支援事業、支出済額1,299万3,803円、包括的支援センター関係職員２名分の人件費でございます。

５款諸支出金、支出済額1,766万5,897円、過年度分の精算に伴う国・県支払基金返還及び過年度分保険料還付金でございます。

実質収支に関する調書につきましては、254ページのとおりでございますので、ごらんいただきたいと思います。

以上で平成24年度介護保険特別会計決算の説明を終わります。よろしくご審議の上、認定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

**○議長（小髙芳一君）**　ご苦労さまでした。

ここで10分間休憩します。

（午後　３時０２分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時１４分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　認定第１号から認定第５号までの平成24年度大多喜町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の説明が終わりましたので、ここで決算に対する審査報告をお願いします。

矢代代表監査委員。

**○代表監査委員（矢代健雄君）**　それでは、お手元に26号と書いてある別の冊子を見ていただきたいと思います。

それでは、お手元の資料、平成24年度大多喜町一般会計及び各特別会計歳入歳出決算審議意見及び基金の運用状況審査意見についてご説明を申し上げますので、ごらんいただきたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　矢代代表監査委員、座ったまま説明をしてください。

**○代表監査委員（矢代健雄君）**　はい、ありがとうございます。では座らせていただきます。

地方自治法第233条第２項及び同法第241条第５項の規定により、審査されました平成24年

度大多喜町一般会計、特別会計歳入歳出決算及び基金の運用状況の結果について意見を提出します。

１ページをお開きください。

審査の概要ですが、審査の対象、平成24年度大多喜町各会計歳入歳出決算、一般会計財政調整基金ほか20基金、附属書類として平成24年度大多喜町各会計歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書。

２、審査の期間、平成25年８月16日に役場大会議室で審査に付され、８月23日まで私と野村監査委員とで行いました。

３、審査の手続ですが、１、各会計歳入歳出決算、審査に付された各会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書について、関係諸帳簿その他証書類との照合等、通常実施すべき審査手続を実施したほか、必要と認められた審査手続を実施しました。

２、基金の運用状況、審査に付された基金の運用状況を示す書類について、関係諸帳簿等とその照合その他通常実施すべき審査手続を実施いたしました。

２ページをお開きください。

第２、審査の結果ですが、各会計歳入歳出決算、審査に付された各会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成されており、その計数は関係諸帳簿その他証書類と照合した結果、誤りのないものと認められました。また、予算の執行及び関連する事務の処理は、適正に行われているものと認められました。

２、基金の運用状況、審査に付された平成24年度の基金の運用状況を示す書類の計数は、関係諸帳簿等と照合した結果、誤りのないものであり、運用状況は妥当であると認められました。なお、各会計の決算分析については、お手元の１ページから22ページにお示ししたとおりとなっておりますので、後ほど資料を参照していただきたいと思います。

それでは、資料の25ページをお開きください。

結びといたしまして所感を申し上げます。

平成24年度の一般会計及び特別会計を合わせた決算は、歳入決算額75億9,145万6,000円に対し、歳出決算額70億6,772万9,000円となり、差し引き５億2,372万7,000円となりました。実質収支額、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた額は４億6,606万9,000円で、単年度収支額では１億1,474万6,000円といずれも黒字決算であります。

なお、歳入全体では自主財源が減少している状況の中で、歳出全体では義務的経費と経常的経費が増加し、財政の硬直化が進み、依然として厳しい財政運営の状況となっております。

このように厳しい財政状況の中にありますが、平成24年度の計画事業の中でも最も大きな事業であった大多喜小学校屋内運動場の耐震補強大規模改造工事が完了したことで、これまで毎年計画的に進められてきた、町内小中学校全ての校舎と屋内運動場の耐震化が図られたことは、安心安全な学校づくりを目指している本町にとって、大変喜ばしいことであります。

また、社会教育とスポーツ振興の重要な役割を担う、中央公民館のホール棟の耐震補強工事及び控室増築工事の完了、海洋センタープールの改修工事も完了し、今後、さらなる施設の有効活用が期待されるところであります。

さらに、少子化の影響によって西畑小学校との学校統合を余儀なくした老川小学校は、長い歴史に幕を引いたところですが、地域の方々の理解とご協力、関係者のご尽力によって、多くの友達とともに学習できる環境が実現できたわけですが、統合によって閉校となった学校施設の一日も早い有効活用が望まれます。

農林業の活性化や観光振興を図るため、懸案であった養老渓谷拠点センターも完成し、今後の地域振興が期待されます。また、本町の農林振興に大きな阻害となっている有害獣駆除対策事業も計画的に施行されていると判断されますが、いまだに被害は各地域で発生しており、効果的な駆除対策に向けて充実強化が望まれるところであります。

既に少子化高齢社会となっている本町は、若者の人口減少という大きな行政課題を解決するため、平成24年度において、定住化対策住宅助成事業の実施、町営住宅の改修、住宅分譲などが実施されているが、未婚者対策や新たな産業の創出による雇用の場の創出、圏央道の開通による利便性をさらに生かした高速バスターミナルの計画の早期具体化等により、居住環境の改善などを推進し、若者の定住化につながるまちづくりを強力に進めることが重要であります。

なお、歳入面では収入未済額が２億2,934万6,000円、前年度より1,936万6,000円減少で、依然として多く発生しており、税負担の公平性と自主財源確保の上からも引き続き、各課の連携を密にして着実に債権の回収を実行していくことが求められております。

26ページをお開きください。

また、不納欠損金については、4,215万1,000円であり、このうち特別土地保有税が3,250万8,000円、国民健康保険税のほか町税が964万3,000円については、倒産、廃業、営業不振、出国、生活困窮等でありますが、今後とも、その処分手続については町民にとって貴重な債

権であり、慎重に対処されることを望みます。

さらに、基金の運用状況については、ペイオフ制度に係る対応から、基金の安全性を重視し、積極的に運用が行われていない状況でありますが、基金の設置目的に沿った活用を進めるとともに、不動産として保有している土地開発基金については、再評価による土地価格の変動を充分考慮し、有効活用に向けて努力願いたいと思います。

国民健康保険特別会計については、歳入総額14億4,650万2,000円、歳出総額13億2,159万2,000円で、実質収支額は１億2,491万円となり、単年度の収支額では5,980万4,000円となっていますが、依然として未収金が多い状況で、公平な税負担の観点から未収金の回収に努めることを望みます。

また、ジェネリック医薬品の利用普及や特別診断受診者並びにインフルエンザ予防接種等の推進に力を入れることは、町民の健康増進や保険料負担の軽減につながるものであり、引き続き力を入れることを期待します。

そのほか、鉄道経営対策事業基金特別会計、介護保険特別会計及び後期高齢者医療特別会計については、各会計及び事業の目的を十分達成した決算の内容と判断されました。

次に、同日、財政健全化審査として健全化判断比率の審査も行いました。その資料については別に添付してございますが、健全化判断比率及びその算定基準となる事項を記載した書類は適正に作成されており、特に指摘すべき事項はありませんでした。

以上で、平成24年度大多喜町各会計歳入歳出決算審査、基金の運用状況審査、財政健全化審査についての報告とさせていただきます。

**○議長（小髙芳一君）**　ご苦労さまでした。

次に、認定第６号　平成24年度大多喜町水道事業会計決算認定について説明を願います。

環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　それでは、認定第６号　平成24年度大多喜町水道事業会計決算認定についてご説明をいたします。

初めに、事業報告の概要から入らせていただきます。別冊の水道事業会計決算書の７ページをお開きください。

１の概況、（１）総括事項、アの業務状況ですが、本年度の給水状況は、給水戸数3,752戸、前年度比７戸減、給水人口9,187人、前年度比155人減、年間総配水量、これは浄水場配水池から出た水量でございますが、132万9,080立方、前年度比11万7,984立方の減でございます。年間総有収水量、これは個人のメーターを通った使用量として出た水量でございます

が、107万7,666立方、前年度比１万4,949立方の減でございます。平成24年度の有収率は81.08パーセント、前年度が75.51パーセントですので、前年度比5.57パーセントの増でありました。過去10年間の中で、２番目に高い率となりまして、24年度の目標としていました有収率80パーセントを達成することができました。

イの建設改良状況ですが、昭和43年11月から稼働しています面白浄水場が老朽化しており、その施設更新のため面白地先に施設用地として3,960.46平方を取得いたしました。また、地下水の水質悪化や施設の老朽化に伴いまして、伊保田浄水場を廃止し、面白浄水場系水道水とすることで、あらたに配水管の延長909メートル及び伊保田加圧所を設置し、平成25年４月から給水を開始したところでございます。さらに、町の定住化対策の一環として、一般会計からの出資金と企業債などをあわせ、配水管布設がえ工事２カ所892メートルを行い、そのほか集落内の老朽管化布設がえ工事として１カ所103メートルを実施いたしました。

ウの経理状況ですが、収益的収入、これは水道料金、補助金等でございますが、４億4,981万9,000円で、前年度比259万5,000円、0.57パーセントの減となりました。これは給水収益の減によるものでございます。

また、収益的支出、これは人件費、施設修繕、受水費、委託業務等でございますが、４億4,632万2,000円と、前年度比838万7,000円、1.92パーセントの増となりました。

以上の結果から、収益的収支において349万7,000円、税抜きでございますが、純利益が生じ、累積欠損、赤字でございますが、前年度1,792万8,000円に対し、1,443万1,000円と減少いたしました。

資本的収入、これは加入負担金、企業債収入等でございますが、7,775万4,000円で、前年度比7,326万円、1,630パーセントの増となりました。これは前年度に企業債の借り入れを行わなかったためでございます。

資本的支出、これは工事関係、本管の布設がえ等、それから企業債償還等でございますが、２億47万2,000円で、前年度比7,429万1,000円、58.88パーセントの増となりました。

以上の結果、資本的収支において１億2,271万8,000円の不足となり、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額９万3,000円、過年度分損益勘定留保資金97万5,000円、当年度分損益勘定留保資金１億1,365万円及び減債積立金800万円により補塡いたしました。今後も施設整備等の充実を図るとともに、経営の健全化、さらに安全で安定した給水に努めてまいりたいと存じます。

それでは、決算報告書税込みのご説明をさせていただきます。

１ページ目をお開きいただきたいと思います。

（１）収益的収入及び支出、収入の第１款水道事業収益の決算額は４億6,465万5,901円、内訳ですが、第１項営業収益３億1,281万6,994円、内容といたしましては、水道料金、材料売却収益、手数料、雑収益等でございます。

第２項営業外収益１億5,183万8,907円、内容といたしましては、一般会計補助金、県補助金、雑収益等でございます。

支出の第１款水道事業費用の決算額は４億6,091万922円、内訳ですが、第１項営業費用４億1,479万8,359円、内容といたしましては、委託料、動力費、薬品費、受水費、人件費、修繕費等でございます。

第２項営業外費用4,353万5,307円、内容といたしましては、企業債の支払い利息、消費税、雑支出等でございます。

第３項特別損失257万7,256円、内容といたしましては、不納欠損、固定資産売却損でございます。

第４項予備費は、ございません。

次に、（２）の資本的収入及び支出、収入の第１款資本的収入の決算額は7,775万3,150円、内訳ですが、第１項負担金697万6,200円、内容といたしましては、水道加入負担金、消火栓設置負担金でございます。

第２項企業債5,290万円、内容といたしましては、金融機構借り入れ、金融機関借換債でございます。

第３項出資金1,759万6,950円、内容といたしましては、一般会計出資金による定住化対策工事分でございます。

第４項固定資産売却代金28万円は、施設の不要固定資産の売却を行ったものでございます。

支出の第１款資本的支出の決算額は２億47万1,382円、内訳でございますが、第１項建設改良費8,340万2,562円、内容といたしましては、配水管布設がえ工事、加圧所の設置、用地取得等でございます。

第２項企業債償還金１億1,706万8,820円、内容といたしましては、財務省金融機構、民間金融機関への償還金でございます。

３ページをお開きいただきたいと存じます。

損益計算書の税抜きでございます。

１の営業収益。

（１）給水収益２億9,663万4,447円。

（２）その他営業収益134万4,929円。

合計２億9,797万9,376円でございます。

２の営業費用。

（１）原水及び浄水費２億778万449円。

（２）配水及び給水費3,241万9,638円。

（３）総係費4,797万9,931円。

（４）減価償却費１億1,276万923円。

（５）資産減耗費138万9,245円。

（６）その他営業費用48万7,180円。

合計で４億281万7,366円でございます。この結果、営業損失は１億483万7,990円となりました。

３の営業外収益。

（１）受取利息及び配当金はゼロでございます。

（２）他会計補助金7,650万円。

（３）県補助金7,452万4,000円。

（４）雑収益81万4,907円。

合計いたしまして１億5,183万8,907円でございます。

４の営業外費用。

（１）支払利息3,800万212円。

（２）雑支出292万7,095円。

合計4,092万7,307円でございます。営業外の利益は１億1,091万160円で、この結果、営業利益は607万3,610円となりました。

５の特別損失。

（１）過年度損益修正損202万2,734円。

（２）固定資産売却損55万4,522円。

合計257万7,256円で、当年度純利益、黒字でございますが、349万6,354円となった次第です。これによりまして、前年度繰越欠損金、前年度までの累積赤字のことでございますが、1,792万7,453円で、当年度未処理欠損金、24年度までの累積赤字でございますが、1,443万1,099円となりました。

４ページの剰余金計算書、税抜き、それから、５ページの欠損金処理計算書、貸借対照表は記載のとおりでございますので割愛をさせていただきます。

次に、事業報告の内容についてご説明をさせていただきます。８ページをお開きいただきたいと思います。

（２）議会議決事項でございますが、認定１件、議案６件全て記載のとおり可決されました。

９ページをごらんいただきたいと思います。

（３）規程・規則等改正事項でございますが、大多喜町指定給水装置工事事業者規程の一部を改正する規程１件で、内容は外国人登録法の廃止に伴う関連文言の改正でございます。

（４）の行政官庁認定事項でございますが、平成24年度市町村水道総合対策事業補助金交付申請、起債同意申請、繰上償還承認申請の３件でございます。

（５）の職員に関する事項でございますが、当年度末人員は合計６名で、前年度と比較し増減はございません。また、給料等につきましては下表の記載のとおりでございます。

（６）の料金、その他供給条件の設定、変更に関する事項でございますが、該当事項はございません。

10ページをお開きいただきたいと思います。

２の工事等でございます。

（１）建設改良工事の概況でございますが、大多喜地先町道三の丸線配水管布設がえ工事等12件を実施しており、内容といたしましては記載のとおりでございます。

11ページをお願いいたします。

（２）の主な修繕工事では、面白浄水場２号ろ過池ストレーナー交換工事、町内一円の漏水修理78件等を実施しております。

（３）の保存工事の概況では、量水器交換工事として430戸を実施し、工事費は113万230円でございました。

12ページから14ページ中段までについては、重複する部分がございますので、割愛をさせていただきます。

14ページの（２）企業債の状況でございますが、前年度末残高17億2,411万7,634円、本年度借入額は5,290万円で、本年度償還額は１億1,706万8,820円でございます。本年度末残高は16億5,994万8,814円となります。

18ページ、19ページに企業債明細書がございますので、お開きいただきたいと存じます。

18ページの左側１から30、19ページの左側31から55までと61は、財務省財政融資資金及び地方公共団体金融機構からの借入金で、利息は含まれておりません。左側56から60までは平成22年度中及び24年度中に繰り上げ償還したその資金として、千葉興業銀行、銚子信用金庫等から借りかえしたものでございます。

14ページにお戻りいただきたいと存じます。

（３）その他会計・経理に関する重要事項のロ、経営健全化に関する指標の報告の部分でございますが、資金不足率は24年度ゼロパーセント未満でありまして、国の基準である20パーセントを下回っており、経営状況は健全の範囲でございます。これは、資金不足率の算定方法により事業の規模に対して、資金不足額を除して算出した比率でございます。

15、16ページの収益費用明細書、17ページの固定資産明細書は記載のとおりでございますので、割愛をさせていただきます。

以上で平成24年度大多喜町水道事業会計決算書の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いをいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　説明が終わりましたので、ここで、平成24年度大多喜町水道事業会計決算に対する審査報告をお願いします。

矢代代表監査委員。

**○代表監査委員（矢代健雄君）**　座ったまま失礼いたします。

それでは、お手元の資料、これ、22、23になっておりますけれども、別冊になっておりますが、よろしくお願いいたします。

平成24年度大多喜町水道事業会計決算審査意見について説明申し上げますので、ごらんいただきたいと思います。

地方公営企業法第30条第２項の規定により審査に付された平成24年度大多喜町水道事業会計決算の結果について意見を提出いたします。１ページをお開きください。

第１、審査の概要ですが、審査の対象、平成24年度大多喜町水道事業会計決算。

２、審査の期間、平成25年７月３日に役場大会議室で審査に付され、７月31日まで私と野村監査委員との２人で行いました。

３、審査の手続ですが、審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属書類の内容について、勘定元帳その他の会計帳簿及び関係書類との照合等、通常実施すべき審査手続を実施したほか、必要と認めた審査手続を実施いたしました。なお、審査に当たっては事業の経営分析について行いました。

第２、審査の結果ですが、審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属書類は関係法令に準拠して作成されており、当事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められました。なお、決算の概要については、お手元の２ページから７ページにお示ししておりますが、ご参照いただきたいと思います。

それでは、資料の８ページをお開きください。

結びといたしまして所感を申し上げます。

平成24年度の水道事業業務実績は、これまで決算分析で示したとおりでありますが、営業成績を前年度と比較してみると、給水人口が9,187人で、155人減少し、年間総配水量は13万2,980立方メートルで、11万7,984立方メートルの減少となっています。また、収益的収入は４億4,981万9,000円で、259万5,000円減少し、収益的支出は４億4,632万2,000円で、838万7,000円の増加となっています。この結果、収益的収支において、349万7,000円の純利益となり、前年度からの繰越欠損金はわずかながら減少しました。

資本的収入は7,775万4,000円、資本的支出は２億47万2,000円となり、資本的収支では１億2,271万8,000円の不足の形となりましたが、これは伊保田加圧所の設置や老朽化の布設がえ、さらに町の定住化対策としてライフライン整備のための先行投資等が行われたものであります。

なお、有収率は81.08パーセントで、前年度比5.57パーセント増加し、全国平均に近づいており、精度の高い漏水探知機の導入による漏水箇所の早期発見や漏水防止の効果、さらには職員による適切な保守管理と地道な努力によって成果があらわれているものであり、大変評価できるものであります。

しかし、未収金は3,580万8,000円で、前年度比2,411万円減少しているものの、依然として多額であり、特別損失、不納欠損にも影響するものであり、ほかの課とも連携して回収の具体策を持って実行し、さらに減少に努めていただきたいと思います。

また、営業費用に対する営業収益の割合を示す営業収支比率は、全国平均の94.95パーセントから判断すると、本町は73.97パーセントで非常に低く、営業損失を計上し、営業費用を営業収益で賄っていない状況が続いています。この主な要因は、過去の設備投資による減価償却費や施設の修繕が多額となっていることが挙げられます。そして、構造的とも言える給水人口の減少や広範な給水区域を抱えている状況から営業収支比率を改善することは、非常に厳しい環境にありますが、今後も目標を持って改善されることを期待するものであります。

なお、企業債残高は平成18年度の21億5,419万8,000円を最高に徐々に減少し、平成24年度末で、16億5,994万9,000円となっていますが、給水人口の減少による減益や将来負担等を考慮し、今後も最小限に堅持するよう努めていただきたいと思います。

さらに１立方の供給単価は全国平均238円92銭よりやや高く、275円25銭となっていますが、給水原価は411円31銭で、全国平均の278円76銭を大幅に上回っており、水をつくるための費用を少しでも低く抑える努力をお願いいたします。

設備面では、老朽した配水管や機械等の更新を計画的に推し進め、面白浄水場や横山浄水場の機能強化を図り、町民にとって大事なライフラインとして、安心安全な水の供給のため、さらに努められるよう望むものであります。

次に、同日、経営健全化審査として資金不足比率の審査も行いました。その資料については別に添付してございますが、資金不足比率及びその算定基礎となる事項を記載した書類は適正に作成されており、資金不足比率はマイナス96.6パーセントとなっておりまして、経営健全化基準の20パーセント以下であり、特に指摘するべき事項はありませんでした。

以上で平成24年度大多喜町水道事業会計決算審査と経営健全化審査についての報告とさせていただきます。

**○議長（小髙芳一君）**　ご苦労さまでした。

ここで、10分間休憩します。

（午後　４時０１分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　４時１３分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計剰余金の処分及び決算認定について、説明を願います。

特別養護老人ホーム所長。

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　それでは、議案書つづりの117ページをごらんいただきたいと思います。

認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計剰余金の処分及び決算認定についてでございます。

地方公営企業法第32条第２項の規定に基づき、平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事

業会計決算に伴う剰余金を。

（「すみません、ページ数をもう一度言ってください」の声あり）

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　議案書つづりの117ページです。議案書です。一番最後です。よろしいでしょうか。

それでは、117ページをごらんいただきたいと思います。

認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計剰余金の処分及び決算認定についてでございます。

地方公営企業法第32条第２項の規定に基づき、平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計決算に伴う剰余金を剰余金処分計算書案のとおり処分し、あわせて同法30条第４項の規定に基づき、平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計決算を別紙監査委員の意見をつけて議会の認定に付するものでございます。

初めに、剰余金の処分についてをご説明いたします。恐れ入りますが、特別養護老人ホーム事業会計決算書の４ページをお開きいただきたいと思います。

剰余金の計算書です。２つの表がありますが、下の表をごらんいただきたいと思います。

剰余金処分計算書案でございます。

４つの列のうち、右側の未処理利益剰余金の列をごらんいただきたいと思います。

当年度24年度末残高は5,254万1,824円でございます。そのうちの200万円を処分し、利益積立金として積み立てたいと考えるところでございます。平成23年度までは利益積立金の額につきましては、当年度の純利益の20分の１を下らない金額と規定されていましたが、24年度からはその規定が改正され、額については議会の承認を受ければ幾らでもよいということになりました。つきましては、前年度同様に、剰余金200万円の処分を認定くださるようよろしくお願いいたします。なお、処理後の残高は5,054万1,824円となります。

続きまして、決算についてをご説明いたします。決算書の１ページ、２ページをお願いいたします。

（１）収益的収入及び支出。

収入でございます。

第１款特別養護老人ホーム事業収益、予算額の合計は３億155万7,000円、決算額は２億9,859万4,500円となり、決算額は予算額に比べ296万2,500円の減額となります。

次に、支出ですが、第１款特別養護老人ホーム事業費用、予算額の合計は２億9,345万円、決算額は２億8,488万3,574円となり、不用額は856万6,426円となります。

続きまして、（２）資本的収入及び支出。

収入でございます。

第１款資本的収入、予算額及び決算額ともにゼロということです。

次に、支出ですが、第１款資本的支出、予算額の合計は569万1,000円、決算額は381万790円となり、不用額は188万210円となります。

なお、資本的収入が資本的支出に対して不足する額381万790円は、当年度分損益勘定留保資金381万790円で補塡いたしました。

３ページをお開きください。

損益計算書です。

これにつきましては、記載のとおりですので省略させていただきます。

続きまして、５ページ、６ページをお願いいたします。

貸借対照表です。

こちらにつきましても、記載のとおりですので省略させていただきます。

続きまして、決算附属書類をごらんいただきたいと思います。

９ページをお願いいたします。

事業報告書でございます。

１、概況、（１）総括事項、業務です。枠の中をごらんいただきたいと思います。

まず、施設入所ですが、24年度の年間利用者数は２万7,883人で、23年度と比較しますと、249人の減となります。

続いて、短期入所ですが、24年度の年間利用者数は1,273人で、23年度と比較しますと、73人の増となります。

次の設備から14ページ、４、会計につきましては、同じく記載のとおりですので省略させていただきます。

続いて、15ページをごらんいただきたいと思います。

特別養護老人ホーム事業会計収益費用明細書でございます。

（１）事業収益。

第１款事業収益は２億9,859万4,500円。

第１項営業収益は２億9,773万3,066円。

第１目介護報酬収益、介護給付費の交付金ですが、２億5,123万1,360円でございます。

第２目介護負担金収益、個人負担金ですが、4,650万1,706円。

第２項営業外収益86万1,434円。

第１目受取利息３万1,584円。

第２目寄附金はゼロ円です。

第３目その他営業外収益は82万9,850円となります。

次に、（２）事業費用です。

第１款事業費用２億8,488万3,574円。

第１項営業費用２億8,488万3,574円。

第１目総務管理費１億8,209万1,188円。

内訳に入ります。

第１節報酬２万4,800円。運営委員４名分の報酬でございます。

第２節給料9,141万3,066円。

第３節手当4,069万7,956円。

第４節法定福利費4,350万790円につきましては、職員31名分の人件費でございます。

第８節消耗品費39万3,197円。

第９節燃料費23万3,773円。

第10節手数料48万1,396円につきましては、備考欄の説明のとおりでございます。

16ページに移らせていただきます。

第13節通信運搬費33万5,768円。

第14節委託料113万1,390円は、特注建築物建物調査並びに職員の健康診断委託料でございます。

第16節使用料297万2,488円につきましては、公営企業会計システムリース料、福祉パソコン借り上げ料、インターネットサービス使用料、コピー使用料でございます。

第17節負担金23万9,000円。

第18節保険料58万2,904円は、備考欄の説明のとおりでございます。

第２目施設管理費2,391万6,999円。

第８節消耗品費621万2,620円。

第９節燃料費274万7,850円。

第10節手数料102万6,215円につきましては、備考欄の説明のとおりでございます。

第12節修繕料133万2,528円、大型乾燥機の修理や浄化槽破砕機の交換工事などでございます。

第14節委託料334万3,226円。

第20節光熱水費925万4,560円につきましても、備考欄の説明のとおりでございます。

第３目居宅介護事業費、短期入所に関する事業でございますが、285万2,298円。

第４節法定福利費35万9,890円。

第６節賃金199万6,250円。臨時職員１名分の人件費でございます。

第４目施設介護事業費6,805万6,449円。

第１節報酬123万1,200円。定期往診３医院分でございます。

第４節法定福利費475万9,427円。

第６節賃金3,132万7,979円。臨時職員21名分の人件費でございます。

第８節備消耗品費209万5,863円。厨房用及び介護用備品消耗品費でございます。

第10節手数料132万1,021円。

第14節委託料214万8,000円。協力医４医院といすみ医療定期往診、リハビリ訓練士に対する委託料でございます。

第16節使用料195万9,927円。

第21節賄い材料費2,319万3,483円は、備考欄の説明のとおりでございます。

第５目減価償却費、第１節有形固定資産減価償却費796万6,640円。

第６目資産消耗費、第１節固定資産除去損失はゼロ円でございます。

第２項営業外費用、第１目雑支出はゼロ円でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　説明が終わりましたので、ここで平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計剰余金の処分及び決算に対する審査報告をお願いします。

矢代代表監査員。

**○代表監査委員（矢代健雄君）**　それでは、お手元の資料、24、25になりますかね、この薄い老人ホーム事業特別会計決算審査意見というのを見ていただきたいと思います。

平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計決算審査意見についてご説明申し上げますので、ごらんいただきたいと思います。

地方公営企業法第30条第２項の規定により、審査に付された平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム特別会計決算の結果について意見を提出いたします。

１ページをお開きください。

第１、審査の概要ですが、１、審査の対象、平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業

会計決算。

２、審査の期間、平成25年７月３日に役場大会議室で審査に付され、７月31日まで私と野村監査委員とで行いました。

３、審査の手続ですが、審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属書類の内容について、総勘定元帳その他の会計帳簿及び関係書類との照合等、通常実施すべき審査手続を実施したほか、必要と認めた審査手続を実施しました。なお、審査に当たっては事業の経営分析について行いました。

第２、審査の結果ですが、審査に付された決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属書類は関係法令に準拠して作成されており、当事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められました。

なお、決算の概要につきましては、お手元の２ページから５ページにお示ししたとおりでございますので、ご参照いただきたいと思います。

それでは、資料６ページをお開きください。

結びといたしまして所感を申し上げます。

昭和54年開設以来、施設介護を必要とする高齢者の介護サービス提供のため、大きな役割を果たしております大多喜町特別養護老人ホームは、34年を迎え施設の老朽化とともに入居者のさらなる高齢化と重度化によりまして、介護従業者の負担は増大しております。

また、入居者の中には、入院加療や治療のため病院への緊急処置を必要とする状況も発生し、業務実績は施設入居者数２万7,883人で、前年度比249人の減少となっているものの、短期入居者数は1,273人で、前年度比73人増加しております。

そして、収益的収入は２億9,859万5,000円、収益的支出は２億8,488万4,000円となり、当年度の利益は1,371万1,000円の黒字で、前年度繰越利益とあわせ当年度末未処分利益剰余金は5,254万2,000円となりました。介護環境は厳しくなる中、施設職員のご尽力によりまして、前年度に引き続き事業の安定運営に努力されており、評価できる内容であると判断いたしました。

一方、資本的支出については、予算額569万1,000円に対して、決算額は381万1,000円で、188万円の不用額が生じ、執行率は67パーセントとなりました。これは、当初予定した事業が実施できなかったことによるものであり、今後予定事業の実施については、緊張感を持って、着実に実施するよう求めるものであります。

なお、平成24年度は介護関係職員が２名減少しておりまして、限られた職員で昼夜を問わ

ず毎日介護や生活を支える仕事はハードであり、常に施設職員の労務環境に十分配慮してあげることが非常に重要であります。

また、入居者の方々はほとんど全ての方が援助を必要とする状態でありまして、加えて、職員は交代制で勤務している状況でありまして、特に夜間は管理系の職員もいない状況でありますので、日ごろから医師や消防署など関係機関と連携し、地震等の自然災害や火災等有事の際を想定した訓練を効果的に実施し、入居者の避難や安全確保に努められることを望むものであります。

次に、同日、経営健全化審査として資金不足比率の審査も行いました。その資料については別に添付してございますが、資金不足比率及びその算定基準となる事項を記載した書類は適正に作成されておりました。資金不足比率はマイナス142.1パーセントとなっておりまして、経営健全化基準の20パーセント以下であり、特に指摘すべき事項はありませんでした。

以上で平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計決算審査と経営の健全化審査について報告させていただきます。以上。

**○議長（小髙芳一君）**　ご苦労さまでした。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（小髙芳一君）**　以上で本日の日程は全て終了しました。

あさって、13日は午前８時45分から総務文教常任委員会協議会が開催されます。また、17日は午前８時45分から福祉経済常任委員会協議会が開催されます。いずれの委員会協議会も新庁舎２階の第１、第２会議室ですので、時間厳守でご参集願います。

所属していない委員会についても傍聴できますので、議案調査のため、ぜひ活用されますようお知らせをいたします。

９月20日は午前10時から本会議を開きますのでご承知願います。

なお、お疲れのところでありますけれども、この後、議員全員協議会をこの会場で開きたいと思いますのでご承知願います。

本日はこれにて散会します。

長時間お疲れさまでした。

（午後　４時３７分）

# 第１回大多喜町議会定例会９月会議

# （ 第 ３ 号 ）

# 平成２５年第１回大多喜町議会定例会９月会議会議録

平成２５年９月２０日（金）

午前１０時００分　開議

**出席議員（１２名）**

| | | | |
|---|---|---|---|
| １番 | 根本年生君 | ２番 | 正木　武君 |
| ３番 | 吉野一男君 | ４番 | 麻生　勇君 |
| ５番 | 野村賢一君 | ６番 | 江澤勝美君 |
| ７番 | 志関武良夫君 | ８番 | 渡邉泰宣君 |
| ９番 | 吉野僖一君 | １０番 | 山田久子君 |
| １１番 | 野中眞弓君 | １２番 | 小髙芳一君 |

**欠席議員（なし）**

**地方自治法第１２１条の規定による出席説明者**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 町長 | 飯島勝美君 | 副町長 | 鈴木朋美君 |
| 教育長 | 石井信代君 | 総務課長 | 花﨑喜好君 |
| 企画財政課長 | 小野田光利君 | 税務住民課長 | 市原和男君 |
| 健康福祉課長 | 関　晴夫君 | 子育て支援課長 | 石井政一君 |
| 建設課長 | 野口　彰君 | 産業振興課長 | 末吉昭男君 |
| 環境水道課長 | 川嵜照恭君 | 特別養護老人ホーム所長 | 齋藤健二君 |
| 会計室長 | 高橋啓一郎君 | 教育課長 | 加曽利英男君 |
| 生涯学習課長 | 渡辺八寿雄君 | 代表監査委員 | 矢代健雄君 |

**本会議に職務のため出席した者の職氏名**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事務局長 | 髙橋謙周 | 書記 | 大竹義弘 |

**議事日程（第３号）**

日程第　１　認定第１号　平成２４年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定について（質疑～採決）

日程第　２　認定第２号　平成２４年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定について（質疑～採決）

日程第　３　認定第３号　平成２４年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について（質疑～採決）

日程第　４　認定第４号　平成２４年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について（質疑～採決）

日程第　５　認定第５号　平成２４年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算認定について（質疑～採決）

日程第　６　認定第６号　平成２４年度大多喜町水道事業会計決算認定について（質疑～採決）

日程第　７　認定第７号　平成２４年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計剰余金の処分及び決算認定について（質疑～採決）

追加日程第１　議案第７号　暗渠排水工事請負契約の締結について

追加日程第２　議案第８号　平成２５年度大多喜町一般会計補正予算（第４号）

追加日程第３　発議第１号　「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」のための意見書の提出について

追加日程第４　発議第２号　若い世代が安心して就労できる環境等の整備を求める意見書の提出について

追加日程第５　発議第３号　鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書の提出について

---

**◎開議の宣告**

**○議長（小髙芳一君）**　おはようございます。

本日の会議は、平成24年度大多喜町一般会計のほか、各特別会計及び事業会計の決算に関する質疑及び採決を予定しております。また、町長から議案２件及び議員から発議案３件の上程も予定されておりますので、議事進行につきましてご協力いただきますようお願いいたします。

これから本日の会議を開きます。

（午前１０時００分）

---

**◎行政報告**

**○議長（小髙芳一君）**　日程に先立ち、町長から行政報告があります。

町長。

**○町長（飯島勝美君）**　おはようございます。

本日は、議会定例会９月会議の最終日でございますが、議長さんを初め議員の皆様には、公私ともに大変お忙しい中にもかかわりませず、本日ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

まず、行政報告につきましては、本定例会初日以降の行事でございますので、お手元に配付させていただきました報告書により、ご了承いただきたいと思います。

さて、本日の定例会最終日の会議事件でございますが、平成24年度の一般会計ほか４特別会計の決算認定並びに２事業会計の決算認定でございます。この決算については、いずれの会計においても、経常的経費が増加し、財政の硬直化が進んでいるものの、財政の健全化判断比率をクリアしており、健全に運営してきているところでございます。

なお、決算の内容につきましては、既に本定例会２日目に提案説明させていただき、その後、各常任委員会協議会において詳細な説明をさせていただきましたので、本日は質疑と認定のみとなっておりますので、よろしくご審議いただき、ご承認くださるようお願い申し上げ、挨拶にかえさせていただきます。

**○議長（小髙芳一君）**　これで行政報告を終わります。

ただいまの出席議員は12名全員です。したがって、会議は成立しました。

---

◎諸般の報告

**○議長（小髙芳一君）**　次に、諸般の報告でありますが、９月10日以降の議会関係の主な事項は、お配りした議会諸報告によりご了承いただきたいと思います。

これで諸般の報告を終わります。

---

◎認定第１号から認定第７号の質疑、討論、採決

**○議長（小髙芳一君）**　これより日程に入ります。

日程第１の認定第１号から日程第７、認定第７号までの平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算、各特別会計歳入歳出決算及び各事業会計決算については、既に説明が終わっておりますので、９月11日の議事に引き続き、各会計の質疑、討論、採決を行います。

なお、質疑、討論、採決の方法については、本日、配付いたしました資料のとおり進めたいと存じますので、ご了承願います。

また、質疑の際は決算書記載のページを必ずお示しいただくとともに、質疑に当たっては、議題以外にわたることやその範囲を超えることのないようにお願いいたします。さらに、数多くの項目について質疑を行う場合は、できるだけ区切って、１項目ずつ質疑するようお願いします。

日程第１、認定第１号　平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　60、61ページ、総務費のところですけれども、庁舎管理費の中で、光熱水道費が889万計上されております。この光熱水道費については、22年度で言いますと592万、23年度667万、そして24年度が889万とかなりの額で上昇を続けております。これは、新しい庁舎建設による設備の拡大された問題もあると思うんですけれども、それにしても大き過ぎます。片方で、水力発電で自然エネルギーをとか言っている中で、この光熱費の削減というか効率化について、どんな対策をしてきているのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　需用費でございます。庁舎管理費の需用費でございます光熱水費でございます。23年度決算では、議員おっしゃるとおり、800万を超える歳出となっております。24年度決算ですね、失礼しました。この光熱水費につきましては、本庁舎、中

庁舎、第３庁舎、また資料用の倉庫とか役場の駐車場、防災倉庫等の電気・ガス・水道の経費でございます。24年度の内訳でございますが、やはり電気のほうが大分ふえております。この電気につきましては、電気料金の値上げ等もございますし、この新しい庁舎に、教育課とか、また保健センター、そういったものが移動してまいりましたのが、平成23年８月以降でございまして、23年度の中では、まだ現在の状況にはなっておらないところでございます。23年度と比較しますと、140万ほど確かにふえているのはおっしゃるとおりでございます。現在も、昼休みの消灯とか退庁時の部分的な消灯等に心がけ、なおかつ冷暖房もなるべく切りかえて、提唱するようなことで心がけてはおりますが、職員の健康管理上、必要なところについては、やはり照度が必要でございますので、今後についても、節電等、節約に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　65ページ、地域情報通信基盤維持管理事業ですが、光ファイバーの関係ですが、かかった経費が1,125万円、それに対して使用料が986万で、130万もいまだ赤字という状況なんですが、これは、赤字解消ができる見通しはあるのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　議員ご指摘のとおり、歳出、また光ファイバーケーブルの貸し付けの歳入、その差がやはり140万近くございます。これにつきましては、当初、光ファイバーケーブルを施設する際に、ＮＴＴと契約をしまして、その目標件数を1,350件と大多喜町の目標はいたしました。その1,350件が加入すれば、電柱の添架委託料とか、多少の電柱移転とか、そういったものが相殺できて、町の負担がないということで、当初、契約したものでございます。近年でございますが、総務省のほうから、ＮＴＴ、東京電力のほうに、電柱の劣化が激しいんではないかと、損傷している電柱をそのまま立てているんじゃないかと、それは、竜巻、また台風等で、倒壊する電柱が非常に多いということで、総点検をするように指導が出ております。ここ、二、三年、やはりそのために私どもで、当初、契約した内容からすると、町の歳出が100万程度あったりとか、そういうような決算になっておることは事実でございます。電柱が移転しますと、必然的にその電柱に私ども、添架しております光ファイバーケーブルの移転とかという経費も必要になってきまして、そういった経費で多くなっているところでございます。一応、東電、ＮＴＴのほうに、この辺の当初の契約が

ちょっと甘かったんじゃないかということでお話をしましたところ、やはり総務省のほうの指導があってということですが、ここ、一、二年の中では、全て総点検を終わって、当初契約どおりに、負担のないようになっていきますと、もしまたそれがまた長引くようでございましたら、その単価については、再度見直してくれということで、うちのほうも要望はしたんですが、そうすると受益者の負担というか、光ファイバーを利用されている方の負担がふえてしまうので、その辺については、再度協議をしていかなければならないところでございます。もう少し様子を見まして、その辺の単価の見直し等については、再度協議をしてまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　67ページ、バスターミナル整備事業1,301万、この事業、中断というか頓挫しているわけですけれども、この事業の取り組みから、それから中断に至るまで、町には何が残ったのか、何をここから学んだのか、説明してください。

**○議長（小高芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　バスターミナルの整備事業でございますが、以前に議会のほうにお諮りをした際においては、現在、東京方面に走っているバスに、オリブにそのターミナルをつくって、そこに入っていただいて、観光客等についての利便性を図り、また大多喜の観光とか、例えば東京に通学・通勤する方たちの利便を図りたいというつもりで、計画をさせていただいたものです。ただ、バス会社にとっては、そこの信号が入ることによって、10分間程度のロスが出るということで、当初、私どもが計画したターミナル事業自体は頓挫しております。ただ、現在も、バスターミナル整備事業、全く終わっているわけではなく、小湊バスまた京急電鉄のほうと協議をしまして、現在、東京にバスが行っておりますが、それを品川につなぐような方法で、将来やはり大多喜から通学・通勤で使っていただいたりとか、またゴルフ場のほうでも、ぜひ支援をしたいということで、今、私ども、何人ぐらいのお客を確保しますよというような、そんなようなお約束をいただきながら、現在も着々と進めているところでございます。このターミナル事業の中で、やはり土地等も買っております。その土地については、バスを利用される方、近隣から通われる方の駐車場にしたいと考えております。あえて、そのバスターミナルの土地を使うのではなく、現在、オリブで考えておりますが、オリブの駐車場の中を回るような形で計画して、現在も進めておりますが、ある

程度数字が出てきておりますので、近々に、京急のほう、また小湊バスと協議をして、実現に向けてもう少し検討を重ねていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　これからまだターミナルは進めるということなんですけれども、何を学んだかということについては答弁いただいておりません。今の答弁、答えを失敗してしまったことは仕方ないと思うんですね。そこから何を学んで、次に失敗しないようにするには、どういう手だてが抜けていたということをきちんと学んだ事柄は説明していただかないと、納得できないし、本当に高かった授業料が無駄になるというもので、この授業料を自分が払うんだったらいいけれども、皆さんからお預かりした本当に貴重な税金なわけですから、そこの答弁していただきたいと思いますが、もう一つ、町民の利便性を図るということですけれども、今のオリブ前の停留所、やはりあそこを使っていらっしゃる方は、雨のときとか炎天下、待つのが、つらいという声がかなり聞こえます。それに対して、停留所を使う人の利便性も図っていく必要はあると思うんです。その辺について、停留所の屋根というか、雨よけというか、風よけというか、そういうものをつくっていくという計画などは考えていないのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　すみません、答弁のほうが漏れておりました。

バスターミナルの以前に提案させていただいた事業でございますが、これにつきましては、私自身が行ったんですが、鴨川の日東バスのほうに町のほうのバスターミナルの計画をお話ししましたところ、自分のほうの客ですので、ぜひお願いしますというお話を私どもはいただきました。そういった話で、じゃ入ってくれるんだなと私どもも考えまして、そこに、要するにバスの待合所、またバスが回転する場所、またバスが待機する場所、そういったものの計画を提案させていただいたものでございます。ただ、核心になってきて、私どもが議会に提案した後においては、実際は、10分のロスが出るから入れませんというようなお話でしたので、私どもも、何を学んだかと言われると、そういったバス会社の話というのは、うのみにはできないなと、これはよほど疑ってかからなければならないなということは非常に勉強させていただきました。また、ターミナルについても、事前に、いろいろな機関、また議員さんともご相談させていただきながら進めるべきであったのかなと、そういう部分も、お

っしゃるとおりの部分がございました。

また、次のお話でございますが、現在の東京行きのバスの停留所、そういった屋根等のほうにつきましては、以前も、野村議員さんからご質問もいただいているところでございます。もともとの屋根があそこへついておりまして、それについても、ちょっと近隣の方が、お店を始めるので移転するというお話でございまして、私どもも、その際において、オリブの中にターミナルをつくるから、それについては、すぐに再建しないというか、すぐに移動して新たに建てないというような状況で判断したんですが、今現在、進めているターミナルのほうもございますので、その動向によっては、再度、道路占用手続せざるを得ないかなと思っております。ただ、経費的には、どうしても200万ぐらいの金が多分かかると思いますし、道路占用手続で、非常に位置が限られてきますので、土木のほうで許可が得られるものでありましたら、再度協議は、土木のほうとはしてまいりたいと考えております。また、可能であれば、おっしゃるとおり、屋根等々についても、設置をしていくような方向で図っていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　今の企画財政課長の答弁ですが、今、野中議員のほうから言われた関連でちょっと質問させていただきます。

10分ほどのバスの入ることによってロスがあるということについては、これは、実際にはそういう感覚じゃないと思うんですよ、私の思っているのは。ターミナル建設を継続していくというような考えなんですが、当初、私が３月の議会のときに質問したときには、規模を縮小した中で、10月までには何とか完成をさせていきたいというような答弁だったと思うんですが、これは、ターミナルは、はっきり言ってつくらないほうが、私はいいと思う。もう断念したほうがいいと思う。といいますことは、これからターミナルをつくって、運行するように要請をバス会社にしても、町の負担がふえてきます。これから運行すれば、必ず町の負担がふえてきます。

それと、乗客の先ほど確保というようなことを言っていましたけれども、乗客の確保などは、これは非常に難しい。これは、バス会社に、赤字にならないような、そういう方法で、じゃこのくらいの人数で確保してやっていくように努力しますよといっても、これは非常に難しい。だから、そういうことから考え、全体的に考えていきますと、今もう負担がかかっ

ちゃっているわけですから、これ以上の負担がかからない、そういう方法で、中止したほうがいいというような、そういう私は考えですね。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　いろいろバスターミナルにつきましては、今、計画につきましては、今いろいろご質問のいただいたとおりでございます。今、志関議員さんの言われましたように、ただこれからどういう形で進めるにいたしましても、いろいろな既存の施設につきましては、駐車場というのは当然どこでも必要であり、私も、バス会社といろいろ、先ほど課長も答弁した中で、バス会社さんの採算性というものを考えますと、やはりなかなか厳しい面があるなというのはよくわかります。だから、バス会社も、必ず言っていることは、駐車場がなければだめですよということだけは、はっきりどちらのバス会社もみんな同じことを言っているので、現在、ターミナルの中で、駐車場部分だけは用意いたしましたので、あとそれから先のターミナルが、バスの回転場とか、そういうものは、実は、その過程の中で、一人の地主さんの方が、町の土地と道路の角地を地交換してくれということで、そういったことで地交換もさせていただきましたので、そうすると、大々的につくらなくても、今の既存のもので利用できるというめどだけはついておりますので、それはそれで、もうお金をかけなくて済むのかなと思っています。

そういうことで、ただ私どもも、この事業につきましては、もちろん採算点もございますけれども、やはりこの地域に、若い方々の定住化という意味では、交通政策というのは、非常に重要であることは間違いないわけですね。そういうことで、これからは、今、バス会社とも折衝しておりますが、何らかの形で、やはりこの地域から、この就業場所のあるところに、あるいは学校に通えるような交通施策というのはこれからもまたやっていかなければいけないと思いますし、ただご指摘のように、できるだけ費用のかけない形で進めてまいりたいと思っています。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　69ページの防犯灯電気料金補助金の件なんですけれども、この補助金は、要綱を見ましたところ、条例だったか、要綱だったか、すみません、平成15年に定められた要綱に基づいて、１基当たり2,200円ということで支払われていると思います。平成15年から前年度までずっと金額は同じです。それで、その2,200円の算出根拠について、私も古い方とか先輩方にちょっとお聞きしましたところ、当時の電気代プラス、どうしても１年

間の間に何基か、電気の球の交換、修理が出てきますので、それをあわせた形で、補助を受けたんだと、ただこれは、書き物があるわけじゃないので、何人かの方がそう証言しているだけでありますので、ただ近年、電気代もかなり上がってきています。ことし９月の時点ですと、１基当たり300円、そうするとかなりの区のほうの負担がふえています。ちなみに、新丁の場合ですと、消防小屋と、あと青年館とで、約11万ぐらい、前年度、費用が発生しております。町の補助金は４万6,000円ですので、平成15年当時と比べますと、かなり電気料金も高騰しておりますので、この辺は、見直しが必要ではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　防犯灯の設置の維持管理の補助金のご質問でございますが、議員さんおっしゃるとおり、今現在、年間１基2,200円というふうな補助金で、補助金交付要綱のほうに定めております。これは、おっしゃるとおり、平成15年に電気料と維持管理費を含めて計算してきたわけでございますが、補助金でございますので、経費の範囲内を助成するのが補助金でございます。全額補助するというふうな決まりではない。たまたま平成15年のときに、どういう補助金の算出、補助金を決めるときに、どういうふうな形で算出すべきかというふうな議論の中で、その根拠がございませんでしたので、そういう電気料と維持費というような形で、補助金を定めさせていただきました。おっしゃるとおり、かなり各区のほうに、防犯を含めた形で、自己財源といいますか、各区の財源を投資していただいておりますので、今後、これについては、前向きに補助金の要綱の改正を検討したいというふうに思っております。

以上でございます。

（「関連で」「そのことについて」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　私、そのときに、この周辺の自治体では、防犯灯の電気代まで各地区に負担させているのは、実は大多喜町だけだったんです。それでもって、その地域だけの問題じゃないんじゃないかということで、防犯灯の電気代は、町が負担をしますということで、その要綱をつくってもらいました。そのときの2,200円の根拠なんですけれども、防犯灯は、１基につき電気代が、その当時は180円で、一月180円掛ける12カ月、そうすると大体2,200円なんですね。そのほか修理代とか、そういうものについては、地区で持ってくれということで、2,200円が出たんです。ですから、もし、今、東電が防犯灯１基についての料

金を値上げしているのであれば、見直す考えというのは、必要ではないかと私も思うのですが、その辺はどうでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　ただいま根本議員さんに答弁したとおりでございます。検討するというふうなお話をしました。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

８番渡邉泰宣君。

**○８番（渡邉泰宣君）**　65ページ、真ん中辺の結婚活動支援事業について伺いたいと思いますが、この活動が始まってから、もう四、五年になると思うんですが、何か聞くところによると余りいい結果が出ていないということなんですが、今後について、何かこの前の会合で、見直すという話がありましたけれども、どういうような見直しの仕方をするのか、伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　議員ご質問の結婚活動支援事業でございます。24年度につきましては、４回実施し、うち２回につきましては、実は、震災等で落ち込んだ観光の振興も兼ねて、県が支援しております宿泊滞在型の観光推進事業の補助金、５分の３なんですけれども、そういったものを活用しまして、婚活は絡めた大多喜町移住交流モニターツアーというものを実施いたしました。１泊２日のものでございました。ただ、やはりこれにつきましても、大多喜に余り魅力がないのかどうか、ちょっと２回でも、女性が13名、男性が18名の参加しかないために、翌年度、平成25年度等につきましては、計画をしなかったところでございます。

また、今後でございますが、25年度等につきましては、男性も教育しなければならないということで、婚活のセミナーもやったんですが、やはりそれにつきましても、余り男性の参加が多くない状況でございました。じゃ、今後どうするのかという話になりますと、セミナーにつきましても、やはり余り魅力がないのか、そう感じていないのかわかりませんけれども、そういったものにつきましてはやめていきまして、いつまでも町が、役場の事業としてというか、役場職員がこの婚活のイベント等を組むのもちょっと違うのかなと思いまして、現実に、今、募集をしておりますけれども、民間の方がやられる、また組織がやられる、大多喜城手づくり甲冑会が主催しております手作り甲冑の婚活とか、またライオンズクラブ、

ロータリークラブ、商工会、結婚相談員さんたちが、自分たちで企画して新しいものをやりたいという協力しますよというお話がございますので、町が、それに対して、逆に支援をする、補助金を出すとか、そういった形のほうがもっとフリーにやれる。町がやる場合は、非常に個人情報だとか、これは、ちょっと町がやるべきじゃないんじゃないかというようなイベント内容等々もありますので、今後は、そういった組織がやるものに対して支援するような形に変えていけたらなと思っております。また、事務事業等の見直しも町の中で行いますので、そういった中で検討していきながら、今後の方向性は決めていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　８番渡邉泰宣君。

**○８番（渡邉泰宣君）**　ただいま答弁の中で、甲冑教室の中の婚活ということが挙がってきましたけれども、先日、ある会合の中でも、このＰＲをされておりましたけれども、やはりこれは、経費が大分かかるんですよね、材料が。材料代として、３万円程度という経費がかかりますが、町からも助成するということでありますが、できるだけ負担の少ないようなことでお願いしたいと思いますし、またこの内容につきましても、当人同士でなく、甲冑をつくりながら、出会いの喜び、参加するということで、チラシも出しているようでありますので、ひとつよろしくご協力をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

**○議長（小高芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　議員おっしゃるとおり、甲冑会のほうでやられておるもの、甲冑の材料費だけでやはり３万円程度かかるということで、それについて、代表者の方ですか、ちょっとお話をさせていただいた中で、町の何か支援が必要ですかというお話をさせていただきました。そういった中では、余り最初から町が、やはり補助金だの何だのと余りお金をもらっちゃうと、逆にそれで縛られてしまうので、もうちょっとフリーにやらせてくれと、ただ最後、例えばカップルになられた方とか、そういう方のときに少し手伝ってくれないかというようなお話をいただいておりますので、また今後こういった団体とお話をさせていただきながら、町が、どんな支援が必要なのか、また経費等が必要であれば、議会のほうへまたご承認をいただくため上程させていただきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　すみません、今の関連で、私も、興味がありまして、実は、内閣府のほうに、担当者のほうに電話してちょっと内容を聞きました。聞いたところ、ホームページでも出ていたんですけれども、26年度、補助金を出す予定があると、それでもう概算要求していますよと、それが国会を通れば、事業に対して、確かにそれで、婚活、子供がふえる事業であれば、補助金を出すというもう概算要求してあるということですので、それももし活用していただければと思います。これは意見でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　答弁は要りませんか。

（「はい」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　67ページ、電子計算業務費7,465万円使われました。23年度は4,470万です。大分ふえています。ここでふえただけではなくて、いろいろな部署でパソコンの費用というのは少なくないお金が使われております。町全体で、24年度は、幾らパソコン関係でお金が使われたのでしょうか。そして、このどんどんふえていくパソコン関係の費用、削減する対策というのは考えているんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　パソコン経費に関するご質問でございますけれども、町全体の経費がどのくらいかというふうなご質問でございますが、それにつきましては、私ども、全体的な数値は、今のところ把握してはございません。

決算につきましての回答をします。今ご質問のあった本年、24年度決算額7,465万でございます。前年度が4,200万で、約3,000万、この項目でふえております。それにつきましては、委託料のところで、基幹系システム貸与一括処理委託料というのがあると思うんですが、それが1,700万、これが新規でございます。それと、その次のページの使用料及び賃借料、電子計算機借り上げ料4,233万四千何がしという額があると思います。そのうちの約2,300万が新規でございます。そういう経費が主に今回24年度で上がった分でございます。それというのは、住民情報をもとにしますこの基幹システムは新規に24年１月から稼働しました。それによりまして、24年１月ですので、昨年分は、24年１月、２月、３月、３カ月分だけです。それが今年度から丸１年間リースするようになりました。それで、28年12月31日までリースになりますので、その分が、今後、24年、25年、26年、27年までは、この額で、同額でいく

と思います。そして、その一括の処理につきましては、たまたま24年度は、一括で総務課のこの電子計算機で処理をしましたけれども、25年度から、今年度から各会計ごとに処理をするようにしておりますので、多少25年度は、この一括処理の委託料は下がってくるかなというふうにも思っております。

そして、今後どのようにこの経費を下げていくかというふうなことでございますけれども、常日ごろ、我々も、やはり職員は、どうしても、今現在、他の町村に比べると職員数が多いというふうな観点から、職員を減らさなくてはいけないと、そういうことで、こういう電算関係も取り入れてきておりますけれども、それと対比すると、人件費とこの経費がどうなるのかなというふうなところも確かにございますので、今後、この市町村の事務というのは、全国、もっと小さく言えば、夷隅郡市あるいは千葉県内、同じような業務が全部やっておりますので、一括で、クラウド方式といいまして、どこかに大きなシステムをつくっていただいて、そこに各市町村が乗り込んでいって、同じシステムを使うような方法で、今後は、県あるいは郡内で、郡市内で検討していきたいなというふうに考えております。それが、今、電子入札のシステムなんかをみんな一括でそういうふうにやっているのが、全部、市町村が同じでございますので、そういう中から情報をもらって、やっているようなシステムがございますので、今後、町でも、ある程度リースが一緒に切れた時点ぐらいを目標に、これから、先ほど言いました28年まで使いますけれども、その間に、同じ、できれば同じ仕事だったらやっていきましょうというふうな協議を今後していきたいなと思っております。それによって、システムの使用料がかなり下がってくるかなというふうに思っております。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　それから、これだけパソコンがもう欠かせなくなっている以上、専門的な知識をしっかりと身につけた職員は確保するということも、一つ必要ではないかと思うんですけれども、傷つけたら申しわけありません、役場のどの部署に行っても、みんな素人集団という感じがするんですね。きちんとやっぱり必要であれば、専門家をきちんと用意するということ、それと人件費の削減、人件費の削減といって、サービスというか仕事の質が下がっては困るわけです。人件費というのは、この地域に人が住み、活性化する一つの地域活性の重要な経費だというふうに私は考えています。ですから、住民に対して的確なサービスを提供するために、余り人件費削減というのは、問題があるんじゃないかと思います。

どうやって質を高めるか、少ない経費で。今の人件費で、人件費が減ったら、どんどんこの町から若い人たちがますますいなくなってしまうわけだから、今の人件費の中で、どんなにもっと多くのサービスを住民にできるかということで考えていただきたいなと思うんです。もうことしは、試験は終わってしまったかもしれないけれども、パソコン関係、外注する部分が少しでも少ないような人事のあり方というのも、検討する考えというのはないでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　確かに、野中議員さんおっしゃるとおり、そういう人材といいますか、必要なことは、承知はしております。先般の議会の中でも、農林関係とか土木技術関係の専門家の職員を採用して、育成したらというふうなお話がありました。そういうことも含めて、今後、検討しなければならないなというふうなことは十分承知しております。

パソコンにつきましても、技術者的な職員は、今、総務課の中にも、１名、専門的にやっている者が１名、ほかに各課にそれなりの担当がいます。ですので、それがもう少しスキルアップできるような方法をとれば、パソコンの保守管理そのものは難しいかと思いますけれども、少しぐらいのシステム変更ができるような形ができればなと思いますけれども、やはりシステムそのものは、そこの会社の特許みたいなところもありますので、それを市町村がいじって、ほかのものをつくり上げるというのはなかなか難しいところがあります。ただ、単純に簡単にできるシステムを独自でつくって、独自で使うというふうな方法も、これからは必要なのかなと、そういう面で、そういう技術系といいますか、そういうものは学んだ方を採用するのも一つの手だというふうには考えておりますので、その辺も含めて、今後、採用についても、人事についても検討していきたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　クラウド化の働きかけは、いつごろから、もう既にしているんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　クラウド化につきましては、まだ改めて活動はしておりませんけれども、飯島町長のほうから、県の町村会を通じて、そういうのはやったらというふうなことを１回は話してあります。今後、そういう町村会あるいは千葉県の中にも情報化の組織がございますので、そういう中でも話をしていきたいなというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　67ページ、バスターミナル整備事業についてなんですけれども、その中の使用料及び賃借料、借地料として14万9,000円、額は小さいんですけれども、この額は、実際的には、借用地、借りたということで、とりあえず支払ってあるわけですよね。そうすると、これは、24年度の決算でも、これは、実際的にバスターミナルはできていませんので、24年度については、この借用地というのは、ただで、結局、あげたような形になりますよね。その点はどうなんでしょうか。結局、そのものが、事業ができていれば、この借地料は生きてくるわけですけれども、24年度では、この借地料自体がもうできていなくて、その金は、14万9,000円、架空のものじゃないですけれども、出ているわけです。その点、ちょっと説明をお願いしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　議員ご質問のとおりです。これにつきましては、４カ月間、借地をした借地の料金でございます。本来の計画でございますと、そこの場所に、バスの回転場と待合所をつくる予定でお借りしたものでございます。本来ですと、25年度、ターミナルができておれば、その場所を今後についてもずっと借りていく状況でございます。計画を凍結したというか中止しましたことに伴いまして、これは、確かに４カ月借りただけで、結果的には何も残っていない状況ではございます。ただし、前に町道がございますが、町道の拡幅の際においては、この方の土地と赤道を交換することによって、町道が非常に曲がりやすくなるというか、ふだんの買い物客、また仮にバスの事業等ができた場合においては、非常に黙っていても町道が広がったような状況になりまして、非常にいい方向に向かっているとは考えております。それは、ご本人が、やはり借地料、町のほうで、計画がうまくいかなくてあれだったねというようなことで交換していただいて、非常にいい方向に向かったことも、結果としてはそういったものもございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　それは、結局、24年度の関係では、借地料14万9,000円ということで出ているんですけれども、一応、今回の交換条件で、そういう形にしていただいたというこ

とですね。結局、その場合に対して、14万9,000円というのはあくまでも借地料ということで出していますので、その関係は、あくまでもそれはそれとして出しておいて、交換は交換として、金額は別な考え方で、25年度ですか、それはわからないんですけれども、そういう形で、交換は交換として単価で買うわけですね。その点はどうですか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　隣接する赤道でございますので、金銭のやりとりはなく、同じ面積を交換する。もし、少しでも残る部分があれば、その分だけ買収するという形で、ほとんど同面積でございますので、お金のやりとりはほぼ発生しないと考えております。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　その場合、そうしますと、あくまでも使用料及び賃借料について14万9,000円というのは、あくまでもそうすると、結局、かえって必要がなかったものを結局、賃貸したということに事実上なりますよね。そうすると、そのものは、14万9,000円というのは、あくまでもそのものをもう支出してありますので、そうすると、結局、内容というか、結局それが、それに対しての対応、15万の過誤納という形になっているわけですけれども、その点を対応としていかがなものかと思うんですけれども、その点、責任問題とか、そういう形になるかと思うので、その点、どうでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　先ほど答弁したとおりでございます。４カ月お借りして、計画がそのまま進めば、そこの場所へターミナルをつくるというお話で、計画がどうしてもだめになりましたので、４カ月借りただけでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　同じ質問ですか、３回目です。

ほかに質疑ありませんか。

10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　47ページ、49ページにわたるんですけれども、町のリサイクルによりまして収入が各項目によって入っているように思うんですけれども、町のリサイクル率というのはどのくらいあるのか、またこれは、ほかの市町村と比べた場合に、どの程度の位置に位置するものなのか。また、今後このリサイクル料は、増収という形で見込むことができるのか、お伺いしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　リサイクル率ということでございます。いつも県のほうで集計したものが８月ごろ大体出ます。時期がかなりずれていまして、集計に時間がかかるんだと思うんですけれども、おととしの分が去年８月に出まして、その分が非常にいい数字にはなりました。県下２位にはなりました。ただ、その後のものが、８月、最近ですけれども、集計がされまして、その結果を見ますと、またその段階で一気に下がっちゃいまして、たしか33位だったと思います。ギャップが大き過ぎるというところもあるんですけれども、これは、集計の仕方もあるんでしょうけれども、結果的にはそんな形になりました。今後の見通しなんですけれども、当然、回収して再資源化を図れるものについてはどんどんやっていきたいと考えておりますし、また限られた職員の中でやりますので、十分にいかない部分もあるんですけれども、町民の方が日ごろ出していただいているもの、そういったものについては、ほとんど資源化が図れるようにという方向では、今後も進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　ごみの問題が出ましたので、ついでにお伺いいたします。

ことしのこの暑さを考えると、やっぱり温暖化対策はとらなきゃいけないと思うんですね。それから、今、ごみ処理の広域化が進んでいます。計画表を見ますと、ごみの持ち込み量による負担割合なんていうのもあります。そういう意味から考えると、その両面から考えると、可燃ごみをいかに減らすかというのは、これから先、町の経済の問題及びやっぱり地球規模での問題もかかわっておりますから、取り組まなきゃいけない問題だと思うんです。火曜日と木曜日の資源ごみの回収に当たって、月曜日と水曜日には、防災無線から、ごみの減量化に努めてくださいという放送が入ります。でも、具体的ではありません。担当として、可燃ごみの減量化について、これから先、対策をとる考えがあるかどうか、それから今までもし行っているとすれば、どういうような対策をとってきたのか、伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　可燃ごみの対策ということでございます。確かに、野中議員さんが言われるように、これから広域でやっていこうということになりますと、均等割、人口割、ごみ量割、ごみ量割というのは、多分60パーセントぐらい、占めていく、負担の中でいくと思います。だから、いかに可燃的なものを減らしていくかということになるわけです

けれども、ちょうど今年度の決算の24年度の場合だと、可燃ごみの量としましては、2,414トン、可燃ごみで、23年度が2,281トンになるわけですけれども、この分は、やはり130トンぐらい、23年度と24年度を比べるとふえております。広域ということもありますので、郡内のほかの地区なんかを見てみますと、どうしてもやはり同じようにふえています、可燃については。ですから、その辺の可燃ごみをいかに縮小して、なるべく出さないような形ということでやっていく必要も当然あるんですけれども、ただほかの市町村と比べると、大多喜町は、非常にまだ少ないという状況にはあります。ただ、今、言ったように、23年度の決算と24年度の決算では、130トンぐらいの可燃の量はふえているという状況にあります。じゃ、今後どのようにしていくんだということなんですが、これは、資源ごみも可燃ごみについても、事前に、住民の方には、カレンダー、それからごみの正しい出し方、そういったパンフレット的なものを毎年出させていただいています。それでも、やはり忘れる場合がありますので、必ず可燃は除いて、資源ごみについては、大体、資源ごみの関係だと、その他不燃ごみということで、資源には至らないものもあるんですけれども、大体、火曜日、木曜日がその時期になります。可燃が、月、水、金、これが普通のパターンなんですけれども、今後は、可燃の出し方といいますか減少、そういったものも町民の方々に呼びかけていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　私、何年かずっとごみの処理とか数字的なものは蓄積して記録しているんですけれども、その根拠になるのは、これなんですね、成果説明書。この成果説明書によりますと、可燃ごみ、不燃ごみの収集量、持ち込み量を足せばそれぞれが出るはずだと思って書いているんですけれども、その数字と、今、課長が発表された数字と違うんですが、この違いはどこから出てくるのかという素朴な質問が１つ。

それと、これから先、減量について訴えていくとありましたけれども、それはとても大事なことだと思いますが、一番重量的に多いのは、生ごみが占める割合だと思うんですね。その辺、生ごみ対策というのは、広域になってからじゃなくて、やはり今の段階でも、きちんと町として考えていくべきではないかと思います。それから、まだ可燃ごみの中に、リサイクルできるごみも随分入っているんじゃないかと思います。その辺については、ただ訴えることで減るかもしれませんけれども、生ごみ対策というのは、やっぱり根本的に考えないと減らないと思うんです。自分で、ここ最近、自分の生活の中で、多分、赤ちゃんが生まれて

も、最近、通りかかってもわからない。なぜかというと、おむつが干していないからなんですが、おむつの占める量とか重さとかはやはり非常に大きいと思うんです。その辺の生関係のごみをどうするかということについても、先進地から学んで取り組んでいただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　先ほど数値が違うんじゃなかろうかというご質問でございます。これは、成果説明書の環境関係では21ページ、成果説明書の21ページのほうに出ております。ちょうど真ん中ぐらいですか、じんかい収集実績ということで挙げてありますが、ここで、収集量１、収集量、可燃物、これが1,206トン、それと２番目の持ち込み分、この分が1,157トン、この1,157トンというのは、持ち込みの分ですから、内容的には、いすみのクリーンセンターへ、直接、事業所が運んだ分と、それから大多喜町の環境センターのほうに持ち込まれた分、それらが1,157トンです。１番の収集量の可燃物の1,206トンというのは、これは、委託収集運搬をお願いしている業者から、町内を回って、直接、クリーンセンターのほうに回っていく数値でございます。

それと、あと生ごみの関係ということでございますが、現在、大多喜町の場合も、ふる創のほうから一部助成をいただきまして、補助金制度を設けております。生ごみ処理機ということなんですけれども、限度額がわずかなところなんですけれども、今回、24年で、５基の申請がありまして、補助を出しております。これらも、過去の結果を見ますと、年に１件とか２件とか、非常に少なかったこともありました。もっと有効に使ってもらったほうがいいだろうというご意見もいただきましたんで、その辺は、大多喜町の広報紙のほうに載せさせていただいたりして、周知を図っているところです。当然、これからも、そういった補助制度がありますんで、町民の方には、有効に使っていただこうということで続けていきたいと思います。

それとあと、もうちょっと先進地のほうから学んで、生ごみを減らすことは検討したらどうだということでございますので、今後はその辺も進めていきたい、そのように考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　数字のことなんですけれども、成果説明書のページで見ますと、可燃物1,206と1,157を足すと、私の計算だと2,363トンになるんです。ところが、課長の数字

では2,414というふうにおっしゃったんです。この違いはどこから出てくるのか。これで、大勢が変わるということではないので、目くじらを立てるのもどうかなとは思いつつ、やはり100トン違うというのは、石油の使い方も随分違ってくると思うんですよね。それと、少ないほうが、やっぱりリサイクル率は上がる。リサイクル率が上がるというのは、やっぱり住民にも知らせていただいて励みになる。そういう意味では、正しい数字を知りたいなと思うんです。この違いがどこから来ているのか、教えてください。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　大変失礼いたしました。数字が100トンほど違うというご指摘でございます。野中議員のおっしゃられるとおり、成果簿のほうでは、2,363トン、これで訂正させていただきます。よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　野中さん、よろしいですか。

**○１１番（野中眞弓君）**　はい、結構です。

**○議長（小髙芳一君）**　質疑の途中ですが、ここで10分間休憩をいたします。

（午前１１時０４分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前１１時１４分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　質疑ありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　決算書の18ページの入湯税について、入湯税は地方税法に定められている目的税であると認識しております。目的税であるということは、特定の目的にしか使えないと思われます。この入湯税は、具体的にどこに使われたのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　答弁。

総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　入湯税は、目的税ということは確かにそのとおりでございます。そのものが、観光振興等に、あるいは商工関係等に使用すべきところというふうなことで、税そのものには、お金そのものには、これは何に使ってと書いてありませんが、それは一般財源化になりますので、その中で、一般財源の中で、商工観光費のほうに充当しているというふうにご理解いただきたいと思います。額が400万ぐらいだと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　確かにそのとおりでいいと思うんですけれども、入湯税は、申告制があると思います。申告制ということは、一生懸命、業者の方が、自分でお客を集めて、一生懸命納めた金額でございますので、納めるほうにとってみると、具体的にここに使えたよということが、明示されたほうが安心するんじゃなかろうかと思いますので、これは意見ですけれども、次からは、もし具体的にここに納められたということが、使ったということが、はっきりさせることができるんであれば、してもらったほうが、納める側とすると、より納めやすくなるんじゃなかろうかと思いますので、よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　答弁はいいですか。

（「はい」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　ずっと前のほうにいって19ページ、特別土地保有税が、ここに来て、納税されていったり、不納欠損だったりで、近年にはなく大きく動いています。もう既に特別土地保有税は廃止になっている税ですが、ここに来て大きく動いた、この理由について説明してください。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　特別土地保有税の歳入の関係でございますけれども、平成６年度、平成７年度課税分の個人分の土地保有税ということでございます。収納対策のほうで粘り強く交渉して、このたび平成24年度、納入になったというふうなものでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　それでも、なおかつまだ不納欠損として滞納が残っているんですが、これは、どういうのが残っているんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　滞納繰越分で残っている金額ということでよろしいですか。

（「はい、不納欠損、不納欠損じゃなくてその隣」の声あり）

**○税務住民課長（市原和男君）**　241万800円ほど滞納繰り越しがあります。これにつきまして

は、２社１個人の土地保有税でございます。

（「差し押さえ、抵当」の声あり）

**○税務住民課長（市原和男君）**　２社１個人それぞれの土地については、差し押さえをしてある物件でございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　ページ数はちょっとすみません、保育園施設のところ、臨時職員12名分の賃金と、それから給食センターのところでも、臨時職員10名分の経費が計上されています。臨時職員の賃金については、ワーキングプアにならないように、改善すべきであるというお願いをずっとしているんですが、24年度、どの程度の改善がされているんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　残念ながら、24年中の議会で、野中議員さんから、そういうたしか12月議会でしたか、そういうご質問をたしかいただいて、25年度から、ある一部のそういう現業職といいますか、そういうところの賃金を上げるよう、検討しますというふうなお話をしたと思います。ということで、一応24年中はありません。ですので、25年になってから変更しています。保育士さんにつきましては、一律に24年度中は6,700円でした。それは、１年目の人も、臨時職員である程度年配の人で、10年目、20年目、20年という方はいませんが、やっている方、主任クラスの方も全部一律でしたので、その辺は、経験年数に分けて、３段階ぐらいに保育士さんは変更させていただきました。調理員さんにつきましては、多少ですけれども、やはり賃金アップをさせていただきました。それと、看護師さんについても、多少ですが、賃金アップをさせていただいております。あと、一般の作業員、作業員の人で道路補修員のような方でも一部変更させていただいております。その程度でしょうか。

以上ですね。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　予防のところだと思うんですけれども、健康診断で40歳未満の方たちの健診のことについて伺いたいと思います。ページ数がはっきりしなくて申しわけありません。40歳以下の方々の健診は今どういう形で行われているのか。24年度は何人受けたのか。そして、どのような傾向というか、結果が出たのかということについて説明してください。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　40歳以下の方の健診についてのご質問でございますけれども、40歳以下、対象が851名いらっしゃいます。そのうちの受診が、65名、率にして7.64パーセントで、健診の内容でございますけれども、特定健診に準じた内容で実施しております。身体計測、血圧測定、尿検査等を行っております。それで、これは特定健診とあわせてやっておりますので、実施日数は８日間実施しております。あと、結果の傾向でございますけれども、結果の傾向、判定ですけれども、異常なしが33名、受診の対象が14名、保健指導の対象が18名、あとメタボの測定でやりますと、基準の該当が３名、非該当の方が62名ということで実施しております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　この判定結果についてどのように考えられますか。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　判定結果についてということでございますが、確かに、受診対象、保健指導の方が多く見受けられます。若い人でも、食生活が乱れているといいますか、そのようなことでメタボの該当もいらっしゃいますので、そちらのほうにも、それでこれは、国保加入者以外、社保の加入者の方も対象となっておりますので、その辺も含めて、今後、指導してまいりたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　私も今この結果を伺って非常に驚いています。若いから健康ではなくて、やっぱり若い人たちが、ものすごくこれから先、糖尿病というか、生活習慣病というか、そういうものになる要素を半分以上の方が持っていらっしゃるということですよね。今、この40歳以下の年齢の方というのは子育て真っ最中の方ですよね。ということは、もう既にこの人たちが、今、育てている子供世代も、可能性は、ないわけではないということだと思います。そういう点では、全町民を対象にしたやはり健康指導というか栄養指導というか、それが、必要だということをあらわしているような気がします。取り組んでいただきたいことと、もう一つは、40歳以下の方は、ほとんどの方が働いていらっしゃると思うんです。もしかしたらウイークデーは、休めない方もいらっしゃるんじゃないかと思うんです。それは、特定健診もそうなんですけれども、土曜日とか日曜日、一回は入れて、できるだけ健診の機

会をふやすという対策もとるという考えはどうでしょう、あるでしょうか、お聞かせください。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　今、議員さんのほうから、全町民を対象にというお話がございましたが、会社にお勤めの方は、会社のほうで受診するというか健診を受けるということが決められております。また、町では、消防団に入っている方は、消防団のほうでも健診をやられております。今回、この対象者が850名ほどいるということにつきましては、保険の被扶養者がこれだけいるということではなくて、もしやるとすれば、保険の被扶養者の方を対象に実施していきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　これは、質問ではありません。今、保険の被扶養者とおっしゃったけれども、保険の被扶養者は、案外とパートで働いていて、会社で云々ではないので、土日は、どうしても休めないという実態はやっぱりあると思うんです。田舎は、子育てをするのに大変お金がかかります。だから、母ちゃんも働かなくては、子供を仕込めないという現実があるので、そういうのにきめ細やかに対応していただけたらいいなと思っております。これは、質問ではありませんから、その次にいきます。

ページ数はすみません、老人福祉の外出支援で、ことしもたくさんお金が使われました。でも、一応、頭打ち、去年と比べて、去年と同じくらい、やや少ないのですが、横ばい状態です。この外出支援は、あくまでもここに書いてあるとおり老人福祉でありまして、誰もが使えるというわけではありません。子供１人で、タクシーに乗って、２割、３割負担で、どこかに行くということはできません。壮年も使えません。やはりこういうところでは、どこへでも公共交通機関で行けるということは重要です。外出支援が始まったとき、これは、当時、私は、循環バスという形で、ミニ公共交通を実現してくれと要求していたのですが、いすみ鉄道とのかかわり合いもあるし、循環バスというのは、バスを使うという意味ではありません、循環バスができるまでの間の補助的と、つなぎの制度なんだということで、老人だけに限って運行されているわけですが、もうそろそろ10年くらいになってきていると思います。24年度中、この外出支援をもとにというか、循環公共交通もどき、デマンドタクシーというか、いろいろあると思いますが、対策はどのように進んでいるのか、伺いたいと思います。

**○議長（小高芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　議員ご質問の総合交通体系でございます。これにつきましては、実は、かなり前からワーキンググループでの検討は進めております。ただ、その際においては、通学、老川小学校と西畑小学校統合の関係のスクールバスを何とか空き時間に活用したりとか、同時にそれに乗って買い物とかにも行けないかというような検討しておりました。ワーキングは、最終的には、23年11月に最終報告というか中間報告をしまして、その中では、いすみ鉄道の中野とか、そういう公共的なところは考えないで、それ以外のもので、おっしゃったとおり、デマンドタクシーとか、そういったもので検討しようというような結論で、なおかつスクールバスの活用と、結論が出たときに、改めてプロジェクトを立ち上げてやりましょうよということで中間報告になってから、はやもう２年近くになっております。近々に、総合交通体系につきましては、買い物弱者対策について、ある程度方向性が見えてきましたんで、そういうものを除きまして、例えば公共機関に行く場合、また病院等に行く場合、また買い物でも個人の方が商店に行かれる場合、そういったものを考えまして、総合交通体系は、今後、組んでいきます。また、組んでいくというか、検討を重ねていきたいと考えております。

そういった中では、じゃ確かに外出支援サービスのほうの削減になるかというと、今、最高のサービスを受けているような状況でございます。デマンドタクシーについては、私どもも、区長会等の視察で見させていただきましたが、やはり電話で予約して、そのルートを全部そのバスが拾っていくというような形で、実際に成功されているところは、中央の部分と地方の部分、ほとんど一本で結ぶというような、そういったものが成功している例の中では多いようでございます。大多喜のように、地域も広く、路線も非常に多いという中で、どのような方法がいいのか、非常にこれは難しい問題だと思いますが、改めてそのルートについては、現在も動いていますし、拾って、どういうふうな形で、例えば曜日によって、このルートはこういうふうに回りますよ、このルートはこう回りますよと、その方たちは電話で予約してくださいよとか、そういったものを検討しながら、今後、プロジェクトの中で検討して、結論を出したいと考えております。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　成果説明書の中の21ページなんですけれども、再資源化資材の中で、

とりあえずその他の不燃ごみがあるんですけれども、このその他の不燃ごみというのは、スプレー缶とかがありますよね、スプレー缶の場合なんですけれども、結局、穴をあけて、一応、収集する関係で、出してもらいたいということで、町のほうからあるわけですけれども、実際、穴をあける場合、多少入っているのと、入っていないの、完全に入っていないやつを抜くのはいいんですけれども、多少入っているのを抜くと危ないんだ、爆発する場合もあるんですよね。うちの中でやる場合も、そういう点も、危険性があるので、この際、できれば、たしか東京都は、テレビで見たのか、東京都は、はっきりわからないんですけれども、６割近くは、穴をあけないでそのまま出すという格好らしいんですね。４割が大体あけて出すようなということで、ちらっと聞いたんです。定かじゃないんですけれども、そういう点で、やっぱり町のほうで、老人がいる場合は、確かにあれに穴をあけて一々やるのもいけないし、また、あれに何か穴を開ける機械があるんですよね、ちょっとやって、老人なんかの場合、そういうものを渡してやるとかもあるんですけれども、結局、入っている中でやると、火災の原因、爆発する原因もありますので、そういう点があるから、そういうものは、入っていても穴をあけないまま収集するような形でできればお願いしたいと思うんですが、その点、どうでしょうかね。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　スプレー缶の関係ということですので、通常であれば、ごみの正しい出し方を見ていただくと、ガスを抜いていただいて、全くなくなったものを缶類ということで出していただくというふうに定めております。じゃ、例えば、今、吉野議員さんが言われるように、ガスのあるままで、例えば車両にどんどん入れていきますので、車自体も、今はダンプ形式の車３台で動いております。その中に、仮にガスがたまったままでいると、やはり火災が車上で起きる可能性も出てきますので、これは、もうやはりガスを抜いていただいて、それで缶類として出していただくという形はお願いしたいと思います。ただ、抜き方なんですけれども、自宅で多分抜かれると思うので、まずスプレーとして中にあるガスが抜けるまでやっていただいて、その後に、抜いた後に穴をあけるという格好であれば、爆発することというか、飛び散るというようなことはありません。中に十分張っている中で穴をあけると、これは危ないですので、その辺は、また注意的なものを環境水道課のほうとしても何かのＰＲでしてはいきたいと思いますけれども、収集運搬については、やはり抜いた状態でお願いしたいというふうに考えております。

それと、あと先ほど東京都がどうのこうのというお話もございましたので、その辺、ガス

を抜く簡単な機械というんですか、簡単な道具というんですか、そういうものはちょっと我々も検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　若い人はいいんですけれども、年寄りが、老人が結局そういうものを抜く場合に、何かちょっと危ない点もあると思うんですけれども、そういう点がありますので考えてもらって、町のほうで、収集の運搬の車で、ロータリーでやると大変危ないということは、確かに爆発の懸念がありますので、そういう点は、そういう形じゃなくて、あくまで、運搬車がトラックか何か、そのスプレー缶についてはトラックで運ぶとか、そういう方法はまたできないものか。

それと、またそういうものは、あくまでも穴を抜けない、結局、全部抜いて、それで物を出すわけですけれども、そういうものは、穴をあけないまま町のほうへ出すとか、そういう考え方はどうなんでしょうか。そういう方法で、考え方としているかどうか、ちょっとお伺いします。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　ただいま説明したとおりで、正しい出し方の方法で現在のところお願いしたいというふうに思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　55ページの下のほうの弁護士費用について、多分これは顧問弁護士料であると思われますけれども、これは、役場のほうで、行政上、何か問題があったときに、弁護士さんに相談するということで、顧問を設けていると思います。ちなみに、議会運営上、専門的知識が必要な場合も、これから多々出てくるかと、特に将来にわたって政策提言等を行う場合に、これは、法律上、問題があるのかないのか、専門的な知識を必要とする場合が出てくることと思われますけれども、その際は、この顧問弁護士に相談できることが可能なのか、もし可能でない場合には、もし専門的知識を必要とした場合にはどのように対処していただけるのか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　直接私ども、顧問弁護士に聞いたわけではございませんので、は

っきりとはわかりませんけれども、町が何かをするというか、町に瑕疵がある場合のことについて、相手から訴えられるとか相談されるとかという件数がある場合に、町の中で、町側の対応がわからない場合に、顧問弁護士にその辺の相談をしているところでございます。その議会というのは、どういう立場での相手に対しての訴訟をされるか何かわからないんですけれども、そういうのがどういう形でされるかによって、町としての大多喜町がそういうふうに相手方とされる件については、顧問弁護士さんのほうで相談には応じてくれると思います。ただ、議員さん個人ですとか、そういうことは、まずいことは間違いないんですが、議会として、大多喜町議会が何らかの形で訴えられた場合にどうかというようなことは、改めて聞いていませんので、その辺は、じゃ確認をさせていただきたいと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　私、すみません、ちょっと言葉足らずだったかもわかりませんけれども、議会運営上、議会が民間からどうこうじゃなくて、議会運営上、法律的、専門的知識が必要になる場合が出てくると思われます。特にこれから政策提言なり、いろいろやっていく上で、法律上、問題があることを政策提言するわけにはいきませんので、その際、必要になる場合には、顧問弁護士料も一般財源で出ています。議会運営費も一般財源で出ているものと思われます。その際は、これを使わずに、新たな処置をしていただけるということでいいのかということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　その辺については、改めてそういうことにまで想定していませんので、一応、確認はさせていただきたいと思います。この場では、ちょっとご答弁は控えさせていただきます。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　73ページ、徴収事務費の中でコンビニ収納の導入費が398万計上されました。このコンビニ収納、導入されたんですけれども、維持費はどのようにしてかかっていくんでしょうか。コンビニのほうでも、受け取って、人件費がかかったりするわけですから、１件につき何ぼとか、いろいろあると思うんですけれども、その維持費がどうなっているのか、説明ください。

それと、もう一つ、手数料、町の使用料などはこのコンビニ収納できないんですけれども、そういうところまで、拡大、これからする計画はありませんか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　コンビニ収納の手数料ということでございますけれども、毎月１万円プラス消費税が基本的にかかります。そのほかに、収納１件につき62円というものがコンビニ手数料ということでかかってくる経費でございます。

（「１件につき」の声あり）

**○税務住民課長（市原和男君）**　62円です。

あと、今現在、コンビニ収納で対応しているものが、町県民税、固定資産税、国保税、軽自動車税というふうな形になろうかと思いますけれども、やはり余りその取り扱い件数が少ないものについては、コンビニ収納というふうなメリットと申しますか、システム改修とか、そういうものも必要、納付書とか、そういうものも必要になってきますので、ある程度件数が多いものでないと、コンビニ収納が有効に活用されないのではないかと思っております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　先ほど町の使用料についてのコンビニ対応はどうなのだというご質問にお答えさせていただきたいと思います。

使用料につきましては、非常に少額で、何百円単位という状況でございます。費用対効果を考えますと、これもコンビニでというのはちょっと今のところ考えておりません。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　住民の利便性からいったら、使用料もやってもらえると楽だなという思いがあります。ただ、使用料については、本当に少額、例えば味の研修館は使いました、何とかをちょっと使いました、何百円、じゃこれを書いて、封筒に入れて郵送料を出してくる、これは余分な出費になっちゃうんじゃないのと、間違いが起きないようにということで、その場で徴収しないのかもしれませんけれども、できれば、使用料は、使った場所で、そのときに請求されて払っていってしまうと、すごく町民サイドとしては使い勝手がいいんですけれども、そういうことをこれから先、検討していただく考えはないんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　それぞれ味の研修館等々につきましても、臨時職員を使っていることもございまして、そういうお金、例えばそこの場所にお金を置いたりとかということも、事故の原因にもなりかねないところでございます。やはりその辺は、役場の指定さ

れた場所で納めていただくということの基本は崩さないようにしたいと考えております。また、領収書等をお送りしたりとか、そういったようなことも、事務手続、確かに煩雑な部分もございますが、今までどおりやらせていただきたいと考えます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

８番渡邉泰宣君。

**○８番（渡邉泰宣君）**　34ページの産業廃棄物不法投棄防止事業総合補助金なんですが、この内容についてちょっとお伺いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　ページを確認しますが、35ページでよろしいでしょうか。35ページでよろしいですか。この分なんですが、産業廃棄物で不法投棄防止事業の総合補助金ということでよろしいでしょうか。これは、不法投棄監視員の事業費に対しまして、２分の１プラス環境整備事業の一部ということで３分の１、この分が補助金としていただいております。不法投棄監視員の事業費につきましては、監視員賃金54万円、それと環境整備事業の環境整備事業といいますと、防止柵の設置、そういったもので３万円、合わせましてその２分の１と３分の１で28万円という補助金でございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　85ページです。老人日常生活用具給付事業で、今年度は、65歳以上の寝たきりひとり暮らしの家庭に、消防というか火災通報装置をつけたということです。それはすごくいいことだと思います。ただ、この火災通報装置そのものなんですけれども、65歳以上は、だんだん耳が聞こえなくなったりして、その音はどうなんでしょうか。具体的に言いますと、私のところの火災報知機はとても優しい音なんです。恥ずかしいんですけれども、２度ほどお世話になってしまいました。どこで何がぴこぴこ鳴っているんだろう、冷蔵庫かしら何かしらと探してみたら、火災報知機、お鍋を焦がして煙が充満して、火災報知機だった。火災報知機らしい音で、お年寄りにもはっきり聞こえるのか、そういうことも重要だと思うんですが、お年寄り対応になっているか。できれば、ひとり暮らしだったりすると、自分はもうわからない、外の近所の方に通報の行くような、あるいは外を通る人にもわかるような装置はないものだろうかということがあります。その辺の検討や機種の選び方はどう

なっているのか、伺います。

もう一つ、火災報知機がつけられるんであれば、今、私たちの住んでいるあたりは、地震エネルギーがたまっていて、大きい地震の起きる可能性のある地域だと思うんです。おととしぐらいに、やっぱりこの消防と同じように、地震で倒れない耐震の補助要綱か何かはつくったと思いますが、それも、これでやってあげることはできないんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　初めに、火災報知機の関係ですけれども、音につきましては、今、市販のされているものを使用しておりますので、特に老人用に音が大きいとか、そういうものをつけているわけではございません。ごく一般的なものを設置しております。

それと、地震で家具の転倒とか、そういうものにつきましては、日常生活用具の給付の該当にはならないと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　この火災報知機については、民生委員とか包括支援センターの職員が訪問したときなんかに、あの人のところにあったほうがいいんじゃないとかということで設置しているというようなお答えを常任委員会で、説明は受けたんですけれども、それと同じように、地震の転倒防止も、民生委員さんとか包括支援センターの方たちが、必要とあればアドバイスして、申請してもらうというような活動をしてもらえないだろうかということです。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　包括とかが訪問して、そういうものを設置するようにお話しするということは可能であると考えておりますけれども、ただ設置につきましては、個人の方、その方の意思が優先されますので、その方が、中には、要らないよという方もいらっしゃいますので、その辺をよく確認しながら、やっていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　135ページ、消防団運営事業ですが、消防団の統廃合、今どの程度進んでいるのか、その進捗状況についてご説明ください、どのくらいキャッチしているのか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　消防団の統廃合の関係でございますけれども、一昨年か、始めました。その中で、その前は、今の大多喜町消防団、その下に各支団があって、各分団がありました。それが、統廃合の関係で名前を変えまして、昔の支団のところが分団になって、昔の分団が部になりました。そういう中で、その前は、24分団、役場の本部を含めて24分団あったんですが、それは本部を含めて20の部になりました。だから、４つ減ったということですかね。それは、主に老川地区の１分団と３分団、西畑の４分団と６分団、総元の10分団と11分団、要するに老川の筒森の方面が１分団でしたので、葛藤方面が３分団、そこが１つの部になりました。板谷、中野、昔は４分団で、紙敷が６分団だったんですが、そこが１つの分団になりました。総元の黒原、三又が10分団だったんで、久我原が11分団、それが１つになりました。そういうふうにして統合はしました。これからも、私のところもそうなんですけれども、今、旧でいくと８分団、私のところが８分団なんですが、隣の野中さんのところは９分団ですが、恐らく来年７月には、一つになってくれる、統合するように、今、区長さんの了解は得たところです。そういうふうにして、団員も今かなり厳しい、団員数も少ない状況でございますんで、そういうふうにして統合していくものでございます。ただ、統合はしますけれども、じゃ機械整備はどうなんだと、機械の状況はどうなんだというのがありますけれども、できるだけ、自動車はちょっと難しいかもしれませんが、可搬ポンプだけは、その旧のところに置いたらどうなのかなというふうには考えています。いざのときは、団員と、もし万が一、団員が少ない場合は、団員が地元の人たちにお願いして、地元の人たちと一緒に消火活動するというふうなことも、今後は考えています。そして、ＯＢの人、今、機能別団員というんですが、そういう人もふやしていって、統合しても、機能が落ちないようには考えているつもりでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　「キノウ」はどういう字の「キノウ」なんですか。帰ってくるという今まで消防団をやった人が、また消防団に帰ってくるという意味で「キノウ」なんですか、それともそういう働きがあるという意味の機能なんですか。それは、ちょっとこの前から気になっています。

消防団が減ることによって、団員も減りますよね。ただ、本当に消防団は大変だと思うんです。消防団が減ったからといって、消防団の手当総額を減らすのではなくて、その分、大

変な中で、正規の自分の職業のほかにやらなきゃいけないという大変な使命を負っているわけですから、消防団員の手当については、より手厚くやっていただく方向で検討していただけないでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　「キノウ」は、機械のほうに、能力の能、機能のほうでございます。帰ってくるわけじゃございません。そういうことで、機能といいますか、機動力といいますか、機動力を維持したいな。地元の人で、多少機動力が落ちるかもしれませんが、人員的には、そういうふうな面で地元の人の応援をいただいて、協力をいただいて、機能していきたいというふうに、自助で、自分たちで守るというふうなところでいっていただきたいと思います。

それと、団員手当でございますけれども、団員手当については、24年度、今ちょうど役員がかわる前に改正しまして、この新しい体制になったときに、団員と班長さんにつきましてはアップしました。

（「幾ら」の声あり）

**○総務課長（花﨑喜好君）**　たしか、資料はちょっと手元にないんですけれども、下のほうの人で、班長さんと団員さんは、年額で、たしか四、五千円は上げています。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ここでしばらく休憩をします。

この間に昼食をお願いし、午後は１時から会議を再開します。

（午後　零時０１分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　零時５８分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　先ほど１番根本年生君から、弁護士費用のことについて、総務課長のほうから答弁がありましたけれども、追加で説明をしたいということでありますので、総務課長、お願いします。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　それでは、先ほど根本議員さんから弁護士の費用の関係でご質問いただきました。契約書の内容をちょっと見ますと、あくまでも、発注者、大多喜町町長が、法律の問題の調査、報告、資料の提供、そういうものをいただく、顧問弁護士さんからいた

だくこと、あるいはこちら、相談、助言というふうなことが契約の内容になっております。ですので、議員さん方が、法制といいますか、政策の立案に対して、その立案したものが法律に触れるかどうかという問題については、この契約外であるというふうに言われました。そういう問題があれば、また別なそういうプロパー的な方がいらっしゃいますので、そういうところにご相談いただければというふうなことでございます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　それでは、引き続き質疑を始めます。

質疑ありませんか。

５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　99ページの款４衛生費、項１保健衛生費、目、環境衛生費の中の99ページの11番、資源循環事業42万3,249円、それと、それに関連して、47ページ、款20諸収入、項３雑入、目３雑入の中の下から７行目、バイオディーゼル燃料販売収入11万2,892円、42万3,249円かけて、売れたのが11万2,892円と、こう捉えてよろしいでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　そのとおりでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　決算は、それこそ実績があって、次年度に採算がとれないのは、見直すというのは大前提だと思いますけれども、そこの辺の考えこそ、いかがでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　確かに支出のほうでは42万、それから収入のほうの販売のほうで11万2,000円ということで、大きく差は確かに出ております。ただ、これにつきましては、平成17年の大多喜町の新エネルギービジョン、これに基づいてＢＤＦ製造が始まったわけなんですけれども、なかなか再資源化を図るということは、実際のところ採算がとれるというのは非常に難しいです。例えば、収入のほうでも、いろいろなもの、例えば古紙だとかペットボトルだとかアルミ缶だとか、いろいろなもの、町民の方が出されたものを収集して、売却をしているわけですけれども、それとプラスして、例えばごみの収集袋がありますね。それなんかも販売をしていますけれども、その収入というのは、環境の分野では大体3,000万ぐらいです。じゃ、それに係る経費、人件費も含めてなんですけれども、それから委託収集なんかも含めてですけれども、大体１億4,000万かかっています。そうすると、大体１億

1,000万ぐらいが、全体的に、住民サービスといいますか、そういう方向に向いているというのが実態です。このＢＤＦについても、やはり回収した廃食油をいかにして、また再資源化を図るかということで、その構想に基づいて、ビジョンに基づいて今までもやってきたわけなんですけれども、確かにそれを販売する場所が限られております。ですから、つくる能力があっても、販売部分が、それに追いつかないというのが実態なんですけれども、やはりそういった廃食油が出たものをある程度再資源化は図っていって、またそれに間に合わないものについては、廃食油自体を販売しているという格好で対応しております。そういう観点から、再資源化を進めるということは、やはり大事ではないかなという気でおります。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　ちなみに、売り先はどこでしょうか。

それと、ついでに63ページ、款２総務費、項１総務管理費、目の動産管理費の63ページの一番下、繰出金とございますね、これは、多分、下大多喜地区の峯之越地域に水道を引いて、これは定住対策でやった事業だと思いますけれども、工事はもう終わっていますよね、決算に載っているから。これは、定住化対策で、あの先に大多喜の土建屋さんの土地があります。あそこまでは引いてあると思いますけれども、その結果、まだ日が浅いんですけれども、幾らか実績が出ているかどうか、そこをお聞きしたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　ＢＤＦの売り先ということでございます。これは、いすみ鉄道が、大体1,400リッター、１年間です。それと、あと民間のほうに１件でございます。いすみ鉄道のほうについても、このところ新車両をどんどん導入していますので、ＢＤＦを使う車両は、古い車両に限らせてくれということで言われていますので、その辺で販売が落ち込んでいるという部分もございます。

以上です。

（「単価は」の声あり）

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　単価ですか、売りの単価は、幅があるんですけれども、大体77円ぐらいです。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　定住化対策事業、議員ご質問のとおり、下大多喜地先、峯

之越地先の水道の拡張というか、定住化のための拡張の工事の繰出金でございます。定住化対策ですので、その後、その宅地に、その宅地というかその近辺に、住宅が建つ見込みがあるのではないかということでやっている部分と、あと現に住んでおられる方たちの利便という部分もございまして、今回その繰り出しをしたという形になっております。現に住んでおられる方たちは、旧の峯之越というんですか、裏のほうから細い管で引いて、それぞれ受水槽を設けたりとかして、大分水圧がないために、自分でポンプをつけたりとか、そういったこともやられているということもありまして、そういうものの方たちには、非常に助かったというか、今回の拡張については非常に助かったものだと思っています。その後、水道を引いてから、家が建ったかということでありますと、今のところ、その効果がないというか、まだ現実に建っていない状況でございます。今後に期待するところではあります。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　ぜひ強力に、３月でやめちゃうという話ですけれども、後継の人に、必ずこの件は強く要望してください。お願いします。

終わります。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　141ページ、教育委員会事務費の中のメール配信システム、この運用状況について説明してください。

**○議長（小髙芳一君）**　教育課長。

**○教育課長（加曽利英男君）**　メール配信システムでございますけれども、児童生徒の保護者宛てに連絡事項をメールで配信するものでございます。昨年９月１日から平成25年３月31日までで、総配信回数が263回でございます。ただし、この中には、初年度ということで、テストのための送信が含まれております。また、内容につきましては、不審者情報ですとか台風等による登校時間の変更、その他行事の連絡等に活用しております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　今、その中身は、不審者とか台風とかそのほかとありますけれども、不審者とか台風とか何かについては、ほかの住民にとっても知っておいていい内容なので、

これだけに限らず、防災無線なんかでも、広く住民に知らせるということも考えないでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　確かにそれは必要だと思います。そういう要請といいますか、そういうものがあったと、学校側から報告があれば、地域の住民の人たちも一緒になって、子供たちを守るのもやっぱり必要だと思いますので、防災無線等を利用して、注意喚起を促したいと思っております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　159ページ、公民館バス管理事業ですが、414万3,000円計上されています。この運行状況をお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　生涯学習課長。

**○生涯学習課長（渡辺八寿雄君）**　公民館バスの運行実績についてのお尋ねでございますが、平成24年実績で申し上げますと、150団体、3,800人の方々にご利用いただきました。利用団体割合では、小中学校33パーセント、社協・老人クラブ・ボランティア28パーセント、子ども会17パーセント、公民館・社会教育関係団体・社会教育活動・ＢＧスポーツ大会・役場・教育委員会などで12.7パーセント、保育園８パーセントという利用実態でございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　運行日数。

**○議長（小髙芳一君）**　生涯学習課長。

**○生涯学習課長（渡辺八寿雄君）**　運行日数につきましては、先ほど申し上げました150団体、１団体が一日しかバスは運行できませんので、150日ということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　161ページ、文化財保護活動費、その中に無形民俗文化財保存育成補助金がありますが、どんな活動している団体に、何団体に交付されているのでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　生涯学習課長。

**○生涯学習課長（渡辺八寿雄君）**　無形民俗文化財保存育成補助金でございますが、おはやし保存会12団体に対しまして、24万2,000円の補助を交付させていただきました。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　総務の広報費です。広報おおたきが出ているんですけれども、広報おおたきの編集方針というのはどんなのでしょうか。何か見てみますと、はっきり申し上げまして、記事が、あちこちというか、今までやった報告集みたいな、本当に住民の啓蒙を果たしているのかなという気がするんですね。その辺で、編集方針を伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　編集方針ということでございますが、その当月あるいは翌月、翌々月近くにあった、町の中にあった情報をわかりやすく写真は含めて掲載するというふうなのが大きな目標でございます。そして、結果ばかりというふうなお話もありますけれども、最後のページの前ぐらいには、インフォメーションというふうな形で、これからこういうこともありますよと、あるいは事業予定表、月の予定表も載せております。そういう中で、今後ある行事等も報告しているつもりで、今、編集をしている状況でございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　本当は、一番おしまいのインフォメーションとか行事予定とか、あるいは先ほどごみのところでスプレー缶の出し方だとか、そういうようなことが、私は重要ではないかと思うんです。一番初めから、誰が表彰を受けた、どんな行事がありましたというのをあるのですが、それは確かに町民の情報だと思うんですが、これから先、暮らしていくためのガイドであってほしい、そこのところが何か抜けているので、何だか焦点のぼけた、よそ様の広報紙なんかと比べても、うんと寂しくなるような気がするんですね。町民に対して、どういうことが本当にお知らせしたいのかということを各課は、やっぱりきちんと精査して練って、一番日常的に接するところというのはそこだと思うんです、担当が直接行くんじゃなくて。ですから、もっと町政の情報発信のツールとして、重要視していただきたいなと思いますが、いかがでしょう。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　現行の編集方針といいますか、先ほど話しした方法は、変えるつもりはございませんが、できるだけそういう情報、知らせる情報は載せていくつもりで考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「はい、あります」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論がありますので、初めに認定第１号について、反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　私は、平成24年度大多喜町一般会計決算に反対の立場で討論させていただきます。

歳入のほうから見てみますと、24年度の個人町民税が突如上昇していて、実ははっとしました。23年度に比べて、1,346万円、パーセンテージにすると3.7パーセントも多く納められているんです。原因を伺いましたら、税制の改定によるものだ。どんな改定かといいますと、ご存じの方もいらっしゃると思いますけれども、子ども手当をもらっている世帯の子供の扶養控除が一気に24年度は削られました。その結果、地方税と国税と合わせて子供１人分に当たり最低でも５万2,000円以上の増税になっているわけです。今、デフレ基調の中で、収入はふえないのに、税金のこの大幅な増税というのは、本町に限らず、子育て世代には本当に痛手の年であると思います。まるで政府のやり方は、握手をしながら、足では蹴りを入れている、そういうような意地の悪さというか、感じる財政状況でした。

私は、町政を評価するとき、幾つかの観点を持っていますけれども、一つは、憲法と地方自治法の精神をしっかり踏まえているかという点と、もう一つは、町政のやり方に無駄や不公平はないかということを考えて、評価するように心がけております。憲法や地方自治法といいますけれども、憲法は前文でこう言っています。途中ですけれども、憲法ですから国政ですが、これを町政に置きかえて聞いていただければと思います。

国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、国民の代表者というのは議員のことだと思います、その福利は国民がこれを享受する。政治の福利というのは町民のためだということです。自治法は、い

つも言っているとおり、自治法の本旨というのは、地方自治の本旨というのは住民福祉の増進である。ですから、この町の町政が、どれだけこの１年間、町民の福祉の増進に貢献しているか、そこをしっかりと見たいと思いました。

そういうことで見ますと、大多喜町の2012年度、平成24年度の町政は、過去の福祉の行政に支えられていたにすぎないと言わざるを得ません。特に、子供の医療費、先ほど子育て世代への増税の痛手がある中で、子供の医療費の中３までの無料化については、周辺自治体と比べてもおくれをとっています。そして、住民の要望の強さといい、本当に残念なことであります。若い世代の定住化ということで、ハードウエアの整備を進めました。土地が安く手に入っていても、東京湾を70分で越えられるにしても、暮らしやすさとか子育てのしやすさ、ソフトウエアが充実していなければ、若い世代はもとより、暮らしやすさ、よりよさを求めて、大多喜を後にする若い人たちもふえていくのではないでしょうか。よそからも寄ってこないのではないでしょうか。今、住んでいる人たちが、やっぱりこの町に住み続けたい、この町で子育てしたいと思える上質の福祉のまちづくりを本気で追求すべきではないでしょうか。誰もが利用できる公の足の整備、健康づくり、そして孤独者をふやさない仲間づくりにも、力は入れたまちづくりを目指していただきたいと思います。

また、無駄を省くという点では、バスターミナル事業の頓挫があります。我々議会も賛成しました。共同の責任ということになりますが、一つ一つ、人様のお金を預かっているのですから、石橋をたたいていく慎重さが私たちにも求められています。行政には、もっと求められるのではないでしょうか。

また、23年度、最後、駆け込みで買ったパチンコ屋の跡地、もう１年半たちます。資材置き場になっている、そういう姿を見て、多くの町民は、納得をしない気持ちが払拭できません。田舎は田舎でいいと思います。立派な田舎であることに誇りを持って、町民の心に届く町政を期待します。

ただ、近いうちに巨大地震が訪れるであろうということが指摘されている中で、住民の利用する公共施設の耐震化がほぼ終わったことについては、政策としては評価したいと思います。

以上をもちまして、私の反対討論といたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、本認定について賛成者の発言を許します。

７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　私は賛成の立場から意見を述べさせていただきます。

現在の大多喜町財政は、決して楽観できる状況ではありません。厳しい中での予算執行であります。今後も、努力していただきまして、町民のためのまちづくりを目指していっていただきながら、皆さんにも、今後、精いっぱい町の発展に努力していただけるように心がけていっていただきたいというふうに思います。

賛成の立場としてご意見を述べさせていただきます、よろしく。

**○議長（小高芳一君）**　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小高芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第１号　平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算認定についてを採択します。

本決算は、認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小高芳一君）**　挙手多数です。

したがって、認定第１号　平成24年度大多喜町一般会計歳入歳出決算は認定することに決定しました。

次に、日程第２、認定第２号　平成24年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小高芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小高芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第２号　平成24年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本決算は、認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、認定第２号　平成24年度大多喜町鉄道経営対策事業基金特別会計歳入歳出決算は認定することに決定しました。

日程第３、認定第３号　平成24年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　すみません、ページは不明なんですけれども、健康保険税の収入がありますが、その基礎になる加入者の平均所得というのはどのくらいなんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　平成24年度の課税の基礎となる所得でございますけれども、101万1,000円でございます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　特定健診を行っております。受診者数ということはわかったんですけれども、受診率はどうなんでしょう。国保の場合、特定健診の受診率が悪ければ、ペナルティーがあるということをずっと言われてきました。そのペナルティーを避けるためには、あとどのくらい必要なんでしょうか、そのためにどういう努力をしたのか、伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　まず、受診率でございますけれども、正式には、年明け、国保連合会から通知がございますけれども、町の速報値ということで32.8パーセントでございます。

それと、あとペナルティーの件ですけれども、当初、特定健診の目標数値を下回った場合には、ペナルティーは科されるというふうなことはございましたけれども、その後、そのペナルティーの取り扱いにつきましては、特定健診を受けて、なおかつ異常があった方と申しますか、特定保健指導というふうな枠組みがございます。そちらの特定保健指導のほうを実施されていない市町村については、ペナルティーが科せられるというふうなことになりまし

て、当町では、そちらのほうの保健指導を行っておりますので、そういうペナルティーの対象にはなっていないというのが実情でございます。

あと、受診率の向上への取り組みというふうなことでございますけれども、広報紙への掲載あるいは防災無線での周知、さらには国保連合会の指導事務であります電話勧奨、これは個別に電話をかけるものでございますけれども、そういうものを行っております。また、会場までの無料の送迎バス、そしてさらには地元医師会の方の協力をいただいて、特定健診を受けてもらえるようにというふうな指導も行っていただいております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　特定健診のその結果の保健指導、受ける方はどういう傾向にあるんでしょうかと、先ほど普通の40歳以下の場合で伺って、若い人のやっぱり健康状態が、かなりの割合でよくないという数字が出ていましたけれども、特定健診のほうはどんな傾向にあるんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　特定健診の受診者の方の傾向と申しますと、大多喜町は、昔から血圧の高い方が多いということで、やはり現在もそういう方が多く見受けられます。健康福祉課のほうでは、重点健康相談を２回、総合健康相談を７回、合計９回行いまして、延べ377名の方、健康相談を実施しております。また、健康増進事業の健康教育といたしまして、個別の健康教育、集団の健康教育、合わせて29回、813名の方に参加していただいて実施しております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ございませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　国保の滞納者数と、どういう方が滞納していらっしゃるのか、その実態について伺います。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　滞納者数につきましては、254世帯ということでございます。国保世帯の約13パーセントほどになろうかと思います。やはり滞納の理由といたしましては、生活的収入が少ない、あるいは家族が多い、またその他借入金等があったりするというふう

な世帯があるかと思います。また、この254世帯につきましては、全て１年以上のと申しますか、古い滞納があるかというと、そうではなくて、年度切りかえ、前年、平成24年度、例えば、１カ月、２カ月、ちょっと納め忘れがあるとか、そういうものも含まれた数字ということでございます。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　そうすると、滞納者の大多数は、経済的な理由によるものが多いということなんですね。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　比較的滞納額が多い、また過去にさかのぼって、例えば資格証でありますとか、限度額というか短期保険証、そういうものを発行されている世帯については、比較的そういう世帯が多いというふうなことでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　最近は、医者にかかるのが遅くて、重症化する例が全国的には多いという話を聞いていますけれども、貧困というか、経済的な理由で、滞納せざるを得ないということであれば、例えば生活保護の医療扶助の援助を受けるのかというような手だてはしてあげられないのでしょうか。そういうような住民サイドに立った対策というのはとられているんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　納付相談の中で、いろいろそこの世帯の状況等を伺う機会がございます。その中では、町のほうから、生活保護を受けたらどうでしょうかとか、そういうことは、ちょっと切り出すのは非常にまた難しいかと思います。相手の意思もあります。また、世間体等もありますので、ご本人のほうからそういう相談があったときには、担当課のほうに、こういう話があったというふうなことで伝えるような形になるというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　資格証の問題です。長期の滞納をしていらっしゃる方には資格証が出されると思いますが、その中で、18歳未満と、今まで老人保健制度のときの対象者である65歳以上の方への保険証の交付というのはどうなっていますか。18歳未満の子供たちには、

親が資格証であっても、保険証を出すように省令か何かが出ていると思いますし、65歳以上の場合、旧高齢者の老人保健制度の中では、やはり滞納があっても、保険証は出すという制度だったと思うんです。それが、今、本町ではどうなっているのか、伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　18歳未満のお子さんの対応というふうなことでございますけれども、仮にそこの世帯が資格証の交付世帯だったとした場合、18歳未満のお子さんについては、今現在、１年の有効期限の保険証は出しております。人数につきましては、年度当初９名ほど該当するお子さんがおりましたけれども、年の中途におきまして納付相談あるいは納付等が行われたことによりまして、資格証の該当となる18歳未満のお子さんは、年度末ではいなくなりました。

そして、65歳以上ですか、70歳以上ですか、そちらのほうの高齢者の保険証の関係でございますけれども、短期保険証の制度が、十三、四年にできたと聞いております。そのころには、やはり高齢者については、滞納があっても、短期の保険証は出さずに、通常の保険証を出すようにというふうな指導がされていたというふうなことでございます。ただ、今現在は、そのようなことはありませんので、若い方と同じように、滞納があった短期保険証の該当とするような世帯につきましては、若い方と同じような有効期限の短い保険証で対応しております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑は。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　国民健康保険法の44条というのは、お医者さんでの窓口の支払い、一部負担金の免除について述べている部分なんですけれども、本町では、一部負担金免除が24年度は１名あるやに聞いております。どんな事例なんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　確かに昨年度１名の方に、医療費の一部負担の減免を行っております。その方につきましては、ひとり世帯の方で、失業により収入がなくなり、けがをされたと、足を骨折されて、入院が必要になったというふうな方でございます。預貯金もなく、身寄りもないというふうなことで、他の援助等を受けられないというふうな理由で、医療費の全額を免除したケースでございます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　状況はわかりました。その方は、どういうふうな経過をとって、医療費免除を受けられるようになったんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　経緯につきましては、入院されている病院から連絡がありました。ご本人のほうから、医療費のほうが支払えるような状態ではないというふうな相談を受け、病院を介して、町のほうに相談があったケースでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　この制度があることを知らないで、この方はもうやむなくけがで入院したので受けられたけれども、お金がないがために、今、保険料を払っちゃうと、医者にかかるお金がないという感じの方はかなりいらっしゃると思うんです。やはり44条、本当にお金がなければ、一部負担金免除もあるのだよということを広報する必要はあると思うんですけれども、そういう考えはありませんか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　確かに制度ができたころには、広報紙でお知らせをしております。また、今ですと、保険証の有効期限がありますので、保険証の切りかえがございます。その中に、個別に、町の医療費のお知らせと申しますか、そういうものを記載してある中に、一部負担減免の制度がありますというふうなことも記載してございますので、そちらのほうで、また、二、三日前も、それを見て相談にいらっしゃった方もおります。そういう状況でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

（「あります」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君、もう少し早く言ってください。

**○１１番（野中眞弓君）**　はい。今年度、残高が１億2,491万円、昨年度の２倍ほど出ていますけれども、これは、一体どういう要因からこんなに多額の残高が出たんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　税務住民課長。

**○税務住民課長（市原和男君）**　確かに、おっしゃいますとおり、１億円先の剰余金が発生しております。発生の理由といたしましては、歳入におきまして、当初予算よりも１億2,278万円ほど増となりました。また、歳出においては212万円の減となっております。

歳入につきましては、医療費実績等に応じて交付される交付金等の増あるいは前年度からの繰越金が予定したよりも多かったということで、１億円を超える債務増となりました。

また、歳出におきましては、医療費が1,000万円ほど予算よりも少なかったとか、あるいは高額の共同拠出金等の実績に応じての歳出減があったがために、その差額として１億円以上の剰余金が発生したということでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「あります」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論がありますので、初めに認定第３号について、反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　先ほど課長答弁の中で、国民健康保険に加入している方たちの平均所得は101万1,000円だと言われました。大変低い所得ではないかと思います。初めから、国保の性格上、退職者とか高齢者とか失業者とかが入る保険ですので、加入者の所得の低いのは、わからないわけではありませんけれども、本当にこれで文化的な生活ができるかといったら大変な数だと思うんですね。そういう思いの中で、国保は、高いよ、高いよという声があります。その中で、１億2,491万円という数は、べらぼうな数ではないでしょうか。交付金が多かったの、それから繰越金が多かったのといいますが、繰越金について言えば、前年度も、6,000万を超える繰越金がありました。にもかかわらず、24年度はさらに保険料を値上げしているんです。そこのところに問題があるのではないでしょうか。保険料を上げなくてもいい状況なのに上げた、こういう過剰見積もりというのは許しがたいと思います。役場というのは、ともあれ専門家集団なわけですから、しかも国保というのは、所得の低い人た

ちの健康保険制度であるので、できるだけ保険料を抑えようという姿勢がこの収支決算の中には見られません。

それから、保険料を引き上げる主な要因は、保険給付費の増加にあるというのは明らかですが、その原因として、疾病の増加と、もう一つは、お医者さんへのかかり方、簡単に言うと重複診療にあると言われています。それは、後期高齢者でも同じなんですが、この対策が十分ではないかと思われます。例えば先ほどの予防である特診の受診状況も、33パーセント、32パーセント、３分の１しかいっていません。健康であることが人間の最終の願いであると言われていますけれども、個々人が健康で過ごせるような働きかけに、町は、積極的にこれから先、取り組むべきではないかと思われます。それから、重複診療についても、理解していただけるような取り組みを始めるべきではないでしょうか。高齢者医療連合では、モデルケースとして、幾つかの自治体に対して広域連合が保健師さんを派遣して、重複診療をやっていらっしゃる方に、やめろということではなくて、相談活動して、重複診療を控えてもらうような去年あたりから活動しています。具体的な例で言うと、例えば鋸南町なんですけれども、鋸南町は、国民健康保険の医療費が６万円台なんです。うちのほうは１人で言うと８万6,000円なんですけれども、それが６万8,000円か9,000円なんで、２万円も違うんです。いろいろなことがあるかもしれませんけれども、やはりそういう努力をこれから先していっていただきたいと思うんです。健康づくりにしろ、予防にしろ、それからお医者さんへのかかり方にしろ、先進地の例に学びながら、町民の負担軽減に努めることが、一層というんじゃなくて、余りやっていないような気がしてなりませんが、これから先それを強化していただいて、やっていただきたいと思います。

そして、もう一つ大事なことは、町で飯島町政になってから繰り入れております。そのことも大事なんですけれども、はっきり言って、この財政の中では限度かなという気もします。こうなった一番は、国が、負担制度を始めたときには、50パーセント国が持っていたのに、今では25パーセントしか持っていない。それはどこへ来ているかというと、国民の保険料負担という形で出ているわけですから、やはり町としても、国庫負担をもとに戻すよう、国に要求することを要望して、反対討論といたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、本認定について賛成者の発言を許します。

６番江澤勝美君。

**○６番（江澤勝美君）**　国民健康保険特別会計決算について、賛成の立場から意見を述べさせていただきます。

国民健康保険特別会計でございますけれども、やはりいろいろな角度から見て、いろいろなご意見、ご要望はあろうかと思います。私も、できることなら全て要求どおり満額補助してやりたい気持ちはやまやまあります。しかしながら、大多喜町の今の財政状況を見ますと、やはりそれほど一つの特別会計だけには、予算をつぎ込むわけにはいかない。国民健康保険特別会計は、やはり徴税よりもはるかに予算を組んでおります。そういった中で、やはり多少我慢していただくところは我慢していただく、そしてまたできる時が来れば補助していくと、また先ほど10日の日ですか、監査委員のほうからいろいろ監査の結果のご報告がございました。これも、きょうは決算書でございますので、その決算について滞りなく済んでいるということでありますので、私は国民健康保険特別会計決算に賛成をいたします。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第３号　平成24年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本決算は、認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、認定第３号　平成24年度大多喜町国民健康保険特別会計歳入歳出決算は認定することに決定しました。

次に、日程第４、認定第４号　平成24年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第４号　平成24年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本決算は、認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、認定第４号　平成24年度大多喜町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算は認定することに決定しました。

次に、日程第５、認定第５号　平成24年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　242ページ、介護認定調査の件なんですけれども、これは、改善する提案をする考えはありませんか。というのは、介護認定調査及び介護認定、１年とか２年とかの間をおいて定期的に行われているんですけれども、比較的多額のお金がかかっています。自分の経験なんですけれども、より多くのサービスを受けたいときには、認定がえが必要ですから、正しく認定していただかなきゃいけないけれども、ずっと同じ状態、現状維持でよければ、介護度を変える必要がなければ、そのままでもいいのではないか。認定する案件が少なければ、費用も少なくて済むのではないかという思いがあります。無駄を省くという点で提案していただけないでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　健康福祉課長。

**○健康福祉課長（関　晴夫君）**　介護認定調査の期間を延長というお話ですが、今は、１年で認定調査はまた実施しておりますが、介護度については、その１年間にどういうふうに変わるかわかりませんので、議員さんおっしゃるとおり、そのまま介護度が変わらない方もいらっしゃれば、逆に改善される方もいらっしゃいます、いろいろリハビリとかはやりまして。逆に、また重くなる方もいらっしゃいますので、介護保険法の中で、１年ということで決められておりますので、そのようにしていきたいと考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第５号　平成24年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本決算は、認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、認定第５号　平成24年度大多喜町介護保険特別会計歳入歳出決算は認定することに決定しました。

日程第６、認定第６号　平成24年度大多喜町水道事業会計決算認定について質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　ページはありません。水道料金のことなんですけれども、県の水道の単価はわかりますか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　県水は１立方当たり100円ぐらいだったと思います。

（「そうですよね」の声あり）

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　はい。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「はい」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論がありますので、初めに本認定について、反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　平成24年度の大多喜町企業会計は、一番注目したことは、有収水量が大変上がったことです。そのことについては評価をしたいと思います。問題点は、それでもなおかつ高料金であることです。町民にとっては、目に見えない会計のところで改善されても、実際、水道料金が安くならなければ納得できないと思うんです。それで、今のままの県水が100円前後に対して、本町は二百七十何ぼという２倍以上の差がある水道料金、やはりこれでよしというわけにはいきません。選挙でも、２倍以上の格差というのはおかしいということで、不公平だということで、今、裁判所でも問題になっておりますけれども、同じ命に必要な水が、倍以上の差があるというのはおかしいと思うんです。それで、そういう理由で、このまま、努力は認めますけれども、これでよしというわけにはいきません。

これをもちまして、私の反対討論といたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、本認定について賛成者の発言を許します。

ほかに討論はありませんか。

６番江澤勝美君。

**○６番（江澤勝美君）**　大多喜町水道会計事業でございますけれども、やはり係あるいは臨時職員のあれで、有収水量もかなり改善されまして、いい方向には来ています。しかしながら、よそから比べれば、大多喜町の水道の本管ですか、そういったキロ数を見ますと、なかなか面積が広大で、水道加入件数も、よその町村から比べればかなりやはり多くなっている。そういった中で、やはり多少の高いのは、これは仕方ないんじゃないか。私は、これから先、有収水量をもっと上げていただければ、もう少しやはり料金も改善されると思います。そういうことを願いまして、今回の賛成討論とさせていただきます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第６号　平成24年度大多喜町水道事業会計決算認定についてを採決します。

本決算は、認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、認定第６号　平成24年度大多喜町水道事業会計決算は認定することに決定しました。

日程第７、認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計余剰金の処分及び決算認定についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　ページ数、すみません、賃金のことなんです。臨時職員がかなりいらっしゃいます。この臨時職員の賃金差、どのように改善、実績はあるでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　特別養護老人ホーム所長。

**○特別養護老人ホーム所長（齋藤健二君）**　賃金差の改善ということでございますけれども、うちのほうの臨時職員につきましては、町の規程によりまして、その額を支払っているわけでございますけれども、介護職につきましては7,200円から8,200円まで、調理員につきましては6,200円でございます。ことし、25年度から6,300円になりましたけれども、24年度につきましては6,200円、夜間の宿直者については6,000円ということで、25年度は100円上がりました。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

（「はい」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論がありますので、初めに本認定について、反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　反対の立場から討論させていただきます。

老人ホームの介護関係の仕事はとても大変だと思います。その中で、赤字も出さないでやっているということに対しては、ほどほどに評価をしたいと思いますけれども、ここの仕事の大事なことというのは、見られる人と見る人がいて、見る人の待遇がよくなければ、やはり見られる人への影響もあると思うんです。町営ですから、特に労働条件の問題など、ほかのホームのお手本に、モデルになるような経営をしていただきたいと思うわけです。それと、今、最低賃金のことでも、当面は、最低でも800円を近い将来については、時間給1,000円をということがずっと労働界からは言われています。あの激しい介護の仕事で、やはりこの賃金というのは厳しいのではないか、正規の職員との差、大き過ぎるんではないでしょうか。同一労働、同一賃金が働く基本だと思います。その点で、今の賃金体系、それから非正規雇用が多くなっていますが、改善していただきたく、反対討論といたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、本認定について賛成者の発言を許します。

２番正木武君。

**○２番（正木　武君）**　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計余剰金の処分及び決算認定について、賛成の立場から討論をさせていただきます。

確かに、働く側においては、なるべく金をもらってやっていくのは、もらいたいというのは確かだと思いますけれども、やっぱり今の経営状態はすばらしいものでありますし、それ以上に金を与えてやりたいんですけれども、金で愛を買うわけではありませんので、これは、賛成の立場から、それでよいのではないかと思いますので、賛成討論といたします。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計余剰金の処分及び決算認定についてを採決します。

この採決は挙手によって行います。

平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計余剰金の処分及び決算認定について、これを原案どおり可決及び認定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、認定第７号　平成24年度大多喜町特別養護老人ホーム事業会計余剰金の処分及び決算認定については原案のとおり可決及び認定することに決定しました。

ここで10分間休憩します。

（午後　２時１０分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　２時２２分）

---

**◎日程の追加**

**○議長（小髙芳一君）**　お諮りします。

ただいま町長から、暗渠排水工事請負契約の締結について及び平成25年度大多喜町一般会計補正予算（４号）の２件の議案が提出されました。この２件を日程に追加し、直ちに議題としたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

提出された２件の議案を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定しました。

職員をして、議案を配付いたします。

（議案配付）

**○議長（小髙芳一君）**　議案の配付漏れはありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　配付漏れなしと認めます。

---

**◎議案第７号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　追加日程第１、議案第７号　暗渠排水工事請負契約の締結についてを議題とします。

本件について、提出者の説明を求めます。

産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　それでは、議案第７号　暗渠排水工事請負契約の締結についてご説明いたします。

まず、提案理由でございますが、本案は、農業生産基盤を整備するため、農地の排水不良等を解消し、農作業の効率化と農地の有効利用を目指して、水田の暗渠排水工事の新設工事及び既存の暗渠排水で、劣化によって機能が著しく低下もしくは機能しなくなった箇所について更新するための工事を施工するものでございます。

工事施工地域は、大多喜町平沢地先８地区で、施工面積55.6ヘクタールとなりますが、この工事請負契約を締結しようとするものでございます。この工事につきましては、指名競争入札の方法で８社を指名し、９月５日に入札を行い、入札の結果、最低価格入札者であった株式会社仲潮組と９月９日に仮契約を締結いたしました。

なお、お手元に、参考資料といたしまして、入札の状況が配付されていると思いますので、ごらんになっていただきたいと思います。

予定価格5,000万円以上の工事請負契約につきましては、地方自治法及び条例の規定によりまして、議会の議決に付さなければならない契約になりますので、本契約を締結するに当たりまして、議会の議決を求めるものでございます。

それでは、本文でございますけれども、暗渠排水工事請負契約の締結について。

暗渠排水工事について、次のとおり請負契約を締結するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により議会の議決を求める。

１　契約の目的　暗渠排水工事。

２　契約の方法　指名競争入札。

３　契約金額　80,850,000円。

４　契約の相手方　千葉県夷隅郡大多喜町久保113番地。

株式会社　仲潮組。

代表取締役　中村友三郎。

５　工期　議会の議決の日から平成26年２月16日まで。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

６番江澤勝美君。

**○６番（江澤勝美君）**　ちょっとお聞きしますけれども、これは、希望をとるときに、場所によっては、個人負担が出ますよという説明を聞いたんですけれども、この工区内で、個人負

担が出る地域はありますか、あったら教えてもらいたいです。

**○議長（小髙芳一君）**　産業振興課長。

**○産業振興課長（末吉昭男君）**　これは、補助が定額になっておりまして、１反歩15万円しか出ませんので、それ以上となりますと、一応、個人負担になりますので、今回の工区につきましては、個人負担が発生いたします。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

本件については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから議案第７号を採決します。

お諮ります。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第７号は原案のとおり可決されました。

---

**◎議案第８号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　追加日程第２、議案第８号　平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第４号）を議題とします。

本案について、提出理由の説明を求めます。

企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　それでは、ただいま議題となりました議案第８号　平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第４号）のご説明をいたしますので、１ページをごらんください。

平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによる。

まず、歳入歳出予算の補正、第１条第１項でありますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出

それぞれ551万3,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ44億1,962万5,000円とするものであります。

第２項といたしまして、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第１表、歳入歳出予算補正」による。

次に、債務負担行為の補正。

第２条、債務負担行為の追加は、「第２表、債務負担行為補正」によるということで、４ページに第２表がございますのでごらんください。

第２表、債務負担行為補正、債務負担行為の事項は、面白峡発電所施設導入費でございます。期間は平成26年度から平成35年度の10年間、年割額は、平成26年度から平成34年度までの９年間はおのおの1,832万5,000円、平成35年度は1,374万4,000円でございます。限度額は１億7,866万9,000円でございます。この債務負担行為は、面白地先の養老川沿いに計画している小水力発電の施設をリース契約により事業展開しようとするため、平成24年度に平成25年度からの債務負担行為のご承認をいただきましたが、リース物件の内容に追加が発生したため、今回の債務負担行為を平成25年度で終了し、平成26年度から新たに債務負担行為の再設定を提案するものであります。

それでは、次に事項別明細書により歳入歳出予算補正のご説明をいたしますので、６ページ、７ページをお開きください。

初めに、歳入でございますが、款20雑入、項３雑入、目３雑入551万3,000円の増額補正は、平成26年１月からの売電の収入であります。

次に、歳出でございますが、款４衛生費、項１保健衛生費、目３環境衛生費551万3,000円の増額補正は、小水力発電所管理運営事業で、発電所賃貸借料の増額が主な内容です。その他運営に必要な流水使用料や配電線等設備工事の負担金などでございます。

以上で一般会計補正予算（第４号）の提案説明とさせていただきます。よろしくご審議の上、可決賜りますようお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　それでは、小水力発電担当課であります環境水道課から補足説明をさせていただきたいと存じます。

小水力発電建設にかかわる件では、事務手続の不手際がございまして、議員の皆様には、大変ご心配と疑問を投げかけまして、改めておわびを申し上げたいと存じます。

この事業は、昨年12月からスタートしておりまして、本年１月から新たに議員になられた

方には、その経緯が不明な点もあろうかと思われますので、私のほうから、この小水力発電施設建設を時系列で、その概略をご説明し、ご理解を賜りたいと存じます。

まず、１番目、手元の資料のほうを見ていただきたいと思います。債務負担行為の設定ですが、平成24年、昨年９月21日に、第２回議会定例会９月会議において債務負担行為を設定させていただきました。

２つ目としまして、事業打ち合わせですが、平成25年１月４日、面白峡発電所建設計画について事務引き継ぎを行っております。企画財政課から環境水道課ということで、これからの事業の関係もございますので、しばらくの間は一緒に進めていこうということで、事務引き継ぎを行っております。１月７日、施工体制、それから用地買収、立木補償、開発地域の地権者、それから売電計画等を協議いたしました。１月10日、作業状況の報告、それから地鎮祭等を協議いたしました。１月16日、地鎮祭についての説明がございました。

続いて、３のほうで、発電所施設工程会議というものですけれども、これは、過日、議会の全員協議会でお配りしました工事の設計変更内容に基づく時系列でございます。ことし、２月、３月は工程会議を行っておりますが、特にこの時点で変更が生じたものではありません。４月15日、１とあるんですけれども、これは以前にお配りいたしました設計変更説明書の変更箇所の番号でございます。

それ、１、まず第１号仮設道路、これは貯水槽進入路でございます。水をためて落とす部分のところです。ここのコンクリート舗装工程の説明がありました。

それと、変更箇所の５番目、調整池取水管増設工、取水管、それから導水管布設工程の説明がありました。

６の変更箇所、水道原水槽築造工ということで、平地盤が軟弱なため、最大の難所工事、十分に施工方法を検討し、施工したいという説明がありました。

５月15日、変更箇所２番目のところですが、第２号仮設道路、これは、工事用作業道、発電所完成後、第３号の仮設道路とつながる部分であります。橋梁への変更及び工程について説明がございました。

５月15日、同じ日なんですが、変更箇所３、第３号仮設道路発電所進入路、後に遊歩道とつながる部分でございます。幅員が2.5メートルを３メートルに拡幅したいということと、設計図を変更したい。

それから、７月12日にルート及び舗装の変更等の説明がありました。

６月14日、変更箇所７番目のところです、貯水槽改修工ですが、隧道からの水をためる池

でございます。ここから水が導水管を通って落下する部分になります。防水床張り、それから防水壁築造、排砂門の取りつけ、谷側擁護壁貯水槽の壁築造の説明がありました。この排砂門というのは、排水のドレーンでございます。

同じく変更箇所の11番、昇降階段仮設工ということで、水が落下する部分の導水管の部分になります。作業用仮設階段の設置、導水管点検用昇降階段を階段状に、吹きつけを行うことで削除するという説明がございました。

変更箇所の13番目ですが、発電所の上屋工でございます。これは、発電機は発電所地下へ埋設されます。発電機は、コンクリートで覆った地下に設置するような形になります。上屋のほうは、変電機械と制御装置程度のため、木造としたいという説明がございました。

７月12日、変更箇所の８番目ですけれども、のり面防護工、これは水をためて落とすところの導水管の周辺でございます。吹きつけ厚の変更説明がありまして、50ミリから100ミリに変更するという説明でございました。

変更箇所の９番目、導水管の基礎工ということで、これは、やはり水がたまっているところから下に落ちている導水管の部分でございます。作業用昇降階段の設置工程と説明がありました。これは仮設の足場のことでございます。

16番目の変更箇所ですが、電気設備工、これは、発電能力を上げ、あわせて制御装置の容量を変更すること、それから緊急停電対策設備装置の設置及び工程の説明がございました。

今回の設計変更による増額分3,615万5,280円を追加し、債務負担行為限度額として新たに債務負担行為を設定しようとするものでありますが、設計額の変更が必要となった時点で、議員の皆様方に説明し、あらかじめ承知をいただいた上で、設計額の変更を行い、新たな債務負担行為の設定をお願いすべきでありましたが、この事務手続に不備があり、議員の皆様方には、不信感を与えまして、大変申しわけなくと同時に深く反省をしています。

なお、施設取得に係りますリース料等は、リースを受け、小水力発電の売電料、年2,284万2,000円の一部から全て賄い、20年後のトータルとして１億5,362万円の利益を得る計算となっているものでありまして、町の自主財源確保の一事業として位置づけをしようとするものでございます。

よろしくご審議のほど、お願いを申し上げます。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

６番江澤勝美君。

**○６番（江澤勝美君）**　伺いますけれども、私の記憶が間違っているかわかりませんけれども、債務負担行為、金額を一回設定しまして、債務負担行為は、変更補正ができないと伺っていたんですけれども、追加する場合は、追加分を新たに債務負担行為として出すというふうに私は記憶しておったんですけれども、これには補正ということになっているけれども、そのところをちょっと教えてもらいたいんだ。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　債務負担行為の変更の関係ですが、通常、同年の会計であれば、変更は可能だと思います。ただし、会計年度を越えてしまう、例えば今回の場合は、24年度に債務負担行為を行っていますので、25年度に入ってきた場合には、江澤議員さんが言われるように、その追加分をするか、新たに設定するかという形になろうかと思うんですね。じゃ、追加分だけやればいいじゃないかという話も出てくるんですが、そうしますと金額的なものが非常にわかりづらくなってきます。そういうことで、再設定ということで、前にやっていただいた、25年はもう既に今回のものであるんですけれども、26年度以降については、その部分も含めた、増額分も含めた形で設定させていただくということで、今回は組ませていただきました。わかりやすくしたほうがいいだろうということで、そのような形をとりました。

以上でございます。

（「わかりました」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　非常に変更、変更ということで、次から次へみんなこれは変更してきているんですが、こんなにいっぱい変更しなければ当初の設計どおりにはいかなかったのか。これだけ変更をいっぱいかけてくるということについては、何でこんなにいっぱい変更をしなくちゃいけないのか、そこのところはちょっと説明してくれますか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　確かに、先ほどご説明申し上げましたとおり、そこの変更が生じた段階で、議員さんのほうに、こういうことで、この部分はどうしてもだめなんだと、例えば橋梁一つとっても、最初の計画は、土盛りで突き固め、それでつくるような形になっていました。それが、雨等で、２回ほどやって全部流れてしまったということで、これは、

何回やっても難しいだろうということもございましたので、橋梁に一部が変わっております。じゃ、その変わった段階で、当然、債務負担行為の限度額を超えるおそれが出てきますので、そうした場合に、事前に議員さんのほうに説明なりをしておけばよかったというところは非常に反省しております。また、その後の変更部分も、工事で、現場をやってみますと、やはりいろいろなところで発生してくると、減額になった部分もありますけれども、増額部分が割合を占めているという状況になりました。７月の段階で、議員の皆様方にも、現地を見ていただいて、そのときに、ある程度のお話ができれば、また違ったんでしょうけれども、そこも、従来の形での説明に終わってしまいましたので、その辺も含めておわび申し上げたいと思います。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　個々の変更について、一、二カ所の問題について私は言っているわけじゃないんですよ。全体的なものの中で、これだけの変更をしなければならないのかどうかということですね。どれを見ても、みんな変更で、追加でやってきていますよね。これは、部分的に、ここの部分はどうあっても変更しなくちゃいけない、こういう問題については、解決していかなきゃいけないというものは、それはそれでいいと思う。だけれども、全体的に見て、こんなに多くの変更を次から次へかけなくちゃ、やっぱり事業ができなかったのかどうかと思う、その点について。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　全体のところで、細かな変更部分もあるんですけれども、その積み重ねで、全体的には金額も3,600万という数字が出ました。確かに、志関議員さんから指摘されるとおりなんですけれども、仕事をやっていく上で、やはりその部分が、それでは賄えないという部分が、どうしても、掘ってみたり、周りを工事に入った仕事の中で、そういうものがどうしても発生してきましたので、そのような変更をさせていただきました。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　２番正木武君。

**○２番（正木　武君）**　3,600万の追加で、もう既に仕事をやっちゃってというのはどのくらいの金額なんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　仕事として残っている部分が、現在、貯水槽のこれは、７番

目、変更部分の７番目に貯水槽改修工とあると思うんですが、これがまだ終わっておりません、進めているさなかでございます。それと、８番目ののり面の防護工というのがあるんですが、これにつきましてはこれからでございます。それと、発電所の上屋工ですけれども、これは、下の部分の発電機が入る部分のピットになる地下式のもの、今これのコンクリートの工事を行っていますが、上屋は、まだできておりません、これからになります。それと、16番目の電気設備工、これもこれからとなります。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　２番正木武君。

**○２番（正木　武君）**　これはほとんどもう終わっちゃったということだね。何だかんだと、今までずっと、全員協議会と、それと議運でもいろいろな課長から聞いたんですけれども、もうほとんど終わっちゃったということは、それでここに上程していいものかどうかというのはえらい難しい問題になっちゃうんじゃないですか。やっちゃってから補正予算を組みましょうなんていう話は、どこへ行っても通用しないし、それでいいと思っていますか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　正木議員さん言われるとおり、仕事のほうは、まだ全部ではありませんけれども、一応、工期が12月に入ってまでなんですけれども、引き渡しが12月のたしか25日だと思うんですけれども、今回の補正関係、これには債務負担行為も含まれておりますので、その前に、じゃ仕事をやっていていいのかというご指摘ですが、大変申しわけありません。

**○議長（小髙芳一君）**　町長。

**○町長（飯島勝美君）**　今ご指摘いただきましたそのとおりでございます。本来ならば、発生した、これを提案するのは、もうわかった時点で提案しなければいけないのが、行政としては、初歩的な、本当に初歩の初歩の問題であることはもう間違いないわけでございまして、大変申しわけなかったと思います。それで、これはおわびを申し上げたいと思います。

実は、小水力の発電所の事業の最初のスタートは、私、この事業というのは、市原市が最初に進めておりました。市原市のほうで進めておりましたんですが、ある程度地形的な落差とか地形的な条件という中で、恐らく千葉県の中では、大多喜町以外にはないであろうというういうことで、市原市の佐久間市長さんのほうから、大多喜のほうで手を挙げたらどうかということで、私のほうで手を挙げさせてもらったところでございます。そして、この事業を県のほうに事業採択ということで、手を挙げさせてもらったところでございます。そして、

この事業は、その当時、千葉県で５カ所の事業採択をされたわけでございます。私どもの小水力発電は１カ所なんですが、あと４カ所は、全てメガソーラーということで、千葉県で、５件の事業採択ということで進めさせていただいたところでございます。そういうところで、いろいろ手続的には、本当に行政としての初歩的な本当に部分でのご迷惑でございますが、大変申しわけなかったと思いますが、そういうことで、千葉県の事業採択を受けてやった事業であるということでもございますので、ひとつよろしくお願いを申し上げたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに。

２番正木武君。

**○２番（正木　武君）**　私は、いかにも地元で、本当にこれを期待しておりましたし、こういう問題が起きて、本当に残念だと思っております。また、それは、これは、今後も議運の問題であります。これから違うところでやっていただけると思いますけれども、ちょっと違うところで、今まで、庁舎も学校も、木造は金がかかりますから、鉄骨にしますという、ほとんど回答はそうだったですよ。ほかの議員さんも、庁舎も学校も、木造にしてくれというのを訴えてくれた、私は材木屋ですからちょっと言えなかったんですけれども、そうしたら、今回はこの木造で安くなっているんですよね。これはどういうことなのかねと思っちゃった。何かおかしいんじゃないかと思うんですけれども、どうなんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　今回の発電所は、今、一番、川に近いところなんですけれども、この木造部分については、非常に鉄筋を組んで、生コンを入れるよりかは、規模が非常に小さいです。小さい中ですので、上屋を建てるのは、木造のほうが安いのということになります。

以上でございます。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　地形とか、そういう関係、地質とかの関係で、工事に変更が出る、その可能性はあるので、それはこっちに置いておきますが、リース料金なんですが、当初の契約、約束では0.898パーセントだったのが、変更で0.93パーセントと0.32パーセントの値上げになっています。今、私たちが貯蓄をしても、0.0、もう一つ零がつくんだった、小数点以下、零が２つつくような利率です。この中で、この0.32パーセントがさらりと値上げされているというのは何なんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　このリース料率なんですけれども、当初と、それから今回の変更の分で上がっているじゃないかというお話でございます。確かに、今回、再度、トウキョウ何とかリースというところがあるんですけれども、そちらのほうから見積もりをいただきました。ただ、これは、あくまでもこれからリース契約をするときには入札で行います。その希望のあるリース会社のほうに、入札に参加していただいて、その結果によって決まるわけですけれども、参考見積もりをいただいた0.93というのは、あくまでも今の時点でありまして、これ以上はいかないだろうということで考えております。ですから、実際に入札をかけた場合には、もっと下がる可能性は十分あるというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　さっき課長の説明で、20年間で１億5,000万でしたか、場所が急峻なところで、20年間の間に、また補修工事とか何かは出ないですか、この場所は。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　場所は、議員さんも見られておわかりだと思うんですが、結構急勾配のあるところで、貯水槽から下までは43.5メーターの落差があります。今度は、地下式に少ししたということは、多少また水力の電気発生が少し高くなるんだと思うんですけれども、その災害関係も予想されます。また雨のときということもあるんでしょうけれども、今回、収支計画の中で500万ずつとりあえず収益の中から修繕に充てるだろうという金額も拾い出しております。ただ、これで全部賄えるかどうかはちょっとわからないんですけれども、それとあと、リース料金の中に損害保険の関係も入っていますので、その分で対応できるものは、災害のとき対応していきたい。また、そのリース期間が過ぎた後には、新たに設定をしなきゃいけませんので、そのときには、また損害保険料もかかってくるかと思います。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　今、リースの入札と言っていましたね、リース会社の。これは何社ぐらいでやるんですか。

それと、リース料率、どうも納得できないんですけれども、それとこれの補正にかかった金額を含めて、当初の利益率というのはどうなってくるんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　まず、リース会社の関係です。

今のところ、12社ほどが見込まれます。ただ、ここのリース会社さんが全て参加するかどうかは、まだ全く手をつけておりませんのでわかりませんが、今のところこちらで拾い出したのは、もう一つ、ちばぎんリースというのも考えられますので、13社ぐらいになろうかなと思います。ほとんどが金融機関系のところだと思われます。

それと、あと野村さん、何だったでしょうか、すみません。

（発言の声あり）

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　収支ですね、すみません。

収支の関係なんですけれども、収支計画を皆さんにもお配りしたと思うんですが、一応これらは20年間を想定しております。当初のときには２億弱ぐらいあったんですけれども、今回の工事の増額も含めていきますと１億5,300万ということで、積立金がおよそ8,600万、それと全体の利益分で6,700万ということで、１億5,300万ということで計画は立てさせていただきました。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　５番野村賢一君。

**○５番（野村賢一君）**　総務課長、債務負担行為を具体的によく説明してくれないかな。24年度でやって、また25年度で補正は出して、組み直しどうのこうのと、何か闇行為とかどうのこうのと、インターネットで調べると、その年度でやって、次の年度にやるというのはできないみたいなことも書いてあるんだけれども、さっき江澤さんがちらっと発言したんだけれども、誰か、じゃわかる人。

**○議長（小髙芳一君）**　総務課長。

**○総務課長（花﨑喜好君）**　債務負担行為につきましては、今、野村議員さんがおっしゃるとおり、先ほど川嵜課長が説明しましたけれども、その年度で、仮に1,000円のものをリースにすると、それを10年間で、100円ずつリース料金は払うんだと、その利率も含めて、そうした場合、それが実際1,200円だというふうに変更になる場合、そうすると200円ずつ上乗せしますので、それはその当年度でやりなさいよということなんですね。年度が変わった場合には、先ほどちょっと説明が違っているところもあったんですんですけれども、今までの債務負担行為は、戻して、なしにして、新規にやるというふうな、今回はそういう形なんですよね。それで、24年度中にご承認をもらったもの、本来、プラスだけやればよかったんです

けれども、プラスだけやると、当年度に、もう去年の場合に、債務負担行為を起こしたものが、25年度にはもうリースで払うようになっているんですよね。

（「それは一般会計予算のほうから」の声あり）

**○総務課長（花﨑喜好君）**　ええ、そうですね。そうなっているんですけれども、25年度にこれが発生するようにしましたので、そうすると25年度から始まる場合には、26年度からリース料金は払うわけですね。25年度は、払わなくていい、払うというか、それは予算に乗せるという意味ですね、前年度予算に。26年度以降の分を後年度で、債務負担行為を起こすわけですから、そういうふうな変更をする分には、翌年度でやる場合にはそうしなきゃいけない。要するに、今回、たまたま24年度に債務負担行為を起こしたものの本来25年度に予算化しなきゃいけない額があるわけですね、返す分が。それを今回、当初予算に乗せていなかったんで、今回、一緒に変更して、債務負担行為を変更し、きれいに直してリセットしちゃって、その分を25年度に払うんであれば25年度に乗せるし、一般会計の予算の中に、それで26年度以降は、借金、借金というか、返済でいきますよというふうな形が本当の形です。

（「だから、年度、年度、じゃ払う年のものは一般予算のほうへ繰り入れて払わないとできないということだよね」の声あり）

**○総務課長（花﨑喜好君）**　そうです。

（「はい、了解です」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はございませんか。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　設計の工事の詳細なんですけれども、先ほど申したとおり、ほとんどが、全部、変更、変更で来ていますよね。たまたま変更で来ていて、２カ所ばかり、減額のところ、マイナスのところがあるわけですけれども、マイナスのところが多いというのは、結局、昇降階段ですか、それを変更したということであるわけですけれども、それとあと重量鉄骨が120万ですか、もう一つは640万ということなんですけれども、これは、納得できないのは、当然もうほとんどが全部減額できていますので、たまたまそれで全部というか、この昇降関係と、あとは発電所上屋の関係なんですけれども、これは、マイナスという形は、一般的に考えると、常識はどうかわからないんですけれども、ほとんどがプラスになっていますので、どこかで、逆を言えば、マイナスをつくらないといけないような対応で、ということは、金額で全部やると多くなるから、これは、足すと幾らになるか、5,000万近くになるんですか、そうなると、なった場合に、余り金額が多いと、結局こういった形で補正やる

というのは、問題があるということで、それは、ちょっと問題があるので、やっちゃっているものですから、当然そういうことで、この644万5,000円と127万1,000円というのは、ある程度、これを木造にしたりなんかして安く見積もってあるわけです。一般的には、完全なものをつくるということは一番重要なことなんですよね。だから、それを逆に言うと、完全なものをつくるんじゃなくて、逆に言えば危ないものをつくっているような形になると思うんですよ。そういう点がちょっとおかしい関係で、それについては、何か裏があるんじゃないかとも、私も思うわけです。というのが、そういう形で、あくまで減額しておかないと、3,600万に合わせるために、実際、一般的な考え方すれば、こういう形をとったんじゃないかと推察するわけですよ、それは正しいかどうかわかりませんけれども。こういう形はちょっとおかしいと思うので、確かにこういう形で、説明もなくて、今まで議会のほうにも説明がなくてこういう形でやったわけですけれども、そういう点が特におかしいと思うんですよ。こういった問題、何か詳細に細かくこの金額に対しての精査はした中で、議員もそうなんですけれども、これは出されても、議員が、実際、これは書類上だけじゃちょっとわからないですよ、現場を見たりなんかして、ある程度チェックする、議員がチェックしても、細かい点はわかりませんけれども、ある程度そういう点は知っておかなくちゃいけないと思うんですよ。そういう点もあるし、この事業打ち合わせにしても、たしか月１回ぐらいの予定でやるという話だったんですけれども、これは、月１回に入っていないんですけれども、軽微なことだから入れていないと思うんですけれども、最後は、７月12日ですか、12日にやって、その後、８月、７月中にやったかどうかわかりませんけれども、７月、８月、９月もあるんですけれども、この関係の打ち合わせというのはやっているんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　予定どおりやっております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　それは軽微なものであるから、これはちょっとうたっていないと思うんですけれども、そういう形でよろしいんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　特にそこで変更的な話がありませんでしたので、記載はしておりません。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑はありませんか。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　それと、もう一つ、この減額の関係なんですけれども、どうしてこういう形を生まれたかだけ、ちょっと説明願いたいんです。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　減額の２カ所の分なんですけれども、まず昇降階段の仮設工ということで、640万ほどの減額になっております。これは、当初は、そこに昇降階段をつくっていこうということで、そこは、できれば遊歩道を使われた方の緊急避難通路ですか、そういうものに使いたいという計画もありました。ただ、実際のこういう小水力の機械が入ってしまったりなんかした場合に、やはりそこは施錠しないとまずいだろうという判断に変わってきております。ですから、上の部分の貯水槽の部分と、それから川に近いところの発電所の部分には施錠する考えでおります。そういうことで、この部分は削除したという経緯でございます。

それと、上屋については、全てコンクリートでつくっていこうということで、また川の部分が、一番、発電機が入る分が、川に近いものですから、じゃその部分の地質の調査を行ってみましたら、川砂が上がっている形跡が、ほとんどないということで、じゃ機械だけは非常に高いものですから、その分は、コンクリートピットの中に、地下に入っていきますので、上屋の部分については、先ほど説明したように、そういった変電関係がつきますんで、じゃそこは木造で十分耐えられるだろうということで変更させていただきました。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　３回目です。３回目は終わりました。

ほかに質疑ありませんか。

１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　せんだって、あの現場を見させていただいた際に、非常に珍しい施設で、近隣にはない施設であるという説明を受けまして、本当に、でき上がればすばらしいなと思いました。その際、説明を受けた中で、これは、でき上がった後に、有力な観光資源というんですか、観光施設にもなるよと、その後、でき上がった後に、水力発電だけではなくて、観光施設としても十分有効利用できるよという説明を受けたと私は記憶しております。そのために、今まで水力発電だけであれば、現場の作業員とか役場の職員の方しか立ち入らないんだけれども、観光施設となると、下のほうに遊歩道もでき上がってきます。一般の

方々もそこに出入りするようになるんで、そのために、道路とか、いろいろな面で、要は、より安心・安全なものをつくらなければいけないんだという私、説明を受けたやに自分は記憶しているんですけれども、今回の説明の中で、ちょっとその辺が一回も出てこなかったものですから、でき上がった後に、観光施設として、どのように考えて、今、20年間で利益がこのくらい出るよということの説明はありましたけれども、観光施設として有効利用すればもっともっと出るんじゃなかろうか。この工事のいきさつについては、私も、不満の残るところは多々あります。ただ、観光施設として有力な資源であると思いますので、それも含めて説明が足りないんじゃなかろうか。それとあと、もう一つ、観光施設として使うには、またそれなりの設備が、駐車場とか、いろいろな設備も必要になってくるかと思っております。その辺はどういうふうに考えているんでしょう。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　根本議員のおっしゃるとおりで、当初から、川づくり、いわゆる今、粟又から小沢又までが、遊歩道、約２キロぐらいでしょうか、完成しておりまして、それを今度は小田代方面までやりましょうという計画で来ております。当然、そこの面白地先の今回の場所もその通路の一つになっております。そこから上がることもできます。本来、仮設道路だと工事が終わると取り壊してしまうんですけれども、そこは残しましょうと、もうちょっとしっかりつくりましょうということで、今回も行っております。そこから仮に上がってきて、小水力発電のその機械自体が、先ほど言いましたように、地下のほうに入ってしまうので、そこを見ることはやはり難しいです。ただし、その施設の導水管が、その23.5メーターから落ちてくる、そういうものを見るとか、貯水槽を見るとか、発電所のここが地下になっているんだよとか、そういうものは、観光客の方も見ることができます。その仮設道路を下からずっと上がって、上の県道まで抜けることができます。そこで、またいろいろな小水力発電の全体を見ることも可能なんですけれども、それにあわせて、今、面白浄水場、皆様にも用地のご承認をいただきました新面白浄水場も計画して、今回、これから乾燥床の建設もやろうとしております。１年でできるわけではないんですけれども、そちらのほうの計画もあって、面白浄水場の施設も観光ルートの中に一部加えていって、問題のないところについては加えていって、なおかつそこでとれた、とれたというかつくられた水、養老水というかどうかわかりませんけれども、そういうものも地域で販売していければと、大量生産するのではなくて、地域の雇用をして、人力でできるような簡単なもので構わないと思うんですけれども、そういうものも、養老の水、そういったようなことで、飲料水を販売してい

こうというような計画も考えております。ですから、そういった一体でそういうものが生かせればなというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　１番根本年生君。

**○１番（根本年生君）**　ぜひ、もしうまくそれが通れば、うまく有効利用のほうは、ぜひいろいろな問題を払拭できるようにやっていただければと思います。

あと、もう一つ、説明を受けた中で、現場で、この水量のなぜあそこがいいかといったら、何か養老渓谷と老川地区の豊かな自然があるんで、そこにたまる水量が、常にあそこに常時流れてくるんだよと、だから、豊かな自然を守ることが、より一層大切ですよという説明も受けた思いがあります。ですから、これもあわせ、豊かな自然を守るようにも努力していただきたいと思います。

以上です。

**○議長（小高芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

９番吉野僖一君。

**○９番（吉野僖一君）**　大分、問題は紛糾しているんですけれども、私も、勉強不足で、県のホームページとか、いろいろ調べましたら、当初、県のあれは、平成23年７月６日から、千葉県省エネルギー等対策推進本部、新エネルギー活用推進プロジェクトチーム設置要綱というのが、そこら辺からスタートして、市原市の田淵でその会社が、小水力、千葉日報、去年３月10日ですか、出ていまして、それが、県の５カ所の地区ですか、それに採用されて、水力大多喜ということで注目されております。

それで、ことし、新年度のまた県の動きを見ますと、水道局浄水課ということで、新エネルギーの導入事業ということで、給水場に小水力発電設備を導入するための準備工事ということで、3,780万円ということで予算化されております。今回の大多喜のあれには、県・国の補助というのは、対象外なんですか、あったんですか、なかったんですか、その辺をちょっとお伺いします。

**○議長（小高芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　計画の段階とか認可の関係もありましたので、そのときには、我々環境水道課は、特に携わってはいなかったんですけれども、ただし事情は聞いております。補助事業をやってしまうと、今回の37円50銭、１キロワット当たり、この金額が保証されるのが来年３月までだと思います。じゃ、その後どうなるんだと、どんどんいろいろな形

で各自治体なり会社がやってくると思うんですが、単価は恐らく変わっていくと思います。こんないい単価はないと思います。そういうことで、スピーディーに仕事を起こさなきゃいけないということも多分あったと思います。そういうことで、補助事業の関係、国の事業もあるんでしょうけれども、それを入れていくと、いろいろな書類を出さないと、なかなか仕事が進んでいかないという点もあります。それであれば、売電することによって、収益はこれだけ出るんだという収支計画の中でやっていけば、十分やれるだろうと、また早くやれるだろうということもありましたので、そういう選択をしたというふうに考えております。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　企画財政課長。

**○企画財政課長（小野田光利君）**　ただいま環境水道課長がお答えしましたが、補助事業の場合は、自家消費の場合には、補助事業の対象になるということで、100パーセント売電でございますので、補助対象にはならない。実は、当初計画したのが、私ども企画財政課のほうなんですけれども、そのときには、やはり売電と自家消費の比較や、自前で建設した場合、リースでやった場合の比較、いろいろな検討を重ねて、最終的に一番有利であるリースで、なおかつ100パーセント売電ということで、計画をさせていただいたものです。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　変更一覧表の16の電気設備工事で、発電領域を広げると言いました。そうすると、発電量がふえる、どんなふうに説明を受けているんでしょうか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　最初の計画の最低出力、これが、35キロワット、１時間当たり、それと最大出力が、130キロワット、これは時間当たり、この分で、今回の変更の部分が広がるという変更の理由なんですけれども、これは、あくまでも130キロワット・時間当たりは変わりません。ただし、変わらないんですけれども、その余力を持っているということですから、キロワット自体はそれなんですけれども、実際には、だから140とか150とかも可能だというような意味、余裕を持たせたということでございます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　見込みとして、どのくらいふえるという説明を受けているんですか。

**○議長（小髙芳一君）**　環境水道課長。

**○環境水道課長（川嵜照恭君）**　最高、例えばこれの発電機そのものは、130キロワット、時間当たりなんですけれども、それが150になるとか160になるとか、そういう意味ではなくて、ある程度の余裕ということで、その上限の部分は、ちょっと今のところ私のほうでは把握しておりません。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　審議の途中ですが、ここで10分間休憩します。

（午後　３時２１分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後　３時３０分）

---

**○議長（小髙芳一君）**　引き続き、質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番吉野一男君。

**○３番（吉野一男君）**　たまたま先ほど課長のほうから、一応、補助金の関係の今ちょっと説明があったんですけれども、一般的に、私も、たまたま太陽光発電をやっているんですけれども、売電のほうだけやっているんですけれども、その場合に、補助金は、うちのほうは、太陽光の場合は、補助金はないんですけれども、一旦、太陽光の場合、実際に経産省の許可をとれば、多少年度は変わっても、値段的には37円80銭、それで通るんですよね、実際にそれで経産省の許可がおりれば。許可がおりないと、それは当然そうなっちゃいますけれども、単価も変わっちゃいますけれども、そういう関係で、太陽光の場合はそういう形でやるんですけれども、水力発電も、売電ですので、そういう形になろうかと思うんですけれども、その場合に、結局37円の水力発電になった場合に、あくまでも経産省の許可をとれば、そのまま年度が変わっても、工事はずっと進捗していますので、１カ年でできないということは継続になると思うんですけれども、その場合は、一般的に水力発電じゃなくて太陽光と同じような形でとれるんじゃないか、そのところちょっとはっきりわからないんですけれども、一応それを参考にですね。

（発言の声あり）

**○３番（吉野一男君）**　じゃ、わかりました。その辺を別として、たまたまこういう形で出たわけですけれども、結局、実際に議員としては、町民にまた説明するとか、関係があります

ので、こういうことは、水力発電は、確かに町長が言っているとおり、一番、これは町にとっても有利な方向ですので、これは歓迎すべきことなんですね、これをやること自体は。もちろんそういう形は賛成するんですけれども、たまたま額が大きくて、結局、一工事については、これだけ大きい金額というのは、後で皆さんに説明してあればいいんですけれども、説明していないというのが一番ネックだと思うんですから、やっぱり説明して、あくまで議員さんのほうに説明、それは議員イコール町民に話をしたということになるんですけれども、そういうことをやっていただかなかったから、たまたまそういうことになっちゃったんですけれども、こういうことまで、今後もあることなんですけれども、できるだけ、こういう形は、議員に説明して、慎重審議をまたしてもらって、いい方向に持っていければいいなと思っています。そういう点は、ちょっとつけくわえる一応、参考にしていただければと思うんですけれども、ひとつよろしく。

**○議長（小髙芳一君）**　答弁は要りませんね。

**○３番（吉野一男君）**　はい、要らないです。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　動議を提出します。

**○議長（小髙芳一君）**　７番志関武良夫君。

---

**◎動議提出**

**○７番（志関武良夫君）**　過日の全員協議会でも説明を伺い、また本日、補正予算として、小水力発電所の関係で債務負担行為補正を内容とする補正予算案が提案されたわけですが、この問題について、議員各位からもいろいろと質疑や意見が出ており、この議案については、議会としても住民説明をしなければならないという責任があります。

そういう中で、現状の承認は難しいと考え、今後のこともございますので、議会としても、さらに調査した上で、採決が必要であると判断しますので、所管の委員会に付託して審査をすることが必要であると思いますので、よろしく審議をお願い申し上げます。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　お諮りします。

ただいま７番志関武良夫君から、議案第７号　平成25年度大多喜町一般会計補正予算（第４号）について、所管の委員会に付託し、審議する必要のある旨の動議が提出されました。

この動議に賛成の方は挙手を願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

（発言の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　もう一度採決します。

この動議に賛成の方ははっきりと挙手を願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、提出された動議は成立しました。

委員会への付託する動議を議題として採決します。

この採決は挙手により行います。

この動議のとおり委員会に付託することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、議案第８号　大多喜町一般会計補正予算（第４号）については、委員会に付託することの動議は可決されました。

したがって、議案第８号　大多喜町一般会計補正予算（第４号）については、福祉経済常任委員会に付託し、審査することに決定しました。

---

**◎日程の追加**

**○議長（小髙芳一君）**　お諮りします。

ただいま７番志関武良夫君から、「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」のための意見書提出についての議案が提出されました。これを日程に追加し、直ちに議題としたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

提出された議案を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定しました。

職員をして、議案を配付いたします。

（議案配付）

**○議長（小髙芳一君）**　議案の配付漏れはありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　配付漏れなしと認めます。

---

**◎発議第１号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　追加日程第３、発議第１号　「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」のための意見書の提出についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

７番志関武良夫君。

**○７番（志関武良夫君）**　では、発議第１号　地球温暖化対策に関する地方財源を確保・充実する仕組みの構築を求める意見書の提出についての提案説明を行います。

それでは、発議第１号の「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方財源確保」のための意見書の提出について、提案理由の説明を申し上げたいと思います。

議員各位、ご承知のとおり、本意見書（案）の提出につきましては、去る９月10日の本会議の冒頭に議長から報告のありましたように、山村地域である本町の議会に対しまして、全国森林環境税創設促進議員連盟会長、板垣一徳氏から依頼のあったものでございます。

その内容ですが、地球規模の重要かつ喫緊の課題となっておりまして、地球温暖化防止のための温室効果ガスの削減について、京都議定書の我が国の温室効果ガス削減目標が、６パーセント削減することが求められております。また、そのうち3.8パーセントを森林吸収量によって確保するとなっております。

こうした中、昨年10月に導入された地球温暖化対策のための税、いわゆる石油石炭税の特例措置について、地球温暖化対策における排出減対策のための税財源だけでなく、森林の公益機能の重要性と、その保全を行う市町村の森林・林業・山村対策に充てるための森林吸収源対策と地球温暖化対策につながる仕組みの創設について、全国の税制改正大綱に盛り込んでいただくよう、昨年９月の議会に意見書（案）が提出され、本町議会もこれを可決し、政府関係大臣宛てに意見書を提出したところであります。

しかしながら、平成25年度税制改正大綱には、消費税など、改正法第７条の規定に基づいて早急に総合的な検討を行うといった表現にとどまり、制度の創設にはいま一歩のところで実現には至らなかったところであります。

山村地域である本町において、町の面積129.84平方キロメートルのうち、森林面積は

88.63平方キロメートルで、総面積の約68パーセントを占めております。しかし、木材価格の暴落・低迷や林業関係従事者の高齢化、後継者不足など、本町の林業を取り巻く環境は厳しい情勢にあります。

森林吸収源対策などの地球温暖化対策に取り組むための恒久的・安定的な財源についても大幅に不足しているのが現状であります。本年度が制度創設に最も重要なタイミングであると捉えまして、二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全などは推進する市町村の役割や実情を訴えまして、地球温暖化対策のための税、いわゆる「石油石炭税の税率の特例措置」の一定割合を森林面積に応じて配分する地方財源の確保・充実する仕組みは構築するよう、国の関係大臣及び衆参両議長宛て意見書を提出するものであります。

この後、事務局より発議案の内容を説明していただきますが、江澤議員、吉野僖一議員、正木議員、吉野一男議員の賛同をいただき、提出いたしましたので、よろしくご審議いただき、ご賛同を承りますようお願い申し上げまして、提案説明とさせていただきます。よろしくお願いします。

**○議長（小髙芳一君）**　事務局長。

**○議会事務局長（髙橋謙周君）**　それでは、発議案の説明をさせていただきます。

発議第１号。

平成25年９月20日、大多喜町議会議長、小髙芳一様。

提出者、大多喜町議会議員、志関武良夫。

賛成者、同、江澤勝美、賛成者、同、吉野僖一、賛成者、同、正木武、賛成者、同、吉野一男。

「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保」のための意見書の提出について。

上記の議案を、大多喜町会議規則第14条の規定により別紙のとおり提出しますということで、裏をもう一枚めくっていただきたいと思います。

「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方財源確保」のための意見書（案）。

地球温暖化防止のための温室効果ガスの削減は、我が国のみならず地球規模の重要かつ喫緊の課題となっており、森林のもつ地球温暖化の防止や国土の保全、水資源の涵養、自然環境の保持など「森林の公益的機能」に対する国民の関心と期待は大きくなっている。

また、我が国は平成25年度以降においても、京都議定書目標達成計画に掲げられたもの（第１約束期間における温室効果ガス６パーセント削減のうち、3.8パーセントを森林吸収

量で確保）と同等以上の取組みを推進することとしている。

このような経緯も踏まえ、「地球温暖化対策のための石油石炭税の税率の特例措置」が平成24年10月に導入されたが、使途は$CO_2$排出抑制対策に限定されており、森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保については、「早急に総合的な検討を行う」との方針に止まっている。

もとより、地球温暖化防止をより確実なものとするためには、森林の整備・保全等の森林吸収源対策や豊富な資源環境が生み出す再生可能エネルギーの活用などの取り組みを、山村地域の市町村が主体的・総合的に実施することが不可欠である。

しかしながら、これら市町村では、木材価格の暴落・低迷や林業従事者の高齢化、後継者不足など厳しい情勢にあり、その結果、山そのものが荒廃し、自然災害等の脅威に国民の生命財産が脅かされるといった事態が生じている。

これを再生させると共に、森林吸収源対策などの地球温暖化対策に取り組むための恒久的・安定的な財源確保を講ずることが急務である。

よって、下記の事項の実現を強く求めるものである。

記。

自然災害などの脅威から国民の生命財産を守るための森林・林業・山村対策の抜本的な強化を図ることに加え、二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する市町村の役割を踏まえ、「石油石炭税の税率の特例」による一定割合を、森林面積に応じて譲与する仕組みを構築すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年９月20日、大多喜町議会。

提出先につきましては、内閣総理大臣以下、各関係大臣、また衆議院議長、参議院議長あてでございます。

以上でございます。

**○議長（小高芳一君）**　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小高芳一君）**　質疑なしと認めます。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから発議第１号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、発議第１号は原案のとおり可決されました。

---

**◎日程の追加**

**○議長（小髙芳一君）**　お諮りします。

ただいま10番山田久子君から、若い世代が安心して就労できる環境等の整備を求める意見書の提出について及び鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書の提出についての議案が提出されました。この２件を日程に追加し、直ちに議題としたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

提出された２件の議案を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定しました。

職員をして、議案を配付します。

（議案配付）

**○議長（小髙芳一君）**　議案の配付漏れはありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　配付漏れなしと認めます。

---

**◎発議第２号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　まず、追加日程第４、発議第２号　若い世代が安心して就労できる環境等の整備を求める意見書の提出についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　議長のお許しをいただきましたので、若い世代が安心して就労できる環境等の整備を求める意見書（案）の提出につき、提案理由を申し上げさせていただきま

す。

ライフスタイルの多様化や少子高齢化により、若い世代の働き方や暮らし方が変化してきております。若い世代を取り巻く問題は、多岐にわたっており、深刻さを増しております。今こそ、国を挙げて、若い世代が、仕事と生活の調和を保ち、安心して就労できる環境等の整備は一層進めることを求め、江澤勝美議員、正木武議員、麻生勇議員、渡邉泰宣議員、根本年生議員、吉野一男議員のご賛同を賜り、別紙のとおり意見書（案）を提出させていただくものでございます。

それでは、発議案についてご説明させていただきます。

発議第２号。

大多喜町議会議長、小髙芳一様。

提出者、大多喜町議会議員、山田ひさこ、賛成者、同、江澤勝美、賛成者、同、正木武、賛成者、同、麻生勇、賛成者、同、渡邉泰宣、賛成者、同、根本年生、賛成者、同、吉野一男。

若い世代が安心して就労できる環境等の整備を求める意見書の提出について。

上記の議案を、大多喜町議会規則第14条の規定により別紙のとおり提出します。

若い世代が安心して就労できる環境等の整備を求める意見書（案）。

ライフスタイルの多様化や少子高齢化により、若い世代の働き方や暮らし方が変化しています。非正規労働者や共働き世代が増えた今、若い世代が本来望んでいる仕事と生活の調和が崩れ、理想と現実のギャップに悩む人が少なくありません。

中でも、働く貧困層といわれるワーキングプアから抜け出せずに結婚を諦めざるを得ない若者の増加や、仕事と子育ての両立に悩む女性の増加、正規雇用でありながら過酷な労働環境で働き続けることができない若年労働市場の実態など、今の若い世代を取り巻く問題は多岐にわたり、年々深刻さを増しています。今こそ国を挙げて、若い世代が安心して就労できる環境等の整備が求められています。

よって、政府においては、若い世代が仕事と生活の調和を保ち、安心して働き続けることができる社会の実現をめざし、一層の取り組みを進めるべく、以下の事項について適切に対応を講じるよう強く求めます。

記。

１、世帯収入の増加に向けて、政労使による「賃金の配分に関するルール」づくりを進めること。また、正規・非正規間の格差是正、子育て支援など、総合的な支援を行うとともに、

最低賃金引き上げに向けた環境整備を進めること。

２、労働環境が悪いために早期に離職する若者も依然として多いことから、若年労働者に劣悪な労務環境下で仕事を強いる企業に対して、違法な疑いがある場合等の立入調査の実施や悪質な場合の企業名の公表などを検討し、対策を強化すること。

３、個人のライフスタイルに応じた多様な働き方を可能とするために、地域限定や労働時間限定の正社員など多元的な働き方を普及・拡大する環境整備をすすめるとともに、短時間正社員制度、テレワーク、在宅勤務などの導入を促進すること。

４、仕事や子育て等に関する行政サービスについて、若者支援策がより有効に実施・活用されるよう、利用度や認知度の実態を踏まえ、必要な運用の改善や相談窓口等の周知、浸透に努めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出させていただくものでございます。

よろしくご審議をいただきまして、可決賜りますようお願い申し上げて、提案理由と発議案の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　若い人たちが非正規労働や共働きせざるを得ない状況、そしてワーキングプアがふえているということ、これはこのとおりですが、なぜこれができたのでしょうか。どういうふうに考えていらっしゃいますでしょうか。個人の若い人たちの好みでライフスタイルが変わっているのでしょうか。

それから、記の３番なんですけれども、多様な働き方を可能とするために、地域限定や労働時間限定の正社員、限定正社員と呼ばれているものなのですが、この限定正社員、表向きには大変よさそうなことが言われています。でも、物には必ずメリットとデメリットがあります。このデメリットについてどういうデメリットがあると認識されているのか、伺いたいと思います。

**○議長（小髙芳一君）**　10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　先ほどの若者の働き方ということでございますけれども、こちらのほうは、若者のアンケート調査は実施させていただいた結果をもとにまとめさせていただきました。本年３月から５月にかけまして、全国でワーク・ライフ・バランスに関するアンケート調査を実施し、28万6,032人の方から回答いただきました。その回答をもとにしまして

まとめさせていただきましたものが、今ご提案をさせていただいたものでございます。

その中で、若者の働き方のギャップということでございますが、今の若者は、やはり個人の生活の質といいますか、家庭の質といいますか、そういったものを仕事という時間よりも重視しているという状況のアンケート調査が出ました。しかしながら、実際のところはどうしているかといいますと、仕事を優先しているという、そういう世代間の考え方の違いというのがやはり出てきているのではないかと思います。

また、先ほどの短時間正社員制度、その他の部分におきましての野中議員さんのお話でございますが、実際のところ、そういったものも懸念されるのは、本当にそのとおりの部分もあると思います。

（「何が懸念されているのか」の声あり）

**○１０番（山田久子君）**　それは、解雇ということで、解雇がしやすくなるのではないかということを懸念されているという部分もあるかと思います。しかしながら、今現在、非正規労働者というのは60パーセントに既になっているということでございます。現実の若者が、非正規社員という状況の中で、低収入であり、働く場が過酷な場であり、本当に採用されているんですけれども、やめてもらうのを前提とするような働き方という、そういった部分も伺っております。この９月においては、そういった部分に対してのしっかりとした取り組みということで、政府的には行われているという部分もございます。

そういう中で、これから、これは若者の雇用ということでのアンケートでございましたけれども、働く世代の中で、例えば大多喜町におきますと、若い世代、特に女性などは、子育てをしながら、また介護をしながら働くということにおきまして、やはり短時間正社員という形の働き方ができることによって、雇用の継続をすることができると思います。今までですと、やめざるを得ない、しかしながらやはりここの地域でまた働くには、本当に共働きをしていかなければ大変な状況があるのではないかと思います。その中で、パートであったり非正規でありますと、保障の問題も全くないような状況でございます。短期の正社員ということになりますと、そこに、保険とか年金とかと、そういったものも保障されるようになってまいります。そうすることによりまして、現役世代の社会保障というものも賄われていく部分にもつながってまいりますが、実際は、若者が、将来、自分がそういう年をとったときに、何の保障もないという状況から、今、少しでもそういう正規という形の中で、保障をつけてもらうことにより、自分たちも守られていくという、そういう形になっていくのではないかと考えております。

さまざまな懸念もありますけれども、今、政府並びに厚生労働省におきましては、この点もしっかりと踏まえながら、多様な働き方という部分で検討を開始していただいているところでございます。法律というのは、守られてこそ法律でございます。悪用しようと思えば、幾らでも悪用できる、これが法律ではないかと思っております。できるだけ、本当にいい制度として、また検討していただけるように、政府、厚生労働省にもお願いをしたいと思うところでございますが、そういった思いで提案させていただきました。よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議あり」「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論省略に異議がありますので、これから討論を行います。

初めに、本案に反対者の発言を許します。

11番野中眞弓君。

**○１１番（野中眞弓君）**　私は反対の立場から討論させていただきます。

若い世代が安心して就労してできる環境の整備を求める、このことについては全く異議がありません。まさしくそのとおりです。提案の中で、今６割の若者たちが非正規雇用だ、これは大変なことです。若者たちは、私たちの未来そのものですから、その人たちが、先の見えない非正規雇用で、ワーキングプアで、何としても解決しなきゃならないと思います。

どうしてこんなに若者たちが非正規雇用なのか。それは、1999年、自民党・公明党の政権ができたときに、労働者派遣法が改悪され、そして2004年には、製造業の解禁などを初め、歴代自民党・公明党政権によって雇用破壊が行われてきたからです。そこのところ、まず政治的にこれはつくられたわけで、若者たちが、好き好んで深夜労働あるいは無制限にサービス残業をやらせられているとか、それに対してちっとも規制が入らない、そこのところが問題なわけです。

提案の中に、女の人は育児とか出産とかで大変不安定な状態にあるからと言いました。だから、短期間でも正規雇用をと言いますが、皆さん、私は公務員でした。核家族で、３人の子供を育てることができました。それはなぜかというと、育児休業法とか、それから労働基

準法か何かでしょうか、きちんと出産・育児に対して法律が、実はできていて、それを公務員という職場では、法がきちんと守られているからです。

今、問題なのは、新しいそういう制度、限定社員制度をつくることではなくて、今ある法をきちんと守らせる。そして女性も男性も安心して働いていける生きがいのある人生を送れるというふうにすることが今の課題ではないでしょうか。山田さん自身がおっしゃっていましたけれども、おいしそうないろいろな限定社員になると、こういうメリットがありますよ、メリットがあります、メリットがありますよ、餌をばらまいていますけれども、その中で、デメリットとして解雇しやすいと言いました。そのほかに、低賃金をずっと継続させられる、そういう問題があるわけです。まさに、解雇と低賃金というのは、今、若者たちが、本当に不安に思っている、憤りを持っている、非正規雇用の人たちが何とかしてほしいと思っている、そこではありませんか。非正規雇用と解雇の自由を増長するような、そういうものを大多喜町の議会が上げるわけにはいきません。それこそ、私は、今すぐこういう法律というのは、効果が出るわけではありません。３年なり４年なり、小泉政権がそうだったじゃありませんか。よく考えてみれば、悪くなったのは小泉政権からよねと、皆さん、今になって振り返っておっしゃいます。これが出るのは、この限定社員の効果が出てくるのはもう少し先にたってからだと思います。確かに、目先のメリットは、ないわけではありません。メリットとデメリットをはかりにかけたとき、デメリットのほうが、今、ベールをかぶっているデメリットのほうが圧倒的に多いわけです。私たち、住民の方々から信託を受けて議員になりました。私たちの後ろにいる人たちに、どういうことが、限定社員を推進することで起きてくるかということを考えたら、簡単に認めるわけにいかないのではないでしょうか。そういうものをきちんと見破っていくこと、それが議員に課せられた任務ではないでしょうか。今、私たちが雇用の問題ですることは、今ある法律はきちんと守れという声を上げていくことだと、私は思います。

この３以外については、例えば２のブラック企業と呼ばれているものですけれども、９月一月間、4,000社に対して調査が入るということです。日本共産党の山下さんなんかの追及によって、厚労省が動かざるを得なくなってきた。それをもっと強化しなさい、もちろんです。それから、最低賃金を上げなさい。一般会計承認のときの答弁でも申し上げましたけれども、当面、緊急に最低賃金800円に、目指すところ、最低でも1,000円の最低賃金にしなさい、本当に当然だと思います。それから、若い人たち、困ったらこういう窓口に行きなさいという情報をきちんと届けなさい、当然です。だけれども、この３番については、絶対に私

たちが議員としてやってはならないことだと思います。賛成議員になられた議員の皆さんも、そうでない方も、心の奥の奥と、皆さんの知性に訴えて、私は反対討論といたします。

**○議長（小髙芳一君）**　次に、本案に賛成者の発言を許します。

６番江澤勝美君。

**○６番（江澤勝美君）**　私は、今の発議第２号について、賛成の立場から意見を述べさせていただきます。

今、山田議員の提案説明がありましたように、国では今いろいろと審議中と伺っております。しかし、近年、特に若い世代は、子育てあるいは家事をしながら、あるいは家族の介護をしながら、そのあいた時間を有効に使う、フルタイムということではなくて、自分のライフスタイルに合わせた働く場所を求めているというのは、やはり都会だけではなく、この大多喜町でも同様ではないかと、そういうふうに思います。もちろん、雇用する側については、事情を考えれば、安定したフルタイムで勤務すること、あるいはコスト削減のためにアルバイト雇用が望まれる、それは重々理解できますが、少子化や介護を必要とする家族環境、あるいは若い世代の希望する雇用体系などを考慮すれば、若い世代のニーズに対応した就労環境を社会全体で整備し、それを守る社会基盤は整備していくことがやはり必要ではないかと、私は考えます。

また、今、労使の間で36協定とかという協定が遵守しなければならないということも聞いておりますが、意見書（案）にあるように、政府、労使による賃金の配分等のルールづくり、こういうことも進めることはやはり必要ではないか。ただし、なかなか進めることについては、容易ではないなと私は考えております。

しかし、近年、若者が、正社員になれないで、年金も掛けることもできない、また将来の不安と希望を持てない者がやはりたくさんいると思います。日本の将来を担う若い世代が安心して就労できる環境整備は、やはりすぐこれは、解決するというのは、非常に問題があると思います。しかしながら、そのために政府関係機関に若い世代の意見ということをやはり形にして届けることも必要ではないか。

よって、私はこの発議案に賛成するものであります。

以上です。

**○議長（小髙芳一君）**　ほかに討論ありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これから発議第２号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手多数）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手多数です。

したがって、発議第２号は原案のとおり可決されました。

---

**◎発議第３号の上程、説明、質疑、討論、採決**

**○議長（小髙芳一君）**　次に、追加日程第５、発議第３号　鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書の提出についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

10番山田久子君。

**○１０番（山田久子君）**　議長のお許しをいただきましたので、鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書（案）の提出につきまして、提案理由を述べさせていただきます。

この問題につきましては、これまでもたびたび住民との懇談会や議員活動の中で、住民の方々からご意見・ご要望のあるところでございます。これまでも、議員の一般質問や予算審議の中でも取り上げられている深刻な問題であります。また、県への予算編成の要望の中でも、本町議会から要望書として提出しておりますが、野生鳥獣による農作物への被害は深刻化し、被害は、経済的損失にとどまらず、農林業者の意欲の減退や耕作放棄地の増加に著しい悪影響を与えております。そこで、自治体への財政支援と鳥獣被害防止総合対策交付金の予算拡充、狩猟者の確保、育成の強化と狩猟者の社会的役割に対する理解の促進等を求めまして、江澤勝美議員、正木武議員、麻生勇議員、渡邉泰宣議員、根本年生議員、吉野一男議員のご賛同を賜り、別紙のごとくご提案をさせていただくものでございます。

それでは、発議案についてご説明いたします。

発議第３号。

大多喜町議会議長、小髙芳一様。

提出者、大多喜町議会議員、山田ひさこ。

賛成者、同、江澤勝美、賛成者、同、正木武、賛成者、同、麻生勇、賛成者、同、渡邉泰宣、賛成者、同、根本年生、賛成者、同、吉野一男。

鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書の提出について。

上記の議案を、大多喜町議会会議規則第14条の規定により別紙のとおり提出します。

鳥獣被害防止対策の充実を求める意見書（案）。

野生鳥獣による農作物への被害は深刻化し、被害は経済的損失に止まらず、農林業者の意欲の減退や耕作放棄地の増加に著しい悪影響を与えており、シカ、イノシシ、サルなど野生鳥獣による農作物被害額については、平成21年以降毎年200億円を上回っております。

鳥獣被害が深刻化している要因として、鳥獣の生息域の拡大、狩猟者の高齢化等に伴う狩猟者数の減少による捕獲圧の低下、耕作放棄地の増加等が考えられます。

こうした鳥獣被害の深刻化・広域化を踏まえ、平成19年に、議員立法による「鳥獣による農林水産業に係る被害の防止のための特措法」が全会一致で成立。この法律により、現場に最も近い行政機関である市町村が中心となって、様々な被害防止のための総合的な取り組みを行うことに対して支援措置が実施されることになりました。

平成24年には同法の一部改正が行われ、対策の担い手確保や捕獲の一層の推進が図られることになりましたが、集中的かつ効果的な鳥獣による被害防止対策を早急に講じる必要があります。

よって、国におかれましては、鳥獣被害防止の充実を図るため、下記事項を速やかに実施されるよう強く要望します。

記。

１、地方自治体への財政支援を充実させるとともに鳥獣被害防止総合対策交付金の予算を拡充すること。

２、狩猟者の確保・育成に向けた対策の強化と支援を拡充すること。また、狩猟者の社会的役割に対する国民的理解と狩猟者の社会的地位向上の促進を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年９月20日。

千葉県夷隅郡大多喜町議会。

内閣総理大臣、農林水産大臣、環境大臣、総務大臣宛てでございます。

以上、提出させていただくものでございます。

よろしくご審議いただきまして、可決賜りますようお願い申し上げて、提案理由と発議とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**○議長（小髙芳一君）**　説明が終わりましたので、これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　質疑なしと認めます。

本案については、討論を省略し、これから採決したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　異議なしと認めます。

これから発議第３号を採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

（挙手全員）

**○議長（小髙芳一君）**　挙手全員です。

したがって、発議第３号は原案のとおり可決されました。

---

**◎休会について**

**○議長（小髙芳一君）**　以上で本日の日程は全て終了しました。

お諮りします。

本定例会は、議事の都合により、あす21日から本年12月31日まで休会としたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

**○議長（小髙芳一君）**　ご異議なしと認めます。

よって、あす21日から本年12月31日までを休会とすることに決定しました。

---

**◎散会の宣告**

**○議長（小髙芳一君）**　本日はこれをもって散会とします。

長時間にわたりご苦労さまでした。

（午後　４時２３分）

会議の経過を記載し、その相違ない事を証するため、ここに署名する。

平成２６年　１月　８日

議　　長　　小　髙　芳　一

署名議員　　根　本　年　生

署名議員　　正　木　　武